

# 宮後遺跡3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋 藏 文 化 財 調 査 報 告 書 IV

下 卷

平成17年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

みやうこういせき 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋 藏 文 化 財 調 査 報 告 書 IV

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## - 下 卷 -

### 第3章 調査の成果

#### 第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物

3 挖立柱建物跡	425
4 溝	517
5 土坑	518
6 粘土採掘坑	549
7 ピット群	556
8 遺物包含層	572

#### 第6節 中世の遺構と遺物

1 穫穴状遺構	576
2 地下式壙	585
3 堀	604
4 井戸跡	608
5 粘土貼土坑	614
6 土坑墓	615
7 道路状遺構	616

#### 第7節 時期不明の遺構と遺物

1 穫穴住居跡	617
2 挖立柱建物跡	621
3 屋外炉	625
4 火葬土坑	628
5 井戸跡	633
6 溝	636
7 土坑・土坑墓	642

#### 第8節 遺構外出土遺物

#### 第9節 まとめ

### 付章 宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器片及び

第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について	687
------------------------------	-----

宮後遺跡第127号住居跡覆土及び第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び
-------------------------------------

鉱物組成等について	692
-----------	-----

### 写真図版

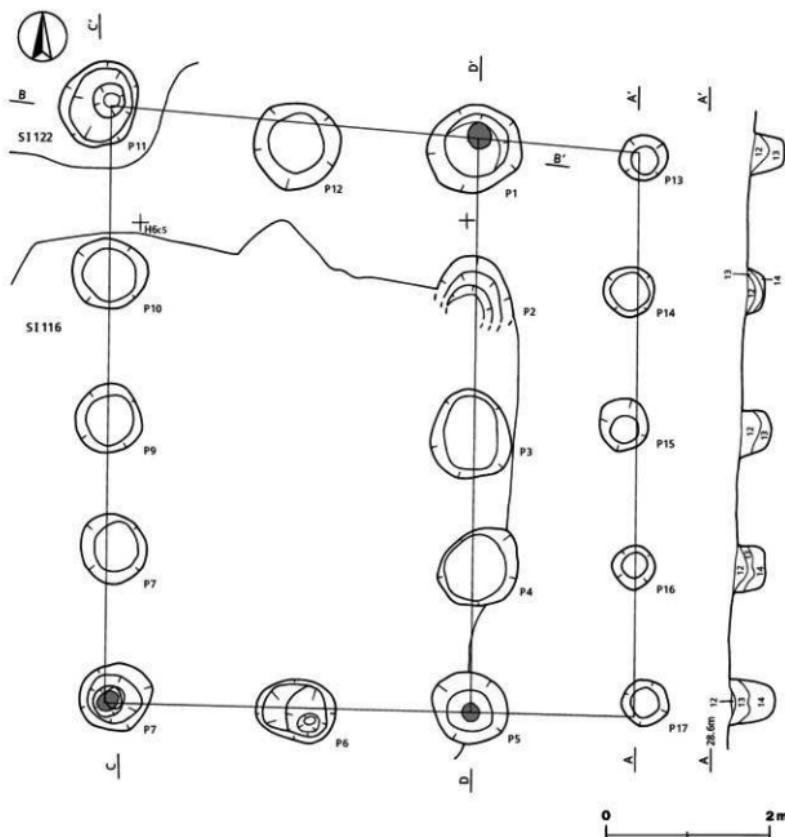
### 3 挖立柱建物跡

当跡から調査5区を中心に、奈良・平安時代の掘立柱建物跡63棟が検出されている。以下、検出された掘立柱建物跡の特徴及び出土した遺物について解説する。

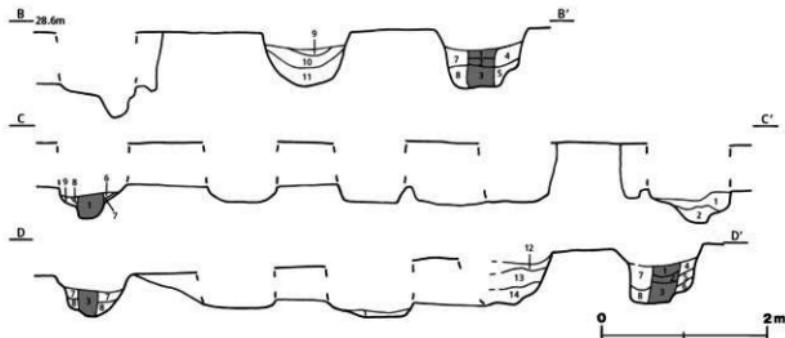
第1号掘立柱建物跡（第368～370図）

位置 調査5区の南東部、H6c5区。

重複関係 第116号住居跡の床面を掘り込んでいる。第122号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第368図 第1号掘立柱建物跡実測図



第369図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)

**規模** 桁行4間、梁行2間で、東側に庇を持つ南北棟の側柱建物跡である。身舎の柱穴はP1～P12、庇の柱穴はP13～P17である。桁行は東側柱列で7.12m、西側柱列で7.42m、梁行は南側柱列で4.55m、北側柱列で4.50mである。庇の出は2.0mである。柱間寸法は桁行が1.60～2.20m、梁行が2.00～2.50mである。身舎の柱穴は、平面形が長径85～115cm、短径75～104cmの梢円形、深さは48～75cmである。庇の柱穴は、平面形が径50～60cmの円形、深さは29～58cmである。

**桁行方向** N 1° - E

**覆土** 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及び粒子を含み縛まりのない褐色土・暗褐色土である。第4～8層は縛まりのある埋土、第9～14層は中程度に縛まつたレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

1 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	10 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	13 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	14 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック中量		
7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量		
8 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量		
9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

**遺物** 土師器片12点、須恵器片24点が出土している。第370図1の土師器杯は、P11の覆土中から出土している。

**所見** 9世紀後葉に位置づけられる第122号住居跡との新旧関係は不明であり、時期は、出土した遺物の下限の時期から、9世紀中葉以降と考えられる。



第370図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

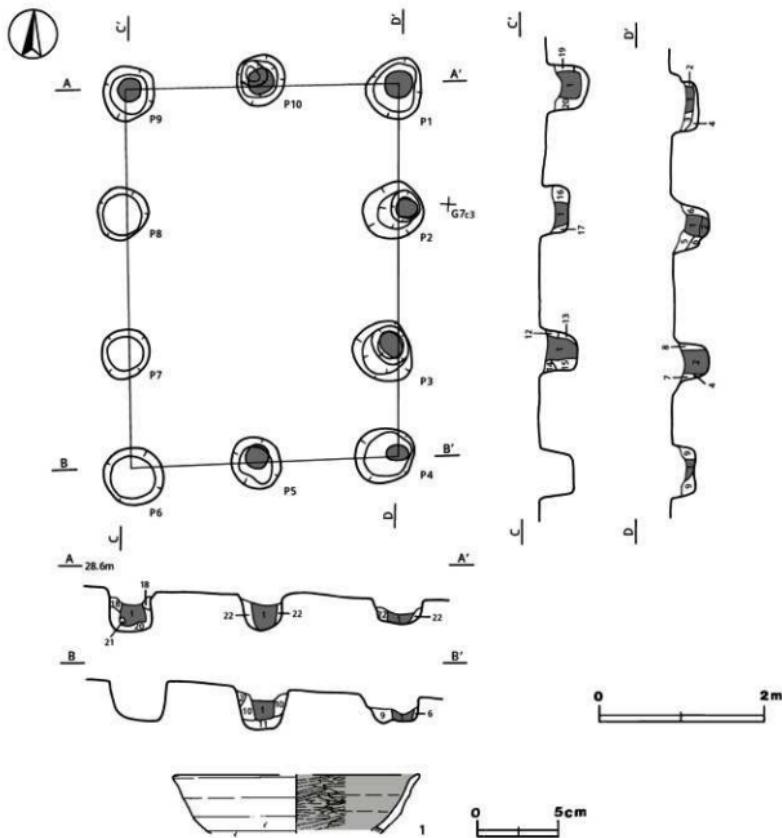
第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団体番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第370図	坏 器	A [14.0] B 4.3 C [5.9]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内唇気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面ハラ磨き、外面ロクナデ。体部下端及び底部回転ハラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子 浅黄褐色、普通	P2502 20%

第2号掘立柱建物跡（第371図）

位置 調査5区の北東部、G7c2区。

規模 衍行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。衍行4.65m、梁行3.35mである。柱間寸法は衍行が1.30~1.70m、梁行が1.50~1.70mである。柱穴は、平面形が長径60~70cm、短径65~75cmの椭円形及び円形、深さは30~50cmである。



第371図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 N - 3° - W

**覆土** 第1・2層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む縦まりのない暗褐色土・黒褐色土である。第3~22層は縦まりのある埋土である。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム大ブロック中量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
4 暗褐色	ローム大ブロック中量。ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	14 黑褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
5 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	16 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
7 暗褐色	ローム大ブロック少量、焼土粒子微量	17 暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量
8 褐色	ローム大ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	18 黑褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
9 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量	19 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	20 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
		21 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム小ブロック中量
		22 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

**遺物** 土師器片5点が出土している。第371図1の土師器坏は、P 7の覆土中から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

#### 第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第371図 1	土 師 器	A [15.1] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内壁気味に外側して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・針状結晶、ぶつぶつ黄橙色、普通	P2503 10%

#### 第3号掘立柱建物跡 (第372図)

**位置** 調査5区の北東部、G6a9区。

**重複関係** 第126号堅穴住居跡を掘り込んでいる。

**規模** 桁行が南側柱列で3間、北側柱列で2間、梁行が東西柱列とも2間であり、東西棟の側柱建物跡である。南側柱列の桁行は3.55m、北側柱列の桁行は3.75m、西側柱列の梁行は3.10m、東側柱列の梁行は2.95mである。柱間寸法は、桁行が1.00~1.95m、梁行が1.45~1.60mである。柱穴は、平面形が長径45~60cm、短径40~50cmの梢円形及び円形、深さが26~55cmである。

桁行方向 N - 11° - E

**覆土** 第1~3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む縦まりのない褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第4~20層は縦まりのある埋土である。

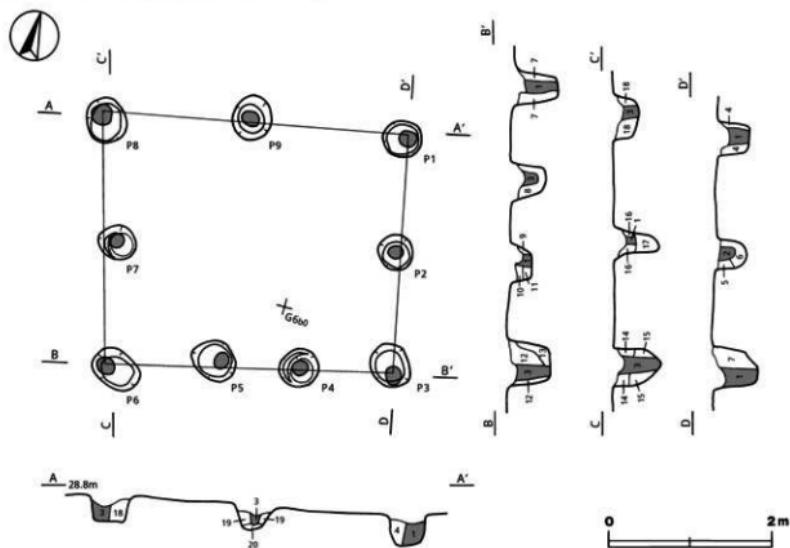
#### 土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック中量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黑褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	11 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量
5 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム中ブロック微量	13 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	14 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
		15 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

- 16 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 17 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック  
     グ・鉄化物・炭化粒子微量  
 18 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子  
     少量

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡は出土遺物がなく、正確な時期は不明である。9世紀中葉以降に位置づけられる第10号掘立柱建物跡の桁行方向及び第105・111号竪穴住居跡の主軸の傾きが、本跡の桁行方向とはほぼ同じであること、覆土や規模などから、9世紀中葉以降と類推される。



第372図 第3号掘立柱建物跡実測図

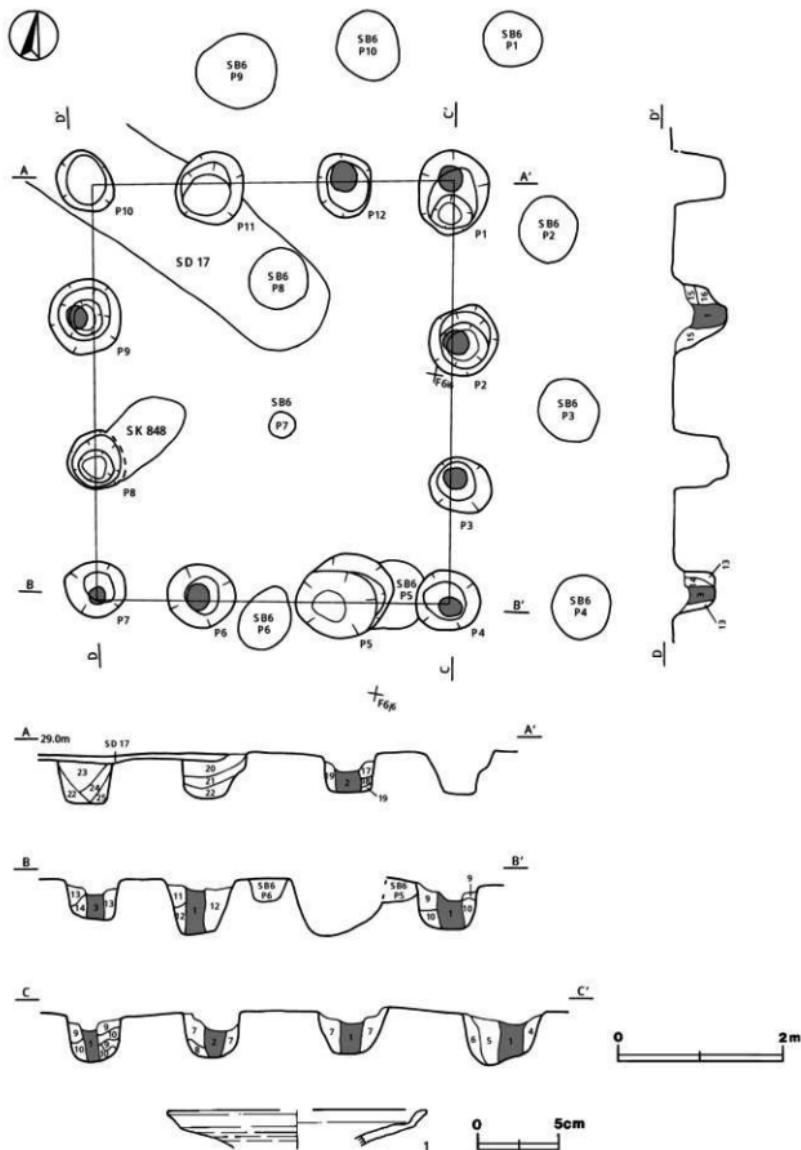
#### 第4号掘立柱建物跡（第373図）

**位置** 調査5区の北西部、F6h5区。

**重複関係** 第17号溝に掘り込まれている。また、第6号掘立柱建物跡及び第848号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行3間で南北棟の側柱建物跡である。桁行は、東側柱列で5.20m、西側柱列で5.10m、梁行は、北側柱列で4.50m、南側柱列で4.40mである。柱間寸法は桁行が1.50~2.00m、梁行が1.30~1.90mである。柱穴は、平面形が長径75~125cm、短径65~100cmの橢円形、及び径70~95cmの円形、深さが50~70cmである。

**桁行方向** N-21°-E



第373図 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**覆土** 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む縫まりのない褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第4～19層は縫まりのある埋土である。P11の第20・21層は中程度に縫まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。P10の第22～25層は三角形を呈する堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土であり、第22層が縫まりのない極暗褐色土、第23～25層が中程度に縫まった褐色土・黒褐色土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量。炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム中ブロック少量
2	黒褐色	ローム小ブロック中量。ローム粒子・焼土粒子少量。ローム中ブロック微量	15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック中量。ローム粒子少量	16	褐色	ローム中ブロック中量。ローム小ブロック・ローム粒子少量。燒土粒子・ローム大ブロック微量
4	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	17	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量。ローム大ブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。焼土粒子微量	18	黒褐色	ローム小ブロック少量
6	暗褐色	ローム小ブロック中量。ローム大ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量	19	褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック中量。焼土粒子・ローム大ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	20	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
8	褐色	ローム粒子多量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	21	黑褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック少量。ローム中ブロック微量	22	麻縫褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム中ブロック中量。ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量。ローム大ブロック微量	23	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック微量。ローム大ブロック微量
11	褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック少量。ローム大ブロック微量	24	黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量
12	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量。炭化粒子少量。焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック微量	25	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量。ローム中ブロック中量。ローム大ブロック微量
13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量			

**遺物** 土師器細片4点、須恵器片1点が出土している。第373図1の須恵器盤は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀前葉以降と考えられるが、9世紀中葉以降に位置づけられる第10号掘立柱建物跡と桁行方向が近いことから、それ以降の可能性も考えられる。

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表

因版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 1	盤 須恵器	A [160] B (22)	A: 体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。 B: (22)cm	口縁部及び 体部内外面ロクロナ	長石 灰黄褐色 普通	P2504 10%

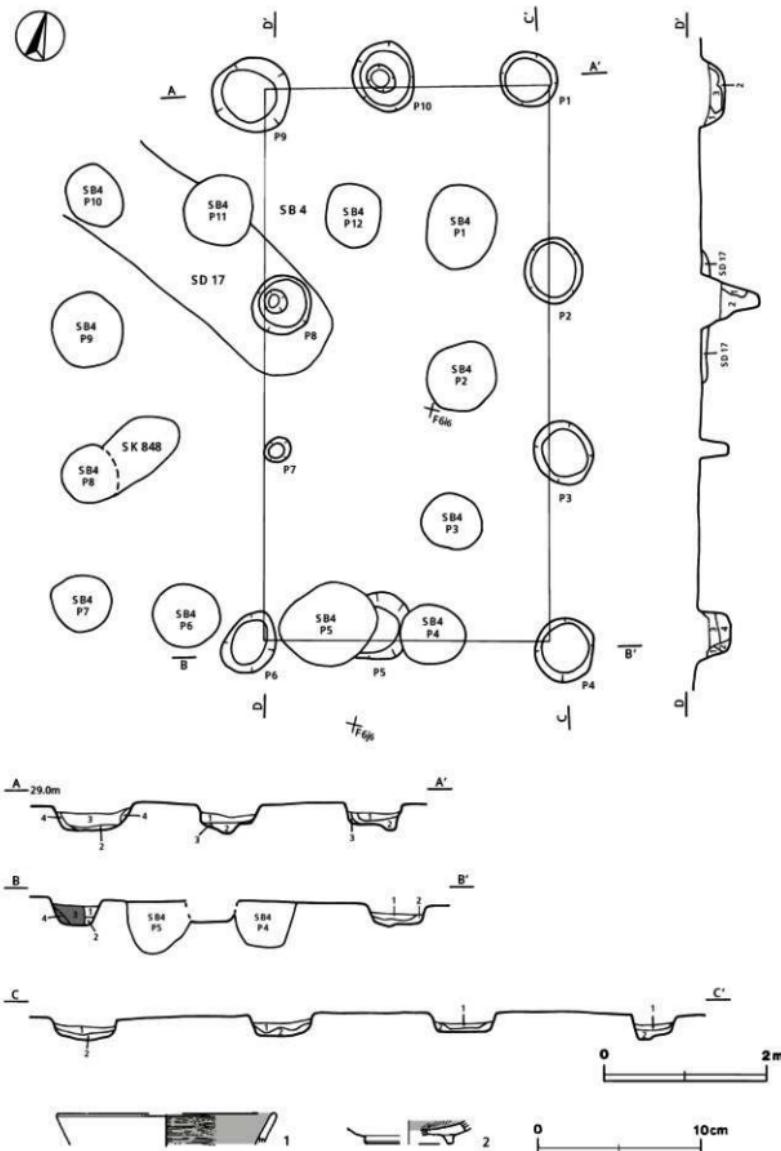
#### 第6号掘立柱建物跡（第374図）

**位置** 調査5区の北西部、F6h5区。

**重複関係** 第17号溝に掘り込まれている。第4号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行6.80m、梁行3.50mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.60m、梁行が1.50～2.10mである。柱穴は、平面形が長径70～100cm、短径65～90cmの楕円形、また、P7が径35cmの円形、深さが25～70cmである。

**桁行方向** N-14° -W



第374図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**覆土** P 6 の第3・4層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む縮まりのない暗褐色・黒褐色土である。P 6 の第1・2層は縮まりのある埋土である。その他は中程度に縮まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

P 1	1	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
	2	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック、ローム小ブロック少量
P 2	1	暗褐色	ローム粒子少量
	2	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック、ローム小ブロック少量
P 3	1	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
	2	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
P 4	1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
	2	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
P 6	1	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
	2	褐色	ローム小ブロック、ローム粒子少量、ローム大ブロック、ローム中ブロック微量
	3	黒褐色	ローム粒子微量
	4	暗褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック微量、炭化粒子微量
P 8	1	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、ローム中ブロック微量
	2	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
P 9	1	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
	2	黒褐色	ローム粒子少量
	3	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
P10	1	黒色	ローム粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
	3	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**遺物** 土師器片2点が出土している。第374図1の土師器坏はP 1から、2の土師器高台付坏はP 9からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表

因縁番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第374図 1	土師器	A [13.4] B [19]	口縁部。口縁部は外側する。	口縁部内・外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶 黒色・普通	P2505 5%
2	高台付坏 土師器	B [1.4] D [5.4] E 0.5	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ直下する。	内面へラ磨き、黒色処理。底部回転へラ切り。高台貼り付け後ナデ。	長石 にぶい黄褐色 普通	P2506 10%

第5号掘立柱建物跡（第375図）

**位置** 調査5区の北西部、F6j3区。

**重複関係** 第121号住居跡を掘り込んでいる。また、第8号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 南東隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行2間、梁行1間で南北棟の側柱建物跡と考えられる。西側柱列で桁行7.25m、北側柱列で梁行2.85mである。柱間寸法は桁行が西側柱列で北から3.50・3.75m、東側柱列で北側が4.00m、梁行が北側柱列で2.85mである。柱穴は、平面形が長径95~115cm、短径85~90cmの梢円形及び径115cmの円形、深さが25~36cmである。

**桁行方向** N-14°-E

**覆土** 第1~3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む縮まりのない褐色土・黒褐色土である。第9~13層は縮まりのある埋土、第4~8層は中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土

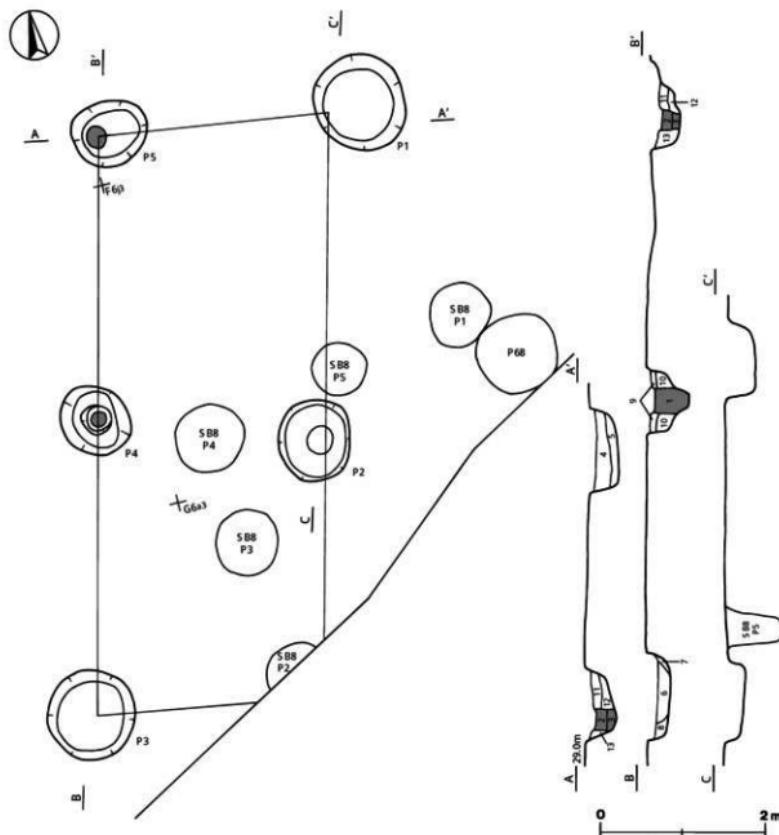
である。

土層解説

1 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	8 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	9 褐色	ローム大ブロック・燒土粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量・ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	10 褐色	ローム粒子多量
4 黑褐色	ローム粒子少量・ローム大ブロック微量	11 褐色	ローム小ブロック中量・ローム粒子少量
5 黑褐色	ローム小ブロック少量・ローム中ブロック微量	12 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量・ローム大ブロック少量
6 赤褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量・燒土粒子微量	13 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム大ブロック・ ローム中ブロック微量
7 赤褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量・ローム中ブロ ック微量		

遺物 出土していない。

所見 時期は、弥生時代末～古墳時代初頭に位置づけられる第121号住居跡を掘り込んでいることからそれ以降と考えられるが、出土遺物がなく正確な時期は不明である。桁行方向や覆土などから、他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と類推される。



第375図 第5号掘立柱建物跡実測図

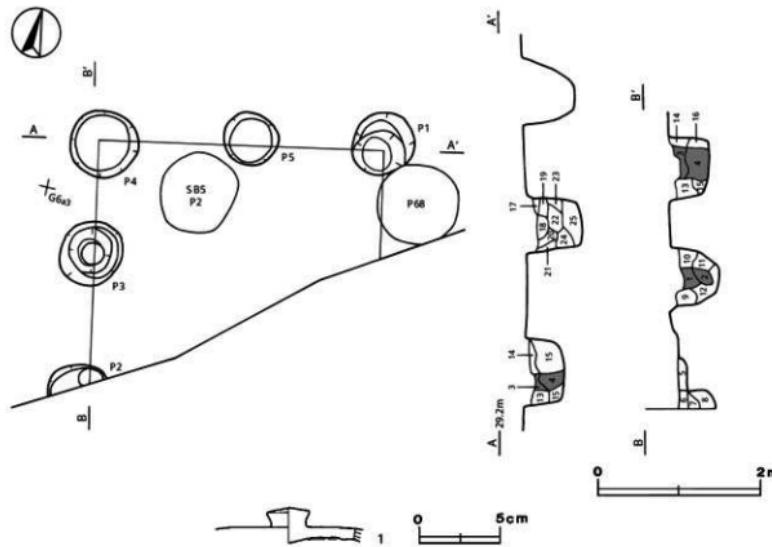
### 第8号掘立柱建物跡（第376図）

位置 調査5区の北西部、G6a3区。

重複関係 第121号住居跡を掘り込んでいる。第68号ピット及び第5号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 本跡の南部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが、北側柱列が2間（3.50m）、西側柱列で2間以上（3.00m）の側柱建物跡である。柱間寸法は北側柱列で東から1.60m・1.90m、西側柱列で北から1.40m・1.60mである。柱穴は、平面形が長径75～95cm、短径65～77cmの楕円形及び径85cmの円形、深さが50～65cmである。

桁行方向 N-11°-W



第376図 第8号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第1～4層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む縮まりのない暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土である。第9～16層は縮まりのある埋土、第5～8層及び第17～25層は中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |        |                                      |         |                               |
|--------|--------------------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 11 暗褐色  | ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量   |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロック中量        | 12 黒褐色  | ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量   |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量                              | 13 極暗褐色 | ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微量       |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。炭化粒子微量            | 14 黑褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック少量            |
| 5 黒褐色  | ローム粒子中量                              | 15 暗褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック微量            |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子中量。ローム小ブロック微量                   | 16 暗褐色  | ローム粒子多量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少量   |
| 7 黒褐色  | ローム粒子中量                              | 17 黑褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロック微量 |
| 8 暗褐色  | ローム粒子中量                              |         |                               |
| 9 極暗褐色 | ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少量          |         |                               |
| 10 黑褐色 | ローム粒子少量。ローム小ブロック微量                   |         |                               |

18	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	22	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
19	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子微量	23	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
20	黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	24	黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
21	暗褐色	ローム粒子少量	25	極暗褐色	ローム粒子微量

**遺物** 异生土器片1点、土師器片2点、須恵器片4点が出土している。第376図1の須恵器蓋はP2の覆土中から出土している。

**所見** 図示し得る下限の時期の遺物は、8世紀末葉～9世紀初頭の須恵器蓋である。時期はこれ以降と考えられるが、第10号掘立柱建物跡と平行方向がほぼ同じであることなどから、9世紀中葉以降の可能性も考えられる。

#### 第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第376図 1	須恵器	B (2.2) F 2.6 G 12	天井部片。菱宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ點り付け。	長石・石英 灰色 普通	P2508 15%

#### 第27号掘立柱建物跡（第377図）

**位置** 調査5区の南西部、H6a5区。

**重複関係** 第269号ピット及び第9号掘立柱建物に掘り込まれており、第122号住居跡の北壁を掘り込んでいる。第207・253・254・258～260・262～269号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 行距3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。柱間は南側柱列で6.15m、北側柱列で5.70m、梁行は3.50mである。柱間寸法は柱間が1.80～2.25m、梁行が1.70～1.80mである。柱穴は、平面形が長径66～84cm、短径62～72cmの梢円形及び円形、深さが28～70cmである。

**平行方向** N-3°-E

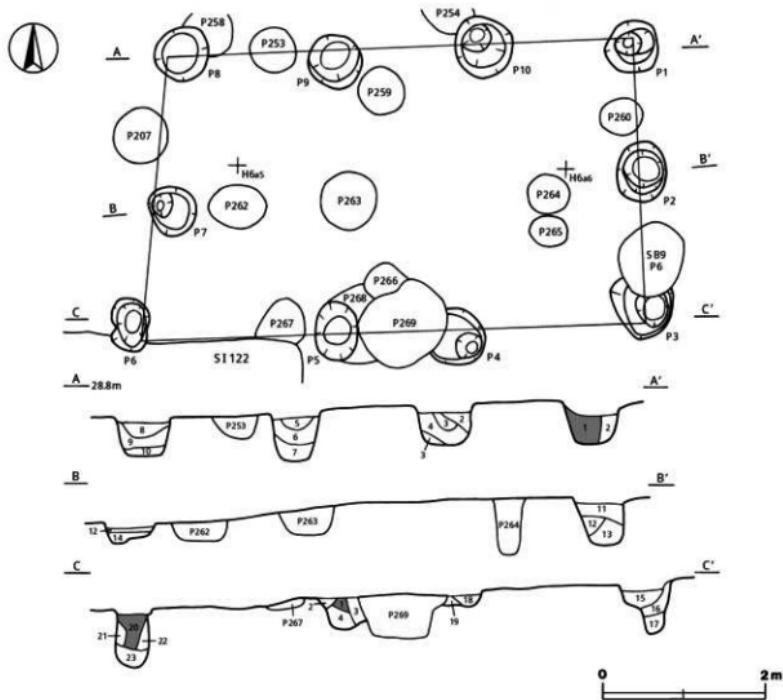
**覆土** 第1・20層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層は、ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを含む縮まりのない暗褐色土である。第2層及び第21～23層は縮まりのある埋土、その他は、中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・燒土小ブロック少量、 ローム中ブロック微量	12	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロッ ック・ローム粒子微量	13	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ ローム中ブロック微量
3	褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量	14	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・ 燒化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量	18	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	燒化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ ローム粒子・燒土小ブロック微量	19	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム小ブロック・燒化粒子少量、ローム中ブロック・ ローム粒子・燒土小ブロック微量	20	暗褐色	ローム小ブロック・燒土小ブロック少量、ローム中ブロッ ック・ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量	21	暗褐色	ローム小ブロック・燒土小ブロック・燒化粒子少量、ロー ム粒子微量
11	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロ ック・ローム粒子微量	22	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・ 燒土小ブロック・燒化粒子微量
			23	褐色	ローム小ブロック・燒土小ブロック少量、ローム粒子・燒 土大ブロック微量

**遺物** 土師器10点、須恵器3点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、本跡が9世紀中葉に位置づけられる第122号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられる。なお、9世紀後葉に位置づけられる第2・17号掘立柱建物跡と平行方向がほぼ同じであることから、それ以降の可能性も考慮される。



第377図 第27号掘立柱建物跡実測図

#### 第9号掘立柱建物跡（第378図）

位置 調査5区の南部、H6a6区。

重複関係 第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第869土坑及び第270・271号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行が2間、梁行は東側柱列で2間、西側柱列で1間であり、東西棟の側柱建物跡である。桁行は北側柱列で4.10m、南側柱列で4.05m、梁行は東側柱列で2.85m、西側柱列で2.65mである。柱間寸法は桁行が1.80~2.15m、梁行が東側柱列で北から1.25m・1.60mである。柱穴は、平面形が長径65~100cm、短径60~80cmの梢円形及び底52~57cmの円形、深さが27~70cmである。

桁行方向 N-81°-W

覆土 第1~4層は柱痕跡の土層はローム粒子・焼土粒子を含む締まりのない褐色・暗褐色土である。第5・6層は締まりのある埋土、第7~13層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

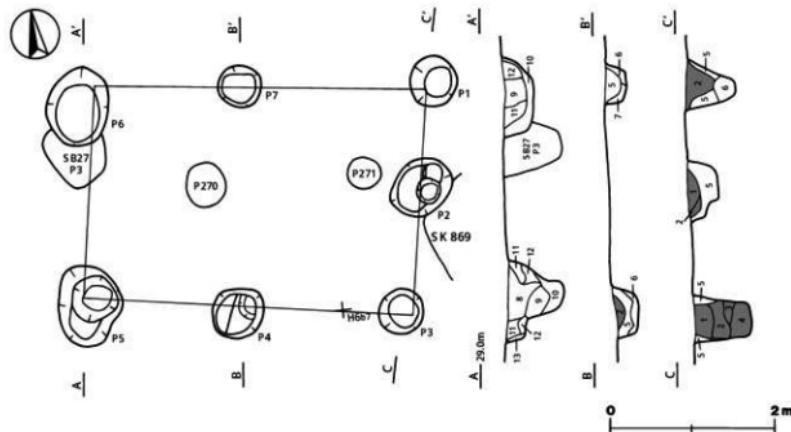
- |   |     |              |
|---|-----|--------------|
| 1 | 暗褐色 | 燒土粒子少量       |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量 |
| 3 | 褐色  | ローム粒子・燒土粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量      |

- |   |     |                         |
|---|-----|-------------------------|
| 5 | 暗褐色 | 燒土粒子少量                  |
| 6 | 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量        |
| 7 | 褐色  | ローム小ブロック少量              |
| 8 | 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

9	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量。炭化粒子微量	12	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子中量	13	褐色	ローム小ブロック少量
11	褐色	ローム粒子中量			

遺物 土師器片5点、須恵器片6点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、9世紀後葉以降の可能性が考えられる第27号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、それ以降とも類推される。



第378図 第9号掘立柱建物跡実測図

#### 第10号掘立柱建物跡（第379・380図）

位置 調査5区の北西部。F510区。

重複関係 第132・135号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 北西隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行4間、梁行3間の東西棟であり、側柱建物跡と考えられる。桁行は7.65m、梁行は4.65m、柱間寸法は桁行が1.75~2.25m、梁行が1.40~1.65mである。柱穴は、平面形が長径75~138cm、短径75~122cmの椭円形・円形及び隅丸方形、深さが41~64cmである。

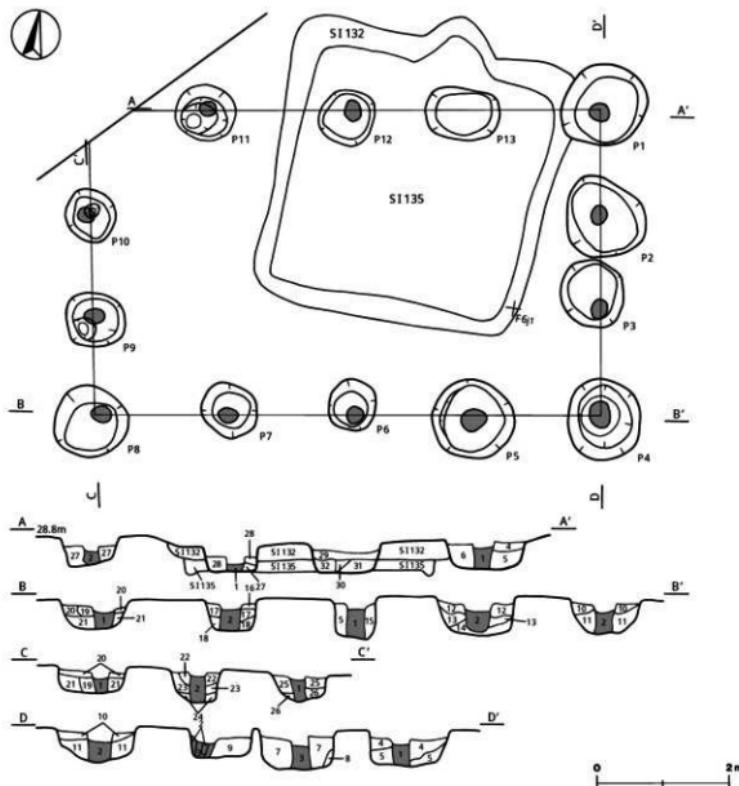
桁行方向 N-8°-E

覆土 第1~3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土である。第4~28層は締まりのある埋土、第29~32層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量。ローム大ブロック微量	7	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	8	褐色	ローム粒子多量。ローム小ブロック中量
3	極暗褐色	ローム粒子多量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量。炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子多量。ローム中ブロック・ローム小ブロック中量。ローム大ブロック微量	11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム中量。ローム大ブロック微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量	12	黒褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微量
			13	暗褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

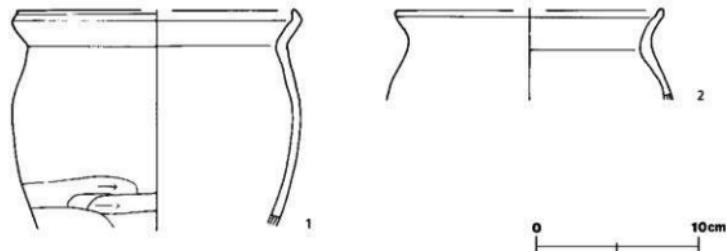
15	黒	褐	色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量	25	暗	褐	色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量			
16	暗	褐	色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	26	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	27	褐	色	ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
17	極	暗	褐色	ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	28	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少量。燒土小ブロック・燒土粒子・炭化物・炭化粒子微量			
18	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック微量	29	暗	褐	色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量			
19	極	暗	褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微量	30	暗	褐	色	ローム大ブロック・ローム中ブロック微量			
20	黒	褐	色	ローム粒子少量。ローム小ブロック微量	31	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・炭化粒子微量				
21	暗	褐	色	ローム粒子中量。ローム小ブロック微量。ローム中ブロック・炭化粒子微量	32	に	ぶ	い	赤褐色	炭化物・炭化粒子少量		
22	黒	色	ローム小ブロック・ローム粒子微量									
23	極	暗	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少量								
24	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量								



第379図 第10号掘立柱建物跡実測図

遺物 土師器片2点、須恵器片12点が出土している。第380図1・2の土師器小形甕の口縁部片は、ともにP13の覆土中から出土している。

**所見** 出土した下限の時期の遺物は9世紀中葉の土師器甕の口縁部片である。重複する第132・135号住居跡との新旧関係は不明であり、時期は9世紀中葉以降と考えられる。



第380図 第10号掘立柱建物跡出土遺物実測図

#### 第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1	小形 土 器	A [17.2] B [13.3]	体部から口縁部片。体部は内側しながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部下面下端横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P2509 10%
		A [16.4] B [5.5]	口縁部片。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P2510 5%

#### 第11号掘立柱建物跡（第381図）

**位置** 調査5区の南西部、H6c3区。

**重複関係** 第116号住居跡を掘り込んでいる。また、第234号ピットを本跡のP1が掘り込んでいる。第38号掘立柱建物跡及び第886号土坑・第235・236・237号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 南西部が調査区域外になるが、桁行5間、梁行3間の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は北側柱列で7.55m、梁行は東側柱列で5.60m、柱間寸法は桁行が1.40~1.80m、梁行が1.60~2.20mである。柱穴は、平面形が長径65~118cm、短径53~105cmの梢円形及び円形、深さが65~95cmである。

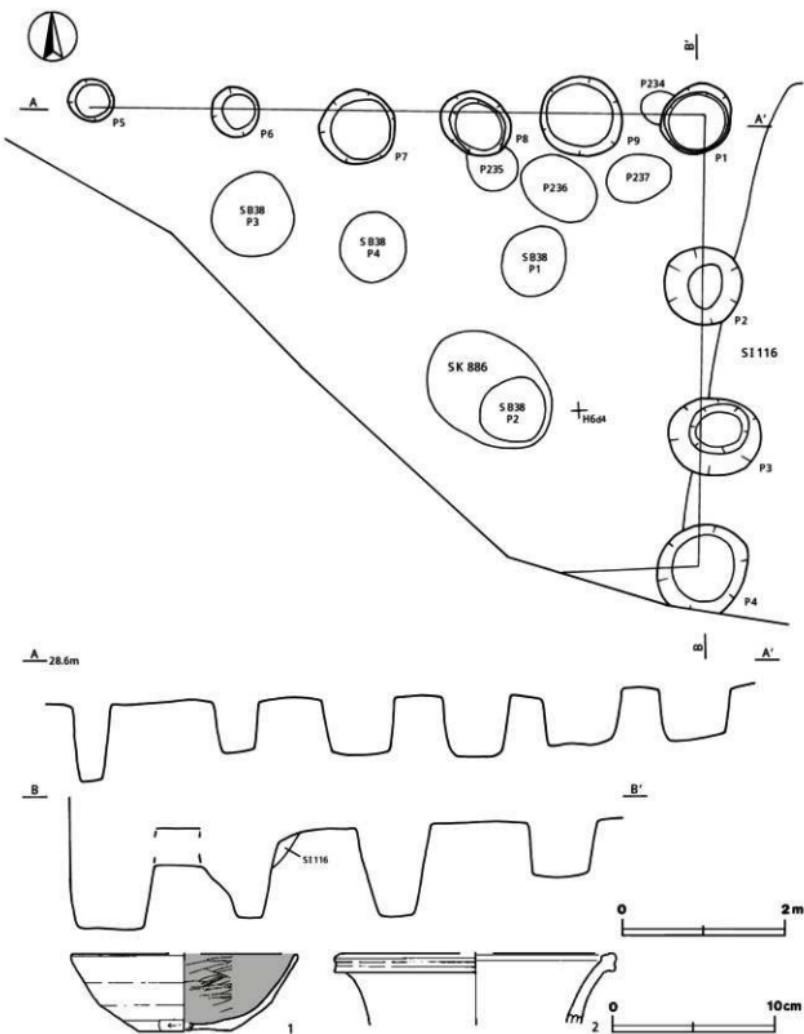
**桁行方向** N-87°-W

**遺物** 土師器片3点、須恵器片12点が出土している。第81図1の土師器甕はP7、2の須恵器甕の口縁部は、P5の覆土中から出土している。その他の土師器片及び須恵器片は混入と考えられる。

**所見** 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

#### 第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	土 器	A [13.8] B 4.8 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内側ながら外側に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面クロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子 橙色、普通	P2512 40%
		A [17.0] B [4.4]	口縁部片。口縁部は外反し、端部は下端が突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P2511 5%



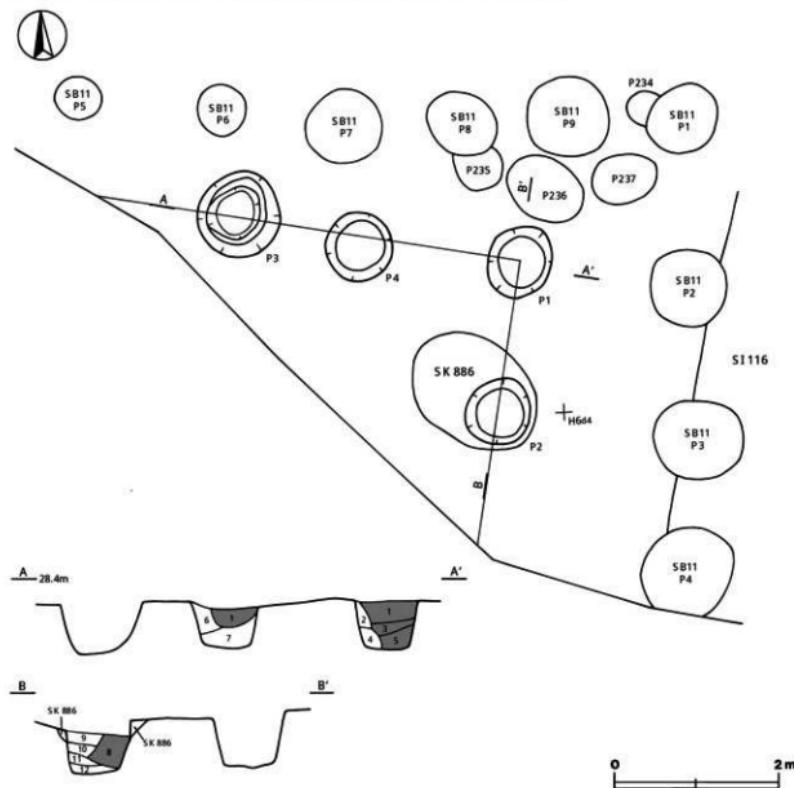
第381図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第38号掘立柱建物跡（第382図）

位置 調査5区の南西部、H6c3区。

重複関係 第886号土坑を掘り込んでいる。第11号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 南西部が調査区域外になるが、桁行2間以上、梁行1間以上の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は5.25m、梁行は3.60m、柱間寸法は桁行が東から2.00cm・1.60cm、梁行が2.00cmである。柱穴は、平面形が長径85~108cm、短径70~103cmの楕円形及び円形、深さが58~65cmである。



第382図 第38号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N-80°-W

**覆土** 第1・3・5・8層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及び粒子・炭化物・炭化粒子を含む縮まりのない暗褐色・黒褐色・極暗褐色土である。第2・4・6・7・9~12層は縮まりのある埋土である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量	7 細褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	8 細褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
4 細褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	10 細褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
5 極暗褐色	ローム中ブロック少量	11 極暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
6 細褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

**遺物** 土師器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、平安時代（9世紀中葉）と考えられる第886号土坑を掘り込んでいることから、それ以降と推定される。

#### 第7号掘立柱建物跡（第383図）

**位置** 調査5区の南西部、G65区。

**重複関係** 第248号ピットに掘り込まれており、第240・243号ピットを掘り込んでいる。第130・241・242・244・245・246・247・250・251・252号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行5.40m、梁行は南側柱列で4.05m、北側柱列で3.60mである。柱間寸法は桁行が1.40～2.20m、梁行が1.80～2.05mである。柱穴は、平面形が長径80～132cm、短径80～100cmの梢円形及び円形、深さが63～85cmである。

**桁行方向** 東側柱列でN-6°-Wである。

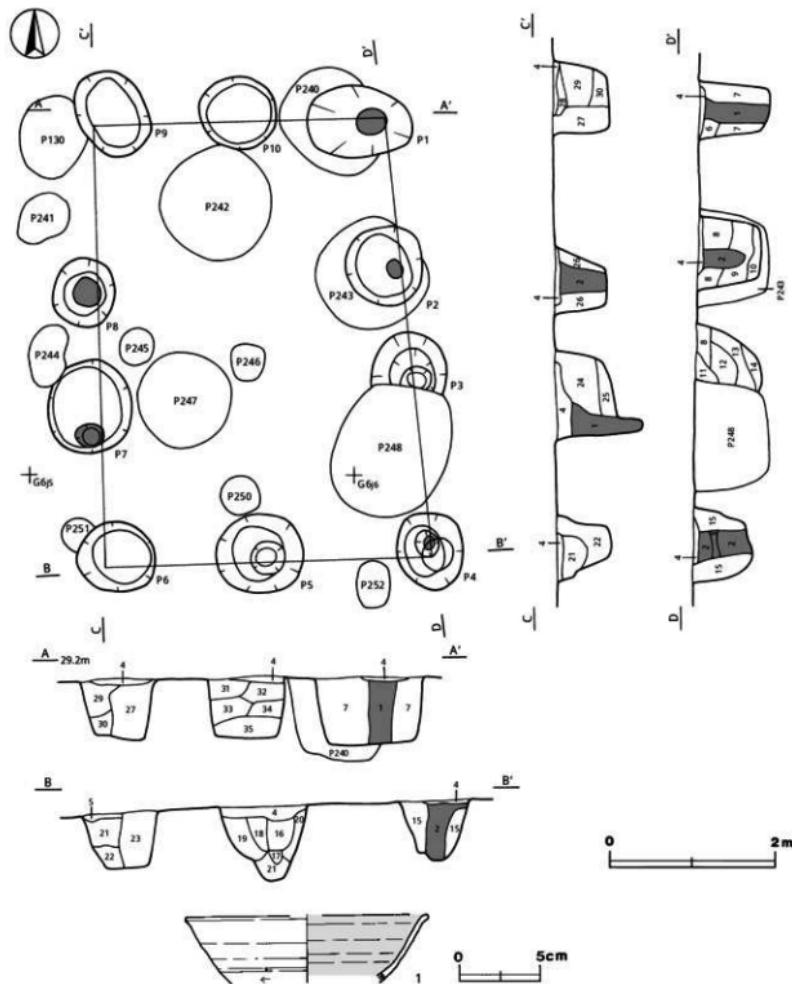
**覆土** 第1～3層は柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含む縮まりのない暗褐色・黒褐色土である。第6～10層及び第15層、第24～26層は縮まりのある埋土である。その他は、中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量、炭化粒子少量、ローム大ブロック微量	19	暗	褐	色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
3	黒	褐	色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量	20	褐	色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量	
4	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量	21	暗	褐	色	ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック微量
5	にい	赤褐色	色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量	22	暗	褐	色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
6	暗	褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	23	暗	褐	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗	褐	色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24	暗	褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量	25	暗	褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物微量	26	褐	色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
10	黒	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	27	褐	色	色	ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物微量
11	暗	褐	色	ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	28	暗	褐	色	ローム小ブロック少量
12	暗	褐	色	ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量	29	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
13	暗	褐	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子微量	30	暗	褐	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	暗	褐	色	焼土粒子微量	31	暗	褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	32	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
16	暗	褐	色	焼土小ブロック・炭化物中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	33	暗	褐	色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
17	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	34	暗	褐	色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
					35	暗	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

**遺物** 土師器片63点、須恵器片78点、灰釉陶器片1点が出土している。第383図Iは灰釉陶器碗の口縁部片で、P 6の覆土中から出土している。

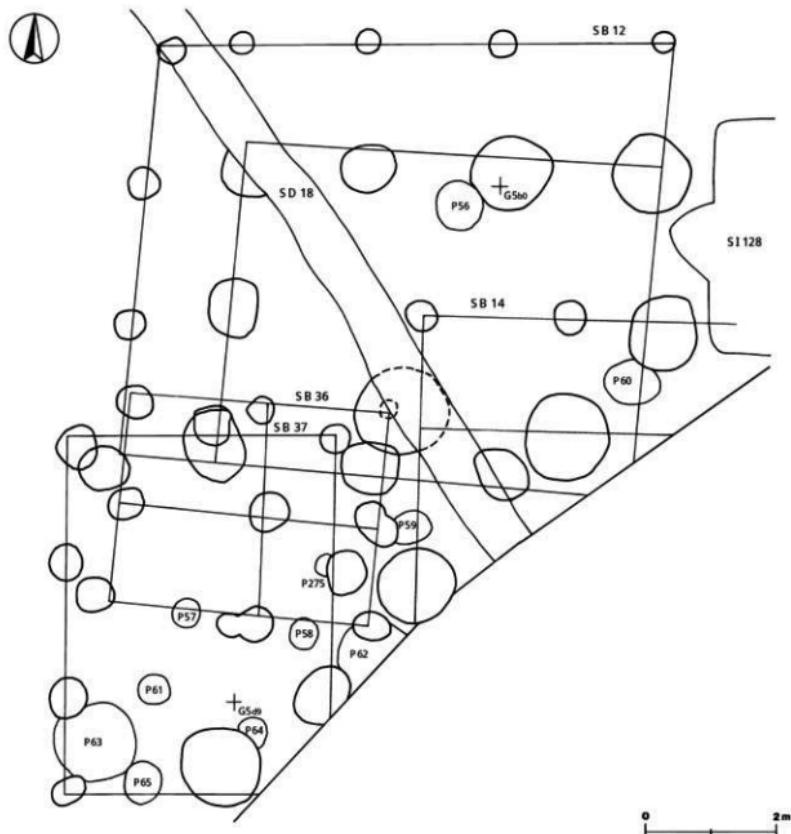
**所見** 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後半以降と考えられる。



第383図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第383図 1	楕円形 灰釉陶器	A [148] B (4.1)	口縁部から体部片。体部は内側しながら外縁として立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面口クロナデ。外面下半回転ヘラ削り。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰黄色 良好	P2507 5% 黒茎14号型様式期



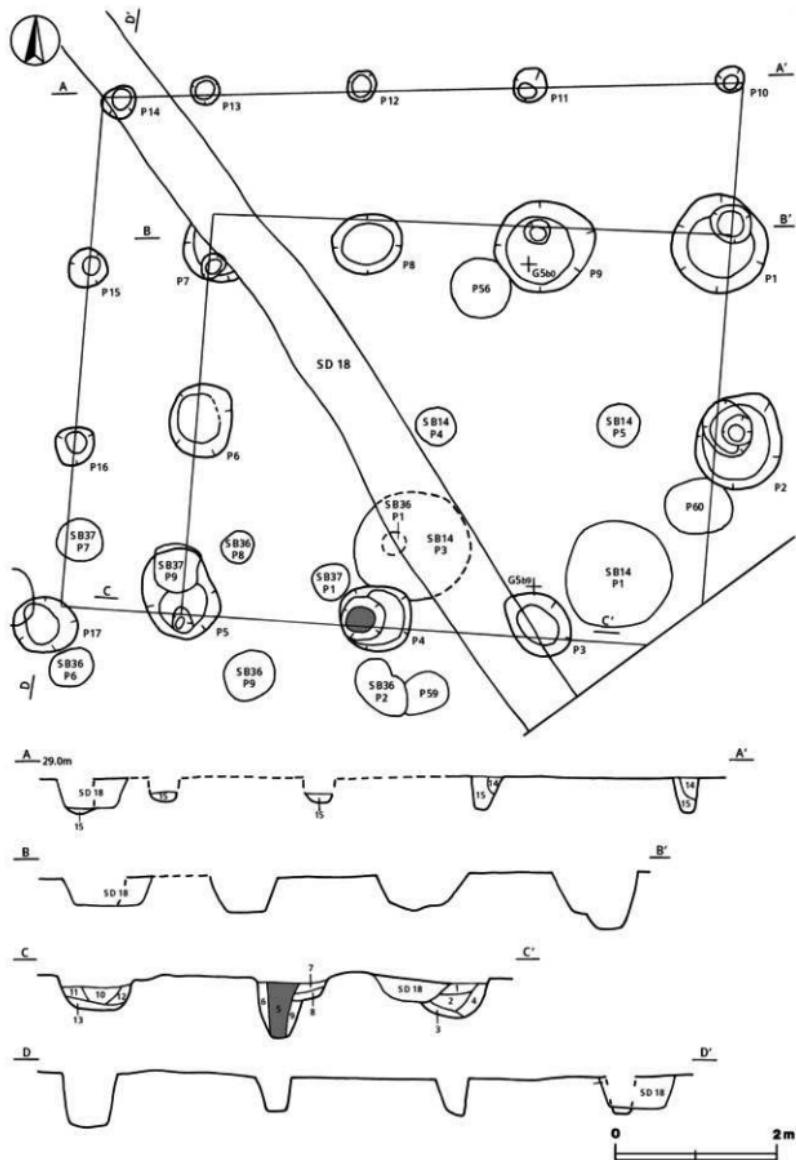
第384図 第12・14・36・37号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡（第384～386図）

位置 調査5区の北西部、G5b9区。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでおり、第18号溝に掘り込まれている。第56・60号ビット及び第14・36・37号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東部隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。北側及び西側に庇を持っている。身舎の柱穴はP 1～9、庇の柱穴はP 10～17である。桁行は北側柱列で6.35m、梁行は東側柱列で5.00mである。庇の出は、北側、東側ともに1.50mである。柱間寸法は、桁行が1.90～2.35m、梁行が2.40m及び2.50mである。身舎の柱穴は、平面形が長径85～125cm、短径73～112cmの楕円形及び円形、深さが35～75cmである。庇の柱穴は、平面形が長径34～78cm、短径32～75cmの楕円形及び円形、深さが12～70cmである。



第385図 第12号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N - 86° - W

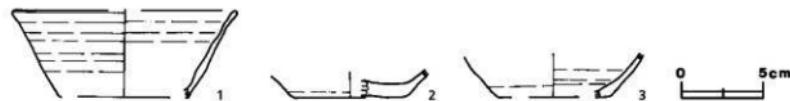
覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロックを含む縮まりのない暗褐色土である。第6～9層は縮まりのある埋土である。その他は中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	10	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	11	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	12	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量	15	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
8	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量			

遺物 土師器片8点、須恵器片30点が出土している。第386図1は須恵器片の口縁部から体部片でP6から、2は須恵器片の体部から底部片でP9から、3は須恵器片の体部から底部片でP1から、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。



第386図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第386図 1	須 惠 器	A [14.0]	体部から口縁部片。体部は直線的に外側して立ち上がり、口縁部に凹む。	口縁部及び体部内・外面ロクロナダ。	長石・石英・針状結晶物、灰オリーブ色、普通	P2513 20%
		B [5.3]				
		C [8.0]				
2	須 惠 器	B (1.6)	底部片。平底。体部は直線的に外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナダ。底部回転ヘラ切り後、ナダ。	長石・石英・針状結晶物、にぶい褐色、普通	P2514 10%
		C [6.5]				
3	須 惠 器	B (2.7)	底部片。平底。体部は直線的に外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナダ。底部調整不明。	長石・石英・針状結晶物、白色粒子、灰オリーブ色、普通	P2515 10%
		C [6.8]				

第14号掘立柱建物跡（第384・387図）

位置 調査5区の北西部、G5c0区。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。第128号住居跡及び第12・36号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北及び西側柱列ともに1間以上を確認したが、南東部が調査区域外になるため、正確な規模は不明である。北側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1～3、庇の柱穴はP4及びP5である。柱間寸法は北側柱列で2.20m、西側柱列で2.40mである。庇の出は1.70mである。身舎の柱穴は、平面形が長径123～137cm、短径112～130cmの梢円形及び円形、深さが36～42cmである。庇の柱穴は、平面形が径51cm及び径50cmの円形、深さが55cm及び52cmである。

平行方向 N - 89° - W

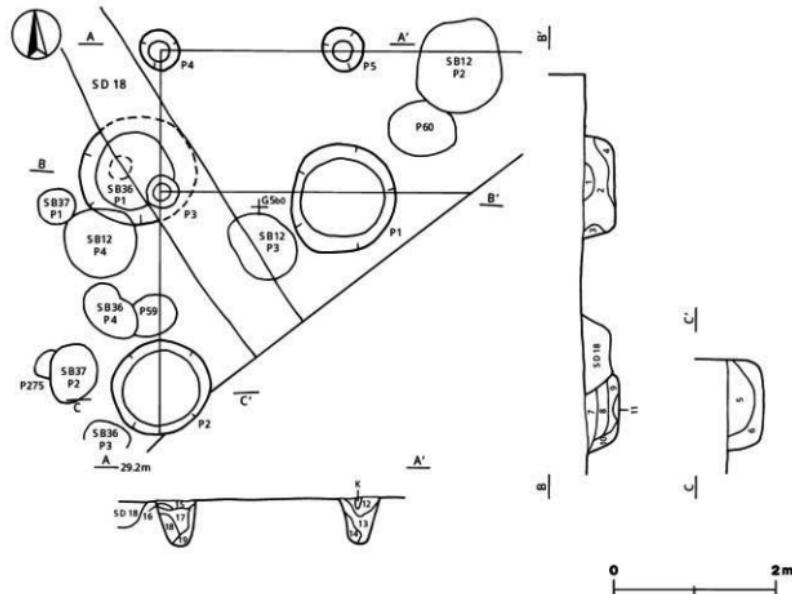
**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	12	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子、燒土粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック微量	13	暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	14	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
4	黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	黒褐色	ローム小ブロック微量	16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
6	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	17	暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	18	暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子微量
8	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量	19	暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子微量			
10	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量			
11	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量			

**遺物** 土師器片9点、須恵器片10点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

**所見** 細片のため図示できなかったが、P2から内面黑色処理の土師器が出土していることから、9世紀中葉以降と考えられる。



第387図 第14号掘立柱建物跡実測図

#### 第36号掘立柱建物跡（第388図）

**位置** 調査5区の北西部、G5c9区。

**重複関係** 第59号ピットを掘り込み、第18号溝に掘り込まれている。第57・58・62号ピット及び第12・14・37号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行2間、梁行2間で東西棟の総柱建物跡である。桁行は3.95m、梁行は3.30mである。柱間寸法は、桁行が1.70~2.25m、梁行が1.50~1.80mである。柱穴は、平面形が長径40~66cm、短径35~60cmの楕円形及び円形、深さが20~69cmである。

**桁行方向** N-85°-W

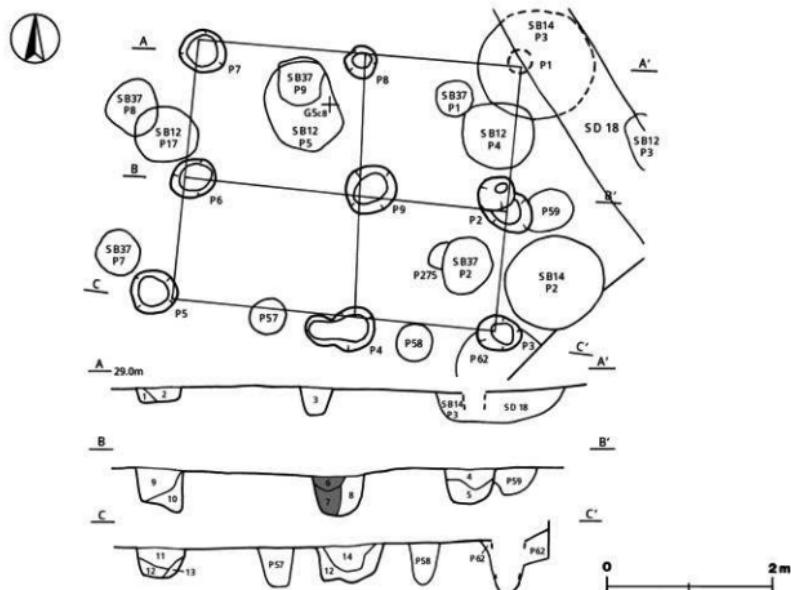
**覆土** 第6・7層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む縦まりのない黒褐色・極暗褐色土である。第8層は縦まりのある埋土である。その他は中程度に縦まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	8	黒褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	9	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量	10	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	11	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	12	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
6	黒褐色	ローム粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
7	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	14	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物** 土師器2点、須恵器2点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土・規模などから他の掘立柱建物跡と同じく8~9世紀以降と考えられる。



第388図 第36号掘立柱建物跡実測図

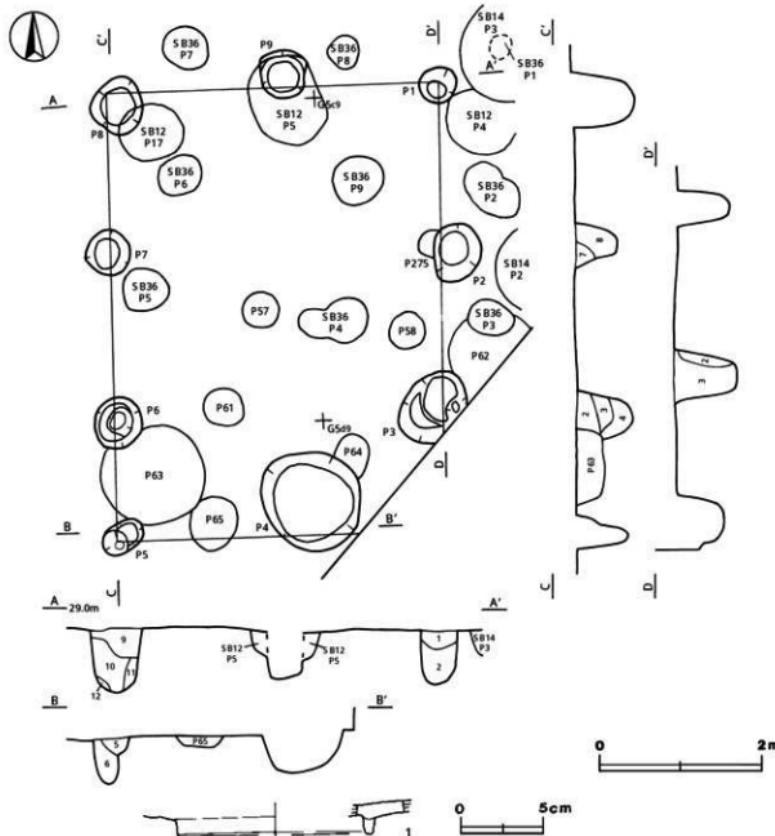
第37号掘立柱建物跡（第389図）

位置 調査5区の北西部、G5c9区。

重複関係 第63号ピットを掘り込んでいる。第57・58・61・62・64・65・275号ピット及び第12・14・36号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東部が調査区域外になるが、桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行は西側柱列で5.55m、梁行は北側柱列で4.10mである。柱間寸法は、桁行が1.50～2.10m、梁行が1.85～2.20mである。柱穴は、平面形が長径45～95cm、短径45～60cmの椭円形及び円形、深さが50～78cmである。

桁行方向 N - 1° - E



第389図 第37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック、ローム粒子、炭化粒子、焼土粒子を含む中程度に縮まった褐色、暗褐色、極暗褐色、黒褐色土である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
4 前褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
5 黑褐色	ローム粒子少量	12 褐色	ローム大ブロック少量
6 黑褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量		
7 黑褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量		

遺物 土師器片4点、須恵器片5点が出土している。第389図1は須恵器盤の底部片であり、P3の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した図示し得る遺物の下限の時期から、奈良時代から8世紀末葉～9世紀初頭以降と考えられる。

第37号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団体番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	須恵器	B (2.0) D [11.8] E 1.1	底部片。高台は短く垂下する。	体部及び底部内・外面部クロナデ。 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄褐色 普通	P2533 5%

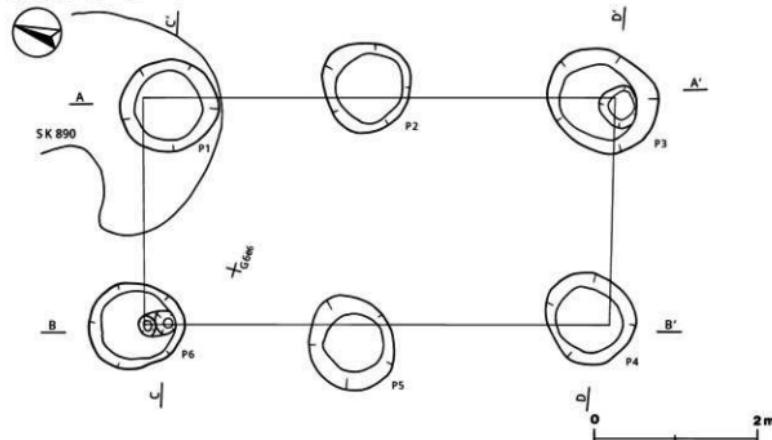
第13号掘立柱建物跡（第390・391図）

位置 調査5区の中央部、G6e6区。

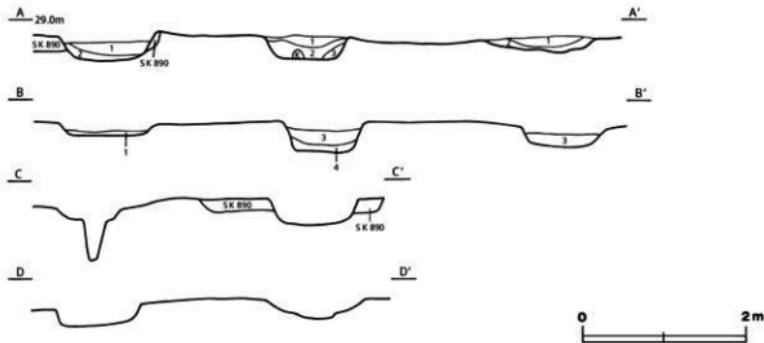
重複関係 第890号土坑を掘り込んでいる。

規模 桁行2間、梁行1間で、南北棟の側柱建物跡である。桁行は5.80m、梁行は2.80mである。柱間寸法は、桁行が2.70～3.10m、梁行が2.80mである。柱穴は、平面形が長径115～140cm、短径100～120cmの楕円形及び円形、深さが16～74cmである。

桁行方向 N-16°-W



第390図 第13号掘立柱建物跡実測図(1)



第391図 第13号掘立柱建物跡実測図(2)

**覆土** 柱痕及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック及びローム粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

- |       |                             |       |                               |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量            |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量          | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |

**遺物** 繩文土器片1点、弥生土器片12点、土器片67点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8~9世紀以降と考えられる。

第15号掘立柱建物跡(第392図)

**位置** 調査5区の北西部、G6c3区。

**重複関係** 第71・72号ピット及び第16号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模** 北東部が調査区域外になるため、正確な規模は不明である。東側及び西側に庇を持っている。身舎の柱穴はP 1~3、庇の柱穴はP 4~9である。庇の出は、東側で1.60m、南側で1.90mである。柱間寸法は東側柱列で1.75m、南側柱列で2.50mである。身舎の柱穴は、平面形が径70~80cmの円形、深さが20~52cmである。庇の柱穴は、平面形が長径34~44cm、短径32~36cmの楕円形及び円形、深さが34~48cmである。

**桁行方向** N-85°-W

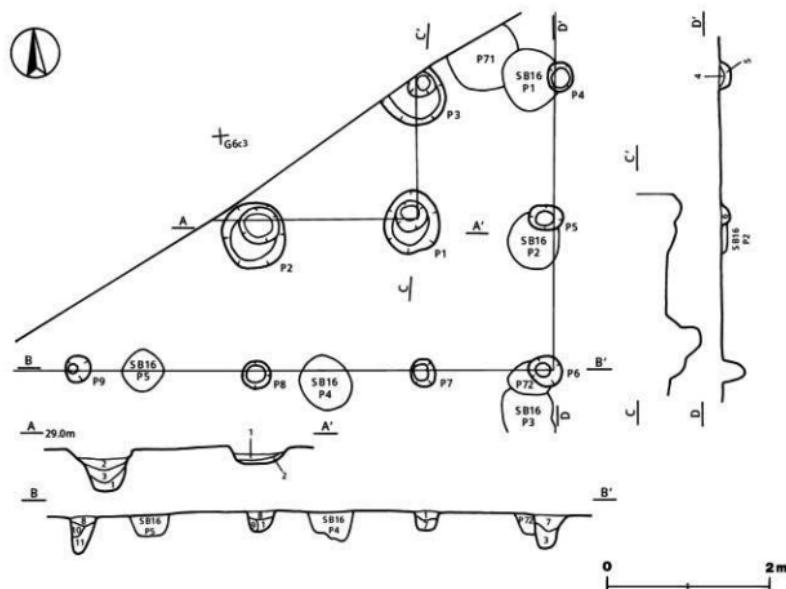
**覆土** 身舎・庇ともに柱痕及び埋土は確認されなかった。身舎の柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子を含む暗褐色土であり、レンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。P 6の第3層は締まりのない覆土、第7・9層は締まりのある覆土である。その他は中程度に締まった覆土である。

**土層解説**

- |       |                             |        |                               |
|-------|-----------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量            | 7 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子微量              |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量   | 8 暗褐色  | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量            |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量       | 9 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子微量              |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量       | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量   |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 11 黒色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 6 褐色  | ローム大ブロック・ローム小ブロック微量         |        |                               |

**遺物** 土師器片3点、須恵器片4点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、P1から内面黒色処理された土師器片が出土している。

**所見** 出土した下限の時期の遺物は、内面黒色処理の土師器片である。時期は、9世紀中葉以降と考えられる。



第392図 第15号掘立柱建物跡実測図

#### 第16号掘立柱建物跡（第393図）

**位置** 調査5区の北西部、G6c3区。

**重複関係** 第71号ピットを掘り込み、第72号ピット及び第15号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模** 本跡の北東部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが、東側及び南側柱列とともに2間以上で、東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は2.00~2.35mである。柱穴掘り方は、平面形が長径50~92cm、短径48~65cmの梢円形及び円形、深さが20~38cmである。

**桁行方向** N-80°-W

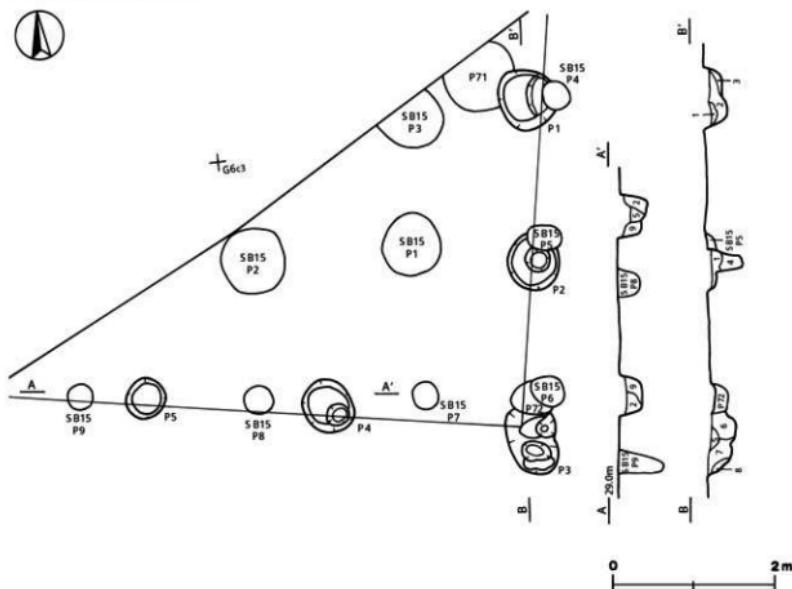
**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子少量		

**遺物** 出土していない。

**所見** 出土遺物がなく、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と類推される。



第393図 第16号掘立柱建物跡実測図

#### 第17号掘立柱建物跡（第394図）

**位置** 調査5区の北西部。G5b7区。

**重複関係** 第906号土坑・第8～10号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模** 北西部が調査区域外になるため、正確な規模は不明であるが、東側及び南側柱列ともに2間以上で、東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は東側柱列で北から1.85m, 2.15m, 南側柱列で東から2.25m, 2.30mである。柱穴は、平面形が長径94～112cm、短径82～95cmの梢円形及び円形、深さが48～66cmである。

**桁行方向** N - 5° - W

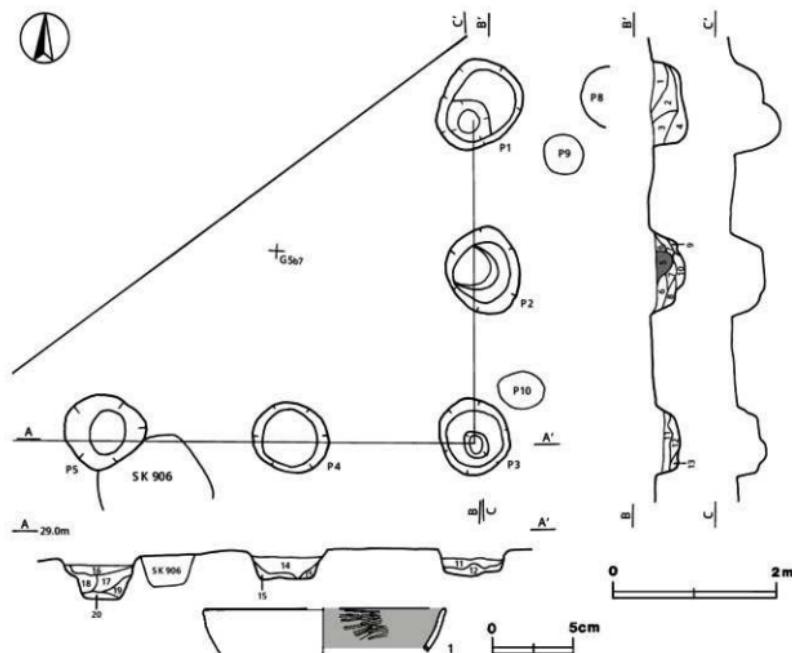
**覆土** 第5層は柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第6～10層は締まりのある埋土である。第1～4・11～13層は締まりのある覆土、第14～16層は中程度に締まった覆土である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック微量	5	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
2	黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	7	暗褐色	ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	8	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量

- |    |     |  |    |     |  |
|----|-----|--|----|-----|--|
| 9  | 褐色  | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・<br>ローム小ブロック微量 | 15 | 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロ<br>ック・ローム粒子微量 |
| 10 | 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロ<br>ック・ローム粒子少量 | 16 | 黒褐色 | ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量                    |
| 11 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量                       | 17 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒<br>子微量        |
| 12 | 褐色  | ローム大ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロ<br>ック・ローム粒子少量 | 18 | 褐色  | ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量、ローム粒<br>子微量        |
| 13 | 褐色  | ローム大ブロック多量、ローム粒子少量                       | 19 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量              |
| 14 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロ<br>ック・ローム粒子微量 | 20 | 黒褐色 | ローム大ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子少<br>量          |

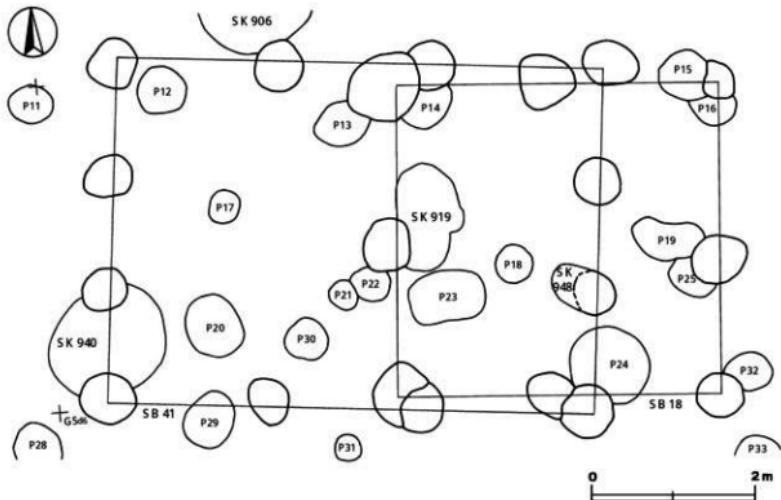
**遺物** 土師器片4点、須恵器片3点が出土している。第394図1の土師器坏は、P4覆土中から出土している。  
**所見** 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。



第394図 第17号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表

因数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第394図 1	土師器	A [15.0] B (2.7)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面口クロ ナデ。内面墨色処理。	長石・石英・針状結 晶、普通	P2516 5%



第395図 第18・41号掘立柱建物跡実測図

#### 第18号掘立柱建物跡（第395・396図）

位置 調査5区の北西部、G5c7区。

重複関係 第919号土坑、第15号ピット及び第41号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第948号土坑及び第13・14・16・18・19・21・22・23・24・25・30～32号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡である。桁行は3.95m、梁行は3.90mである。柱間寸法は、桁行が、南及び北側柱列ともに東から1.90m・2.05m、梁行が東側柱列で北から2.30m・1.60m、西側柱列で北から2.00m・1.90mである。柱穴は、平面形が長径50～95cm、短径40～80cmの楕円形及び円形、深さが50～60cmである。

桁行方向 N-86°-W

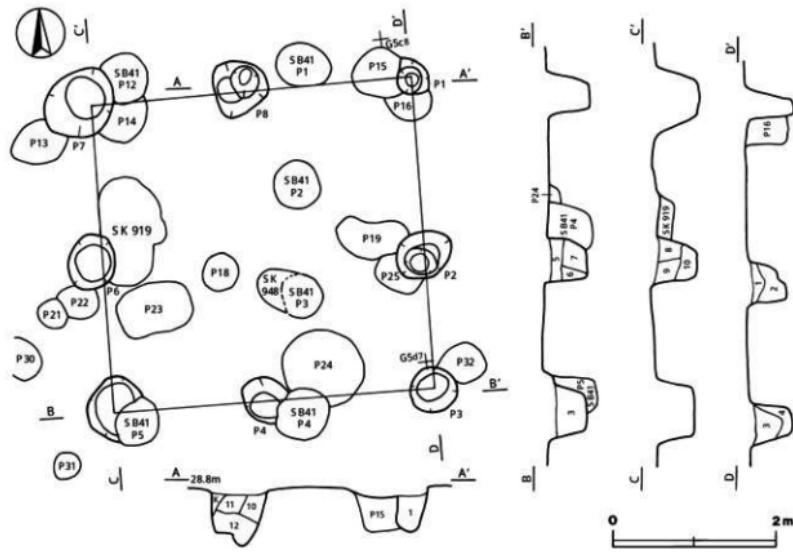
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土はロームブロック及びローム粒子、炭化粒子を含み中程度に縮まった暗褐色・黒褐色・極暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量	10 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
4 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
5 前褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量		
7 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量		

遺物 須恵器2点が出土しているが、いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明である。しかし、桁行方向及び規模が第36・39・40号掘立柱建物跡とはほぼ同じであり、それとの重複関係や配列状況などから、9世紀後葉以降と推定される。



第396図 第18号掘立柱建物跡実測図

第41号掘立柱建物跡（第395・397・398図）

位置 調査5区の北西部、G5c6区。

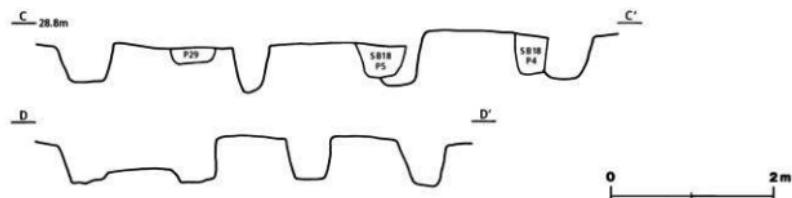
重複関係 第18号掘立柱建物に掘り込まれている。第906・919・940・948号土坑及び第11～15・17～25・29～31号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡である。桁行は5.95m、梁行は4.30mである。柱間寸法は、桁行が1.90～2.50m、梁行が1.40～1.50mである。柱穴は、平面形が長径54～84cm、短径45～65cmの椭円形及び円形、深さが55～110cmである。

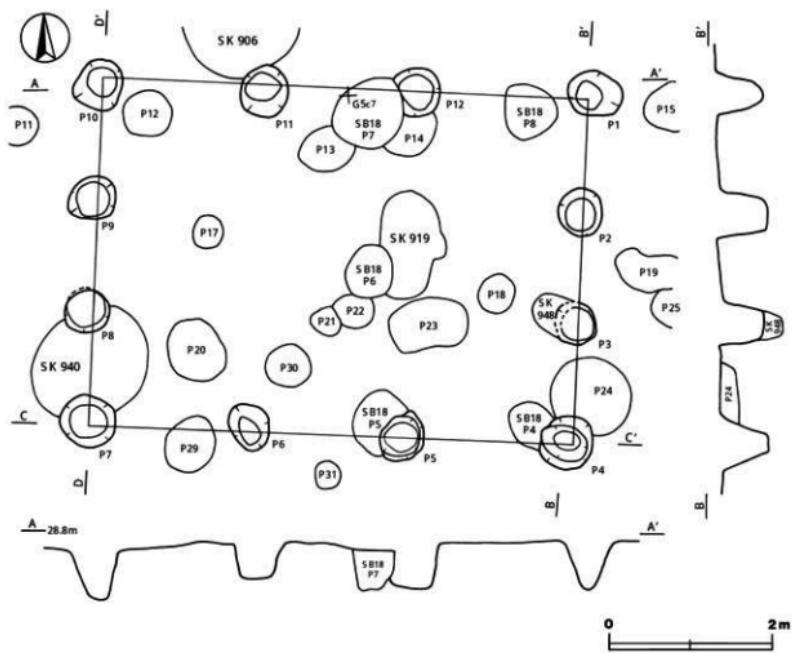
桁行方向 N-84°-W

遺物 繩文土器片6点、土師器片1点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

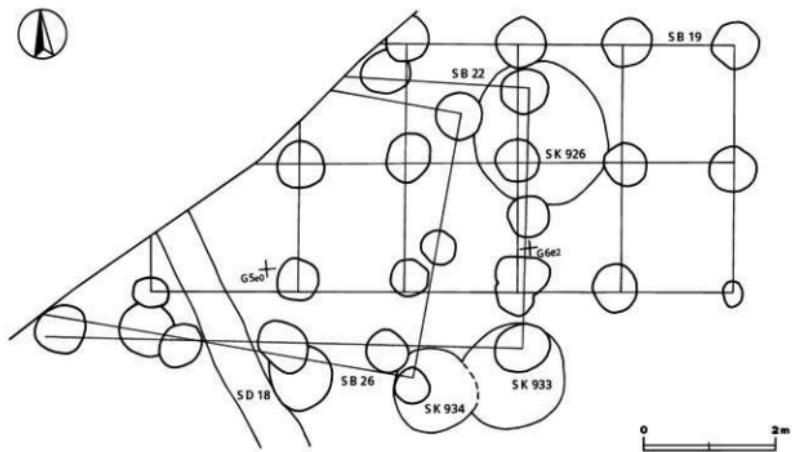
所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と推定される。



第397図 第41号掘立柱建物跡実測図(1)



第398図 第41号掘立柱建物跡実測図(2)



第399図 第26・22・19号掘立柱建物跡実測図

第26号掘立柱建物跡（第399・400図）

位置 調査5区の北西部、G6d1区。

重複関係 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。第926・934号土坑及び第19号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 西部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが、南側柱列が2間以上、東側柱列が2間の側柱建物跡である。柱間寸法は南側柱列で東から1.70m・2.40m、東側柱列で北から2.10m・2.05mである。柱穴は、平面形が長径70~105cm、短径70~95cmの梢円形及び円形、深さが20~43cmである。

桁行方向 N-75°-W

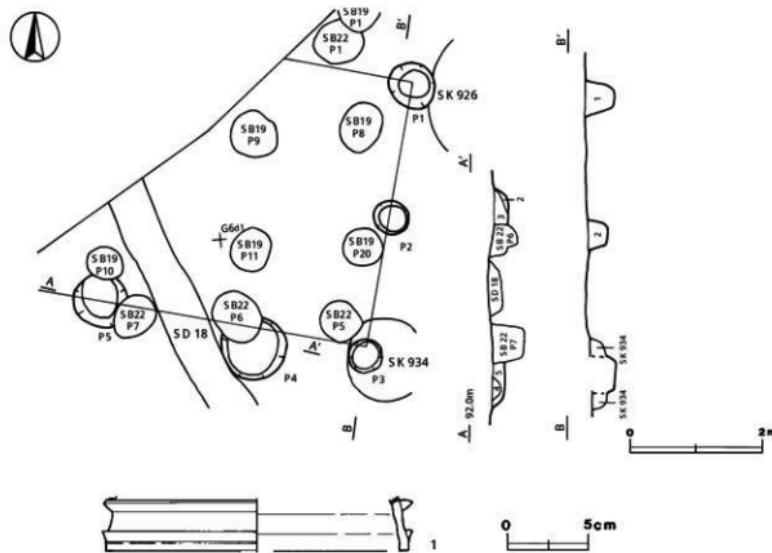
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子を含み中程度に締まった暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |   |     |                                  |   |     |                             |
|---|-----|----------------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック、焼土粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量       |
|   |     |                                  | 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                 |   |     |                             |
| 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量   |   |     |                             |

遺物 土師器片1点、須恵器片6点が出土している。第400図1の須恵器円面硯脚部片は、P2の覆土中から出土している。

所見 時期は、下限の時期の遺物から、8世紀以降と考えられる。



第400図 第26号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表

因版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	円面硯 須恵器	B (33) D [18.4]	脚台部片。脚台の下位に隆帯がある。	脚部内面ナデ。	白色粒子・針状結晶 黄灰色・普通	P2525 5%

## 第22号掘立柱建物跡（第399・401図）

位置 調査5区の北西部、G6d1区。

重複関係 第926・933号土坑及び第26号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第934号土坑及び第19号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 西部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが、南側柱列が4間以上、東側柱列が2間の側柱建物跡である。柱間寸法は桁行が1.50~2.05m、梁行が北から2.00m・2.05mである。柱穴は、平面形が長径65~85cm、短径65~74cmの楕円形及び円形、深さが25~54cmである。

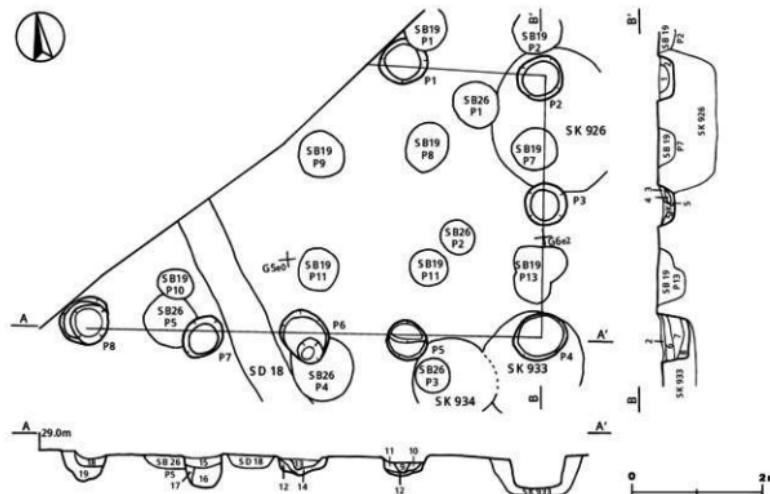
桁行方向 N-82°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第1~5・9~19は中程度に締まった覆土、第6~8層は締まりのある覆土であり、いずれも柱抜き取り後の覆土である。

### 土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロ ック・ローム粒子微量	10 始褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 始褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	12 始褐色	ローム大ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少 量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 始褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・ ローム小ブロック微量	14 始褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
6 黒褐色	ローム小ブロック微量	15 始褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・ ローム大ブロック微量
7 始褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロ ック・ローム粒子微量	16 始褐色	ローム大ブロック少量、ローム・焼土粒子微量
8 始褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック微量、ローム中ブロ ック・ローム粒子微量	17 始褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量
9 始褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微 量	18 始褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微 量
		19 黑褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片2点、須恵器片3点が出土している。細片であり図示できなかった。



第401図 第22号掘立柱建物跡実測図

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じ

く8~9世紀以降と推定される。

#### 第19号掘立柱建物跡 (第399・402・403図)

位置 調査5区の北西部, G6d1区。

重複関係 第926号土坑を掘り込んでいる。第22・26号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

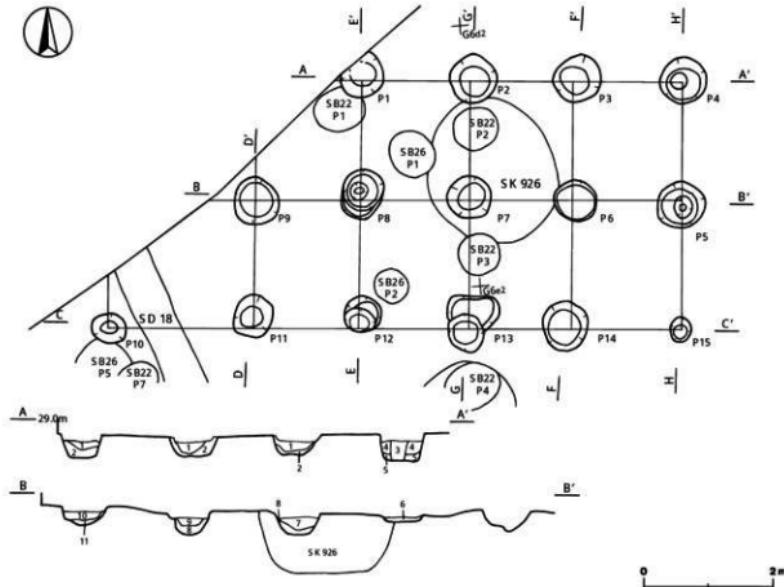
規模 西部が調査区域外になるが、南側柱列が5間、東側柱列が2間の總柱建物跡と考えられる。柱間寸法は、桁行が1.55~2.25m、梁行が北から1.80m・2.00mである。柱穴は、平面形が長径45~73cm、短径38~72cmの椭円形及び円形、深さが10~48cmである。

桁行方向 N-85°-W

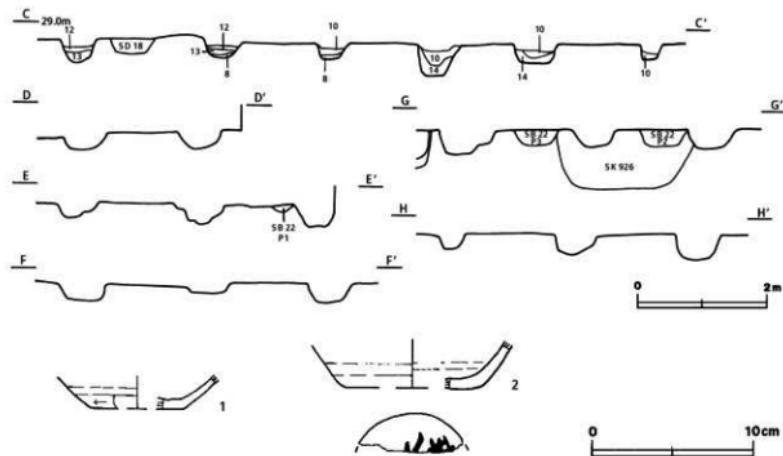
覆土 第3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない柱痕跡である。第4・5層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

##### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 赤褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 赤褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 黒褐色	ローム粒子微量
3 赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 極赤褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 赤褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	11 黑褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
5 褐色	ローム粒子中量	12 黑褐色	ローム粒子少量
6 赤褐色	ローム粒子中量	13 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
7 黑褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	14 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量



第402図 第19号掘立柱建物跡実測図



第403図 第19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**遺物** 土師器片6点、須恵器片11点が出土している。第403図1の須恵器片の底部から体部片は、P3の覆土中から出土している。また、細片のため図示できなかったが、P5の覆土中から内面黒色処理された土師器高台付片の底部片が出土している。2は須恵器片の底部から体部片で墨書き土器である。

**所見** 細片のため図示できなかったが、P5の覆土中から内面黒色処理された土師器片が出土している。第43図1は須恵器片とともに下限の時期の遺物である。第403図2の須恵器片は9世紀前葉と考えられる。本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。

#### 第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
						P	PL
第403図 1	須 恵 器	B (2.1) C (5.6)	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナダ。底部調査不明。	長石・石英 灰褐色 普通	P2517	10%
2	須 恵 器	B (3.0) C (8.2)	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナダ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P2518	10% PL70 体部外面墨書き 「大在」

#### 第20号掘立柱建物跡（第404・405図）

**位置** 調査5区の北西部、G6e3区。

**重複関係** 第123号住居跡を掘り込んでおり、第110号ピットに掘り込まれている。第101・103・104・105・106・107・109・111・113号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 衍行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。衍行は5.45m、梁行は4.40mである。柱間寸法は衍行が1.70~2.00m、梁行が2.05~2.35mである。柱穴は、平面形が長径52~100cm、短径45~88cmの楕円形・隅丸方形及び円形、深さが21~57cmである。

**衍行方向** N-84°-W

**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土は、ロームブロック及びローム粒子・焼土

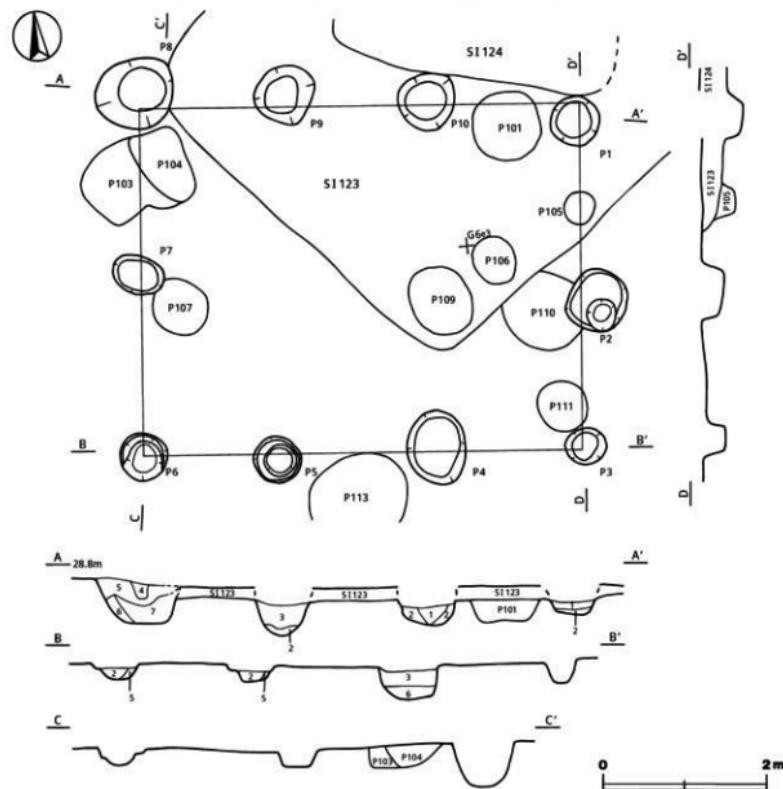
粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子を含む中程度に締まった黒色・黒褐色・極暗褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |  |  |
|--|--|
| 1 黒 色 ローム粒子少量・ローム小ブロック微量               | 5 暗 褐 色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量・ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量      | 6 極暗褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック微量                        |
| 3 黒 褐 色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量                |  |

遺物 土師器片38点、須恵器片13点が出土している。第405図1の土師器杯は、P 5 からの覆土中から出土している。また、2の須恵器甕は、P 8 の覆土中から出土している。

所見 9世紀中葉に位置づけられる第123号住居跡を掘り込んでいる。また、出土している上限の遺物の時期は、第405図2の8世紀前葉の須恵器甕部片、下限の遺物の時期は、第405図1の9世紀後葉の土師器杯であり、時期は出土している遺物の下限の時期から、9世紀後葉以降と考えられる。



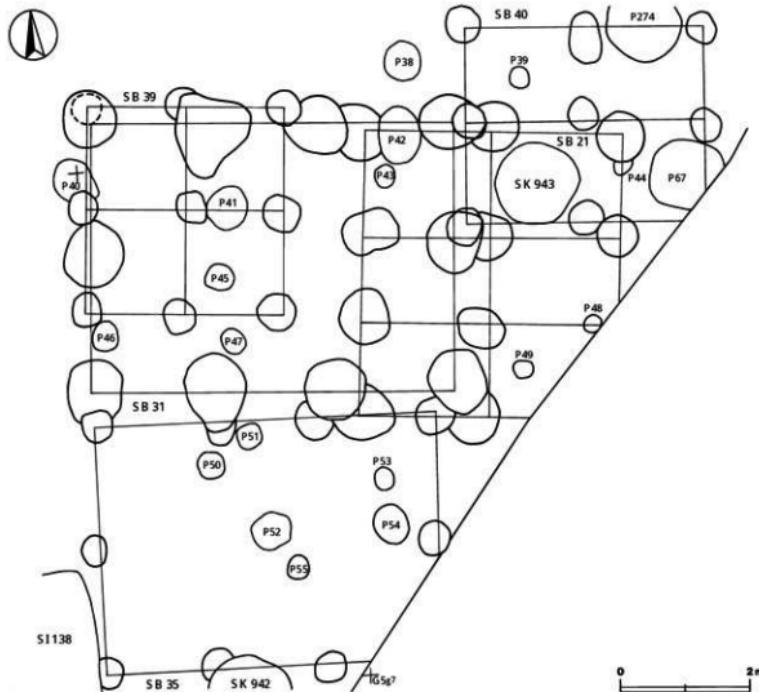
第404図 第20号掘立柱建物跡実測図



第405図 第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	坏 土 簡 器	A [13.5] B 4.3	底部から口縁部片。平底。体部は内寄しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 2519 60%
2	器 須 恵 器	C 6.4 (4.1)	体部片。体部は内寄して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P 2520 5 %



第406図 第21・31・35・39・40号掘立柱建物跡実測図

第21号掘立柱建物跡（第406・407図）

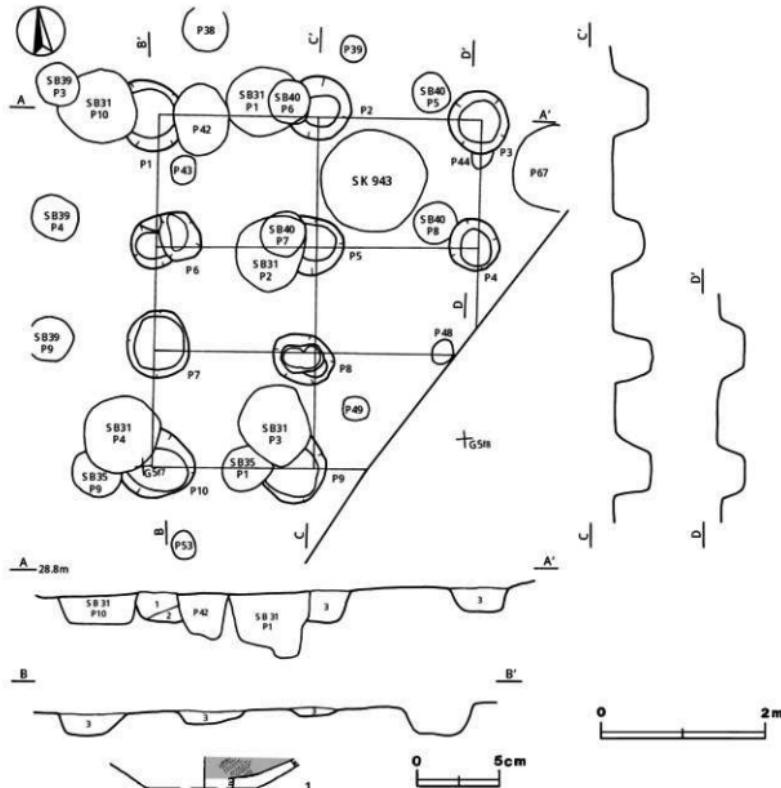
位置 調査5区の北西部、G5e7区。

重複関係 第40号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第42号ピット及び第31号掘立柱建物に掘り込まれている。

第38・39・43・48・49・53・67号ピット及び第35号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 衍行3間、梁行2間で南北棟の総柱建物跡である。衍行は4.35m、梁行は4.00mである。柱間寸法は衍行が1.30～1.65m、梁行が1.60・2.40mである。柱穴は、平面形が長径83～95cm、短径62～82cmの楕円形及び円形、深さが10～47cmである。

衍行方向 N - 6° - E



第407図 第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土はロームブロック及びローム粒子を含み中程度に縮まった暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土であり、柱抜き取り後の覆土である。

## 土層解説

1. 賀褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量  
2. 賀褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

**遺物** 土師器片 2点、須恵器片 3点が出土している。第407図1の土師器片は、P10の覆土中から出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第407図 1	土 師 器	B C [16]	底部から体部下端の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へラözき、体部 下端回転へラ削り。底部調整不明。 内面黒色処理。	石英・赤色粒子・針 状結晶物、にぶい橙 色 普通	P2521 10%

### 第31号掘立柱建物跡（第406・408図）

**位置** 調査5区の北西部、G5e6区。

**重複関係** 第21・35・40号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第39号掘立柱建物に掘り込まれている。第38・40～43・第45～47・51号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.60m、梁行は4.10mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.00m、梁行が1.90～2.20mである。柱穴は、平面形が長径75～105cm、短径65～92cmの楕円形及び円形、深さが41～80cmである。

**桁行方向** N-85°-W

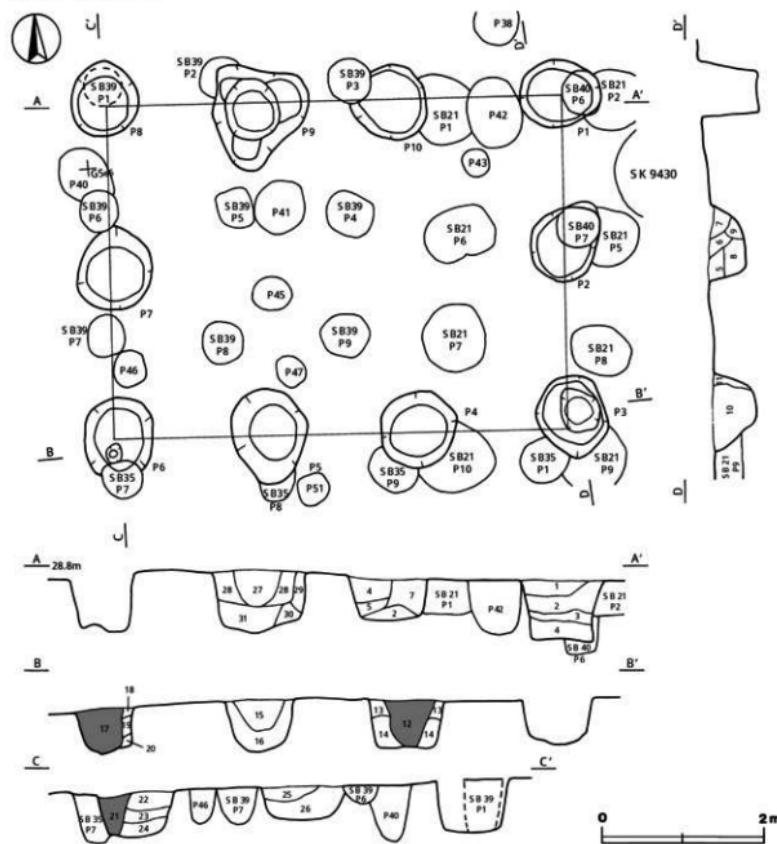
**覆土** 第12・17・21層は柱痕跡の土層に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を含み繰まりのない暗褐色土である。第13・14・18～20・22～24層は繰まりのある埋土で暗褐色・極暗褐色の互層をなしている。第1～11・15・16・25～31層は中程度に研磨された柱抜き取り後の覆土である。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量  
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量  
3 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量  
4 賀褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量  
5 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・燒土粒子微量  
6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、燒土粒子微量  
7 賀褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
8 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量  
9 黑褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
10 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量  
11 賀褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
12 賀褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
13 賀褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
14 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量  
15 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック微量
- 16 賀褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量  
17 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量、粘土粒子微量  
18 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量  
19 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム大ブロック微量  
20 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量  
21 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・燒土粒子・粘土粒子微量  
22 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量  
23 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム大ブロック微量  
24 賀褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量  
25 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量  
26 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量  
27 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム大ブロック・燒土粒子微量  
28 黑褐色 ローム粒子・粘土粒子少量  
29 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、ローム中ブロック微量  
30 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
31 賀褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量

**遺物** 土師器片2点、須恵器片7点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、P4の覆土中から内面黒色処理され、ヘラ削り調整が施された土師器杯底部片が出土している。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、P 4 から出土した下限の遺物の時期から 9 世紀後葉以降と推定される。



第408図 第31号掘立柱建物跡実測図

### 第39号掘立柱建物跡（第406・409図）

位置 調査5区の北西部、G5e6区。

**重複関係** 第40号ビット及び第31号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第41・45~47号ビットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 枝行2間、梁行2間の総柱建物である。枝行は3.15m、梁行は3.10mである。柱間寸法は枝行が1.55m・1.60m、梁行が1.55mである。柱穴は、平面形が長径50~60cm、短径45~52cmの楕円形及び円形、深さが

40~70cmである。

桁行方向 N-85°-W

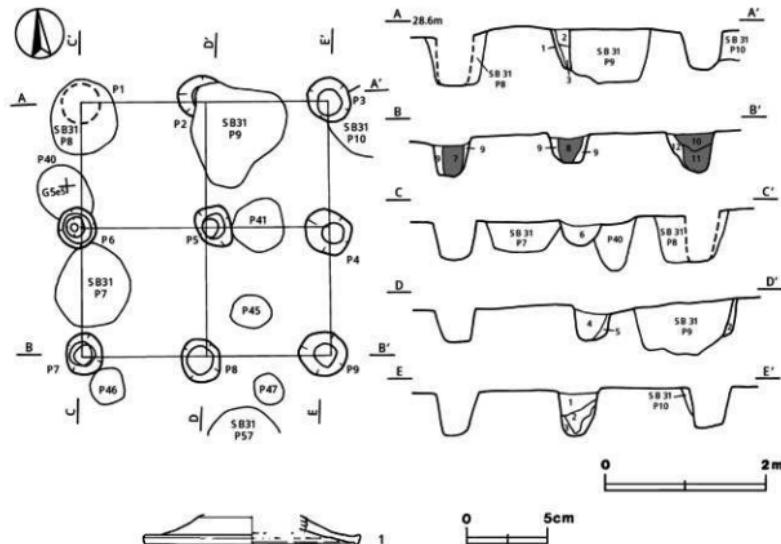
覆土 第7・8・10・11層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色・黒褐色・極暗褐色土である。第9・12層は締まりのある埋土である。第1~6層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
2 灰褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	8 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	9 灰褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 黑褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 灰褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
6 灰褐色	ローム粒子中量	12 灰褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片4点、須恵器片3点が出土している。第409図1の須恵器蓋は、P7の覆土中から出土している。

所見 本跡から出土している下限の時期の遺物は、8世紀末~9世紀初頭の須恵器蓋であるが、本跡は9世紀後葉に位置づけられる第31号掘立柱建物跡より新しかったため、これ以降と考えられる。なお、本跡の近くにまとまって検出された第18・36・40号掘立柱建物跡と桁行方向及び規模がほぼ同じであり、配列状況などから、本跡とそれらはほぼ同時期の可能性も推定される。



第409図 第39号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

#### 第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	蓋 須恵器	A [130] B (19)	口縁部から天井部片。天井部は低く扁平である。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・礫、灰オリーブ色、普通	P2534 5%

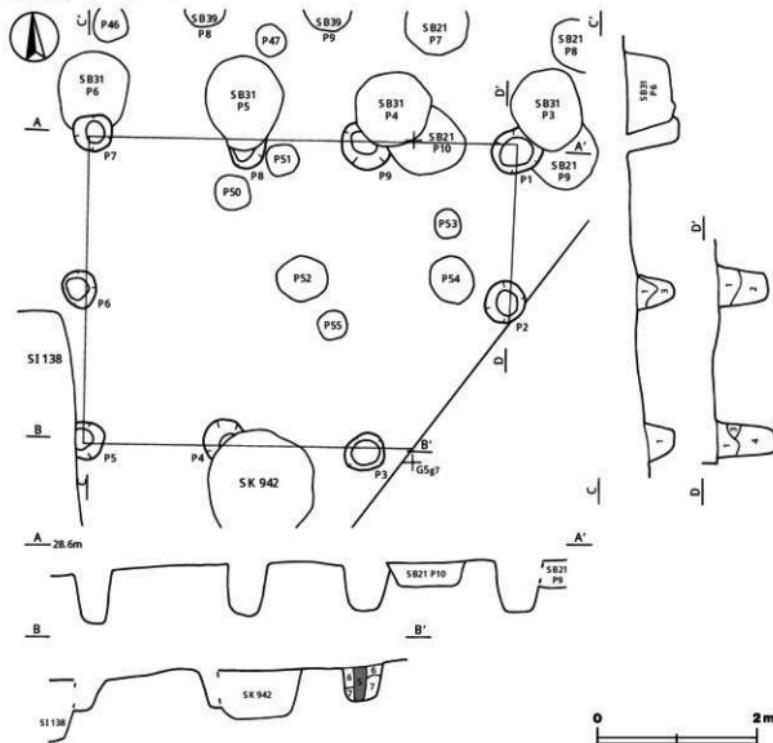
第35号掘立柱建物跡（第406・410図）

位置 調査5区の北西部、G5f6区。

重複関係 第31号掘立柱建物に掘り込まれている。第942号土坑、第46・47・50～55号ピット及び第138号住居跡、第21号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は5.30m、梁行は3.80mである。柱間寸法は桁行が1.50～1.90m、梁行が1.90～1.95mである。柱穴は、平面形が長径46～70cm、短径40～48cmの梢円形及び円形、深さが45～74cmである。

桁行方向 N-88°-W



第410図 第35号掘立柱建物跡実測図

覆土 第5層は柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む縮まりのない暗褐色土である。第6・7層は縮まりのある埋土である。第1～4層は中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |        |                             |        |                                  |
|--------|-----------------------------|--------|----------------------------------|
| 1. 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 3. 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量               |
| 量      |                             | 4. 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2. 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量            | 7. 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量  |
| 5. 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |        |                                  |
| 6. 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量          |        |                                  |

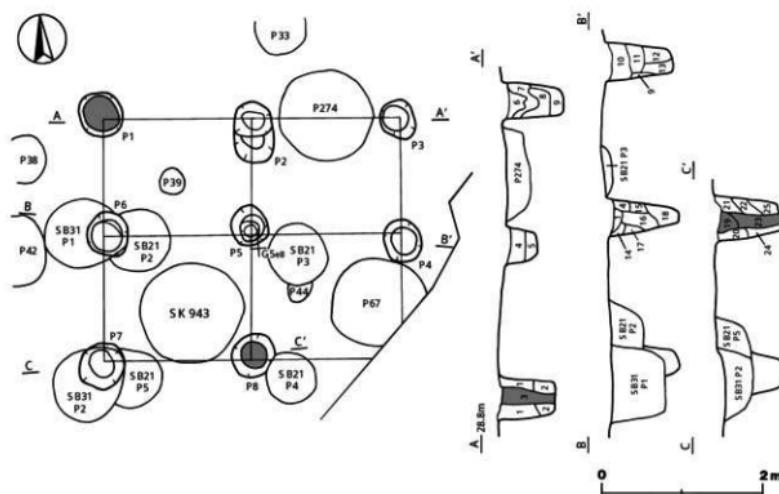
**遺物** 土師器片 1 点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく 8 ~ 9 世紀以降と推定される。

#### 第40号掘立柱建物跡（第406・411図）

**位置** 調査 5 区の北西部、G5e8 区。

**重複関係** 第 21・31 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 943 号土坑及び第 33・38・39・42・44・67・274 号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第411図 第40号掘立柱建物跡実測図

**規模** 南東隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行 2 間、梁行 2 間で東西棟の總柱建物跡である。桁行は 3.70m、梁行は 2.95m である。柱間寸法は桁行が 1.85m、梁行が 1.40 ~ 1.50m である。柱穴は、平面形が長径 50 ~ 78cm、短径 45 ~ 52cm の楕円形、深さが 45 ~ 91cm である。

**桁行方向** N - 85° - W

**覆土** 第 3・19・23 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み縛まりのない暗褐色・黒褐色土である。第 1・2・20~22・24・25 層は縛まりのある埋土である。第 4~18 層は中程度に縛まつた柱抜き取り痕の覆土である。

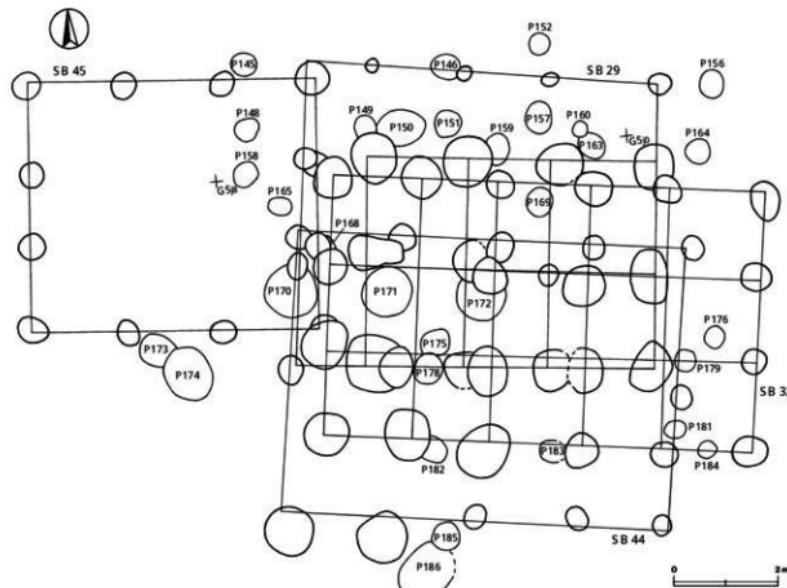
#### 土層解説

1. 赤褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	5. 赤褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
2. 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロッ ク・ローム中ブロック微量	6. 赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3. 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロッ ク・ローム小ブロック微量	7. 赤褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロ ック微量
4. 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	8. 極赤褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック 微量

9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	18	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
10	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	19	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
11	暗褐色	ローム粒子少量	20	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	21	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
13	極暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック	22	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
14	褐色	ローム大ブロック中量	23	黒褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子微量	24	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量化
16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量	25	黒褐色	ローム小ブロック微量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
17	暗褐色	ローム粒子・燃土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量			ローム・炭化粒子微量

遺物 須恵器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向及び規模が第18・36・39号掘立柱建物跡とほぼ同じであることや配列状況などから、9世紀後葉以降と推定される。



第412図 第29・32・44・45号掘立柱建物跡実測図

#### 第45号掘立柱建物跡（第412・413図）

位置 調査5区の南西部、G5j7区。

重複関係 第32号掘立柱建物に掘り込まれている。第148・158・165・170・173・174号ピット及び第29・44号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

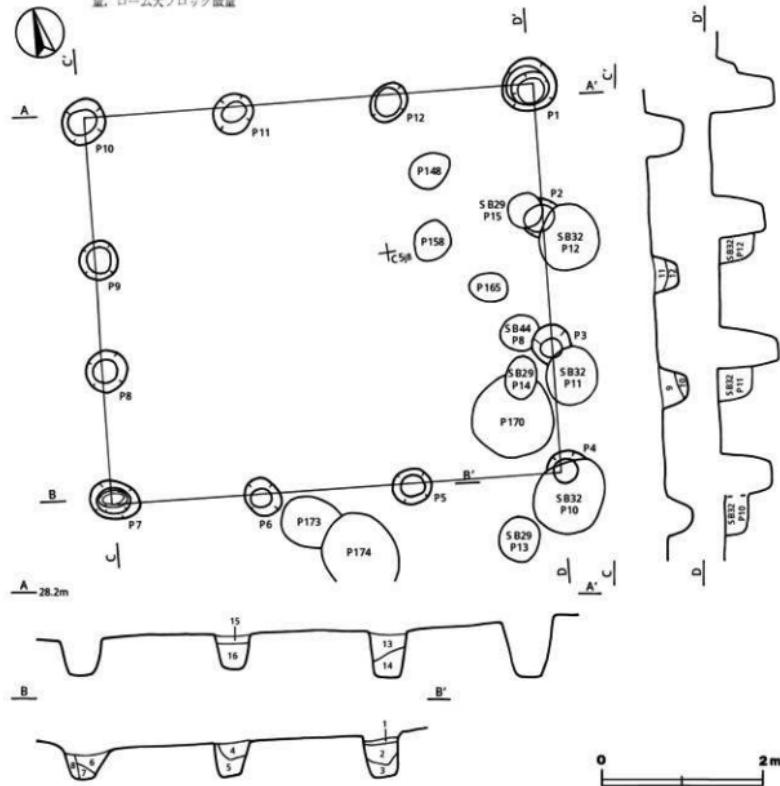
規模 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.60m、梁行は4.80mである。柱間寸法は桁行が1.80~1.90m、梁行が1.40~1.80mである。柱穴は、平面形が長径48~63cm、短径43~54cmの橢円形及び円形、深さが36~68cmである。

航行方向 N-85° - W

**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色・灰褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |       |  |        |   |
|-------|--|--------|---|
| 1 褐褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、ローム中ブロック微量        | 10 褐色  | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量          |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量       | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                       | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量          |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量       | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量                 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量       | 14 灰褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量     |
| 6 褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック少量                     | 15 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量              |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                   |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量     |        |   |
| 9 褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 |        |   |



第413図 第45号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と思われ、また、本跡より新しい第32号掘立柱建物跡が9世紀中葉に位置づけられるため、8～9世紀中葉の時期と類推される。

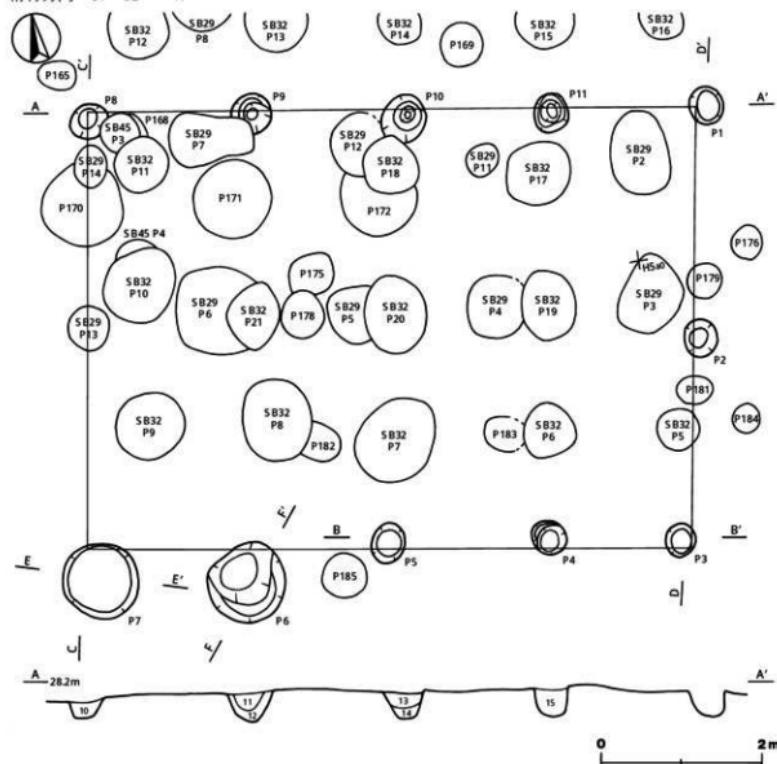
#### 第44号掘立柱建物跡（第412・414・415図）

位置 調査5区の南西部、G5j9区。

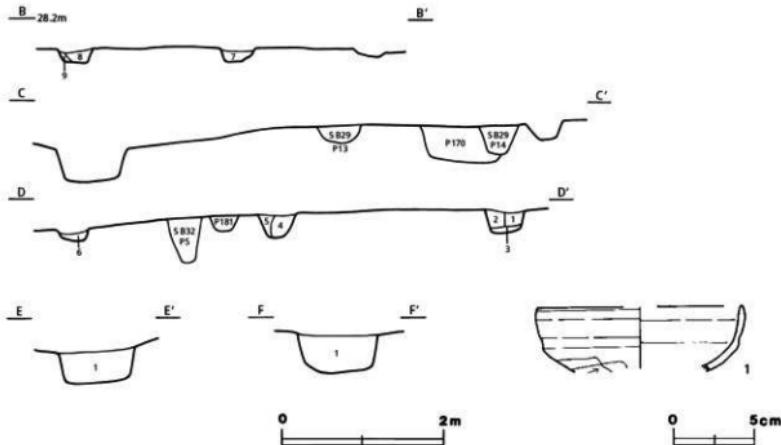
重複関係 第165・169・170～172・175・176・178・179・181～185号ピット及び第29・32・45号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行4間、梁行は東側柱列で2間、西側柱列で1間の東西棟の側柱建物跡である。桁行は7.55m、梁行は5.14mである。柱間寸法は桁行が1.75～2.00m、梁行が2.60～2.80mである。柱穴は、平面形が長径40～100cm、短径40～50cmの楕円形及び円形、深さが24～46cmである。

桁行方向 N - 82° - W



第414図 第44号掘立柱建物跡実測図



第415図 第44号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む中程度に締まった暗褐色・極暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム中ブロック ク・炭化物・炭化粒子微量	11 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量・ローム 中ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子中量・ローム小ブロック少量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子中量・ローム小ブロック微量	13 黒褐色	炭化粒子少量・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子多量	14 黒褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量・ローム小ブロック 微量
6 暗褐色	ローム粒子中量・ローム小ブロック少量・ローム中ブロ ック微量	15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量・ローム 中ブロック微量
7 極暗褐色	ローム粒子少量・ローム小ブロック・炭化物微量		
8 暗褐色	ローム粒子・炭化物少量・ローム小ブロック微量		
9 暗褐色	ローム粒子中量・ローム中ブロック・ローム小ブロック 微量		

遺物 土師器片5点が出土している。第415図1の土師器杯口縁部片は、P2の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した遺物の下限の時期から、8世紀前葉以降と考えられる。

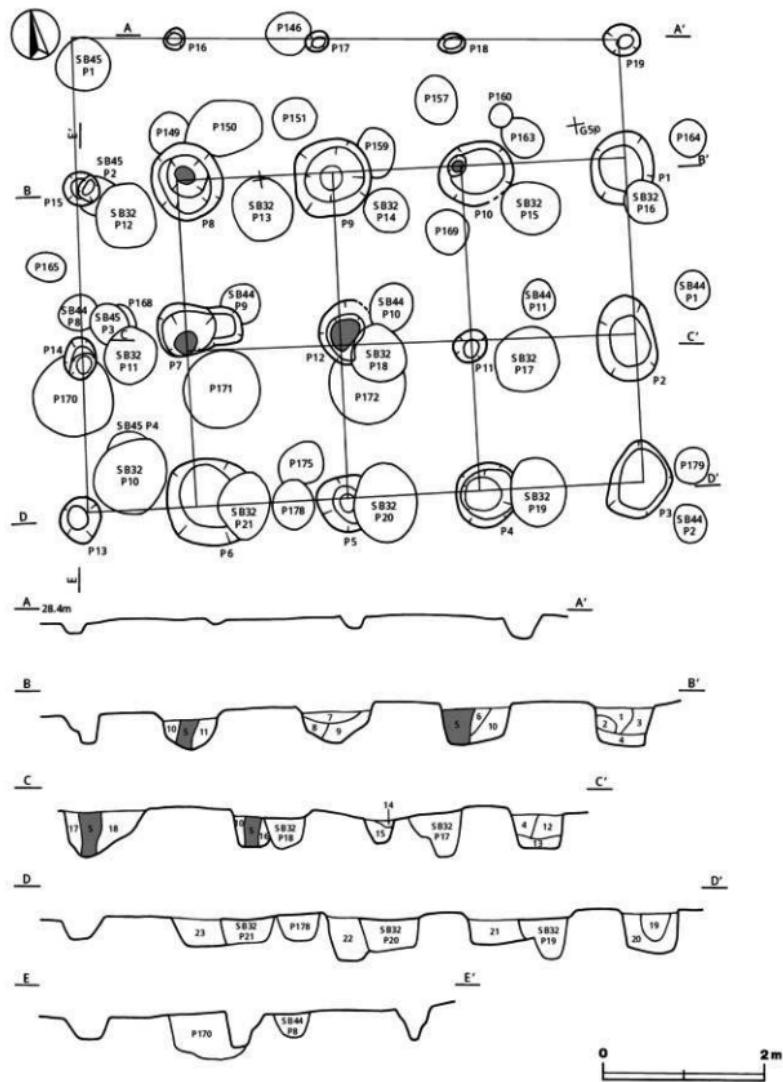
**第44号掘立柱建物跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	土師器	A [12.8] B (39)	体部から口縁部片。体部は内窪し て立ち上がり、口縁部との境に棱 を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部 外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ 白色粒子、にぶい 橙色、普通	P2537 10%

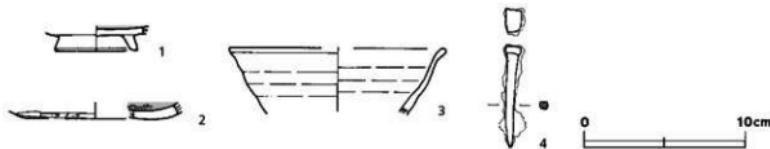
**第29号掘立柱建物跡（第412・416・417図）**

位置 調査5区の南西部、G59区。

重複関係 第32号掘立柱建物に掘り込まれている。第146・149～151・157・159・160～171・163～165・168・169・175・178・179号ピット及び第44・45号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第416図 第29号掘立柱建物跡実測図



第417図 第29号掘立柱建物跡出土遺物実測図

**規模** 衍行3間、梁行2間で東西棟の総柱建物跡である。北側及び西側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1～12、庇の柱穴はP13～19である。北西隅の庇の柱穴は確認できなかったが、配列から第45号掘立柱建物跡のP1が庇の柱穴と重複していた可能性が考えられる。第45号掘立柱建物跡のP1は、本跡の庇の柱穴よりも深いことから、第45号掘立柱建物跡が本跡より新しいと仮定した場合、これに掘り込まれた可能性もある。衍行は5.35m、梁行は4.05mである。庇の出は北側で1.45～1.70m、西側で1.15～1.35mと考えられる。柱間寸法は衍行が1.60～2.10m、梁行が1.90～2.15mである。身舎の柱穴は、平面形が長径46～115cm、短径38～95cmの楕円形及び円形、深さが42～55cmである。庇の柱穴は、平面形が長径30～55cm、短径25～41cmの楕円形及び円形、深さが7～28cmである。

**衍行方向 N-84°-W**

**覆土** 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み縋りのない暗褐色土である。第6・10・11・16～18層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	褐色	ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・黒色土中ブロック微量	14	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	15	黒褐色	ローム粒子微量
4	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	16	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17	褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量	18	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・黒色土粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子・炭化粒子微量	19	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
8	褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量	20	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	21	褐色	ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量	22	褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・黒色土粒子・ローム中ブロック微量
11	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量	23	褐色	ローム大ブロック・ローム中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量			

**遺物** 土師器片20点、須恵器片9点が出土している。第417図1の土師器高台付坏底部片はP8から、2の土師器坏底部片、3の須恵器坏口縁部片はともにP6から出土している。

**所見** 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。しかし、9世紀後葉に位置づけられる第127号住居跡と遺構の傾きが同じこと及びその平面的な位置関係から、本跡も同時期の可能性も考えられる。

#### 第29号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1	高台付 土師器	B (16) D 5.0 E 1.0	高台から底部の破片。高台は短くバの字状に開く。	底部内面へラグラ。底部回転へラグ切り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・白色粒子、ぶぶい黄褐色、普通	P2527 20%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第417図 2	坏 器	B (1.0) C (8.3)	底部から体部下端の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へラ磨き、体部 下端及び底部回転ラ削り。内面 黒色処理。	長石・石英・雲母・ 針状結晶物 明黄褐色・普通	P2528 5%
		A [13.4] B (40)	体部から口縁部分。体部は直線的 に外傾して立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。	石英・白色粒子 灰色 普通	P2529 5%
第417図 4	钉	(5.1)	計測値	材 質	特 徴	備 考
			長さ(cm) 幅(cm) 厚さ(cm) 重量(g)	材 質	特 徴	備 考
			0.9 0.4 7.1	鉄	断面形は方形	M2501

### 第32号掘立柱建物跡（第412・418図）

位置 調査5区の南西部、G59区。

重複関係 第183号ピット及び第29・45号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第168・169・171・172・175・176・178・179・181・182・184号ピット及び第44号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行5間、梁行3間の東西棟であり、柱立柱建物跡と考えられる。桁行は8.35m、梁行は5.00mである。柱間寸法は桁行が1.45~1.85m、梁行が1.60~1.70mである。柱穴は、平面形が長径50~115cm、短径50~92cmの梢円形及び円形、深さが20~70cmである。

桁行方向 N - 82° - W

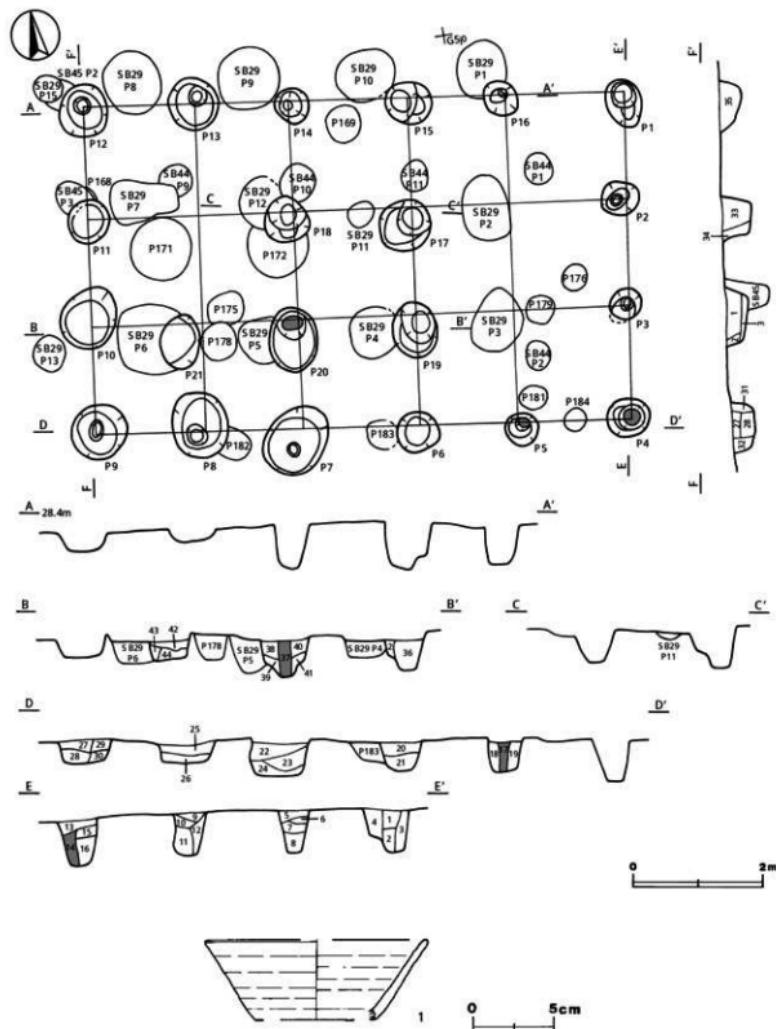
覆土 第14・17・37層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み縮まりのない暗褐色土である。第15・16・18・19・38~41層は縮まりのある埋土である。その他は、中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	褐 色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	24	褐 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量
2	褐 色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量	25	褐褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク・ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子 微量	26	褐 色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
4	褐 色	ローム粒子中量	27	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量	28	褐 色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	29	褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロ ック微量	30	褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子少量	31	褐 色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
9	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	32	褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
10	褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	33	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子 微量
11	暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量	34	褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
12	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	35	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロ ック少量、ローム粒子微量
13	暗褐色	ローム大ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微 量	36	褐褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微 量
14	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微 量	37	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	38	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒 子・焼土粒子微量
16	褐 色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少 量	39	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム粒 子微量
17	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	40	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微 量
18	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	41	褐褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
19	暗褐色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	42	暗褐色	ローム粒子微量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ 炭化粒子微量
20	褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	43	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
21	褐 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子 微量	44	褐 色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
22	褐 色	ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム小ブロ ック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量			
23	暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・ 焼土粒子微量			

**遺物** 土師器片12点、須恵器片11点が出土している。第418図1の須恵器杯片は、P10の覆土中から出土している。

**所見** 本跡から出土した下限の遺物の時期は9世紀中葉と考えられる。本跡より古い第29号掘立柱建物跡は9世紀後葉以降の可能性が考えられることから、本跡の時期はそれ以降と考えられる。



第418図 第32号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第32号掘立柱建物跡出土遺物観察表

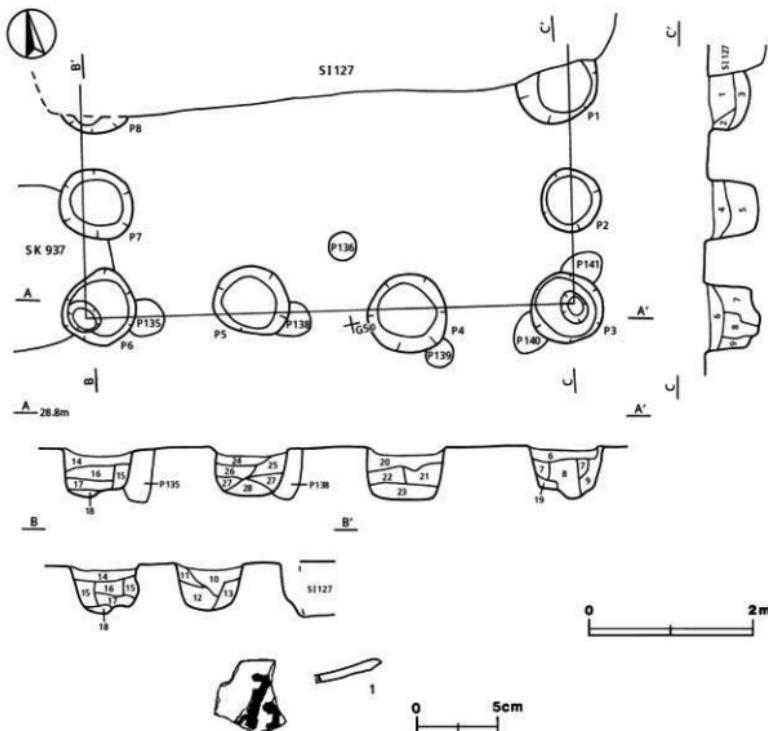
団体番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第418団 1	須 恵 器	A [138] B 4.9 C [7.6]	体部から口縁部片。体部は直線的 に外傾して立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	長石・石英 灰白色 普通	P2530 15%

第23号掘立柱建物跡（第419図）

位置 調査5区の南西部、G5h0区。

重複関係 第135号ピットを掘り込んでおり、第127号住居に掘り込まれている。第937号土坑及び第136・138～141号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 東及び西側柱列の一部と北側柱列が第127号住居に掘り込まれており、正確な規模は不明であるが、南及び北側柱列が3間、東及び西柱列が2間以上の側柱建物跡である。桁行は6.35m、現存する梁行は3.20mである。柱間寸法は桁行が1.90～2.05m、梁行が1.30～1.45mである。柱穴は、平面形が長径80～102cm、短径75～100cmの梢円形及び円形、深さが55～66cmである。



第419図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 南側柱列でN-80°-W

**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色・黒褐色・極暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量。ローム大ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック微量	16	暗褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	17	暗褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量。ローム大ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。ローム中ブロック微量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少 量。ローム大ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	19	褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微 量
6	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量	20	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化 粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	21	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量	23	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック・ ローム中ブロック微量
10	暗褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量。炭化粒子微量	24	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量。ローム粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロ ック・炭化粒子微量	25	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量。ローム小ブロック微量
12	暗褐色	ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム中ブロ ック少量	26	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微 量
13	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロ ック微量	27	暗褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微 量
14	暗褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック微量	28	暗褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量

**遺物** 土師器片6点、須恵器片4点が出土している。第419図1の土師器高台付皿は、P1の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉～後葉と考えられる。

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 1	高台付 土師器	B (15)	体部から口縁部の破片。体部は大 きく開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へら磨き、体 部下端回転ヘラ削り。内面黑色施 工。	長石・石英・骨母 にぶい黄褐色 普通	P2522 5% PL72 体部外表面 「在」

#### 第28号掘立柱建物跡（第420・421図）

**位置** 調査5区の南西部、G63J3区。

**重複関係** 本跡が第93号土坑を掘り込んでいる。また、西側柱列南隅から2か所の柱穴が、規模・覆土及び配列状況から第43号掘立柱建物跡のP1・P2に掘り込まれている可能性がある。第194・195・199・201～204号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 衍行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。衍行は4.45m、梁行3.60mである。柱間寸法は衍行1.30～1.60m、梁行1.60・1.70mである。柱穴掘り方は、平面形が長径70～95cm、短径55～75cmの梢円形及び円形、深さが40～62cmである。

桁行方向 N-79°-W

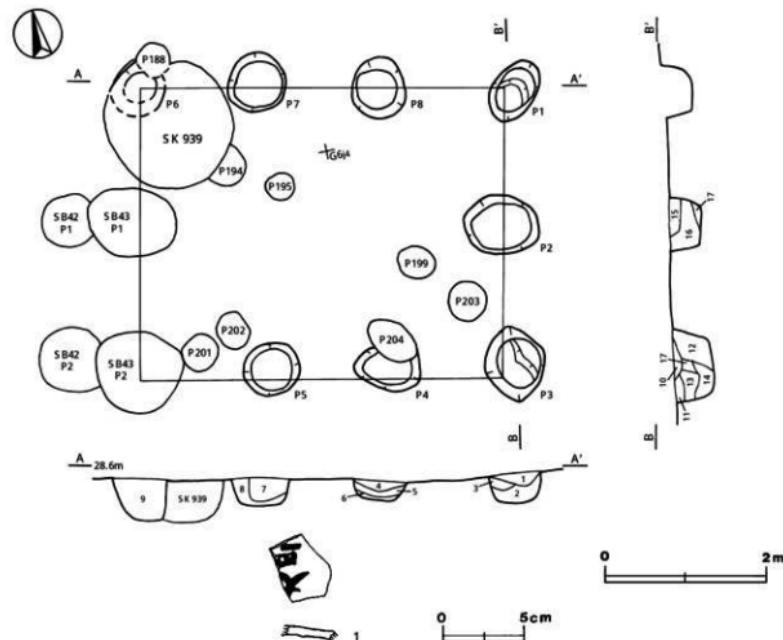
**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・粘土粒子・黒色土ブロックを含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

## 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量、粘土小ブロック微量
2	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・黒色土小ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
6	褐色	ローム大ブロック少量、ローム中ブロック微量
7	褐色	ローム中ブロック・ローム大ブロック・ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
9	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
12	褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
13	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量
15	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・粘土小ブロック微量
16	暗褐色	ローム小ブロック・粘土粒子微量
17	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片16点、須恵器片13点が出土している。第420図1の須恵器蓋は、P7覆土から出土している。

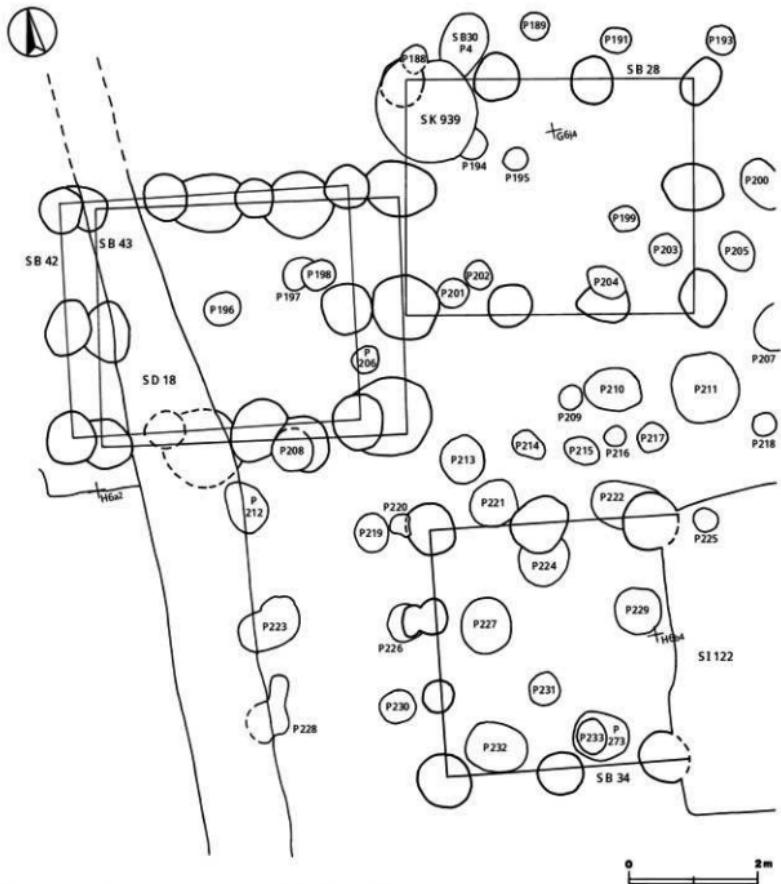
所見 重複及び近接する第42・43号掘立柱建物跡と本跡の中では、本跡が一番古く、第42号掘立柱建物跡が一番新しい。本跡は、出土した遺物の下限の時期などから8世紀後葉～9世紀前葉と考えられる。



第420図 第28号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

### 第28号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm) (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 1	蓋 須恵器	B (0.9)	口縁部から天井部片。天井部は低く扁平である。	天井部回転ヘラ削り。	長石・白色粒子 黄灰色 普通	P2526 5% PL73 天井部外面墨書き 「大」



第421図 第28・34・42・43号掘立柱建物跡実測図

第43号掘立柱建物跡（第421・422図）

位置 調査5区の南西部、G6j2区。

重複関係 柱穴の規模・覆土及び配列状況からP1・P2がそれぞれ第28号掘立柱建物跡の柱穴を掘り込んでいる可能性がある。また、第18号溝、第208号ビット及び第42号掘立柱建物に掘り込まれている。第196～198・201・206・208号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行2間の、東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.70m、梁行は3.70mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m、梁行が1.50～1.80mである。柱穴は、平面形が長径80～115cm、短径62～100cmの楕円形及び円形、深さが16～45cmである。

桁行方向 N - 80° - W

**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	8	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	9	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	10	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	11	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	12	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量	13	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	14	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量

**遺物** 土師器片4点、須恵器片6点が出土している。第422図1の土師器片は、P 4の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土した遺物の下限の時期などから9世紀中葉以降と考えられる。

**第42号掘立柱建物跡（第421・422図）**

**位置** 調査5区の南西部、G6J2区。

**重複関係** 第43号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝に掘り込まれている。第196～198・206・208号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.45m、梁行は3.60mである。柱間寸法は桁行が1.30～1.70m、梁行が1.70～1.90mである。柱穴は、平面形が長径60～105cm、短径60～80cmの楕円形及び円形、深さが23～50cmである。

桁行方向 N - 81° - W

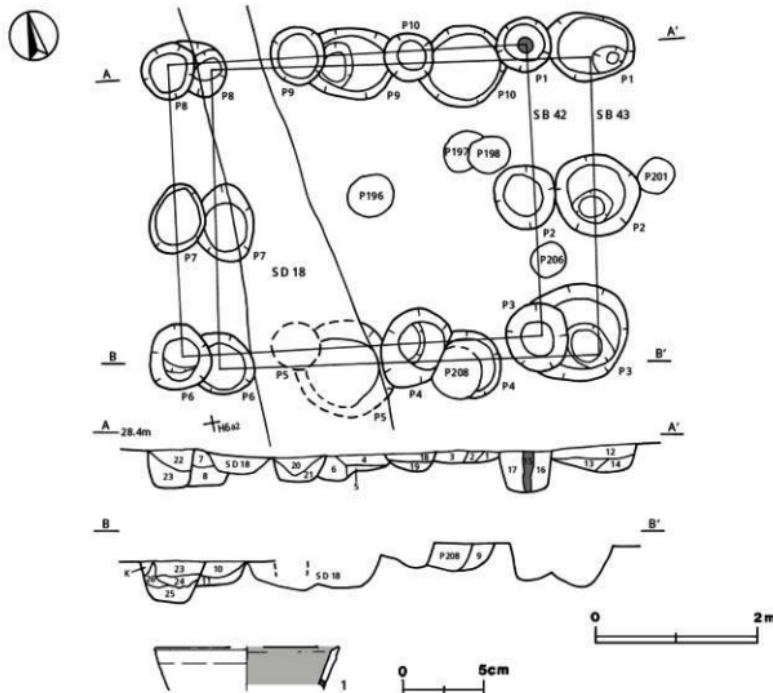
**覆土** 第15層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子、炭化物及び炭化粒子を含む締まりのない極暗褐色土である。第2・3層は締まりのある埋土である。第4～12層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

15	極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量	22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
16	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	23	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
17	褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	24	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物微量
18	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	25	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
19	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量	26	黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
20	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量			
21	褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量			

**遺物** 土師器片2点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

**所見** 時期は、出土遺物が細片であるため明確ではないが、9世紀中葉以降に位置付けられる第43号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、それ以降と考えられる。



第422図 第42・43号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第43号掘立柱建物跡出土遺物観察表

因版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	环 土 器	A [11.3] B (2.7)	口縁部片。口縁部は外側する。	口縁部内面へら削き、外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物、に少し黄褐色。 普通	P235 5%

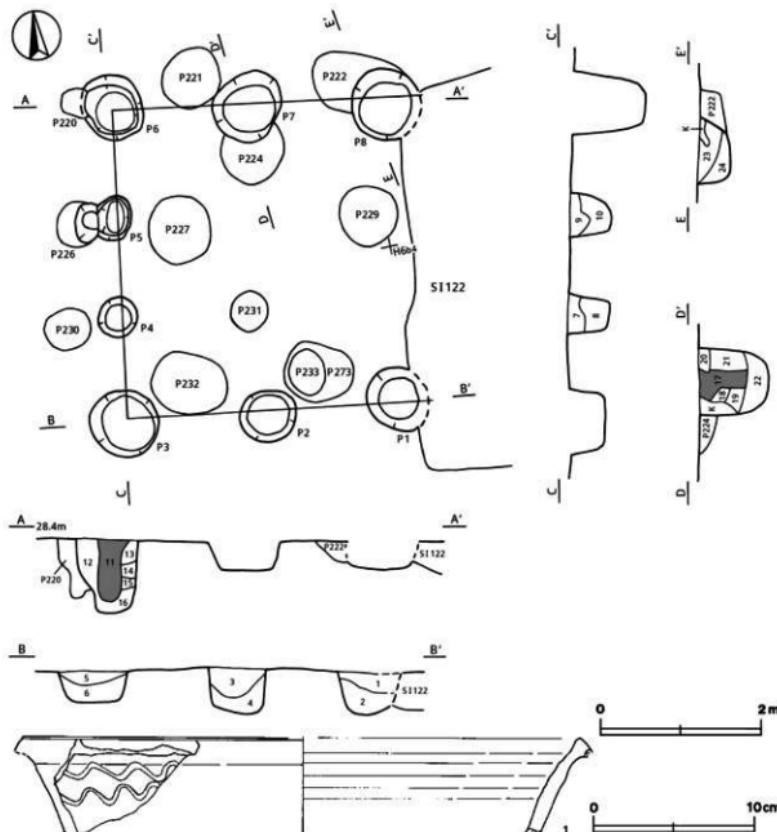
第34号掘立柱建物跡（第421・423図）

位置 調査5区の南西部、H6a3区。

重複関係 第220・222号ピットを掘り込んでいる。第122号住居跡及び第221・224・226・227・229～233・273号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 東側は第122号住居跡と重複しており、住居跡の確認面において本跡の柱穴を検出することができなかっただため、本跡の正確な規模は不明である。西側柱列で3間、北及び南側柱列では2間が検出されており、北及び南側柱列が2間以上の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は西側柱列が1.30～1.25m、北及び南側柱列が1.70～1.80mである。柱穴は、平面形が長径55～90cm、短径43～88cmの梢円形及び円形、深さが38～87cmである。

桁行方向 N - 82° - W



第423図 第34号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第11・17層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない褐色土である。第12~16層及び第18~22層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |      |                                      |       |                                      |
|------|--------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック、ローム粒子微量          | 9 褐色  | ローム小ブロック、ローム粒子少量、ローム大ブロック、粘土粒子微量     |
| 2 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック、ローム粒子少量          | 10 褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量                   |
| 3 褐色 | ローム中ブロック、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量          | 11 褐色 | ローム中ブロック、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック、ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック、ローム中ブロック、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 12 褐色 | ローム大ブロック、ローム中ブロック、ローム小ブロック、ローム粒子少量   |
| 5 褐色 | ローム小ブロック、ローム粒子少量                     | 13 褐色 | ローム大ブロック、ローム小ブロック、ローム粒子少量            |
| 6 褐色 | ローム小ブロック少量                           | 14 褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック、ローム粒子微量          |
| 7 褐色 | ローム中ブロック、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量          |       |                                      |
| 8 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量                   |       |                                      |

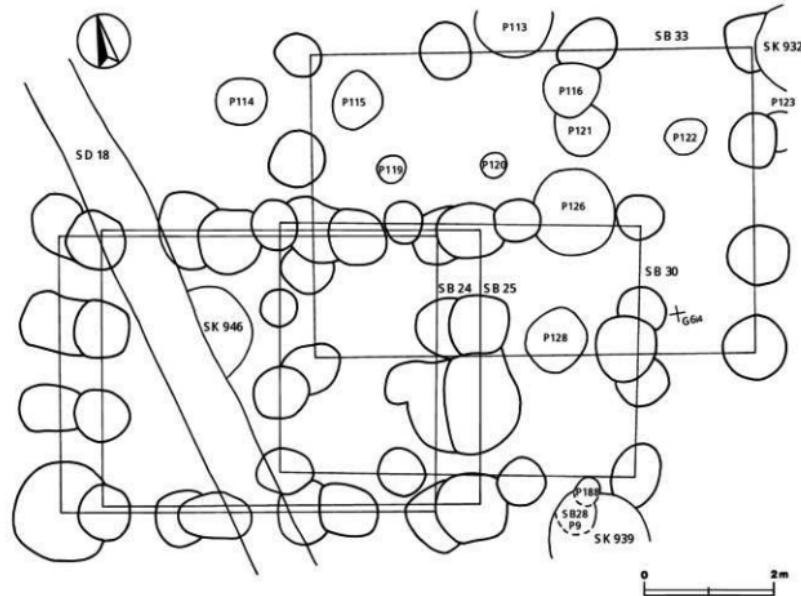
15	褐	色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロ ック・ローム粒子微量	20	褐	色	ローム粒子微量
16	褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子 少量	21	褐	色	ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
17	褐	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	22	褐	色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少 量、ローム大ブロック微量
18	褐	色	ローム粒子少量	23	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
19	褐	色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	24	褐	色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 須恵器5点が出土している。第423図1の須恵器壺口縁部片は、P2の覆土中から出土している。細片であり図示できなかったが、P8から井ヶ谷78号窯式と考えられる灰釉陶器片が出土している。

所見 出土した図示し得る下限の遺物の時期は、8世紀末～9世紀初頭と考えられる。9世紀後葉に位置づけられる第122号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明であり、時期は、8世紀末～9世紀初頭以降と考えられる。

第34号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	須 恵 器	A [34.4] B (60)	口縁部片。口縁部は外反する。端 部下端が突出する。	口縁部内・外面クロナデ。外面 櫛齒状工具による波状文施文。	長石・石英 灰色 普通	P2532 5%

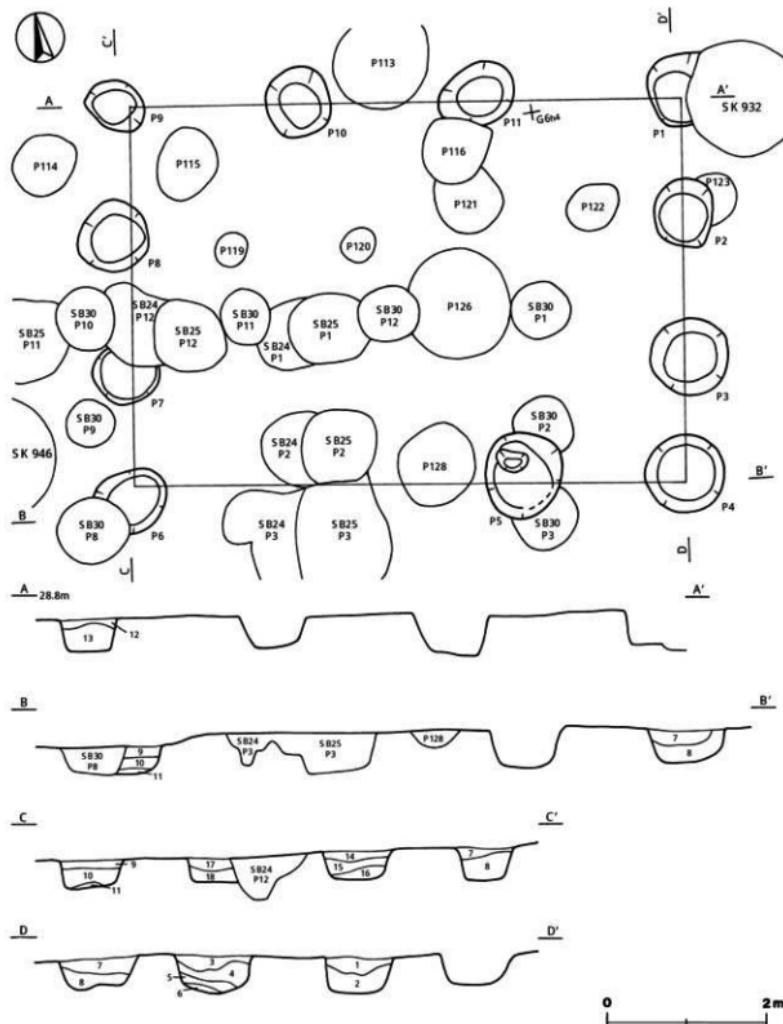


第424図 第24・25・30・33号掘立柱建物跡実測図

第33号掘立柱建物跡（第424・425図）

位置 調査5区の南西部、G6h3区。

**重複関係** 第24号掘立柱建物に掘り込まれている。また、土層の切り合ひ関係から、第25・30号掘立柱建物跡よりも本跡が古い。第113～115・116・119～123・126・128号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第425図 第33号掘立柱建物跡実測図

**規模** 第24号掘立柱建物のP 2 と同位置に、本跡の柱穴があった可能性が配列から考えられる。検出された

柱穴のいずれもが第24号掘立柱建物跡の柱穴の深さより浅いため、想定される本跡の柱穴は第24号掘立柱建物跡のP2に掘り込まれたものと判断した。桁行は北側柱列で3間、南側柱列で2間、梁行は3間であるが、南側柱列に柱穴を想定し、3間×3間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は6.80m、梁行は4.70mである。柱間寸法は桁行が北柱列で2.10~2.50m、南側柱列で東から3.10m及び3.70m、梁行が1.40~1.80mである。柱穴は、平面形が長辺76~104cm、短辺63~98cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが32~52cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	10	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	11	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	12	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	13	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
6	褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量	15	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	17	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器皿3点、須恵器片3点が出土している。細片のため図示できないが内面黒色処理された土師器皿がP9から出土している。

所見 時期は、出土した下限の遺物の時期などから9世紀後葉以降と考えられる。

#### 第25号掘立柱建物（第424・426・427図）

位置 調査5区の南西部、G6h2区。

重複関係 第24・33号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝及び第30号掘立柱建物に掘り込まれている。第946号土坑及び第119・120・126・128号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.85m、梁行は4.25mである。柱間寸法は桁行が1.85~2.00m、梁行が1.30~1.50mである。柱穴は、平面形が長辺83~115cm、短辺70~118cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが58~72cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 第6・36層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない暗褐色である。第4・5・7層及び第31~35層は締まりのある埋土である。第14層は締まりのある、第1~5・7~13・15~30・36~45層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量	5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	6	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量
3	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
4	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

9	暗褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	28	黒褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
10	極暗褐色	ローム粒子少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	29	暗褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
11	黒褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微量	30	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック・炭化粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロック微量	31	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
13	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	32	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量	33	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
15	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	34	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量。ローム小ブロック・ローム粒子少量
16	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。ローム中ブロック・炭化物微量	35	黒褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
17	極暗褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微量	36	黒褐色	炭化物・炭化粒子少量。ローム小ブロック・ローム粒子微量
18	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	37	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロック・炭化粒子微量
19	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	38	黒褐色	ローム粒子少量
20	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	39	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
21	暗褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	40	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック微量
22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック・炭化粒子微量	41	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量。燒土粒子微量
23	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量	42	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量
24	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	43	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
25	黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量。ローム中ブロック微量	44	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量
26	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック・炭化粒子微量	45	褐色	ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム中ブロック少量
27	黒褐色	ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量			

**遺物** 第24号掘立柱建物跡と合わせて、土師器片12点、須恵器片17点が出土している。第427図1の土師器高台付は、本跡・第24号掘立柱建物跡P4の覆土中から、2の須恵器は、本跡・第24号掘立柱建物跡P9の覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 図示する遺物が本跡と第24号掘立柱建物跡のどちらのものであるか判断はできないが、出土した下限の時期の遺物は9世紀中葉以降のものと考えられる。しかし、本跡より古い第33号掘立柱建物跡が、その下限の時期の遺物から9世紀後葉と考えられるため、本跡の時期はそれ以降と考えらる。また、本跡と第24号掘立柱建物跡は、建て替えの可能性が考えられるため、本跡及び第24号掘立柱建物跡の時期は9世紀後葉以降を中心には想定される。

#### 第24号掘立柱建物跡（第424・426・427図）

**位置** 調査5区の南西部、G6h2区。

**重複関係** 第33号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝及び第25・30号掘立柱建物に掘り込まれている。第946号土坑及び第119・120・126・128号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.85m、梁行は4.25mである。柱間寸法は桁行が1.85~2.00m、梁行が1.30~1.50mである。柱穴は、平面形が長径90~140cm、短径74~95cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが55~82cmである。

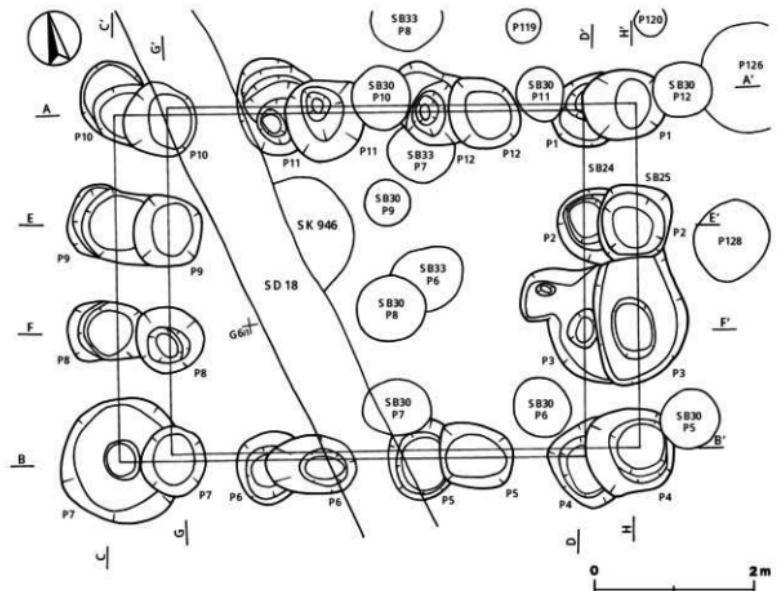
**桁行方向** N-80°-W

**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・極暗褐色・黒褐色土である。

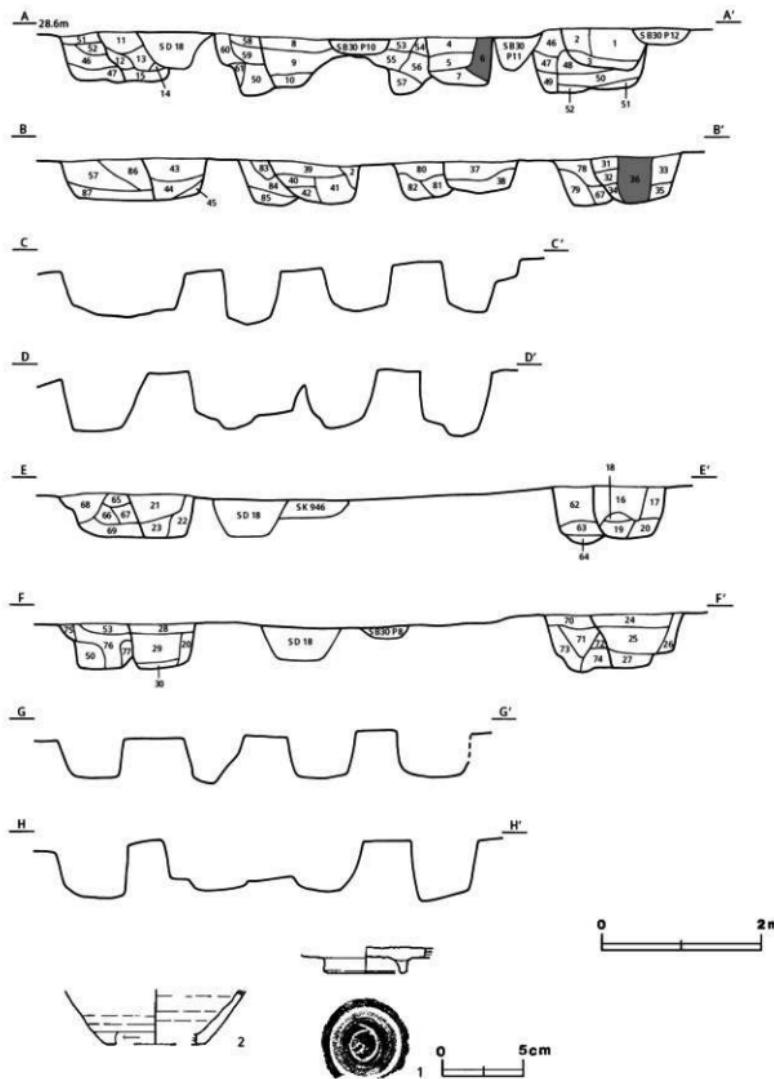
#### 土層解説

46	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。ローム中ブロック微量	49	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
47	暗褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量	50	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
48	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム大ブロック・ローム中ブロック少量			

51	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
52	黒 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
53	黒 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
54	黒 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
55	黒 色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
56	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
57	黒 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
58	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
59	暗 褐 色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
60	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
61	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
62	黒 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
63	暗 褐 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
64	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
65	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
66	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
67	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
68	暗 褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
69	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
70	黑 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
71	黑 褐 色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
72	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
73	黑 褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
74	暗 褐 色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
75	褐 色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
76	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
77	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
78	極暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量、ローム大ブロック微量
79	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
80	暗 褐 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量
81	暗 褐 色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
82	黑 褐 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
83	暗 褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
84	暗 褐 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
85	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
86	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
87	黑 褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量



第426図 第24・25号掘立柱建物跡実測図



第427図 第24・25号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 すべての柱穴が第25号掘立柱建物跡の柱穴とそれぞれと重複しており、遺物は、本跡と第25号掘立柱建物跡と区別できなかった。よって第25号掘立柱建物跡と合わせて、土師器片12点、須恵器片17点が出土している。

**所見** 本跡と第25号掘立柱建物跡の遺物を分けられなかったため、その帰属は不明である。本跡と第25号掘立柱建物跡は、ほぼ同じ場所にあり、規模や桁行方向が同じことから、建て替えの可能性が考えられる。時期は、本跡より古い第33号掘立柱建物跡が9世紀後葉に位置づけられるため、それ以降と考えられる。

第24号・第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第427図 1	高台付環 土師器	B (1.6)	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ垂下する。	底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・白色粒子、にぶい褐色、普通	P2523 20
		D 5.0				
		E 0.9				
2	環 須恵器	B (3.3)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロノナデ。底部調整不明。	長石・雲母・黄褐色、普通	P2524 10%
		C [6.2]				

第30号掘立柱建物跡（第424・428図）

**位置** 調査5区の南西部、G613区。

**重複関係** 第24・25号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝に掘りこまれている。第939号土坑及び第126・128・188号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.55m、梁行は3.90mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m、梁行が1.30mである。柱穴は、平面形が長径72～100cm、短径62～82cmの楕円形及び円形、深さが16～48cmである。

**桁行方向** N-80°-W

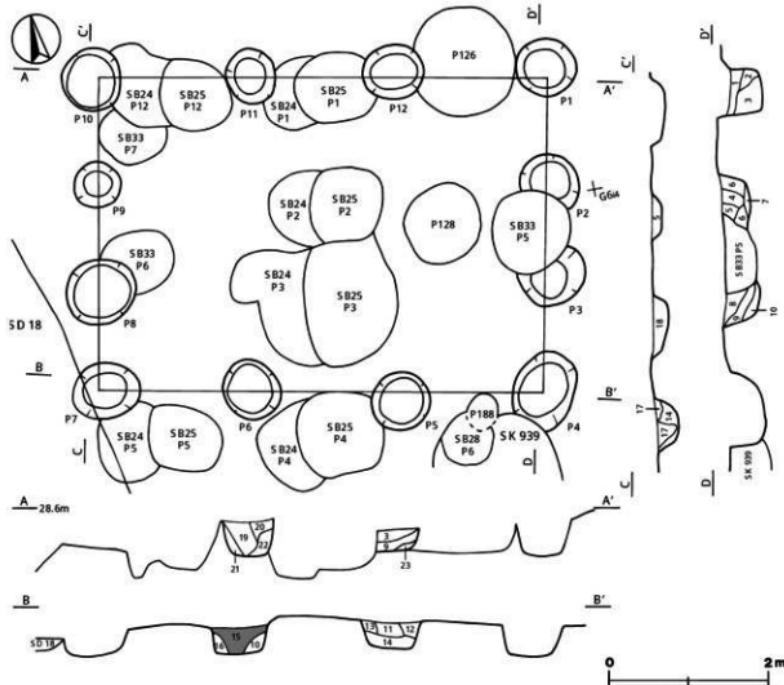
**覆土** 第15層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む縮まりのない暗褐色土である。第10・16層は縮まりのある埋土である。第5・14層は縮まりのある、第1～4・6～13・17～23層は中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量	12	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロッ ク微量
3	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	14	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	15	暗褐色	炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子微量	16	褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
6	暗褐色	ローム小・黒色土ブロック微量	17	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・純土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	19	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
9	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	20	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	21	褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
11	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・燒 土粒子微量	22	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
			23	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・ローム小ブロック少量

**遺物** 土師器8点、須恵器1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

**所見** 本跡及び第24・25・33号掘立柱建物跡は、近接して検出され、いずれも桁行3間、梁行3間で、同じ桁行方向を示す東西棟の側柱建物であることから、これら4棟は、比較的近い時期に建て替えが行われた可能性が考えられる。本跡の時期は、出土遺物が細片であり不明であるが、第24・25・33号掘立柱建物跡が9世紀後葉以降に位置づけられることから、それ以後の近い時期を想定することが可能と思われる。



第428図 第30号掘立柱建物跡実測図

第47号掘立柱建物跡（第429図）

位置 調査3区南西部, G217区。

重複関係 第291～294号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 衍行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。衍行が7.00m、梁行が3.70mである。柱間寸法は衍行が2.20～2.50m、梁行が1.60～2.10mである。柱穴掘り方は、平面形が長径76～69cm、短径47～54cmの椭円形及び円形、深さが20～65cmである。

衍行方向 N-5°-E

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土ブロック・焼土粒子を含む締まりのない褐色・暗褐色・黒褐色土あり、柱抜き取り後の覆土である。

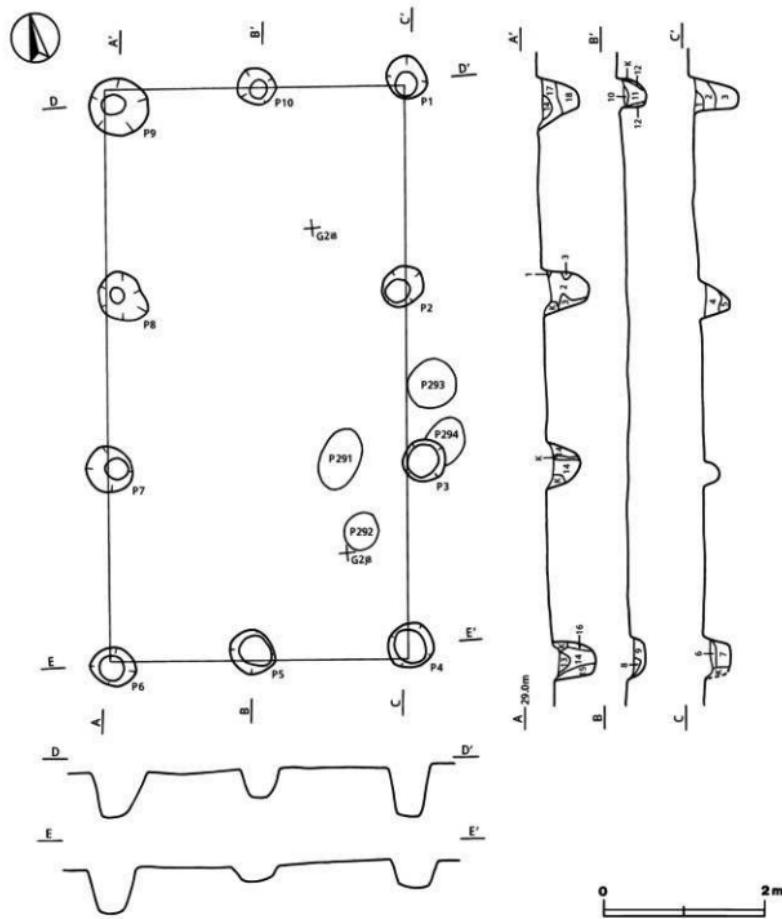
#### 土層解説

- |        |                                     |         |                                  |
|--------|-------------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1. 褐褐色 | ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量            | 6. 褐褐色  | ローム大ブロック、ローム粒子少量、ローム中ブロック、炭化粒子微量 |
| 2. 褐褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック、炭化物少量     | 7. 黒色   | 焼土小ブロック微量                        |
| 3. 褐褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック、ローム小ブロック微量 | 8. 褐褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量            |
| 4. 褐褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量         | 9. 褐褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック目炭化粒子微量          |
| 5. 褐褐色 | ローム小ブロック少量                          | 10. 黑褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |

- 11 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・  
炭化粒子微量  
 12 褐色 ローム中ブロック少量、炭化物微量  
 13 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子  
微量  
 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子  
微量  
 15 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量  
 16 褐色 ローム小ブロック少量  
 17 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、  
焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量  
 18 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロッ  
ク・炭化粒子微量

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡の詳細な時期は、遺物が出土していないため不明である。



第429図 第47号掘立柱建物跡実測図

第46号掘立柱建物跡（第430図）

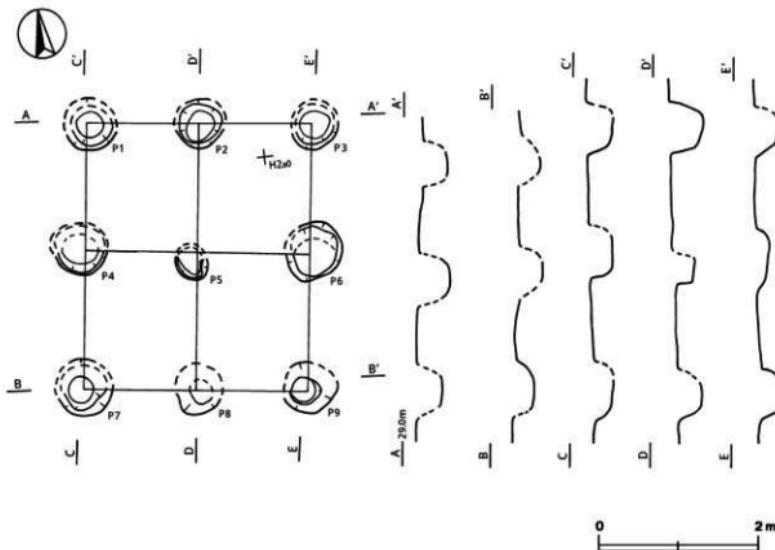
位置 調査3区部, H2a9区。

規模 衍行2間, 梁行2間で南北棟の総柱建物跡である。衍行が3.30m, 梁行が2.80mである。柱間寸法は衍行が南及び北柱列で北から, 1.60m・1.80m, 梁行が東及び西柱列で東から, 1.30m・1.50mである。柱穴掘り方は, 平面形が長径47~72cm, 短径39~60cmの椭円形及び円形, 深さが16~40cmである。

衍行方向 N-8°-E

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は, 遺物が出土していないため不明である。



第430図 第46号掘立柱建物跡実測図

第48号掘立柱建物跡（第431図）

位置 調査3区南西部, H2a8区。

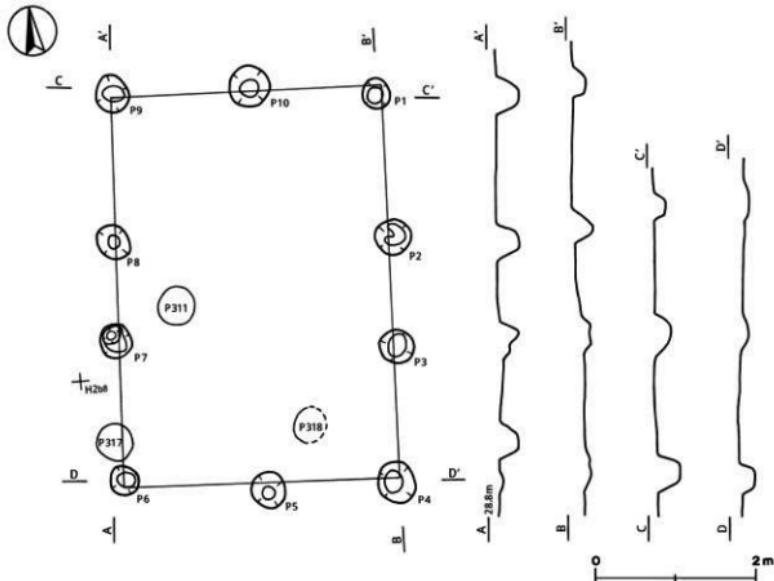
重複関係 第311・317・318号ピットと重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 衍行3間, 梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。衍行が4.80m, 梁行が3.40mである。柱間寸法は衍行が1.20~1.80m, 梁行が1.60~1.80mである。柱穴掘り方は, 平面形が長径52~55cm, 短径35~39cmの椭円形及び円形, 深さが7~30cmである。

衍行方向 N-3°-E

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は, 遺物が出土していないため不明である。



第431図 第48号掘立柱建物跡実測図

第49号掘立柱建物跡（第432図）

位置 調査4区北西部, F3j7区。

重複関係 第790・791・795号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 衍行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。衍行が6.25m、梁行が4.60mである。柱間寸法は衍行が2.05~2.20m、梁行が1.50~1.60mである。柱穴掘り方は、平面形が長径62~102cm、短径48~70cmの梢円形及び円形、深さが36~73cmである。

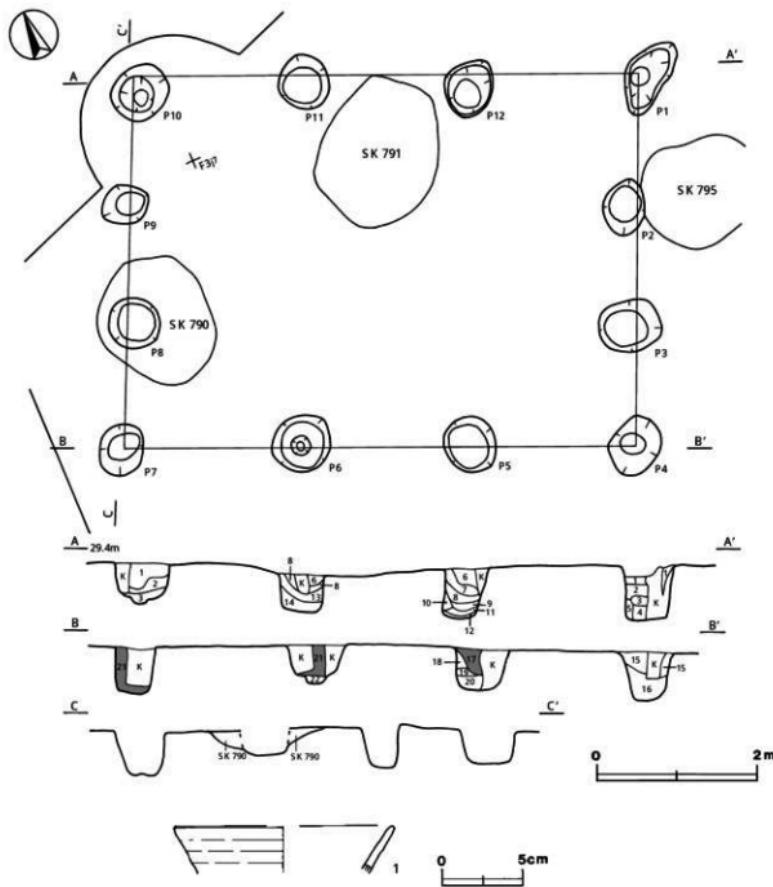
衍行方向 N - 67° - W

覆土 第17・21層は柱痕跡に相当する。第18~20・22層は縦まりのある埋土である。また、擾乱のため柱痕跡は確認されなかったが、第7~14層は埋土と考えられ、ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子及び粘土ブロックを含む、縦まりのある暗褐色・黒褐色土の互層をなしている。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量、粘土小ブロック微量
2	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック・燒土小ブロック・燒土粒子微量	7	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・燒土小ブロック微量	9	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、粘土小ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量	10	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量

- 11 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量  
 12 赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量  
 13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量、粘土小ブロック微量  
 14 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子、粘土小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土中ブロック少量、他土粒子・炭化粒子微量  
 16 赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 17 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量、他土粒子・炭化粒子微量  
 18 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量  
 19 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量  
 20 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック微量  
 21 黑褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量  
 22 黑褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量



第432図 第49号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 繩文土器片 2 点、土師器 13 点、須恵器片 6 点が出土している。第432図 1 は須恵器の坏でピットの覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代（9世紀）と考えられる。

第49号掘立柱建物跡出土遺物観察表

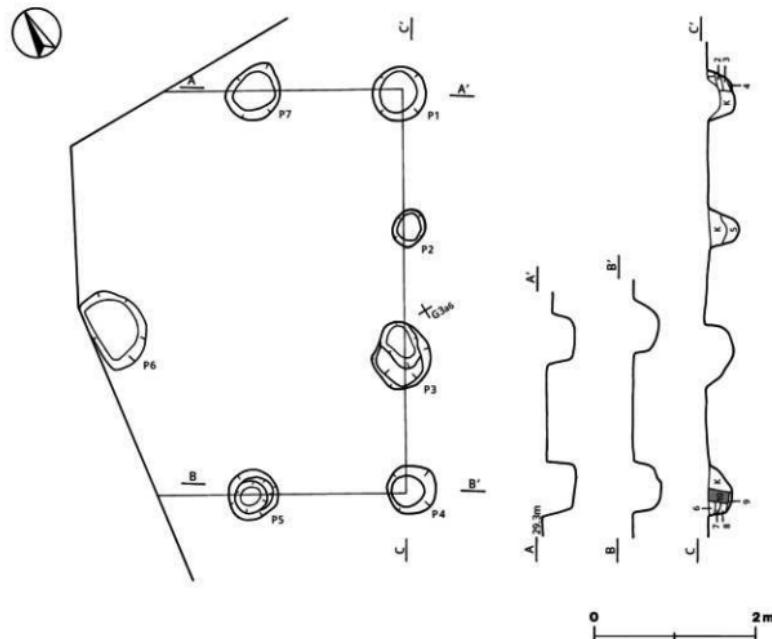
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第432図 1	須恵器	A [13.6] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は直線的 に外側へ立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部及び体内部・外面ロクロナ ギ。	長石 橙色 普通	P2501 5%

第50号掘立柱建物跡（第433図）

位置 調査4区北西部、F3j6区。

規模 本跡の北西部が調査区外になるため正確な規模は不明であるが、南東側柱列が3間（5.00m）、北東側及び南西側柱列が2間以上の側柱建物跡である。柱間寸法は南東側柱列で1.40～1.70m、北東側柱列で1.90m、南東側柱列で1.80mである。柱穴は、平面形が長径47～73cm、短径40～65cmの楕円形及び円形、深さが29～37cmである。

桁行方向 N - 59° - W



第433図 第50号掘立柱建物跡実測図

**覆土** 第10層は柱痕跡に相当する。第6～9層は縛まりのある埋土である。また、P1では搅乱のため柱痕・柱抜き取り痕は確認されなかったが、第1～4層が埋土と考えられ、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を含む、縛まりのある暗褐色土の互層をなしている。

**土層解説**

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量	8 結褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	9 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・燒土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少		
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量		

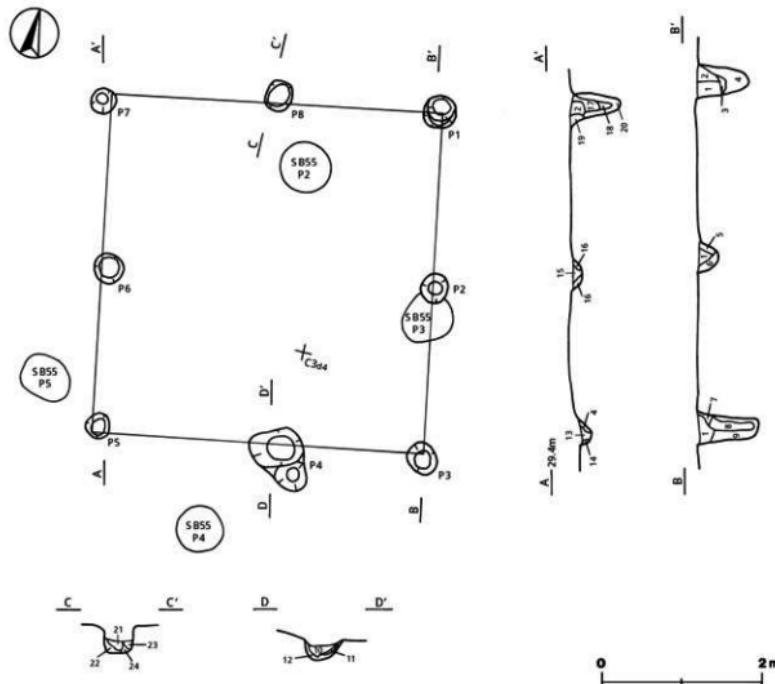
**遺物** 繩文土器片2点、土器片10点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明である。

**第53号掘立柱建物跡（第434・435図）**

**位置** 調査2区の北部、C3c3区。

**重複関係** 第55号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第434図 第53号掘立柱建物跡実測図

**規模** 桁行2間、梁行2間であり、南北棟の側柱建物跡である。桁行は4.19m、梁行は4.13mである。柱間寸法は、桁行が2.03~2.15m、梁行が、2.03~2.10mである。柱穴は、平面形が長径31~78cm、短径28~50cmの楕円形及び円形、深さは10~76cmである。

**桁行方向** N-11°-W

**覆土** 第1~11、13~21、23~24層は不規則な堆積状況を示し、中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

第12~22層は縮まりのある埋土である。

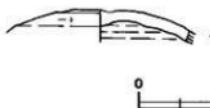
#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 茶褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
2 茶褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	14 茶褐色	ローム大ブロック・ローム粒子微量
3 茶褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子微量	15 茶褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 茶褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 茶褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
5 茶褐色	ローム粒子少量	17 茶褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 茶褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 茶褐色	ローム粒子微量
7 茶褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	19 茶褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
8 茶褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	20 茶褐色	ローム粒子少量
9 茶褐色	ローム粒子中量	21 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10 黑褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	22 極端褐色	ローム小ブロック少量
11 黑褐色	ローム粒子少量	23 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
12 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	24 茶褐色	ローム粒子中量

**遺物** 須恵器1点が出土している。第435図1の須恵器蓋

はP7の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀代と考えられる。



第435図 第53号掘立柱建物跡出土遺物実測図

#### 第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	須恵器	B (19)	天井部片。天井部は伏せ皿状。	天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・針状結晶 灰白色 普通	P7161 15%

#### 第54号掘立柱建物跡(第436・437図)

**位置** 調査2区の北部、C3i3区。

**重複関係** 第158号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行2間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は、3.70m、梁行は、3.65mである。柱間寸法は桁行が1.73~1.97m、梁行が1.76~1.86mである。柱穴は、平面形が長径28~54cm、短径12~32cmの楕円形及び円形、深さが18~54cmである。

**桁行方向** N-79°-W

**覆土** 第1~6・9~11層は柱抜き取り後の覆土である。第2~5、7~8層は縮まりのある埋土である。

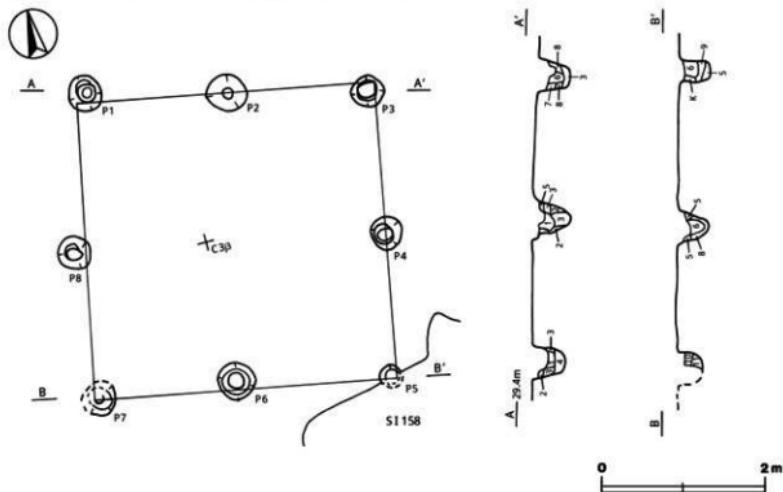
#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量
2 茶褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	8 黒褐色	ローム粒子少量
3 黑褐色	ローム粒子少量	9 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
4 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	10 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 黑褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	11 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6 黑褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量		

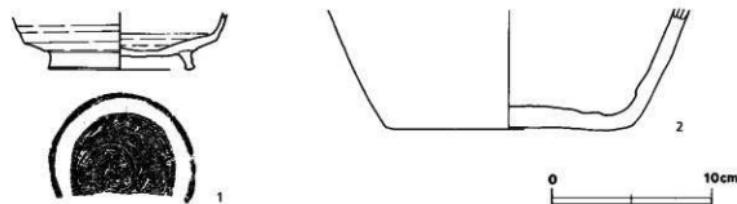
**遺物** 須恵器2点が出土している。第437図1の須恵器盤はP2、2の須恵器甕はP4のそれぞれ覆土中か

ら出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第436図 第54号掘立柱建物跡実測図



第437図 第54号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第54号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	高台付壺 須恵器	B (3.4) D 8.9 E 1.1	高台から体部にかけての破片。 高台はふんばる。体部は下位に接 を有し、外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転ヘラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・石英 灰オリーブ色 普通	P7162 40% PL67
2	裏 須 恵 器	B (7.3) C 15.2	底盤から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端横位のヘラ削り、内面力 度。底部調整不明。	礫・長石・石英・雲 母 灰色、普通	P7163 10%

第56号掘立柱建物跡（第438・439図）

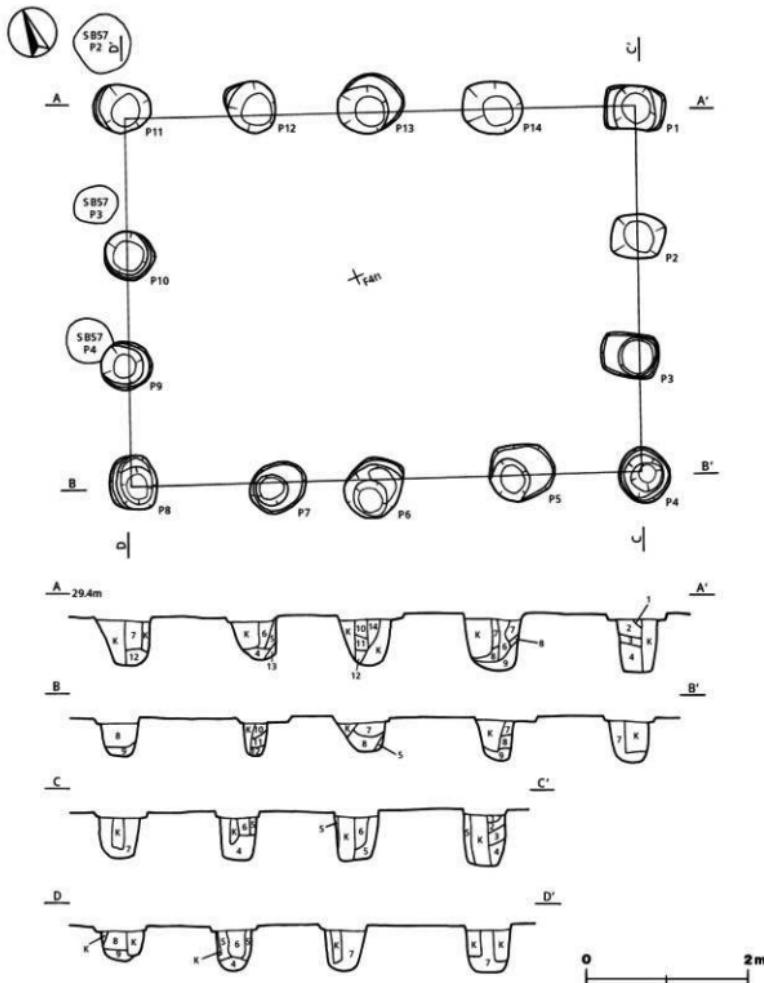
位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F3e0区。

重複関係 第57号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行4間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行6.33m、梁行4.50mである。桁行は、P

6・P 7 間が1.40m、P 12・P 13間が1.43mとやや狭く、また、梁行においてP 10・P 11間が1.78mとやや広くなっている。それ以外の柱間寸法は、桁行が1.60～1.82m、梁行が1.36～1.57mである。柱穴は、平面形が長径62～84cm、短径52～80cmの楕円形及び円形、深さが50～70cmである。

桁行方向 N-68°-W



第438図 第56号掘立柱建物跡実測図

覆土 P 8 の 8・9 層は、レンズ状の堆積状況を示し、しまりがない柱抜き取り後の覆土である。他の柱穴においては、擾乱のため堆積状況の全容は不明であるが、第 1～3、14 層は中程度のしまりがある、第 4～8、

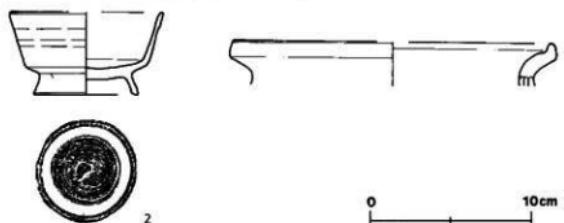
10~13層はしまりがない柱抜き取り後の覆土と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック少量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
2 賄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・粘土小ブロック少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
4 賄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量	11 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量	13 暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土粒子少量	14 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土大ブロック微量

遺物 土師器1点、須恵器1点が出土している。第439図1の土師器甕はP11、2の須恵器高台付杯はP13のそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉考えらとれる。



第439図 第56号掘立柱建物跡出土遺物実測図

#### 第56号掘立柱建物跡出土遺物観察表

団体番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1 土 師 器	A B	[19.7] (2.6)	口縁部片。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色・普通	P7164 5%
2 高 台 付 杯 須 惠 器	A B C D E	[9.4] 5.0 6.4 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は下位に棱を有し、外側で立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・針状結晶 褐色・普通	P7165 45% PL67

#### 第57号掘立柱建物跡 (第440図)

位置 調査2区、台地の南部縁辺部、F3d0区。

重複関係 第56・60号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡と考えられる。桁行5.62m、梁行3.60mである。柱間寸法は桁行が1.74~1.95m、梁行が1.65~1.95mである。柱穴は、平面形が長径25~72cm、短径25~66cmの橢円形及び円形、深さが7~37cmである。

桁行方向 N-27° - E

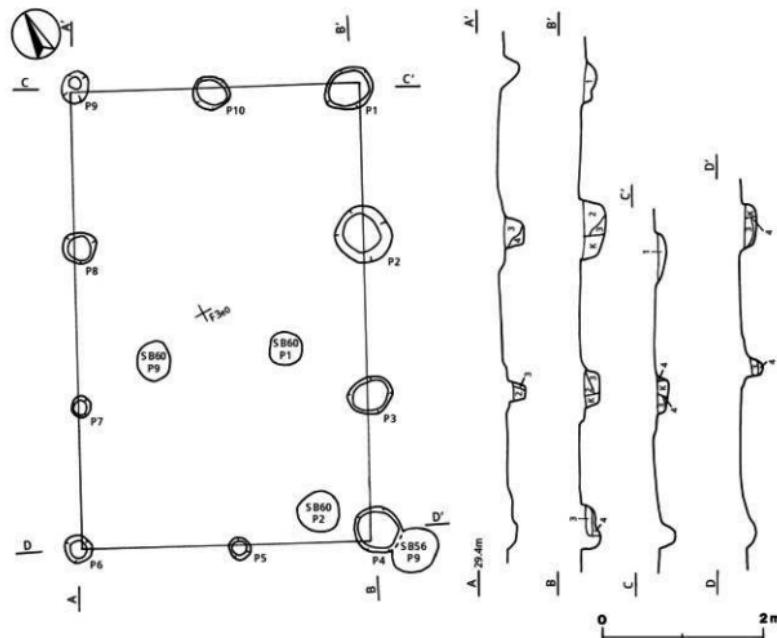
覆土 すべてレンズ状及び不規則な堆積状況を示し、しまりのない柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

- |                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 始褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量             | 3. 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 2. 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4. 始褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量     |

**遺物** 土師器片1点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明であるが、土師器片及び須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第440図 第57号掘立柱建物跡実測図

**第58号掘立柱建物跡（第441図）**

**位置** 調査2区、台地南部の縁辺部、F3f7区。

**重複関係** 第24号溝と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行は南側柱列で3間、北側柱列で3間、梁行は東側柱列で2間、西側柱列で1間であり、東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は5.13m、梁行は4.08mである。柱間寸法は桁行が2.03~2.05m、梁行が1.56~1.81mである。柱穴は、平面形が長径28~72cm、短径32~74cmの楕円形、深さが8~34cmである。

**桁行方向** N-68° -W

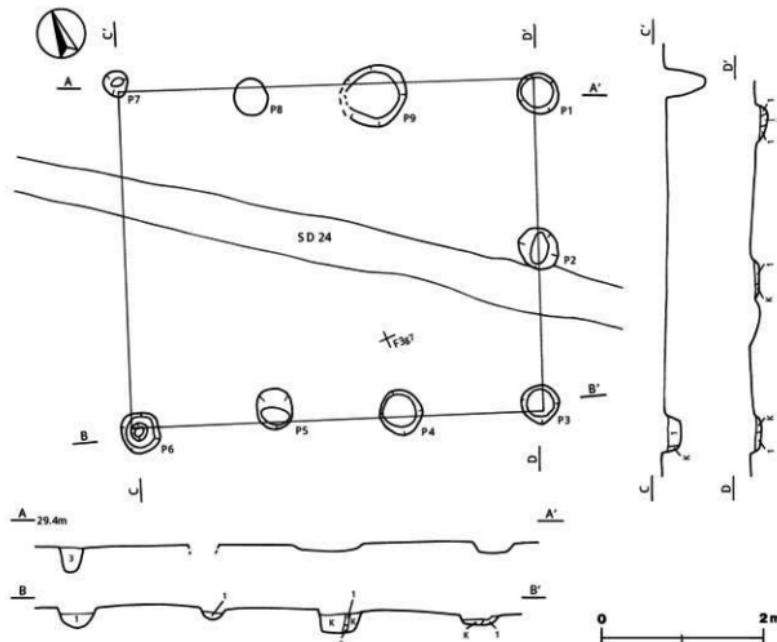
**覆土** すべてしまりのない柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

- |                                    |                                  |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 始褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量          | 3. 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2. 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量 |                                  |

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土しておらず、時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとはほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。



第441図 第58号掘立柱建物跡実測図

#### 第59号掘立柱建物跡（第442図）

**位置** 調査2区、台地南部の縁辺部、F3d7区。

**規模** 桁行3間、梁行2間であり、東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.95m、梁行は3.97mである。桁行はP4・P5間が1.47m、P1・P10間が1.35mとやや狭くなっている。それ以外の柱間寸法は、桁行きが1.68～1.82m、梁行が1.86～2.09mである。柱穴は、平面形が長径37～86cm、短径31～48cmの楕円形及び長楕円形、深さが22～52cmである。

**桁行方向** N-69°-W

**覆土** 第5・16層は締まりのある埋土、第4・9・12・15・17層は中程度にしまり、第1～3、6～8、10・11、13・14層はしまりのない不規則な堆積状況を示していることから柱抜き取り後の覆土である。

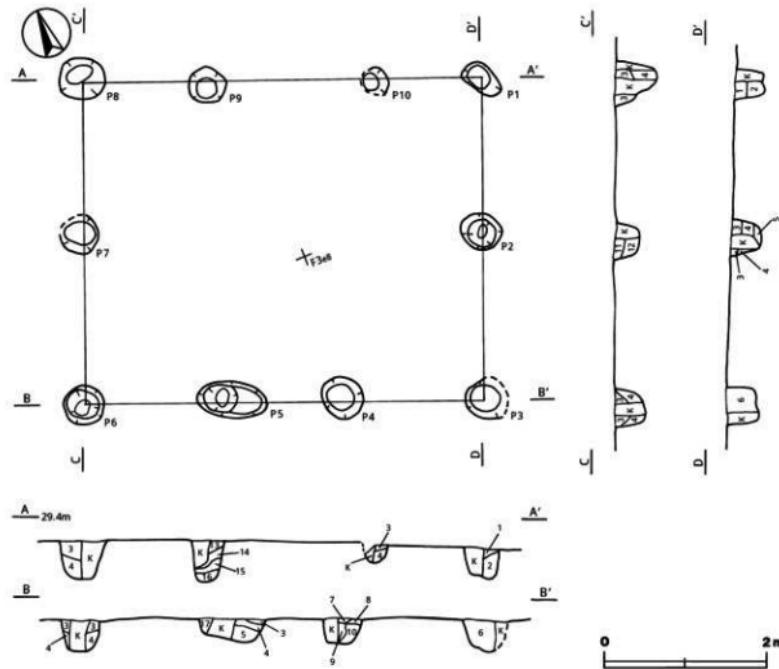
#### 土層解説

- |  |   |
|--|---|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少<br>ク、粘土小ブロック、粘土粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロッ<br>ク微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック、ローム粒子、粘土粒子中量、粘土小ブ<br>ロック少量、ローム中ブロック微量   | 4 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量                |

5 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量
7 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10 黒褐色	粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土中ブロック微量
11 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
12 紺褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, ローム中ブロック微量
13 紺褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
14 紺褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, ローム大ブロック微量
16 紺褐色	ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
17 紺褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。



第442図 第59号掘立柱建物跡実測図

#### 第60号掘立柱建物跡（第443図）

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F3e9区。

重複関係 第57号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 南側柱列で南西コーナーの柱穴1か所、北側柱列の柱穴1か所が確認されなかったが、配列から、桁行3間、梁行2間の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は5.12m、梁行は4.11m、柱間寸法は桁行が1.64

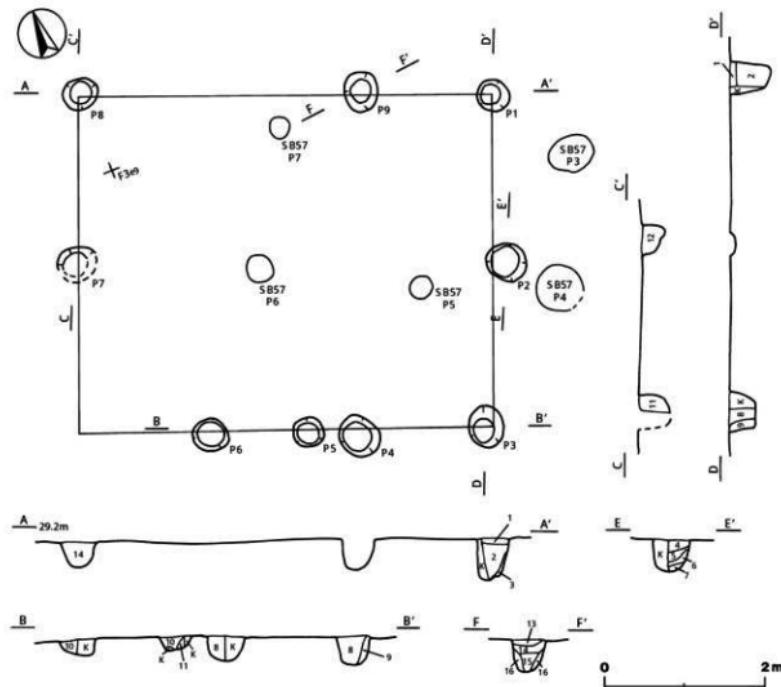
~1.80m, 梁行が2.00~2.11mである。柱穴は、平面形が長径38~55cm, 短径36~46cmの梢円形及び円形、深さが17~50cmである。

桁行方向 N-69° -W

覆土 第7層は締まりのある埋土、第1~6, 8~16層は柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |       |  |        |   |
|-------|--|--------|---|
| 1 姫褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック少量             | 9 姫褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量             |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量    | 10 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量                                |
| 3 姫褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 | 11 姫褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量     |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量          | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘土粒子少量、ローム中ブロック・使土粒子微量 |
| 5 黑褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量   | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物微量                          |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量            | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量                     |
| 7 黑褐色 | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量                  | 15 黑褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量                              |
| 8 黑褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量    | 16 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量                     |



第443図 第60号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立

柱建物跡のそれとほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。

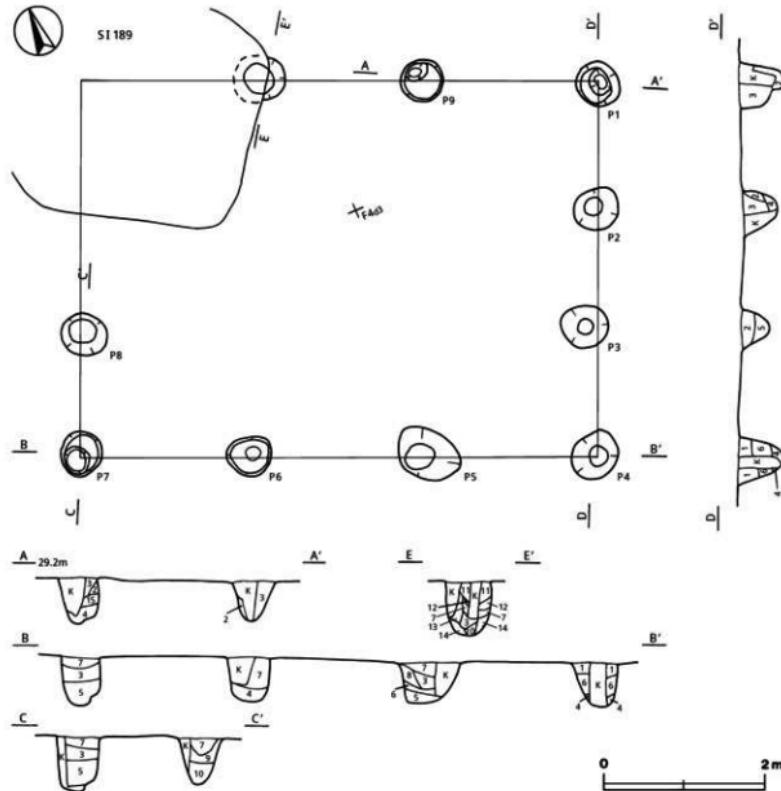
#### 第61号掘立柱建物跡（第444図）

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F4c2区。

重複関係 第189号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北側柱列で北西コーナーの柱穴1か所が確認されなかったが、配列から、桁行3間、梁行3間の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は6.42m、梁行は4.62m、柱間寸法は桁行が2.02~2.19m、梁行が1.50~1.56mである。柱穴は、平面形が長径50~80cm、短径49~60cmの椭円形及び円形、深さが36~68cmである。

桁行方向 N-68°-W



第444図 第61号掘立柱建物跡実測図

覆土 第4・5層は縮まりのある埋土、第1~3、6~15層は柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中プロック・ローム小プロック少  
量 2 黑褐色 ローム小プロック多量、ローム粒子中量、ローム中プロック少

3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘土粒子少量、燒土粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	11 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子少量、燒土小ブロック微量
5 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	13 黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土粒子少量
7 黒褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム中ブロック・燒土小ブロック・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量
8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、粘土小ブロック微量	15 黒褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック微量、粘土中ブロック微量
9 賄褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・粘土粒子少量		

遺物 土師器片5点、須恵器片3点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向がそれらとはほぼ同じであること、土師器片及び須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。

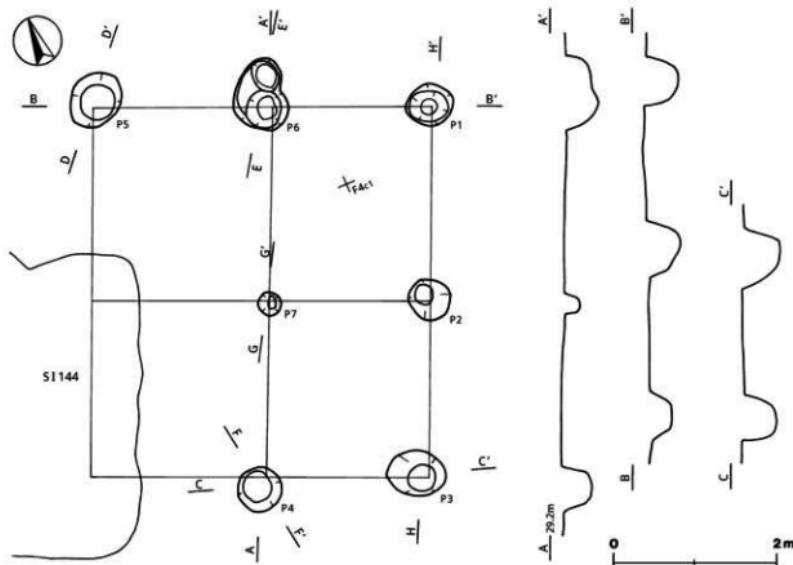
#### 第62号掘立柱建物跡（第445・446図）

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F3c0区。

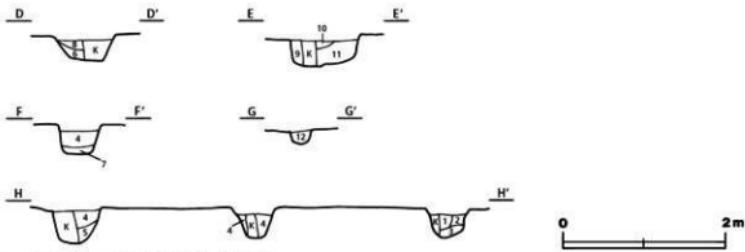
重複関係 第144号住居と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 西側柱列で柱穴2か所が確認されなかつたが、配列から、桁行2間、梁行2間の南北棟で、総柱建物跡と考えられる。桁行は4.57m、梁行は4.17m、柱間寸法は桁行が2.27~2.29m、梁行が2.04~2.12mである。柱穴は、平面形が長径30~85cm、短径27~69cmの不整椭円形、椭円形及び円形で、深さが19~45cmである。

桁行方向 N-23°-E



第445図 第62号掘立柱建物跡実測図(1)



第446図 第62号掘立柱建物跡実測図(2)

**覆土** 第1～7、9～12層は柱抜き取り後の覆土である。第8層は締まりのある埋土である。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量	7	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少 量	9	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロッ ク微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、ローム中 ブロック微量	10	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
5	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロッ ク微量	11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・ 焼土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量	12	黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロッ ク微量

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、梁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。

第63号掘立柱建物跡(第447図)

**位置** 調査2区、台地南部の縁辺部、E39区。

**規模** 梁行4間、梁行3間の東西棟で、側柱建物跡である。桁行は6.48m、梁行は4.74m、柱間寸法は桁行が1.49～1.76cm、梁行が1.51～1.60cmである。柱穴は、平面形が長径41～63cm、短径34～57cmの楕円形及び円形、深さが26～58cmである。

**桁行方向** N-74°-W

**覆土** すべて柱抜き取り後の覆土である。

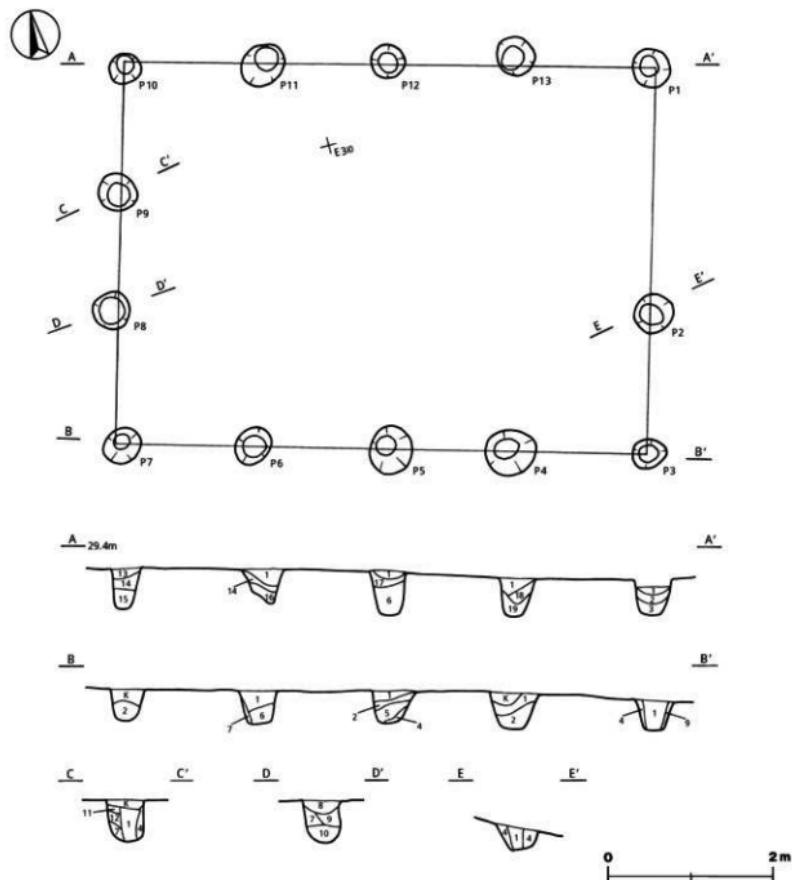
**土層解説**

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘 土粒子少量、焼土小ブロック・粘土中ブロック微量	9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・ 粘土中ブロック・粘土小ブロック少量、粘土大ブロック微 量
2	黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・粘 土中ブロック・粘土粒子少量	10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量、粘土 小ブロック微量	11	黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロッ ク・粘土小ブロック微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少 量、粘土中ブロック微量	12	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロッ ク微量
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少 量、粘土小ブロック微量	13	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘 土粒子微量
6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック少 量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック微 量	14	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少 量、焼土小ブロック微量
7	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロッ ク少量	15	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少 量、ローム大ブロック微量
8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、粘土小 ブロック少量、焼土小ブロック・粘土大ブロック・粘土中ブ ロック微量	16	黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ 粘土小ブロック少量

- 17 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、粘土小ブロック・  
粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量  
18 脊褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック  
ク少量
- 19 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中  
量、ローム大ブロック微量

遺物 須恵器片 1 点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと、また、桁行方向がそれらと近いこと、須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第447図 第63号掘立柱建物跡実測図

第64号掘立柱建物跡（第448～450図）

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F4a3区。

重複関係 第65号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

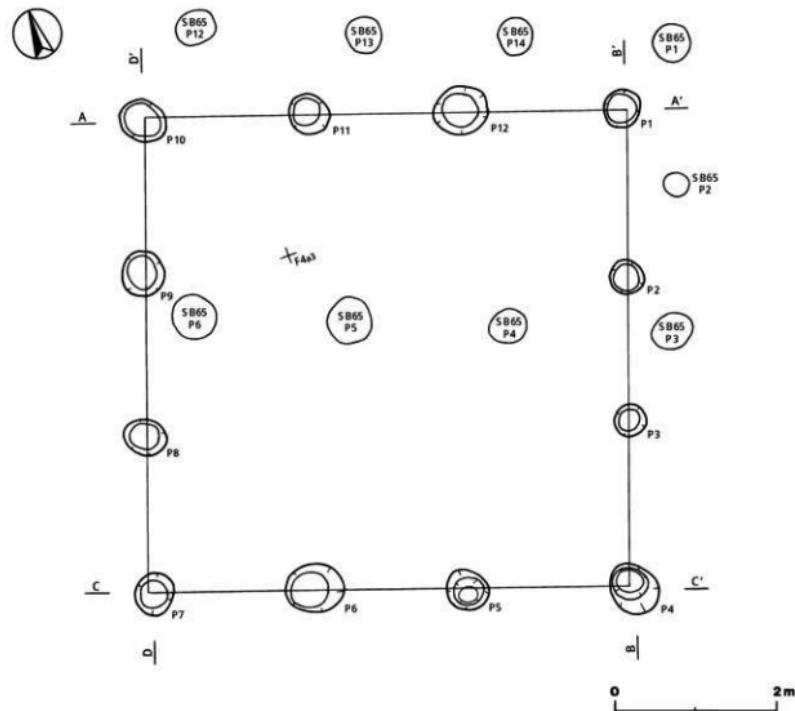
規模 桁行3間、梁行3間の東西棟で、側柱建物跡である。桁行は5.91m、梁行は5.88m、柱間寸法は桁行が1.90～2.03cm、梁行が1.74～2.09cmである。柱穴は、平面形が長径40～70cm、短径38～59cmの椭円形及び円形、深さが9～54cmである。

桁行方向 N-71°-W

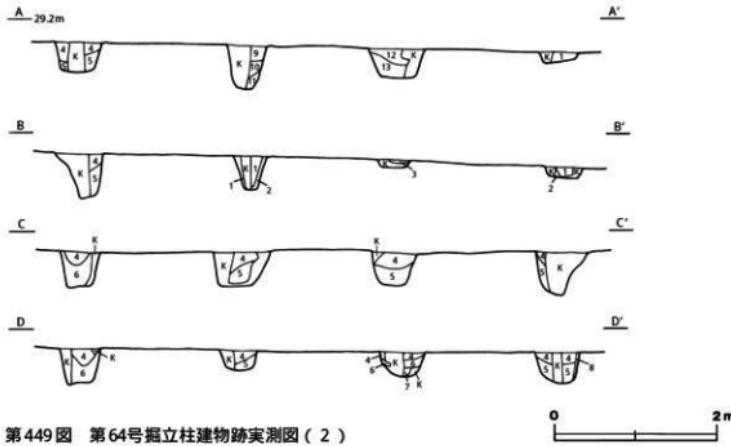
覆土 第1～7、9～13層は柱抜き取り後の覆土である。第8層はしまりのある埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量	9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少	10	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量	11	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微	12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少
6	褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロッ	13	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少
7	黒褐色	ク量、焼土小ブロック微量			量、焼土粒子微量



第448図 第64号掘立柱建物跡実測図(1)



第449図 第64号掘立柱建物跡実測図(2)

遺物 土師器4、須恵器片7点が出土している。第449図1の須恵器はP11の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から、9世紀代と考えられる。



第450図 第64号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第64号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	須恵器	A [14.7] B (32)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体内部・外面クロナデ。	礫・長石 灰オリーブ色 普通	P7166 5%

第65号掘立柱建物跡 (第451図)

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、E4j2区。

重複関係 第64号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行5間、梁行2間の東西棟で、側柱建物跡である。桁行は9.62m、梁行は3.47m、柱間寸法は桁行が1.80~2.02cm、梁行が1.67~1.80cmである。柱穴は、平面形が長径25~50cm、短径25~45cmの楕円形及び円形、深さが14~44cmである。

桁行方向 N-68°-W

覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

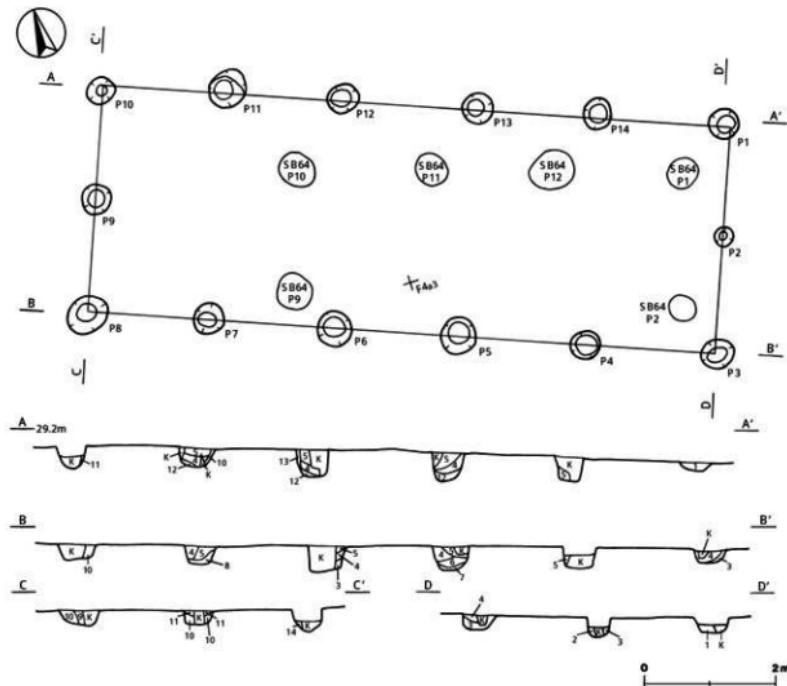
#### 土層解説

- |       |  |        |  |
|-------|--|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少<br>量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色  | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロッ<br>ク、ローム中ブロック微量 |
| 2 無褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量                       | 8 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少<br>量            |
| 3 無褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロッ<br>ク少量      | 9 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量                    |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微<br>量        | 10 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中<br>量、炭化粒子微量     |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック、<br>燒土粒子微量   | 11 無褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量                           |
| 6 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロッ<br>ク微量      | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・<br>ローム中ブロック微量   |

13 黒褐色 ローム小プロック・ローム粒子中量、ローム中プロック少  
14 暗褐色 ローム小プロック・ローム粒子中量、ローム大プロック、  
ローム中プロック微量

**遺物** 須恵器片 1 点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、時期は不明であるが、掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと、また、桁行方向がそれらとほぼ同じであること、須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第451図 第65号掘立柱建物跡実測図

第66号掘立柱建物跡（第452図）

**位置** 調査 2 区、台地南部の縁辺部、F3c6区。

**規模** 西側柱列で柱穴 1 か所が確認できなかつたが、桁行 2 間、梁行 2 間の南北棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は 4.11m、梁行は 3.67m、柱間寸法は桁行が 2.03・2.05cm、梁行が 1.52～1.91cm である。柱穴は、平面形が長径 52～100cm、短径 44～74cm の楕円形及び円形、深さが 15～50cm である。

**桁行方向** N-20°-E

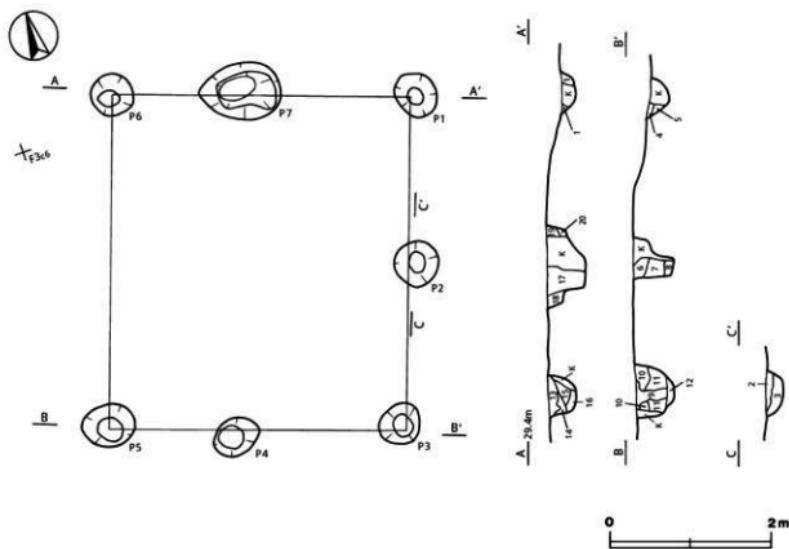
**覆土** 第 1～17、19・20 層は柱抜き取り後の覆土である。第 18 層はしまりのある埋土である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。ローム中ブロック少量	11 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。焼土粒子・炭化物微量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量、ローム中ブロック グ・焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量。焼土粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム小ブロック多量。ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量	15 黒褐色	ローム粒子微量。ローム小ブロック少量。炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。焼土粒子微量	16 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
7 黒褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。焼土粒子・炭化 粒子微量	17 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。焼土粒子・炭化粒子 微量
8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	18 黒褐色	ローム粒子中量。ローム小ブロック少量。焼土粒子微量
9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。焼土粒子・炭化物微量	19 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量。粘土小ブロック少量 ・ローム中ブロック・炭化物微量
10 黒褐色	ローム中ブロック多量。ローム小ブロック・ローム粒子中量	20 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片3点、須恵器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、梁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとはほぼ同じであること、須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第452図 第66号掘立柱建物跡実測図

表3 据立柱建物跡一覧表

遺立柱 建物跡 番号	位 量	朽木方向 (周)	朽木 (m)	構 造	朽木柱間 (m)	梁柱柱間 (m)	柱 穴 (cm)			新旧関係 (旧→新)	発掘番号	
							平 面 形	長径(幅)	短径(高)			
1 H6c5	N- 1°- E	4° 2	7.40× 455	南北樋・側柱・ 二重柱	1.60- 2.20	2.00- 2.50	楕円形・円形	85- 115	75- 104	48- 75	S1116-本跡, S1122 と重複	SB5001
2 G7c2	N- 3°- W	3° 2	4.65× 335	南北樋・側柱	1.30- 1.70	1.50- 1.70	楕円形・円形	60- 70	65- 75	30- 50		SB5002
3 G6e9	N- 11°- E	3° 2	3.75× 310	東西樋・側柱	1.00- 1.95	1.45- 1.60	楕円形・円形	45- 60	40- 50	26- 55	S1126-本跡	SB5003
4 F6h5	N- 21°- E	3° 3	5.20× 450	南北樋・側柱	1.50- 2.00	1.30- 1.90	楕円形・円形	70- 125	65- 100	50- 70	本跡- S1 D17, S86 と重複	SB5004
5 F8j3	N- 14°- W	2° 1	7.25× 285	南北樋・側柱	3.50- 4.00	2.85	楕円形・円形	95- 115	85- 90	25- 36	S1121-本跡, S88 と重複	SB5005
6 F8h5	N- 14°- W	3° 2	6.80× 350	南北樋・側柱	1.80- 2.60	1.50- 2.10	楕円形・円形	35- 100	65- 90	25- 70	本跡- S1 D17, S84 と重複	SB5006
7 G6e5	N- 6°- W	3° 2	5.40× 405	南北樋・側柱	1.40- 2.20	1.80- 2.05	楕円形・円形	80- 132	80- 100	63- 85		SB5007
8 G6e3	N- 11°- W	(2°) 2	(3.00) × 350	- · 側柱	1.60- 1.90	1.40- 1.60	楕円形・円形	75- 95	65- 77	50- 65	S1121-本跡, S85 と重複	SB5008
9 H6e6	N- 81°- W	2° 2	4.10× 285	東西樋・側柱	1.80- 2.15	1.25- 1.60	楕円形・円形	52- 100	52- 80	27- 70	SB27+本跡	SB5009
10 F5f9	N- 8°- E	4° 3	7.65× 405	東西樋・側柱	1.75- 2.25	1.40- 1.65	楕円形・円形, 楕円方形	75- 138	75- 122	41- 64	S132- 135と重複	SB5010
11 H6c3	N- 87°- W	(5° 3)	(7.55) × 560	東西樋・側柱	1.40- 1.80	1.60- 2.20	楕円形・円形	65- 118	53- 105	65- 95	S1116-本跡, S88 と重複	SB5011
12 G5b9	N- 86°- W	3° 2	6.35× 500	東西樋・側柱・ 二重柱	1.90- 2.35	2.40- 2.50	楕円形・円形	85- 125	73- 112	35- 75	S1129-本跡, S884- 36- 37と重複	SB5012
13 G6e6	N- 16°- W	2° 1	5.80× 280	南北樋・側柱	2.70- 3.10	2.80	楕円形・円形	115- 140	100- 120	16- 74		SB5014
14 G5c0	N- 89°- W	-	-	- · 側柱 (一重柱)	2.40	2.20	楕円形・円形	123- 137	112- 130	36- 42	SB12- 36と重複	SB5015
15 G6c3	N- 85°- W	-	-	東西樋・側柱・ (二重柱)	2.00	1.75	円形	70- 80		20- 52	SB16+本跡	SB5016
16 G6c3	N- 80°- W	(2° 2)	-	東西樋・側柱	2.35- 2.30	2.05- 2.00	楕円形・円形	50- 92	48- 65	20- 38	本跡- S815	SB5017
17 G5b7	N- 5°- E	(2° 2)	-	東西樋・側柱	2.25- 2.30	2.15- 1.85	楕円形・円形	94- 112	82- 95	48- 66		SB5018
18 G5c7	N- 86°- W	2° 2	3.95× 390	東西樋・側柱	1.90- 2.05	1.60- 2.30	楕円形・円形	50- 95	40- 80	50- 60	SB41+本跡	SB5019
19 G6d1	N- 85°- W	(5° 2)	(8.85) × 380	東西樋・側柱	1.55- 2.25	1.80- 2.00	楕円形・円形	45- 73	38- 72	10- 48	SB22- 26と重複	SB5020
20 G6e2	N- 84°- W	3° 2	5.45× 440	東西樋・側柱	1.70- 2.00	2.05- 2.35	楕円形・円形, 楕円方形	52- 100	45- 88	21- 57	S1123+本跡	SB5021
21 G5e7	N- 6°- E	3° 2	4.35× 400	南北樋・側柱	1.30- 1.65	1.60- 2.40	楕円形・円形	83- 95	62- 82	10- 47	SB40- 本跡- S81 35と重複	SB5022
22 G6d1	N- 82°- W	(W 4- 2)	(6.95) × 405	東西樋・側柱	1.50- 2.00	2.00- 2.05	楕円形・円形	65- 85	65- 74	25- 54	SB26- 本跡, SB19 と重複	SB5023
23 G5b0	N- 80°- W	3° (2)	6.35× (320)	東西樋・側柱	1.90- 2.05	1.30- 1.40	楕円形・円形	80- 102	75- 100	50- 66	本跡- S1127	SB5024
24 G6b2	N- 80°- W	3° 3	5.85× 425	東西樋・側柱	1.85- 2.00	1.30- 1.50	楕円形・円形, 楕円方形	90- 140	74- 95	55- 82	SB33+本跡- S82- 30と重複	SB5025
25 G6b2	N- 80°- W	3° 3	5.85× 425	東西樋・側柱	1.85- 2.00	1.30- 1.50	楕円形・円形, 楕円方形	83- 115	70- 118	58- 72	SB24- 33+本跡- S 83と重複	SB5026
26 G6d1	N- 75°- W	(2°) 2	(5.20) × 415	東西樋・側柱	1.70- 2.40	2.05- 2.10	楕円形・円形	70- 105	70- 95	20- 43	本跡- S822, SB19 と重複	SB5027
27 H6e5	N- 3°- E	3° 2	6.15× 350	東西樋・側柱	1.80- 2.25	1.70- 1.80	楕円形・円形	66- 84	62- 72	28- 70	S1122+本跡- SB9	SB5028
28 G6j3	N- 79°- W	3° 2	3.60× 445	東西樋・側柱	1.30- 1.60	1.60- 1.70	楕円形・円形	70- 95	55- 75	40- 62	本跡- S843	SB5029
29 G5j9	N- 84°- W	3° 2	5.35× 405	東西樋・側柱・ 二重柱	1.60- 2.10	1.90- 2.15	楕円形・円形	46- 115	38- 95	42- 55	本跡- S829, SB44- 45と重複	SB5030
30 G6d3	N- 89°- W	3° 3	5.55× 390	東西樋・側柱	1.80- 1.90	1.3	楕円形・円形	72- 100	62- 82	16- 48	SB24- 25+本跡	SB5031
31 G5e7	N- 85°- W	3° 2	5.60× 410	東西樋・側柱	1.80- 2.00	1.90- 2.20	楕円形・円形	75- 105	65- 92	41- 80	SB21- 35- 40+本 跡- S89と重複	SB5032
32 G5j9	N- 82°- W	5° 3	8.55× 500	東西樋・側柱	1.45- 1.85	1.60- 1.70	楕円形・円形	50- 115	50- 92	20- 70	SB29- 45- 本跡, S 844Cと重複	SB5033
33 G6h3	N- 80°- W	3° 3	6.80× 470	東西樋・側柱	2.10- 3.10	1.40- 1.80	楕円形・円形, 楕円方形	76- 104	63- 98	32- 52	本跡- S824- 25- 3 と重複	SB5039
34 H6e3	N- 82°- W	(2) 3	(3.40) × 380	東西樋・側柱	1.70- 1.80	1.25- 1.30	楕円形・円形	55- 90	43- 88	38- 87	S1122と重複	SB5040
35 G5e6	N- 88°- W	3° 2	5.30× 380	東西樋・側柱	1.50- 1.90	1.90- 1.95	楕円形・円形	46- 70	40- 48	45- 74	本跡- S831, SB21- 31と重複	SB5042
36 G5c9	N- 85°- W	2° 2	3.95× 330	東西樋・側柱	1.70- 2.25	1.50- 1.80	楕円形・円形	40- 66	35- 60	20- 69	SB12- 14- 37と重 複	SB5043
37 G5c9	N- 1°- E	3° 2	5.55× 410	南北樋・側柱	1.50- 2.10	1.85- 2.20	楕円形・円形	45- 95	45- 60	50- 78	SB12- 14- 36と重 複	SB5044
38 H6c3	N- 80°- W	(2) 1	(5.25) × 360	東西樋・側柱	1.60- 2.00	2.00	楕円形・円形	85- 108	70- 103	58- 65	S111と重複	SB5045
39 G5e6	N- 85°- W	2° 2	3.15× 310	東西樋・側柱	1.55- 1.60	1.55	楕円形・円形	50- 60	45- 52	40- 70	S831+本跡	SB5046
40 G5e8	N- 85°- W	2° 2	3.70× 295	東西樋・側柱	1.85	1.40- 1.50	楕円形	50- 78	45- 52	45- 91	本跡- S821, 31	SB5047
41 G5e6	N- 84°- W	3° 3	5.95× 430	東西樋・側柱	1.90- 2.05	1.40- 1.50	楕円形・円形	54- 84	45- 65	55- 110	本跡- S818	SB5048
42 G6j2	N- 81°- W	3° 2	4.45× 360	東西樋・側柱	1.30- 1.70	1.70- 1.90	楕円形・円形	60- 105	60- 80	23- 50	SB43+本跡	SB5049
43 G6j2	N- 80°- W	3° 2	4.70× 370	東西樋・側柱	1.80- 1.90	1.50- 1.80	楕円形・円形	80- 115	62- 100	16- 45	SB28+本跡- SB42	SB5050
44 G5j9	N- 82°- W	4° 2	7.55× 514	東西樋・側柱	1.75- 2.00	2.60- 2.80	楕円形・円形	40- 100	40- 50	24- 46	SB29- 32- 45と重 複	SB5053

設立柱 跡 跡 番 号	位 置	柵行方 向	柵・闇 (間)	規 模 (m)	構 造	柵行柱間 (m)	闇行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				新 旧 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
								平 面 形 状	長 径 (軸)	短 径 (軸)	深 さ		
45	G57	N- 85° - W	3× 3	5.60× 4.80	東西築・側柱	1.80- 1.90	1.40- 1.80	南北円形・円形	48- 63	43- 54	36- 66	本跡- SB32, SB29- 44と重複	SB2054
46	H2a9	N- 8° - E	2× 2	3.30× 2.80	南北築・柱柱	1.60- 1.80	1.30- 1.50	南北円形・円形	47- 72	39- 60	16- 40		SB3001
47	G27	N- 5° - E	3× 2	7.00× 3.70	南北築・側柱	2.20- 2.50	1.60- 2.10	南北円形・円形	76- 69	47- 54	20- 65		SB3002
48	H2a8	N- 3° - E	3× 2	4.80× 3.40	南北築・側柱	1.20- 1.80	1.60- 1.80	南北円形・円形	52- 55	35- 39	7- 30		SB3003
49	F37	N- 67° - W	3× 3	6.25× 4.60	東西築・側柱	2.05- 2.20	1.50- 1.60	南北円形・円形	62- 102	48- 70	36- 73		SB4001
50	F36	N- 59° - W	3× (2)	5.00× (3.70)	南北築・側柱	1.40- 1.70	1.90- 1.80	南北円形・円形	47- 73	40- 65	29- 37		SB4002
53	C33	N- 11° - W	2× 2	4.19× 4.13	南北築・側柱	2.03- 2.15	2.03- 2.10	南北円形・円形	31- 78	28- 50	10- 76	SB55と重複	SB2003
54	C33	N- 79° - W	2× 2	3.70× 3.65	東西築・側柱	1.73- 1.97	1.76- 1.86	南北円形・円形	28- 54	12- 32	18- 54	SB150と重複	SB2004
56	F3e0	N- 68° - W	4× 3	6.39× 4.50	東西築・側柱	1.60- 1.82	1.36- 1.57	南北円形・円形	62- 84	52- 80	50- 70	SB57と重複	SB2006
57	F3d0	N- 27° - E	3× 2	5.62× 3.60	南北築・側柱	1.74- 1.95	1.65- 1.95	南北円形・円形	25- 72	25- 66	7- 30	SB56- 60と重複	SB2007
58	F37	N- 68° - W	3× 2	5.13× 4.08	東西築・側柱	2.03- 2.05	1.56- 1.81	南北円形	28- 72	32- 74	8- 34	SD24と重複	SB2008
59	F3d7	N- 69° - W	3× 2	4.95× 3.97	東西築・側柱	1.68- 1.82	1.86- 2.09	南北円形・南北円形	37- 86	31- 48	22- 52		SB2009
60	F3e9	N- 69° - W	3× 2	5.12× 4.11	東西築・側柱	1.64- 1.06	2.00- 2.11	南北円形・円形	38- 55	36- 46	17- 50	SB57と重複	SB2010
61	F42	N- 68° - W	3× 3	6.42× 4.62	東西築・側柱	2.20- 2.19	1.50- 1.56	南北円形・円形	50- 85	49- 60	36- 68	SB189と重複	SB2011
62	F3d0	N- 23° - E	2× 2	4.57× 4.17	南北築・柱柱	2.27- 2.29	2.04- 2.13	南北圓筒形・南北圓筒形	30- 85	27- 69	19- 45	SB144と重複	SB2012
63	E39	N- 74° - W	4× 3	6.48× 4.74	東西築・側柱	1.49- 1.76	1.51- 1.60	南北円形・円形	41- 63	34- 57	26- 58		SB2013
64	F4e3	N- 71° - W	3× 3	5.19× 5.88	東西築・側柱	1.90- 2.03	1.74- 2.09	南北円形・円形	40- 70	38- 59	9- 54	SB65と重複	SB2014
65	E42	N- 68° - W	5× 2	9.62× 3.47	東西築・側柱	1.80- 2.02	1.67- 1.80	南北円形・円形	25- 50	25- 45	14- 44	SB64と重複	SB2015
66	F3c5	N- 20° - E	2× 2	4.11× 3.67	南北築・側柱	2.03- 2.05	1.52- 1.91	南北円形・円形	52- 100	44- 74	15- 50		SB2016

#### 4 溝

調査2区北部から奈良・平安時代と考えられる1条の溝が検出された。以下、この遺構及び遺物について記載する。

##### 第23号溝（第453・454図）

位置 調査2区北部、C2d5～D2b6 6区。

形状と規模 北東方向及び南西方向の両端が調査区域外になり、さらに延びるものと思われるが、検出できた長さは32.9mで、上幅66～90cm、下幅20～40cm、深さ34～50cmである。断面形はU字形である。

方向 C2d5区から、南西方向（N-13° - W）にはほぼ直線的に延びる。

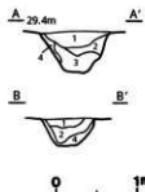
覆土 4層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

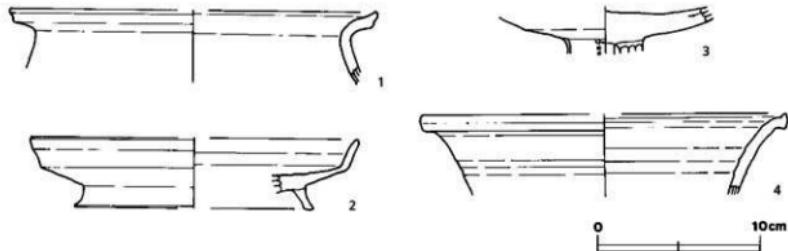
- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 白褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片13点、須恵器片11点が出土している。うち土師器1点、須恵器3点を抽出・図示した。第454図1の土師器壺、2の須恵器盤、3の須恵器高盤、4の須恵器壺は、いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第453図 第23号溝実測図



第454図 第23号溝出土遺物実測図

第23号溝出土遺物観察表

因縁番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第454図 1	土師器	A [22.5] B (4.4)	腹部から口縁部にかけての破片。 薄くの字状に屈曲し、口縁端部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部及び腹内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 に混入褐色 普通	P7167 5%
2	盤 須恵器	A [20.0] B (4.2) D [14.4] E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に聞く。体部は大 きく開き、口縁部との境に棱を持つ。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。高台貼り付け。底部調整不規 則	礫・長石・石英 灰色 普通	P7168 20%
3	高 須恵器	B (2.8)	腹部上位から底部下位にかけての破 片。脚部には4方向に透かし孔持 つ。底部は内側向外に大きく聞く。	底部内・外面口クロナデ。	礫・長石・針状結晶 褐色 普通	P7169 10%
4	腰 須恵器	A [22.4] B (5.0)	口縁部片。口縁部は外反する。端 部は上下に突出し、中央に棱を持つ。	口縁部内・外面口クロナデ。	礫・長石・針状結晶 灰色 普通	P7170 5%

### 5 土坑

当遺跡からは、奈良・平安時代と考えられる土坑25基が検出された。以下、それらの土坑について記載する。

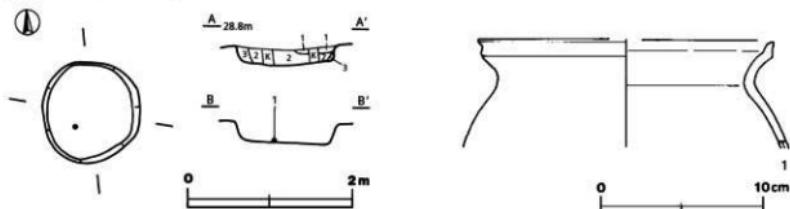
#### 第762号土坑（第455図）

位置 調査3区の南部、H2b0区。

規模と平面形 長径1.26m、短径1.22mの円形で、深さは28cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。



第455図 第762号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 無褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム中プロック・ローム小プロック・ローム粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子少量・ローム小プロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物** 土師器片 2 点が出土している。うち土師器片 1 点を抽出・図示した。第455図 1 の土師器甕口縁部片は、南西壁寄りの覆土下層から出土している。

**所見** 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。

#### 第 762 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	土 師 器	A [18.0] B (6.6)	体部から口縁部片。体部は内側して縫合部に至る。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナギ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P2538 5%

#### 第773号土坑（第456~458図）

**位置** 調査 4 区の南西部、G41区。

**規模と平面形** 長軸 4.74m、短軸 3.75m の不定形で、深さは 50cm である。

**主軸方向** N - 40° - W

**壁** なだらかに立ち上がる。

**底面** 凹凸である。

**ピット** 2 か所。P 1 は南東壁下に位置し、長径 40cm、短径 28cm の梢円形で、深さは 54cm である。P 2 は北西壁下に位置し、長径 40cm、短径 30cm の梢円形で、深さは 50cm である。形状から柱穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。

**覆土** 23 層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

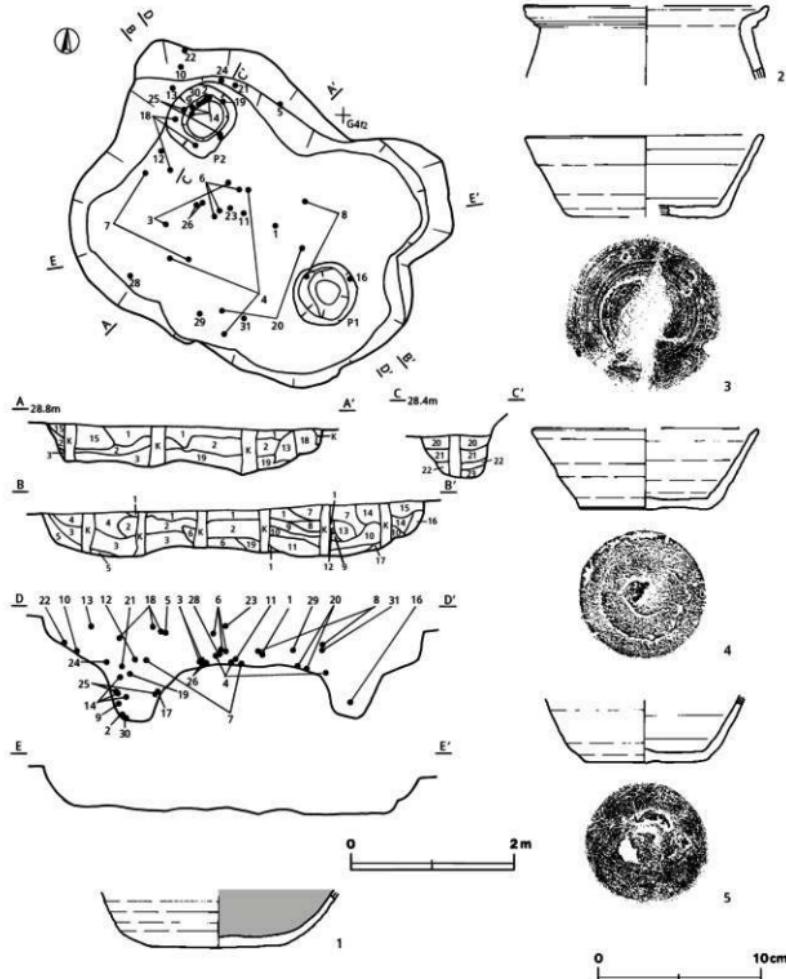
#### 土層解説

1 黒褐色	燒土粒子・炭化粒子少量・ローム粒子・焼土小プロック・炭化物微量	12 黒褐色	ローム粒子少量・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・燒土小プロック・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子多量・ローム小プロック中量・ローム中プロック少量・炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4 褐色	ローム小プロック・ローム粒子少量	15 褐色	ローム粒子中量・ローム小プロック少量
5 褐色	炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	16 褐色	ローム粒子多量
6 褐色	ローム小プロック・炭化粒子中量・ローム中プロック・燒土粒子微量	17 暗褐色	ローム中プロック・ローム小プロック少量・炭化粒子微量
7 褐色	鹿沼バミス粒子少量・ローム粒子・燒土粒子微量	18 暗褐色	ローム粒子少量・ローム小プロック・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
8 暗褐色	ローム小プロック・ローム粒子少量	19 明褐色	ローム大プロック・ローム中プロック・ローム小プロック・ローム粒子少量・鹿沼バミス粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	20 黑褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化物・鹿沼バミス粒子微量
10 暗褐色	炭化粒子微量	21 黑褐色	ローム小プロック・ローム粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	22 黑褐色	ローム中プロック・炭化物・鹿沼バミス小プロック微量
		23 黑褐色	ローム小プロック少量・燒土粒子微量

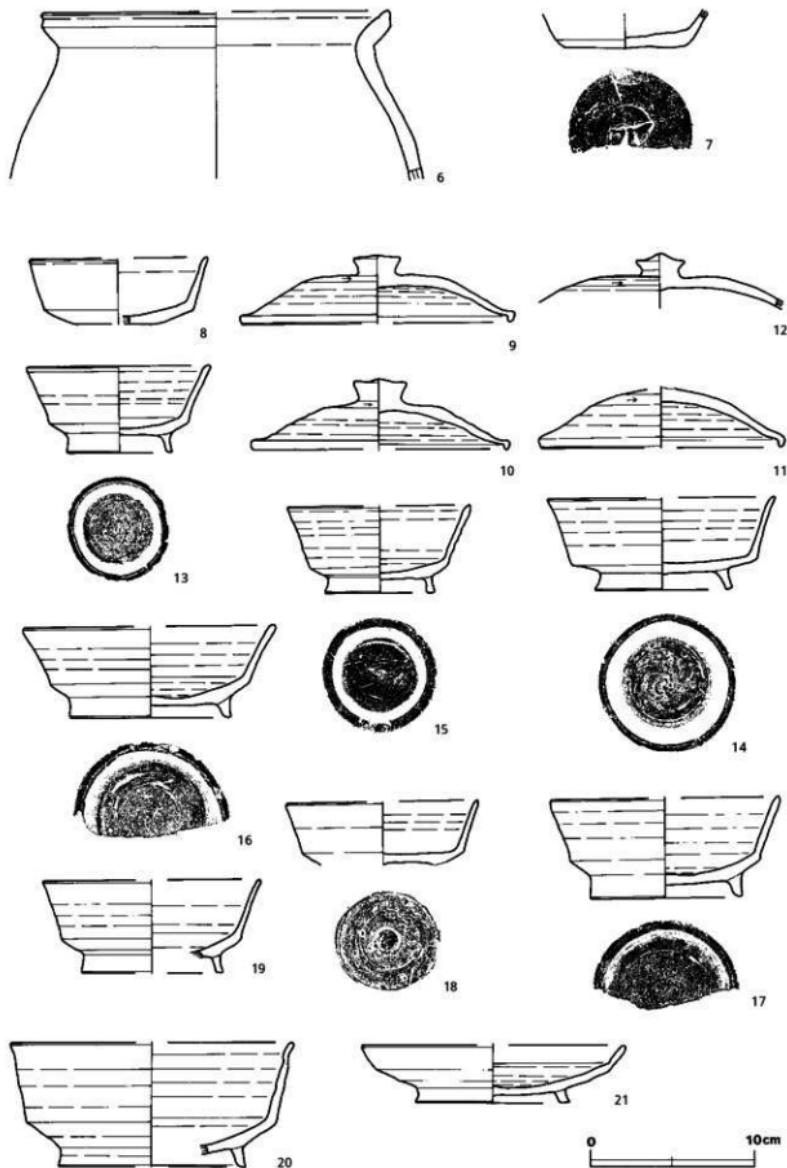
**遺物** 繩文土器片 78 点、弥生土器片 2 点、土師器片 496 点、須恵器片 891 点、金属製品（不明鉄製品）3 点が出土している。うち、土師器片 3 点、須恵器片 28 点を抽出・図示した。第458図 30 の須恵器甕は P 2 の底面から、3 の土師器甕、24 の須恵器蓋は、ともに P 2 の覆土下層から、12 の須恵器高台付坏は P 1 の覆土下層から、13 の須恵器高台付坏は P 2 の覆土中層、10 の須恵器高台付坏は P 2 の覆土中層及び北西壁寄りの覆土下層から、21 の須恵器甕は P 2 の覆土中層及び覆土中から、15 の須恵器高台付坏は P 2 の覆土上層及び覆土中から、16 の須恵器高台付坏は中央部及び南壁際のはば底面と覆土中から、それぞれ出土している。1 の土師器坏は中央部、4 の須恵器坏は中央部西壁寄り及び南壁際、7 の須恵器坏は中央部及び西壁寄り、21 の須恵器甕は北壁際、11 の須恵器蓋は中央部の、それぞれ覆土下層から出土している。24 の須恵器甕は北壁際、26 の須恵器高甕は中央部、12 の須恵器蓋は北西壁寄りの、それぞれ覆土下層及び覆土中から出土している。10 の須恵器蓋は北西壁際、29 の須恵器甕は南壁際のそれぞれ覆土中層から出土している。6 の土師器甕は中央部、8 の須恵器坏は中央部及び南東壁寄り、28 の須恵器小形鉢は南西壁際、31 の須恵器円面鏡は南壁際の、それぞれ覆土中層及び覆土中

から出土している。5の須恵器杯は北壁際、13・18の須恵器高台付杯は北壁寄り、22の須恵器盤は北西壁際、23の須恵器盤は中央部のそれぞれ覆土上層から出土している。11の須恵器高台付杯、27の須恵器高盤は、それぞれ覆土中から出土している。

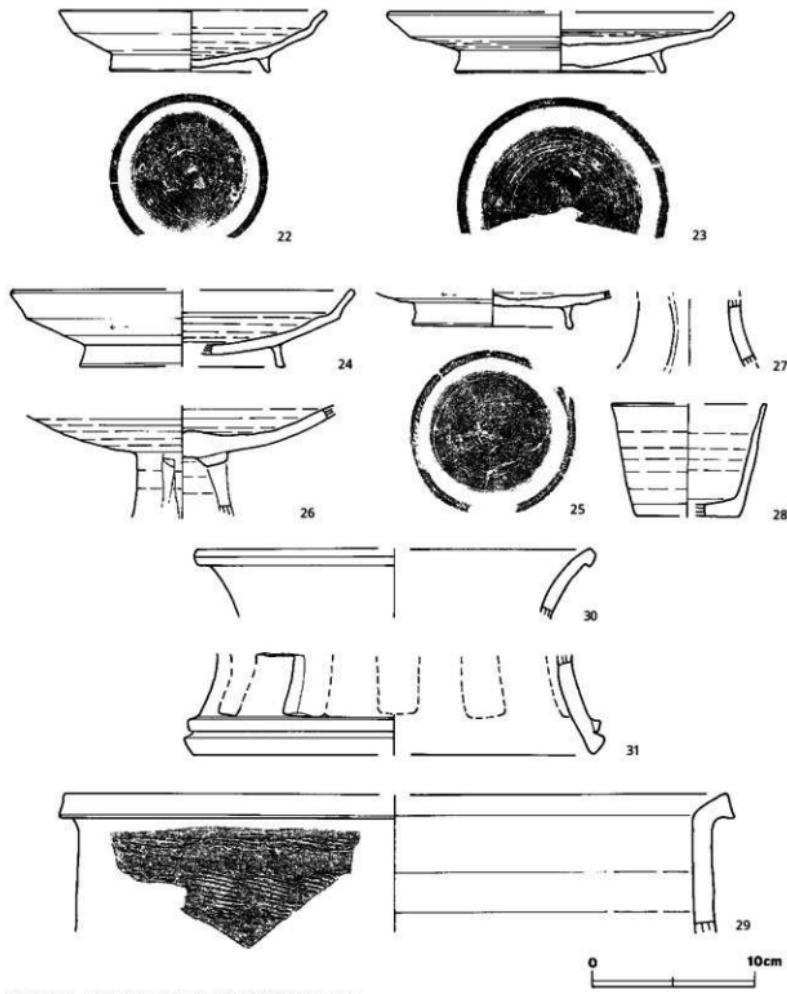
所見 土層の堆積状況が人為堆積であり、多量の遺物が覆土下層から覆土上層にかけて出土していることから、本跡の廃施設後に投棄場所として二次的に利用されたものと考えられる。時期は出土土器から平安時代（9世紀前葉）と考えられる。性格については不明である。



第456図 第773号土坑・出土遺物実測図



第457图 第773号土坑出土遗物实测图(1)



第458図 第773号土坑出土遺物実測図(2)

第773号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第458図 1	坏 土器	B 32 C 42	底部から体部片。平底。体部は内 側しながら外側して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外側ロクロナ デ。体部下端及び底部回転へラ削 り。内面墨色処理。	長石・石英・針状結 物 橙色、普通	P 2539 60%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 6	裏土器	A [13.4] B [10.2]	体部から口縁部片。体部は内傾して縁部に至る。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P2540 10%
		A [14.4] B [4.4]	体部から口縁部片。体部は内傾して縁部に至る。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子 明赤褐色、普通	P2570 5%
第456図 2	裏土器	A [14.6] B 5.1 C (9.1)	底部から口縁部一部欠損。平底。 体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・礫・針状結晶物 灰色 普通	P2541 70% PL67
		A [13.9] B 5.0 C 8.0	底部から口縁部一部欠損。平底。 体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・礫・針 状結晶物 灰色、普通	P2542 50% PL67
3	坏須恵器	A 14.6 B 5.1 C (9.1)	底部から口縁部一部欠損。平底。 体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状結晶物 灰色 普通	P2543 40%
		B (3.9) C 7.3	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状結晶物 灰白色、普通	P2544 30%
第457図 7	坏須恵器	B (4.2) C 7.4	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り、周縁ナデ。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2545 40%
		A [11.0] B 4.1 C [4.8]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・礫 黄灰色 普通	口縁部外面自然釉
8	坏須恵器	A [11.3] B 5.3 C [4.8]	口縁部一部欠損。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2546 70% PL67
		D 6.4 E 1.3	口縁部一部欠損。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2547 70% PL67
13	高台付坏須恵器	A 11.3 B 5.3 C 6.4 D 1.3	口縁部一部欠損。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2548 60% PL67
		A [14.0] B 5.6 C 8.4 D 1.3	口縁部一部欠損。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫・針 状結晶物 灰オリーブ色、普通	P2549 40%
14	高台付坏須恵器	A [11.0] B 5.4 C 6.8 D 1.0	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2550 40% PL67
		E 1.0	底部から口縁部一部欠損。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2551 20%
15	高台付坏須恵器	A [11.0] B 5.6 C 6.8 D 1.0	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2552 70% PL67
		E 1.0	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P2553 40%
16	高台付坏須恵器	A [15.4] B 5.6 C 6.8 D 1.0 E 1.3	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 浅黄色 普通	P2554 40%
		A [14.0] B 6.1 C 9.2 D 1.4	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・赤灰色 普通	P2555 40%
17	高台付坏須恵器	A [14.0] B 6.1 C 9.2 D 1.4	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 赤灰色 普通	P2556 40%
		A [11.0] B (3.9)	体部から口縁部一部及び高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P2557 60%
18	高台付坏須恵器	A [11.0] B (3.9)	体部から口縁部一部及び高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P2558 40%
		C 5.7 D [8.6] E 1.1	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状結晶物 黄灰褐色 普通	P2559 40% PL67
19	高台付坏須恵器	A [13.4] B 5.7 C 8.6 D 1.1	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状結晶物 黄灰褐色 普通	P2560 40% PL67
		E 1.2	底部から口縁部片。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 外表面灰赤色、内面 褐色 普通	P2561 20%
20	高台付坏須恵器	A [17.4] B 7.6 C 11.4 D 12.0 E 1.1	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状に聞く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄色 普通	P2562 70% PL67
		A 16.3 B 3.7 C 9.9 D 1.1	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台は八の字状に聞く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄色 普通	P2563 40%
第458図 22	盤須恵器	A 16.3 B 3.7 C 9.9 D 1.1	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台は八の字状に聞く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄色 普通	P2564 40%

因版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第458図 23	盤 惠 器	A [20.9] B 4.7 D 12.8 E 1.4	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P2553 60%
第457図 21	盤 惠 器	A [16.0] B 3.5 D 9.4 E 0.9	体部及び口縁部一部欠損。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P2554 50%
第458図 24	盤 惠 器	A [21.0] B 4.7 D [12.6] E 1.3	体部及び口縁部の破片。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 黄灰色 普通	P2555 35%
25	盤 惠 器	B 2.4 D 9.6 E 1.4	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 にぶい橙色 普通	P2564 30%
26	高 惠 器	B (6.9) E (4.0)	脚部から腹部にかけての破片。脚部は三方に透かしが入る。腹部は直線的に開く。	脚部及び坏部内・外面クロナデ。	長石・石英・針状結晶物、外面灰褐色、内面暗灰色、普通	P2556 50%
27	高 惠 器	B (4.1)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面クロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P2557 5%
第457図 9	蓋 惠 器	A [16.5] B 4.2 F 2.9 G 1.2	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面クロナデ。天井部内面クロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P2572 25%
10	蓋 惠 器	A [15.6] B 4.4 F 3.2 G 1.4	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面クロナデ。天井部内面クロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状結晶物 灰色、普通	P2558 30%
11	蓋 惠 器	A [14.8] B (3.6)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を持つ。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面及び天井部内面クロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P2559 25%
12	蓋 惠 器	B (3.5) F 3.0 G 1.4	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状のつまみが付く。	口縁部内面及び天井部内面クロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石・針状結晶物 黄灰色 普通	P2560 20%
第458図 28	小 形 鉢	A [9.5] B 7.9 C [5.9]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P2561 20%
29	便 惠 器	A [40.6] B (8.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部が突出する。	口縁部内・外面クロナデ。体部内面クロナデ、外面横位の平行凹面。	長石 灰オリーブ色 普通	P2562 5%
30	便 惠 器	A [24.0] B (4.3)	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面クロナデ。	白色粒子 褐色 普通	P2565 5%
31	円 面 碗	B (6.2) C [24.6]	脚台部片。脚台部に透かし窓を持ち、下位に隆帯が盛る。	脚部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 灰黄色 普通	P2563 5%

#### 第823号土坑（第459図）

位置 調査5区の南東部、H7a2区。

重複関係 第103号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径2.82m、短径2.48mの梢円形で、深さは178cmである。

主軸方向 N-65° - E

壁 なだらかに立ち上がる。

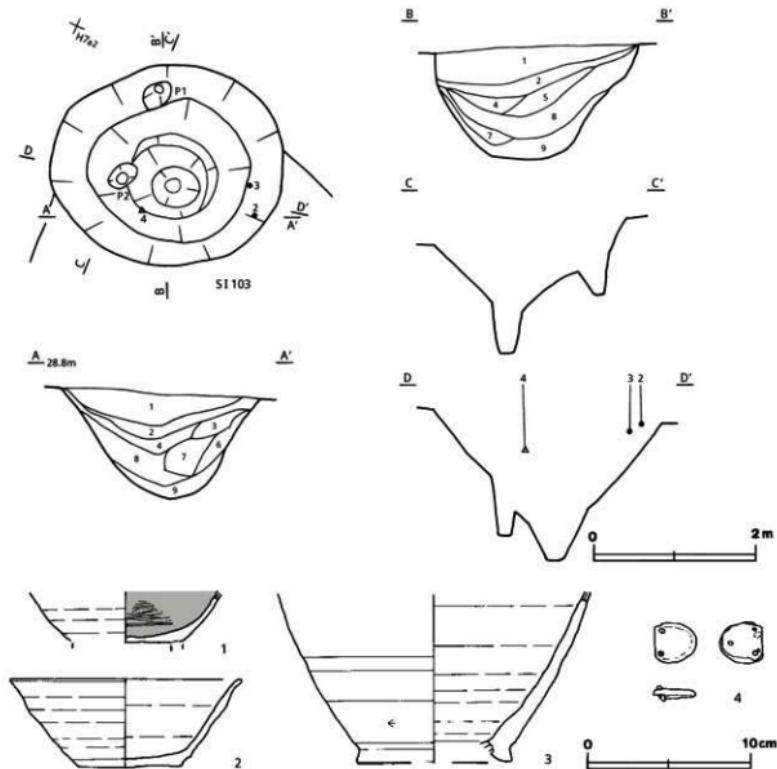
底面 皿状である。

**ピット** 2か所。P 1は北西壁面に位置し、長径40cm、短径30cmの椭円形で、深さは50cmである。P 2は南西壁面に位置し、長径40cm、短径28cmの椭円形で、深さは54cmである。形状から柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。

**覆土** 9層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 1 黒 色 ローム粒子微量                       | 6 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子ブロック・炭化物・炭化粒子・糞沼バミス粒子微量         |
| 2 黒 色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量         | 7 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・糞沼バミス粒子微量              |
| 3 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黑 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量               |
| 4 黑 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 9 暗 褐 色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・糞沼バミス粒子微量 |
| 5 褐 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量    |  |



第459図 第823号土坑・出土遺物実測図

**遺物** 繩文土器片13点、土師器片5点、須恵器片12点、金属製品（鉈尾）1点が出土している。うち、土師器片1点、須恵器片2点、鉈尾を1点を抽出・国示した。第459図1の土師器高台付壺は覆土中から出土している。2の須恵器壺、3の須恵器壺はともに東壁際から、4の鉈尾は南壁よりの、それぞれ覆土上層から出土し

ている。

所見 時期は、出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。類例から水室の可能性も考えられるが、その性格については不明である。

第823号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1	高台付环 土師器	B (31)	底部から体部片。体部は内寄しながら外傾して立ち上がる。高台部剥離。	体部内・外側ロクロナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2589 30%
2	坏 須恵器	A 142 B 55 C 63	底部から口縁一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び口縁内・外側ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 灰色 普通	P2590 70% PL67
3	壺 須恵器	B (105) C (95)	高台部から体部の破片。体部は内寄時に外傾して立ち上がる。高台は「ノ」字状に開き、先端部が尖る。	体部内・外側ロクロナデ。底部調整不明。	長石 にぶい赤褐色 普通	P2591 15%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第459図 4	腰帶具	2.6	2.5	1.0	7.4	鉄地網貼り	鉄尾。裏金なし。脚紙3ヶ所、内1ヶ所欠損。外紙2ヶ所。	

#### 第824号土坑（第460・461図）

位置 調査5区の南東部、G711区。

規模と平面形 長径3.55m、短径3.35mの不定形で、深さは180cmである。

主軸方向 N-59°-E

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 皿状である。

ピット 12か所。P1からP3は北壁面、P4は東壁面、P5からP7は南壁面、P8からP10は西壁面、P11は西壁面、P12は北西壁面に位置する。長径20~40cm、短径15~30cmの楕円形及び不整形で、深さは22~60cmである。

覆土 8層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

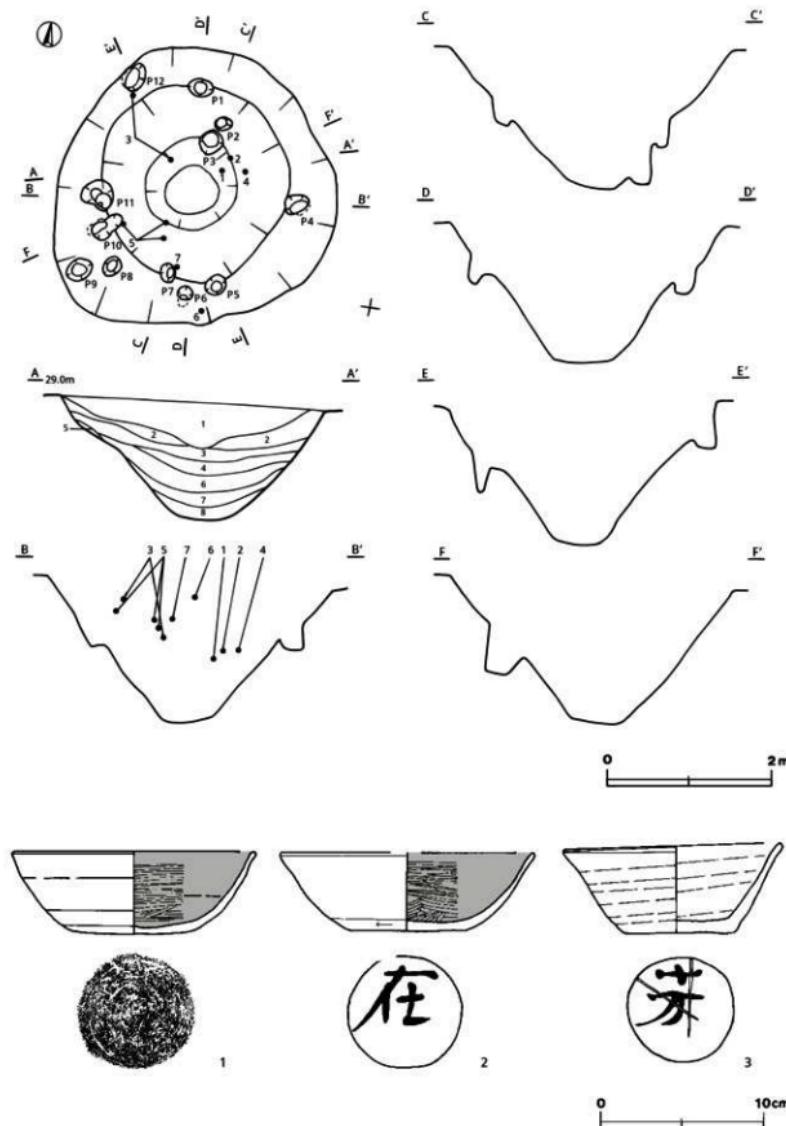
##### 土層解説

1 黒 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 暗 色	ローム粒子多量
2 黒褐 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・中ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	7 暗褐 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量
4 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量	8 暗褐 色	鹿沼バミス粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量

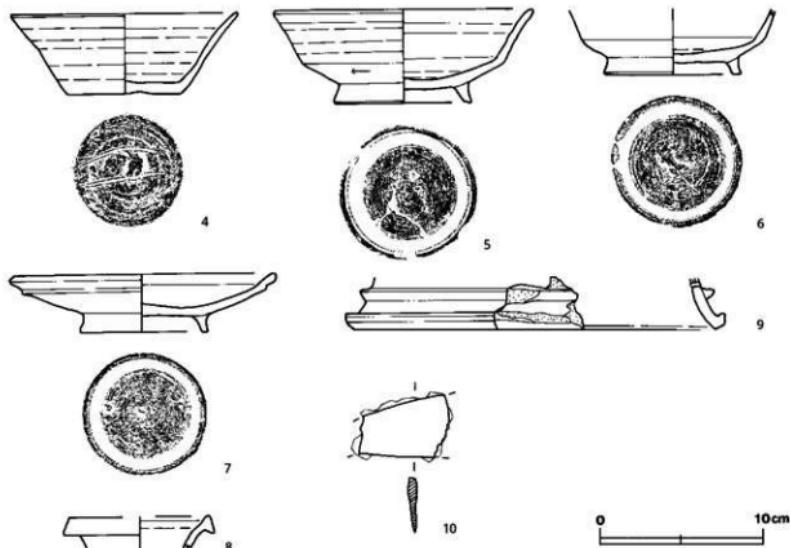
遺物 繩文土器片44点、土師器片14点、須恵器片47点、金属製品1点が出土している。うち土師器片2点、須恵器片7点、金属製品（鎌）1点を抽出・図示した。第461図8の須恵器長頸瓶の口縁部片及び9の須恵器円面鏡脚部片、10の鎌は覆土中から出土している。6の須恵器高台付环は南壁寄りの覆土上層から、7の須恵器盤は南壁際、1・2の内面に黒色処理された土師器环は、ともに中央部から北東寄りの、それぞれ覆土中層から、3の須恵器环は中央部から北西寄りの覆土上層から中層にかけて、4の須恵器环は中央部から北東寄りの覆土中層から、5の須恵器高台付环は中央部から南寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。なお、2の土師器环は、底部に墨書きされている。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。類例から水室の可能性も考えられるが、明

確ではない。



第460図 第824号土坑・出土遺物実測図



第461図 第824号土坑出土遺物実測図

第824号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第460図 1	坏土師器	A 14.9 B 5.0 C 7.1	体部から口縁部の一部欠損。平底。 体部は内側しながら外傾して立ち上がる。 口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ削き、外面ロクロナデ。 体部下端及び底部回転へラ削り。 内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物 にぶい褐色、普通	P 2592 80% PL67
2	坏土師器	A [15.4] B 48 C 69	体部から口縁部片。平底。体部は 内側しながら外傾して立ち上がる。 口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ削き、外面ロクロナデ。 体部下端及び底部回転へラ削り。 内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物 にぶい黄褐色 普通	P 2593 60% PL67 72 底部外面墨書き「在」
3	坏須恵器	A 13.3 B 5.6 C 6.8	体部から口縁部片。平底。体部は 直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部手持ちへラ削り。	長石・石英・針状結晶物、灰色 普通	P 2594 70% PL67 73 底部外面墨書き「十万」、底部へラ記号
第461図 4	坏須恵器	A 14.0 B 4.9 C 6.8	体部から口縁部片。体部は直線的に 立ち上がり、口縁部はわずかに 外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2595 70% PL67 底部へラ記号
5	高台付坏須恵器	A 15.8 B 5.7 C 8.4 D 8.4 E 1.3	体部から口縁部一部欠損。高台は 八の字状に開く。体部は外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状結晶物、赤褐色 普通	P 2596 95% PL67
6	高台付坏須恵器	(4.0) B 8.4 D 8.4 E 1.1	底部から体部片。高台は八の字状に 開く。体部は外傾して立ち上 がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色 普通	P 2597 40% 底部へラ記号
7	盤須恵器	A 16.1 B 3.6 C 7.6 D 7.6 E 1.0	体部から口縁部一部欠損。平底。 高台は八の字状に開く。体部は直 線的に開き、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転へラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状結晶物、灰色 普通	P 2598 70% PL67 底部へラ記号
8	長柄須恵器	A (9.5) B [2.1]	口縁部片。口縁部は外反し、端部 は下方へ突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 にぶい赤褐色 普通	P 2599 5%

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第461図 9	円 面 瓶 須 恵 器	B (3.2) D [22.2]	脚部片。脚部下位に断面三角形を呈する2枚の隆起が付く。	体部内・外面ロクロナダ。	長石 灰黄色 普通	P2600 5%
図版番号	器 種	計 測 値	材 質	特 徴	備 考	
第461図10	縁	(5.8) (39) 0.5 (172)	鉄	刃部の一部残存。	M2503	

### 第825号土坑（第462図）

位置 調査5区の北東部、F7e1区。

重複関係 第104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.8mほどの円形で、深さは78cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

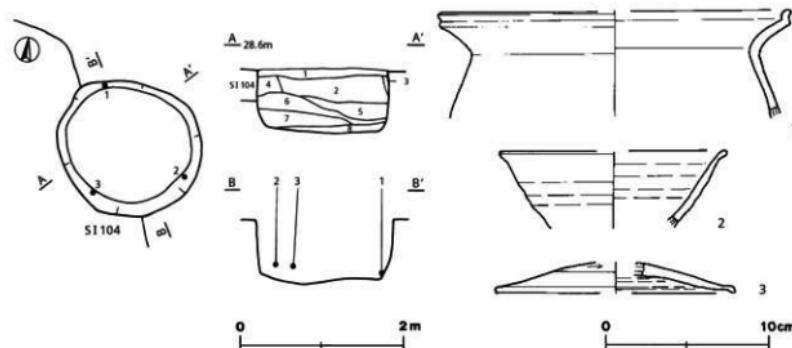
覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                             |       |                             |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量            | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量・炭化粒子微量           |
| 3 褐 色 | ローム粒子多量・ローム小ブロック少量          | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 4 褐 色 | ローム小ブロック中量・ローム粒子少量・焼土粒子微量   | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量・ローム中ブロック微量       |

遺物 縄文土器片8点、土師器片14点、須恵器片6点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片2点を抽出・図示した。第462図1の土師器甌は口縁部片で北西壁際、2の須恵器甌は南東壁際、3の須恵器蓋は南西壁際の、それぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第462図 第825号土坑・出土遺物実測図

### 第825号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第462図 1	土 師 器	A [21.6] B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内傾して底部に至る。口縁部は外反し、底部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナダ。	石英・青母 にぶい赤褐色 普通	P2601 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 2	須恵器	A [14.0] B (4.7)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	石英・針状結晶 灰黄色 普通	P2602 20%
3	蓋 須恵器	A [14.8] B (1.8)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部内面ロクロナデ。 外面回転ヘラ削り。	長石 褐灰 普通	P2603 20%

第851号土坑（第463図）

位置 調査5区の南東部、H6f9区。

規模と平面形 長径1.25m、短径1.06mの梢円形で、深さは43cmである。

主軸方向 N-87°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 8層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

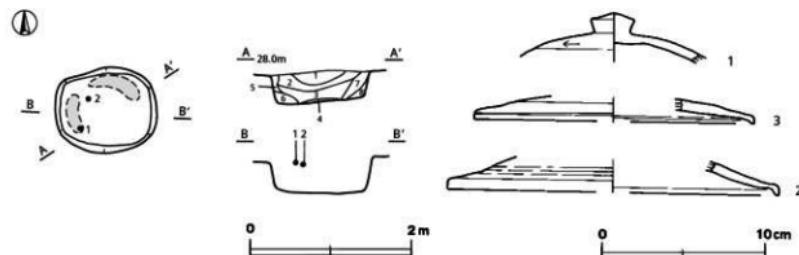
#### 土層解説

- 1 脱色 ローム小ブロック・炭化物少量。ローム粒子多量。
- 2 脱色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量。炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム大ブロック微量。炭化粒子少量。ローム大ブロック微量
- 4 始褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量。焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。焼土粒子少量
- 8 始褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量。ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量

遺物 繩文土器片23点、土師器片1点、須恵器片12点が出土している。うち須恵器片3点を抽出・図示した。

第463図1～3は須恵器蓋であり、3は覆土中から、1・2はいずれも西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。



第463図 第851号土坑・出土遺物実測図

第851号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	蓋 須恵器	B (2.0) F 1.7 G 1.2	天井部片。天井部は伏せ皿状で蓋 宝珠状のつまみが付く。	口縁部内面ロクロナデ。天井部内 面ロクロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰黄色 普通	P2604 20%
2	蓋 須恵器	A [20.2] B (2.0)	天井部から口縁部にかけての破片。 口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面ロクロナデ。天井部内 面ロクロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰褐色 普通	P2606 20%
3	蓋 須恵器	A [17.0] B (1.4)	天井部から口縁部にかけての破片。 口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面ロクロナデ。天井部内 面ロクロナデ、外面回転ヘラ削り。	石英 灰白色 普通	P2605 10%

第852号土坑（第464図）

位置 調査5区の南東部、H6f 8区。

規模と平面形 長径1.43m、短径1.15mの楕円形で、深さは40cmである。

主軸方向 N-40°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 段状である。北西部の平坦面から約6cmほど下がり、南東部は平坦面である。

覆土 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

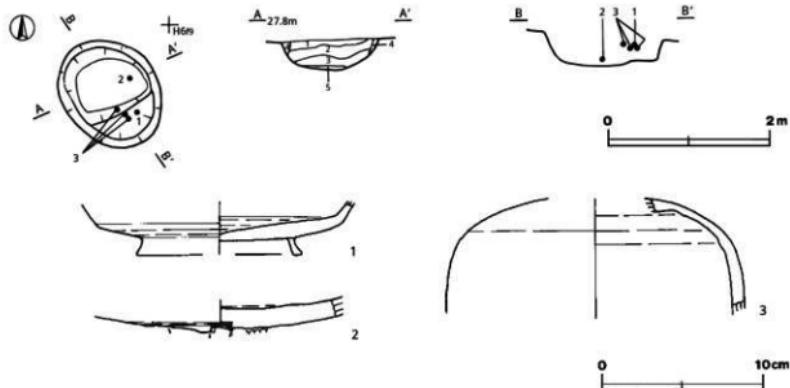
土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	4	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量	5	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量			

遺物 繩文土器片4点、土師器片3点、須恵器片7点が出土している。うち須恵器片3点を抽出・図示した。

第464図の須恵器盤及び3の須恵器長頸瓶は、ともに南東壁寄りの覆土上層から、2の須恵器高盤は北東壁寄りの覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代と考えられるが、性格については不明である。



第464図 第852号土坑・出土遺物実測図

第852号土坑出土遺物観察表

因版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464図 1	盤 須恵器	B (3.2) D [16.2] E 1.0	底部から体部片。平底。高台は八字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ハラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状結晶物 灰色、普通	P2607 30%
2	高盤 須恵器	B (1.6) E (0.4)	脚部から皿部にかけての破片。脚部は四方に透かしが入る。	脚部及び坏部内・外面口クロナデ。	長石・針状結晶物 灰色 普通	P2608 10%
3	長颈瓶 須恵器	B (7.3)	体部の破片。体部は内側して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・針状結晶物 黄灰色 普通	P2609 10%

### 第853号土坑（第465図）

位置 調査5区の南東部、H6f8区。

規模と平面形 長径1.50m、短径1.23mの楕円形で、深さは45cmである。

主軸方向 N-71°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

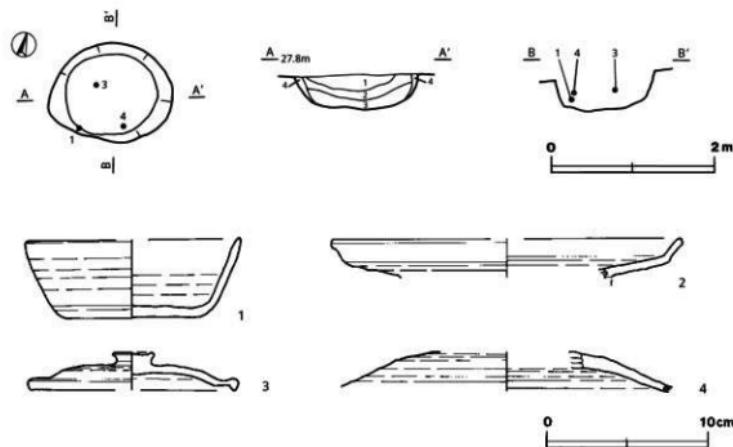
覆土 4層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量	3	暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミス微量
2	暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中 ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量	4	褐色 ローム粒子多量

遺物 繩文土器片27点、土師器片4点、須恵器片23点が出土している。そのうち須恵器片4点を抽出・図示した。第465図2の須恵器盤は、覆土中から出土している。3の須恵器蓋は、中央部から北西壁寄り、4の須恵器蓋は、南東壁際の、ともに覆土下層から出土している。1の須恵器坏は、南西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から8世紀後葉と考えられるが、性格については不明である。



第465図 第853号土坑・出土遺物実測図

### 第853号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	須恵器	A [13.1]	底部から口縁部分。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体内部・外側ロクロナギ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状結晶物にぶい橙色、普通	P2610 40%
		B 4.8				
		C 7.0				
2	盤 須恵器	A [21.4] B (2.4)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に開き、口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外側ロクロナギ。	長石・石英 灰色 普通	P2611 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 3	蓋 須恵器	A [12.5] B 2.4 F 2.6 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、擬宝珠状の つまみが付く。口縁部は屈曲し、 短く垂下する。	口縁部及び天井部内面クロナダ。 外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状結晶物、黄灰色 普通	P2612 30%
		B (2.4)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状である。	口縁部内面クロナダ。天井部内 面クロナダ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰白色 普通	P2613 10%

### 第858号土坑（第466図）

位置 調査5区の南東部, H6d7区。

重複関係 第854号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.49m, 短径1.37mの円形で, 深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 扁平である。

覆土 3層に分層され, 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |  |
|---|--|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少<br>量           | 3 黄色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・燒土粒子・炭化粒子<br>少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少<br>量、ローム中ブロック微量 |  |

遺物 繩文土器片5点、土師器片2点、須恵器片6点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期及びその性格については不明であるが、土師器片及び須恵器片が覆土中から出土していること、9世紀中葉と考えられる第854号土坑に掘り込まれていることから、それ以前の奈良・平安時代の可能性を考えられる。

### 第854号土坑（第466図）

位置 調査5区の南東部, H6e7区。

重複関係 第858号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.54m, 短径1.32mの椭円形で, 深さは53cmである。

主軸方向 N-57°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し, 径24cmの円形で, 深さは26cmである。

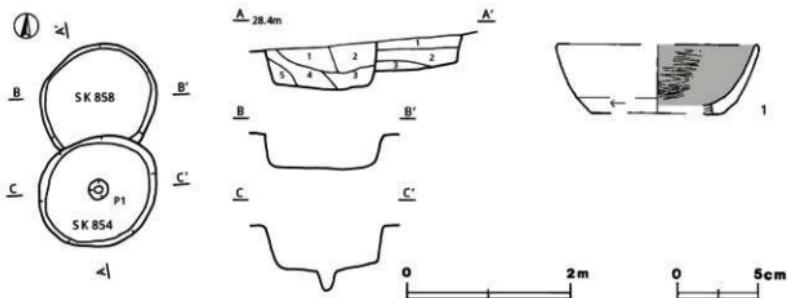
覆土 5層に分層され, 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |   |   |
|---|---|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量  | 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・燒土小ブロック・炭<br>化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・燒土<br>小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量             | 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・燒土小ブロック少量          |
| 3 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・燒土<br>小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・燒土中ブ<br>ロック微量 |   |

遺物 繩文土器片356点、土師器片4点、須恵器片23点、金属製品2点（不明鉄製品）が出土している。うち土師器片1点を抽出・図示した。第466図1は内面黒色処理された土師器壺で、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第466図 第854・858号土坑・出土遺物実測図

第854号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1	壺 土師器	A [12.2] B (42)	底部から口縁部迄平底。体部は内側しながら外側へ立ち上がり、口縁部に笠る。	体部内面ヘラ磨き、外面ロクロナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・赤色粒子・針状結晶 橙色、普通	P2615 10%

第857号土坑（第467図）

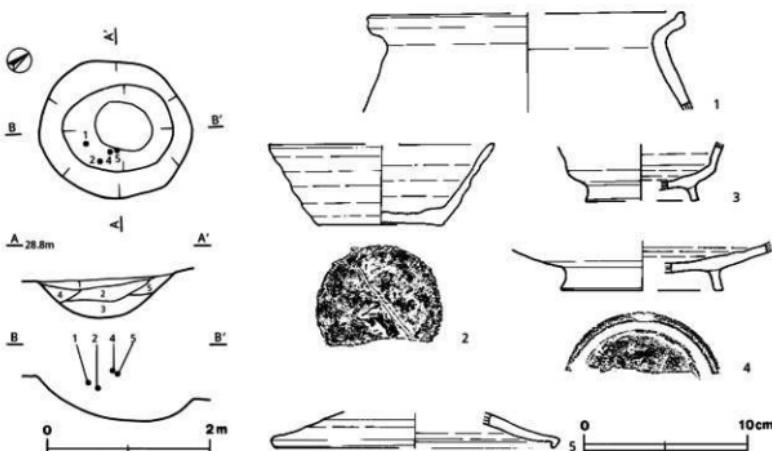
位置 調査5区の南東部、H6E7区。

規模と平面形 長径1.85m、短径1.65mの椭円形で、深さは37cmである。

主軸方向 N-45°-W

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 盆状である。



第467図 第857号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒 子・炭化物少量	4 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 茶褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒 子・炭化物少量、ローム大ブロック微量	5 茶褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、 ローム大ブロック・焼土中ブロック微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子 少量		

**遺物** 繩文土器片34点、土師器片15点、須恵器43点片、灰釉陶器片1点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片4点を抽出・図示した。灰釉陶器片は細片であり図示できなかった。第467図3の須恵器高台付环は、覆土中から出土している。4の須恵器盤及び5の須恵器蓋は中央部の覆土上層から、1の土師器甕の口縁部片は中央部から北西壁寄りの覆土中層から、2の須恵器环は中央部から南西壁寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

**所見** 本跡の時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。覆土中に焼土及び炭化物などを比較的多く含んでいるが、性格については不明である。

### 第857号土坑出土遺物観察表

因版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第467図 1 土師器	A	[19.2]	体部から口縁部片。体部は内傾して頭部に至る。口縁部は外反し、頭部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P2616 5%
	B	(6.1)				
2 須恵器	A	[13.7]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・白色粒子 灰色 普通	P2617 50% PB 底部ヘラ記号
	B	4.9				
	C	7.6				
3 高台付环 須恵器	A	(35)	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・白色粒子 灰色 普通	P2618 10%
	B	[6.8]				
4 盤 須恵器	B	(30)	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	礫・長石・白色粒子 暗灰黄色 普通	P2619 20% 底部ヘラ記号
	C	[9.8]				
5 蓋 須恵器	A	[17.0] (2.1)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、口縁部は屈曲し、短くやわらかに入る。	口縁部内面ロクロナデ。天井部内面ロクロナデ、外側回転ヘラ削り。	長石 灰黄色 普通	P2620 5%
	B					

### 第877号土坑（第468図）

**位置** 調査5区の北部、G6b5区。

**規模と平面形** 長径1.22m、短径1.12mの円形で、深さは74cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底面** ほぼ平坦である。

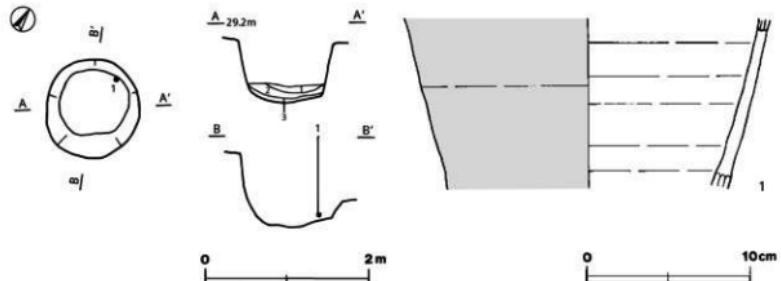
**覆土** 上層及び中層の記録が取れず下層のみの分層になったが、下層は3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	3 極暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 黑褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

**遺物** 繩文土器片9点、土師器片5点、須恵器片1点、灰釉陶器片1点が出土している。うち灰釉陶器片1点を抽出・図示した。第468図1の灰釉陶器片は壺の体部片で、北壁際の覆土下層から出土している。

**所見** 本跡の時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。



第468図 第877号土坑・出土遺物実測図

第877号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	壺 灰釉陶器	B (10.4)	体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面口クロナデ。体部外 面施釉。	長石。外面明赤褐色。内面灰才リーブ色。良好	P2622 5% 黒笠14号窯式期

第886号土坑（第469図）

位置 調査5区の南部、H6c3区。

重複関係 第38掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.53m、短径1.30mの椭円形で、深さは26cmである。

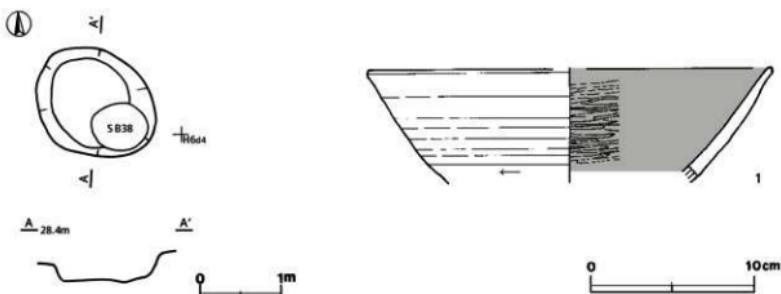
主軸方向 N-53°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土師器片1点が出土している。第469図1の内面黒色処理された土師器鉢は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第469図 第886号土坑・出土遺物実測図

第886号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第469図 1	鉢 土師器	A [24.6] B (7.0)	体部から口縁部片。体部は内壁氣味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黑色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2623 15%

## 第891号土坑（第470図）

位置 調査5区の南東部、G6d6区。

重複関係 第110号住居跡及び第890号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.14mほどの円形で、深さは38cmである。

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

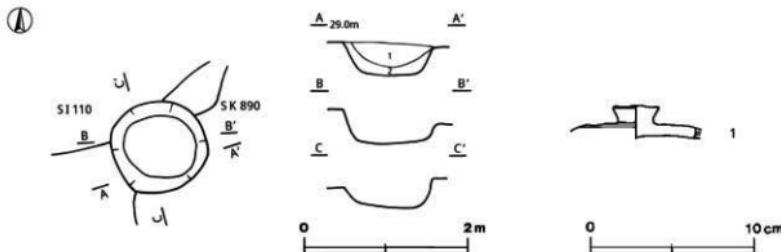
覆土 2層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

1 前面色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 2 背面色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 繩文土器片2点、須恵器片1点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。第470図1の須恵器蓋は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。



第470図 第891号土坑・出土遺物実測図

第891号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	蓋 須恵器	B (2.1) F 1.1 G 2.9	天井部片。天井部は覆宝珠状のつまみが付く。	天井部内面ロクロナデ、外面回転ヘラ削り。	礫・長石・白色粒子 灰色 普通	P2624 10%

## 第893号土坑（第471図）

位置 調査5区の北西部、G6f1区。

重複関係 第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.34m、短径1.14mの楕円形で、深さは24cmである。

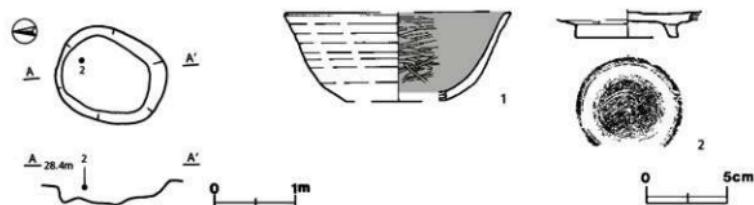
主軸方向 N-39°-E

壁 なだらかに立ち上がる。

**底面** 平坦である。

**遺物** 繩文土器片7点、土師器片7点、須恵器片2点が出土している。第471図2の土師器高台付杯は、北東壁寄りの覆土上層から出土している。1の土師器杯は覆土中から出土している。

**所見** 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第471図 第893号土坑、出土遺物実測図

第893号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第471図 1	壺	A [13.8] B [(5.4)]	体部から口縁部片。体部は内青釉味に外側して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部び体部内面へラ磨き、外面ロクロナギ。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子、にぶい黄褐色、普通	P2625 20%
	土師器	C [1.6] 52	高台部から底部の破片。高台は近くほど垂下する。	底部内面へラ磨き、黒色処理。底面回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナヂ。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P2626 10%
2	高台付杯 土師器	B (1.6) C 52				

第898号土坑（第472図）

**位置** 調査5区の南東部、H6c7区。

**重複関係** 第901号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形** 長径2.11m、短径1.89mの梢円形で、深さは32cmである。

**主軸方向** N-40°-E

**壁** なだらかに立ち上がる。

**底面** 平坦である。

**ピット** 1か所。P 1は北西壁寄りに位置し、長軸129cm、短軸62cmの不整形で、深さは130cmである。

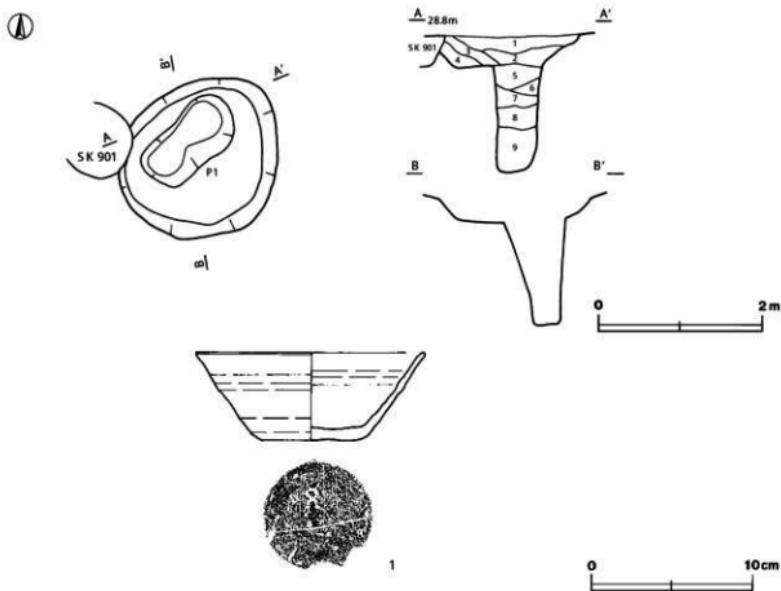
**覆土** 9層に分層される。第1～4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第9層はローム大ブロック及び鹿沼バミス大ブロックを中量含み、また、第5～9層は水平及び三角形状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス微量	6	黒褐色	ローム小ブロック少量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
4	褐色	ローム粒子中量	9	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子中量
5	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量			

**遺物** 繩文土器片16点、土師器片16点、須恵器片6点が出土している。うち須恵器1点を抽出・図示した。第472図1の須恵器杯は、覆土上層及び覆土下層付近から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第472図 第898号土坑・出土遺物実測図

第898号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	須恵器	A [14.1] B 5.4 C 5.8	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナギ。底部回転ヘラ切り後、ナヂ。	長石・石英・白色粒子・針状結晶 灰色・普通	P2627 60% PL68

第911号土坑（第473図）

位置 調査5区の南東部、G5g5区。

重複関係 第912号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.28mの円形で、深さは37cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

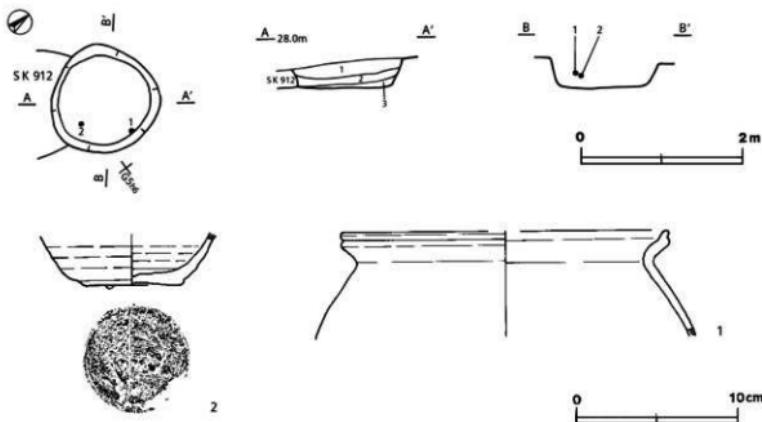
覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                          |       |                               |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 前褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・燒土粒子微量 | 3 黒褐色 | 鹿沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 后褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量        |       |                               |

遺物 繩文土器片5点、土師器片7点、須恵器片5点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片1点を抽出・図示した。第473図1の土師器甕の口縁部片は東壁際、2の須恵器片は南壁寄りの、それぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第473図 第911号土坑・出土遺物実測図

#### 第911号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1 土器	土器	A [20.0] B (65)	底部から口縁部。体部は内窪しながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P2628 10%
2 須恵器	須恵器	B (2.1) C 59	底盤から体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P2629 40% 底部ヘラ記号

#### 第920号土坑（第474図）

位置 調査5区の南東部, H7a5区。

重複関係 第922号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.20m, 短径0.85mの梢円形と考えられ、深さは57cmである。

主軸方向 N-75°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

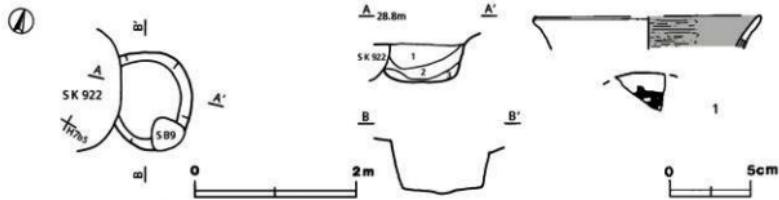
##### 土層解説

- 1 前褐色 ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック 少量。ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム 大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 繩文土器片5点、土器片6点、須恵器片2点が出土している。うち土器片1点を抽出・図示した。

第474図1の土器片は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第474図 第920号土坑・出土遺物実測図

第920号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 1	土師器	A [14.0] B (2.1)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・針状結晶物 淡黄色 普通	P2630 5% 体部外面墨書き

第929号土坑（第475図）

位置 調査5区の北西部, G5c5区。

規模と平面形 長径1.52m, 短径1.18mの不定形で、深さは42cmである。

主軸方向 N-50°-E

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 段状である。南西部の平坦面から約8cmほど下がり、北東部に平坦面をなす。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

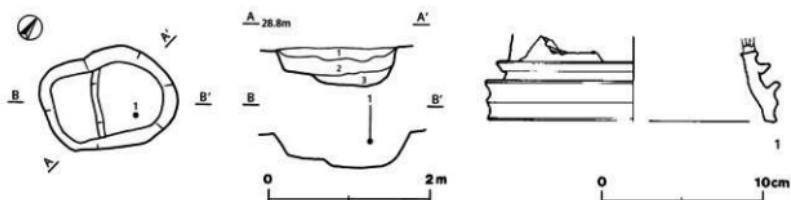
2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

3 褐褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 繩文土器片1点、土師器片9点、須恵器片1点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。

第475図1の須恵器円面鏡の脚部片は、北東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は出土土器から8~9世紀と考えられるが、性格については不明である。



第475図 第929号土坑・出土遺物実測図

第929号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第475図 1	円面鏡 須恵器	B (5.2) D [17.5]	脚台部片。脚台部の下位に2条の隆脊が通る。	脚部内面ナデ。	長石・赤色粒子・針状結晶物、にぶい赤褐色、普通	P2631 5%

### 第940号土坑（第476図）

位置 調査5区の南東部、G5c6区。

規模と平面形 長径1.50m、短径1.30mの楕円形で、深さは60cmである。

主軸方向 N-60°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は南西壁寄りに位置し、径50cmの円形で、深さは22cmである。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

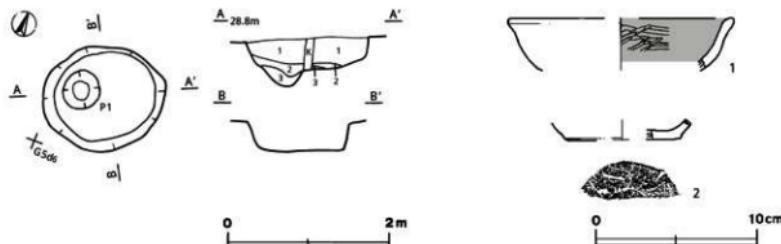
#### 土層解説

1. 始褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量  
2. 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

3. 始褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 繩文土器片6点、土師器片8点、須恵器片9点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片1点を抽出・図示した。第476図1の土師器片及び2の須恵器片は、ともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第476図 第940号土坑・出土遺物実測図

### 第940号土坑出土遺物観察表

調査番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	土師器	A [13.6] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は内凹しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外側口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物 暗褐色、普通	P2632 5%
2	須恵器	B (1.3) C 7.0	底部片。平底。	底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石・石英・針状結晶物 灰オリーブ色 普通	P2633 5% 底部ヘラ記号

### 第941号土坑（第477図）

位置 調査5区の南東部、G5c5区。

規模と平面形 南西部の上面が擾乱されているが、長径1.68m、推定の短径1.62mの円形と考えられ、深さは76cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 7層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

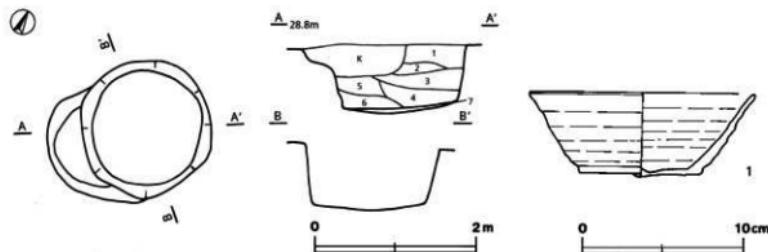
## 土層解説

1 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・灰化物・鹿沼バミス粒子微量	4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
2 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子少量

7 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量

遺物 繩文土器片5点、土師器片6点、須恵器片9点が出土している。うち須恵器1点を抽出・図示した。第477図1の須恵器は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第477図 第941号土坑・出土遺物実測図

第941号土坑出土遺物観察表

因縁番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第477図 1	須恵器	A 14.0 B 5.0 C 7.7	底部から口縁部。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体内部・外面ロクロナギ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状結晶物 灰淡黄色、普通	P2634 55% PL68

第943号土坑（第478・479図）

位置 調査5区の南東部、G5e7区。

規模と平面形 確認面は長径1.30m、短径1.24mの円形で、北壁が約10cmほど掘り込まれてオーバーハングしている。深さは45cmである。

壁 北壁がオーバーハングしている以外は、外傾して立ち上がる。

底面 凸凹である。

覆土 3層に分層される。第2層が厚さの8割近くを占める同一質の暗褐色土層であり、一挙に埋め戻されたものと思われる。

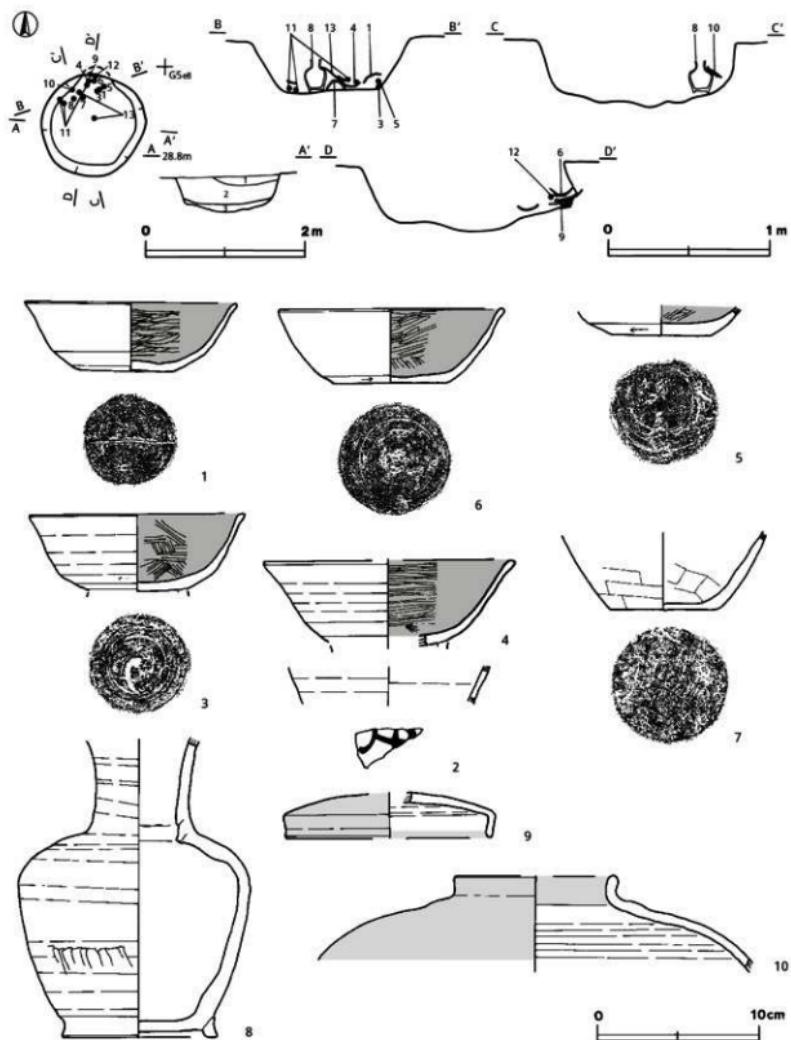
## 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	3 黒褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量		

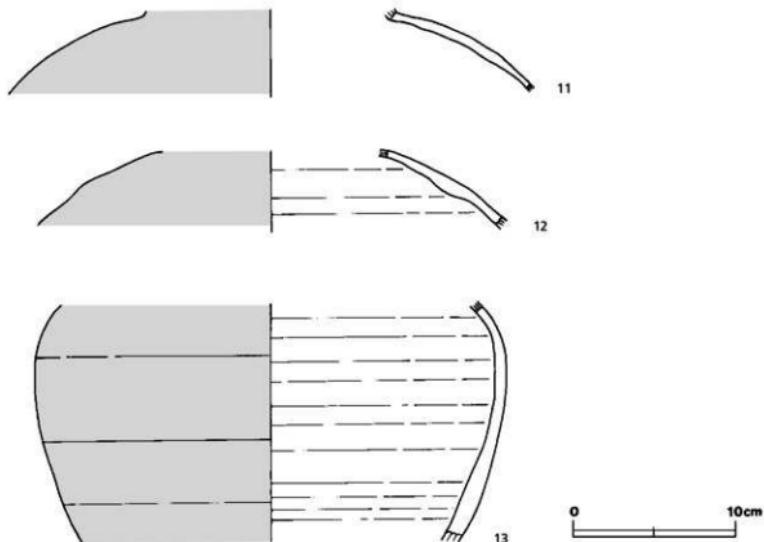
遺物 土師器片8点、須恵器片3点、灰釉陶器片5点が出土している。うち土師器6点、須恵器2点、灰釉陶器片5点を抽出・図示した。第478図1・2・5・6の土師器片、7の土師器甕、8の須恵器長頸瓶、9の灰釉陶器蓋、10~12の灰釉陶器短頸壺の口縁部から体部は、いずれもオーバーハングしている北壁際及び北壁寄りの覆土中層からまとめて出土している。8の須恵器長頸瓶は第3層の上面から北西壁寄りに正位で置かれたような状態で、また、北壁際の底面から9の灰釉陶器蓋を一番下に、12の灰釉陶器体部片及び6の土師器片が重なった状態で出土している。1・2・5・6の土師器片、7の土師器甕、9~12の灰釉陶器片は北壁寄

りから、それぞれ逆位・斜位・正位と流れ込んだ状態で出土している。2の墨書きされた須恵器杯体部片は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。遺物の出土状況などから墓壙の可能性も考えられるが、その詳しい性格については不明である。



第478図 第943号土坑・出土遺物実測図



第479図 第943号土坑出土遺物実測図

第943号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 1	環土師器	A 132 B 42 C 57	底部から口縁部片。平底。体部は内側しながら外側して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面クロナダ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 2635 65% PL68 底部へラ記号
2	環須恵器	B (2.4)	体部片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内外・外面クロナダ。	長石・石英 灰色 普通	P 2641 5% PL72 体部外面墨書き 横位「在」力
3	高台付環土師器	A 132 B (4.7)	底部から口縁部片。平底。高台剥離。体部は内側ながら外側して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面クロナダ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状結物 にぶい褐色、普通	P 2636 60% PL68
4	高台付環土師器	A [15.4] B (5.8)	底部から口縁部片。平底。高台剥離。体部は内側ながら外側して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面クロナダ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P 2637 15%
5	環土師器	B (1.8) C 60	底部から体部片。平底。体部は内側して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面クロナダ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状結物 にぶい褐色、普通	P 2638 40%
6	環土師器	A 13.6 B 4.6 C 7.0	底部から口縁部片。平底。体部は内側ながら外側して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面クロナダ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状結物 にぶい黄褐色 普通	P 2639 100% PL68
7	環土師器	B (4.7) C 67	底部から体部下端の破片。平底。体部は外側して立ち上がる。	体部内面下端へラ磨き、体部外面下端横位のへラ削り。底部へラ削り。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 2640 20%
8	長縄須恵器	B (18.4) D 9.4 E 1.3	口縁部一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は外側して立ち上がり、縁部に至る。縁部はわずかに外反する。	縁部及び体部内面クロナダ。外面クロナダ後、体部下位に縫合のへラナダ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P 2642 90% PL67

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 9	蓋 灰陶瓦器	A [12.8] B (2.8)	天井部から口縁部片。天井部は丸味を持つ。口縁部は屈曲し、端部は垂下する。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面及び口縁部内・外面施輪。	長石 外面浅黄色、内面黄褐色、良好	P2643 40% 黒笠14号窯式期
10	短頭壺 灰陶瓦器	A [5.8] B (5.8)	体部から口縁部片。体部は内側して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	体部及び口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面及び口縁部内・外面施輪。	長石 外面オリーブ黄色 内面灰白色、良好	P2644 10% PL68 黒笠90号窯式期
第479図 11	短頭壺 灰陶瓦器	B (5.3)	体部片。体部は内側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外 面施輪。	長石・石英 外面オリーブ黄色 内面灰白色、良好	P2645 10% 黒笠90号窯式期
12	短頭壺 灰陶瓦器	B (5.0)	体部片。体部は内側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外 面施輪。	長石 外面灰オリーブ色 内面灰黄色、良好	P2646 5% 黒笠90号窯式期
13	短頭壺 灰陶瓦器	B (14.7)	体部片。体部は内側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外 面施輪。	長石・石英 外面オリーブ黄色 内面灰白色、良好	P2647 15% 黒笠90号窯式期

#### 第945号土坑（第480図）

位置 調査5区の西部, G5f5区。

重複関係 第138号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.83m, 短径1.28mの梢円形で、深さは54cmである。

主軸方向 N-28°-W

壁 直立する。

底面 ほぼ平坦である。

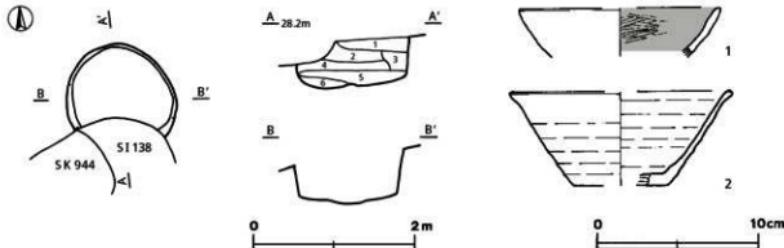
覆土 6層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

- |            |                            |       |                 |
|------------|----------------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色      | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム中プロック、  | 4 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量 |
| ローム小プロック微量 |                            | 5 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色      | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム小プロック微量 | 6 黒色  | 鹿沼バミス粒子微量       |
| 量          |                            |       |                 |
| 3 極暗褐色     | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム大プロック、  |       |                 |
|            | ローム中プロック、ローム小プロック微量        |       |                 |

遺物 繩文土器片2点、土師器片5点、須恵器片3点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片1点を抽出・図示した。第480図1の土師器片、2の須恵器片は、ともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第480図 第945号土坑・出土遺物実測図

第945号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第480図 1	坏 土 師 器	A [12.2] B [3.0]	体部から口縁部片。体部はわずかに内寄しながら外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面クロナダ。内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物、ぶいり黄褐色、普通	P2649 10%
	須 惠 器	A [13.5] B 5.8 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面口クロナダ。底部調整不明。	長石・針状結晶物 灰色 普通	P2650 15%

## 第1714号土坑（第481図）

位置 調査2区の南部、F3b4区。

規模と平面形 長径2.35m、短径2.12mの楕円形で、深さは22cmである。

主軸方向 N-11°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

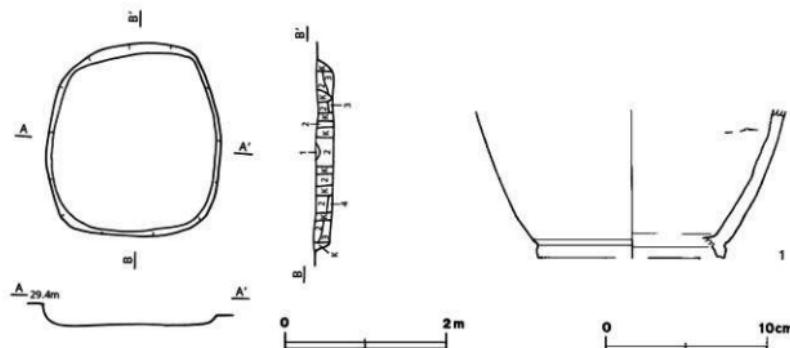
覆土 4層からなる。覆土が薄く、また、搅乱を多く受けているため、堆積状況は明確ではないが、各層にロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 黒褐色 ローム小プロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小プロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム小プロック・ローム粒子中量、ローム中プロック少	4 鎌褐色 ローム粒子多量、ローム小プロック少量、ローム大プロック・ローム中プロック微量

遺物 土師器6点、須恵器9点が出土している。うち須恵器1点を抽出・図示した。第481図1の須恵器長頸瓶は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から9世紀と考えられるが、性格については不明である。



第481図 第1714号土坑・出土遺物実測図

第1714号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 1	須 惠 器	B (9.1) D [11.4] C 8.4	高台から体部下位にかけての破片。高台はふんばる。体部は内寄気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナダ。高台貼り付け。底部調整不明。	礫・長石 にぶい赤褐色 普通	P7171 10%

### 第1894号土坑（第482図）

位置 調査2区の北部、D3c8区。

規模と平面形 長軸2.13m、短軸1.00mの隅丸長方形で、深さは11cmである。

主軸方向 N-40°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

覆土 2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

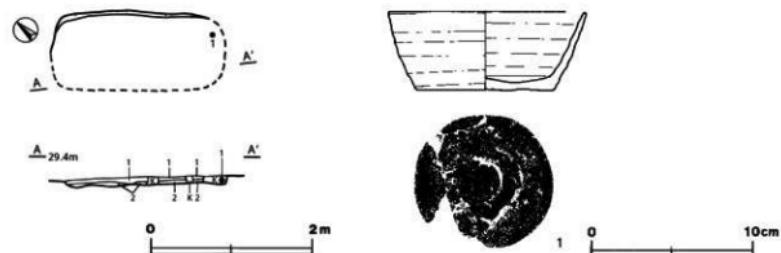
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 ローム小プロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 須恵器1点が出土している。第482図1の須恵器は、南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から8世紀後葉と考えられる。詳細な性格については不明であるが、遺構の形状と規模から土坑墓の可能性も考えられる。



第482図 第1894号土坑・出土遺物実測図

### 第1894号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 1	須恵器	A [12.0] B 48 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナズ。底部回転ヘラ切り後、ナヂ。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P7172 55% PL68

### 表4 奈良・平安時代土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規格		裏面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
762	H2b0	-	円形	1.26×1.22	28	外傾	平坦	人為	土師器片	
773	G4b1	-	円形	4.74×3.75	50	縦斜	凹凸	人為	土師器片、須恵器片、金屬製品	
823	H7a2	N-65°-E	椭円形	2.82×2.48	178	縦斜	皿状	人為	土師器片、須恵器片、金屬製品	SI103→本跡
824	G7b1	N-59°-E	不定形	3.55×3.35	180	縦斜	皿状	自然	土師器片、須恵器片、金屬製品	
825	F7e1	-	円形	1.8	78	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	SI104→本跡
851	H6e9	N-87°-W	椭円形	1.25×1.06	43	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
852	H6b8	N-40°-W	椭円形	1.43×1.15	40	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
853	H6b8	N-71°-E	椭円形	1.50×1.23	45	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片	
854	H6e7	N-57°-E	椭円形	1.54×1.32	53	外傾	平坦	人為	土師器片、須恵器片、金屬製品	SI137→本跡
857	H6f7	N-45°-W	椭円形	1.85×1.65	37	縦斜	皿状	人為	土師器片、須恵器片、灰陶器	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 格		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
858	H6d7	-	円 形	1.40× 1.37	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI132+本跡
877	G6b5	-	円 形	1.22× 1.12	74	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器	
886	G6d6	N- 53°- W	椭 円 形	1.53× 1.30	26	外傾	平坦	-	土師器片	SB30と重複
891	G6d6	-	円 形	1.14	38	縦斜	平坦	自然	須恵器片	SI130-5KB90+本跡
893	G6f1	N- 39°- E	椭 円 形	1.34× 1.14	24	縦斜	平坦	-	土師器片, 須恵器片	SI134+本跡
898	H6c7	N- 40°- E	椭 円 形	2.11× 1.89	32	縦斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡-SK901
911	G5g5	-	円 形	1.28	37	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK912+本跡
920	H7a5	N- 75°- E	椭 円 形	1.20× 0.85	57	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
929	G5c5	N- 50°- E	不 定 形	1.52× 1.18	42	縦斜	隆状	自然	土師器片, 須恵器片	
940	G5c5	N- 60°- E	椭 円 形	1.50× 1.30	60	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
941	G5c5	-	円 形	1.68× 1.62	76	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
943	G5e7	-	円 形	1.30× 1.24	45	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器	
945	G5f5	N- 28°- W	椭 円 形	1.83× 1.28	54	直立	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
1714	F3b4	N- 11°- W	椭 円 形	2.35× 2.12	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
1894	D3b8	N- 40°- W	圓丸長方形	2.13× 1.00	11	外傾	凹凸	不明	須恵器片	

## 6 粘土採掘坑

今回の調査で、5基の粘土採掘坑が調査4区の南部にまとまって検出されている。いずれも粘土層を掘り込んでいる。以下、検出された粘土採掘坑について記載する。

### 第1号粘土採掘坑（第483図）

位置 調査4区の南部, H4e5区。

規模と平面形 長軸3.44m, 短軸2.03mの不整長方形で、深さは37cmである。

主軸方向 N- 5° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 全体的にはほぼ平坦であるが、東壁寄りの一部が凹凸である。

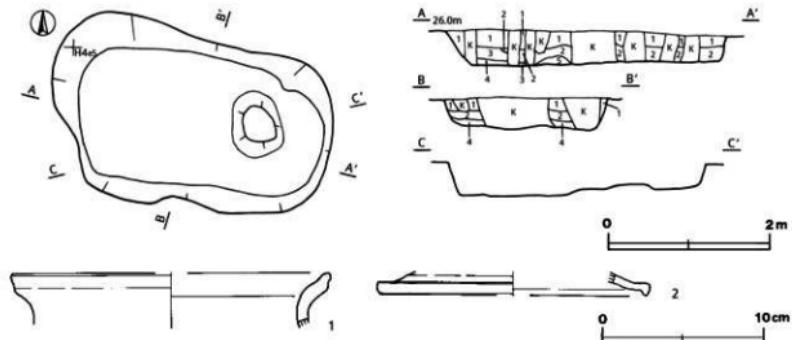
覆土 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子多量、燒土粒子少量、ローム中ブロック・ロー ム小ブロック・燒土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土大ブロック少量、 燒土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量、燒土 小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	5	暗褐色	粘土中ブロック・粘土小ブロック中量、ローム粒子少量、 燒土小ブロック・炭化物微量
3	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・粘土中ブ ロック・粘土小ブロック少量			

遺物 繩文土器片2点、土師器片13点、須恵器片4点が出土している。うち、土師器片1点、須恵器片1点を抽出・図示した。第483図1の土師器甕、2の須恵器蓋は、それぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる土器が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第483図 第1号粘土探掘坑・出土遺物実測図

第1号粘土探掘坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第483図 1	裏 土 師 器	A [19.4] B (3.4)	口縁部片。口縁部は外反し、端部 はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P2566 5%
2	蓋 須 恵 器	A [16.4] B (1.4)	口縁部片。口縁端部は屈曲し、短 く垂下する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P2567 5%

第2号粘土探掘坑（第484図）

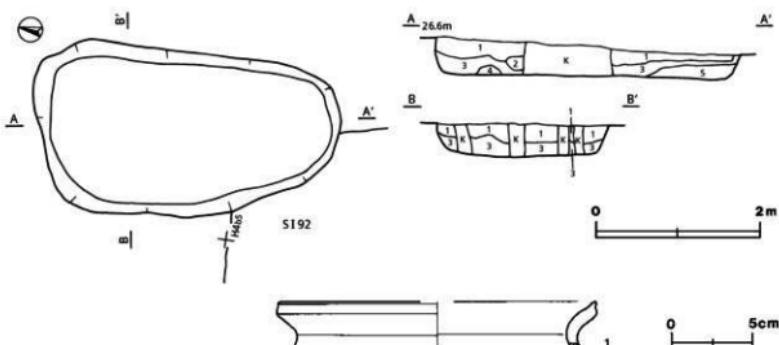
位置 調査4区の南部、H4a5区。

主軸方向 N - 8° - W

規模と平面形 長径3.70m、短径2.04mの不整橢円形で、深さは44cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。



第484図 第2号粘土探掘坑・出土遺物実測図

**覆土** 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                           |          |                      |
|-------|---------------------------|----------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子微量     | 4 極端褐色   | 粘土小ブロック少量、ローム粒子・小石微量 |
| 2 赤褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 5 黑褐色    | 粘土中ブロック・粘土小ブロック微量    |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・燒土小ブロック | ク・燒土粒子微量 |                      |

**遺物** 繩文土器片12点、土師器片34点、須恵器片16点が出土している。うち、土師器片1点を抽出・図示した。

第484図の土師器甕は、覆土中から出土している。

**所見** 時期は平安時代（9世紀）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。

**第2号粘土探査坑出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第484図 1	土師器	A [19.4] B (29)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナギ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P2568 5%

**第3号粘土探査坑（第485図）**

**位置** 調査4区の南部、H4d6区。

**規模と平面形** 長径3.02m、短径2.62mの梢円形で、深さは46cmである。

**主軸方向** N - 8° - E

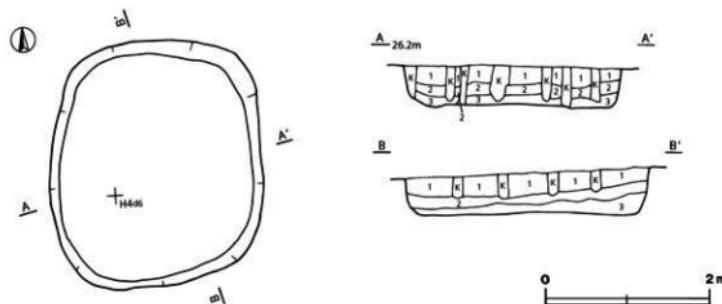
**壁** 外傾して立ち上がる。

**底面** ほぼ平坦である。

**覆土** 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・燒土小ブロック少量、炭化粒子微量             | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、燒土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック微量 |
| 2 赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子・粘土小ブロック少量、燒土小ブロック・炭化物微量 |       |  |



第485図 第3号粘土探査坑実測図

**遺物** 繩文土器片25点、土師器片44点、須恵器片19点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、内面黒色処理された土師器片が出土している。

**所見** 出土土器が細片であり正確な時期は不明であるが、内面黒色処理された土師器坏片が出土していることから平安時代（9世紀）ごろまでは採掘されていた可能性が考えられる。

#### 第4号粘土探掘坑（第486・487図）

**位置** 調査4区の南部、H4c3区。

**規模と平面形** 長径5.68m、短径3.81mの椭円形で、深さは41cmである。

**主軸方向** N-4°-E

**壁** 外傾して立ち上がる。

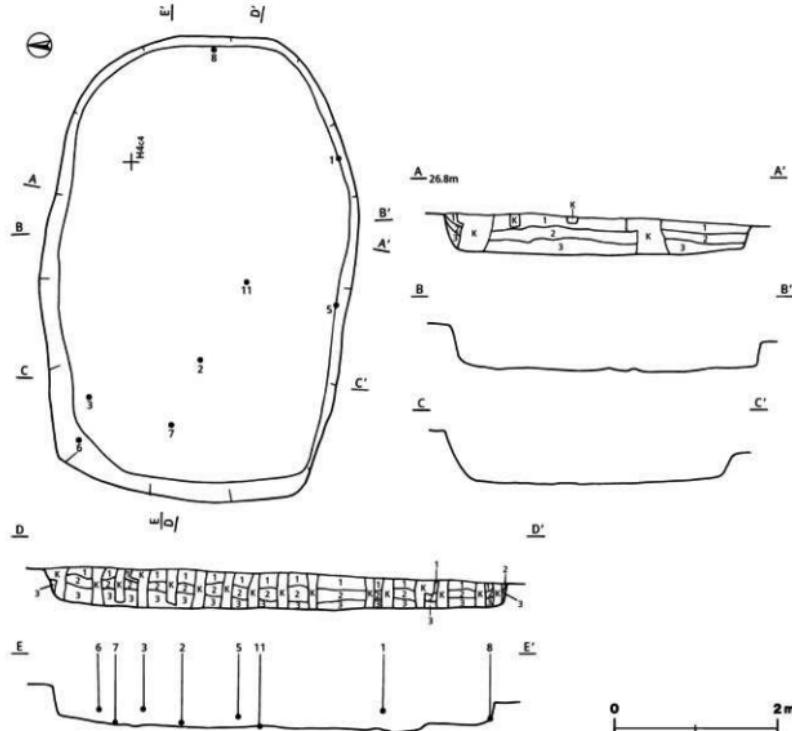
**底面** ほぼ平坦である。

**覆土** 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

1 暗色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量  
2 赤褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック  
ケ・焼土粒子・炭化粒子微量

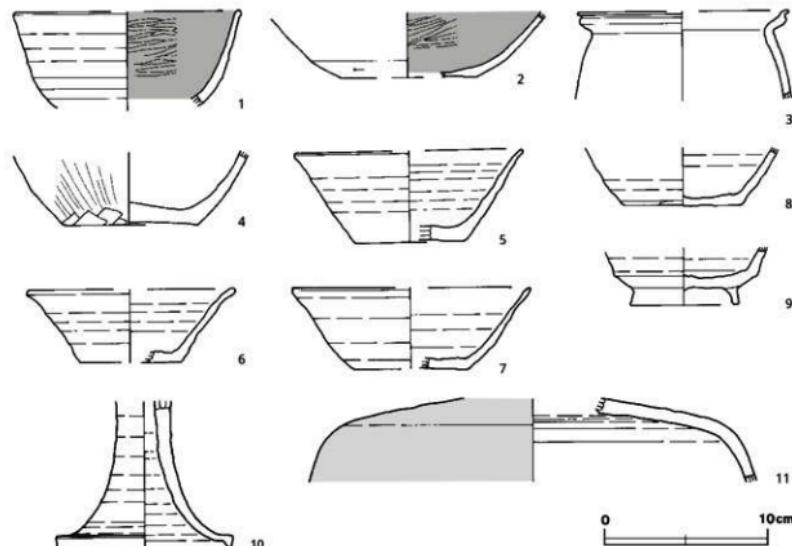
3 暗色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量



第486図 第4号粘土探掘坑実測図

遺物 繩文土器片4点、土師器片95点、須恵器片64点、灰釉陶器片1点が出土している。うち、土師器4点、須恵器6点、灰釉陶器片1点を抽出・図示した。第487図4の土師器甕、9の須恵器高台付杯、10の須恵器高盤は、それぞれ覆土中から出土している。1の土師器甕は、南東壁際の覆土中層から出土している。2の土師器甕は中央部、3の土師器甕・6の須恵器甕は北西壁際、5の須恵器甕は南壁際、8の須恵器甕は東壁際から、それぞれ覆土下層から出土している。7の須恵器甕は西壁寄り、11の灰釉陶器甕は中央部よりやや南壁寄りの、それっぽく床面から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀中葉）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第487図 第4号粘土探査坑出土遺物実測図

第4号粘土探査坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第487図 1	土師器	A [13.8] B [5.8]	体部から口縁部片。体部は内側しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面クロナヂ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P2573 15%
2	土師器	B [4.0] C [8.4]	底面から体部片。体部は内側しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面クロナヂ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2574 20%
3	小形土師器	A [12.8] B [5.4]	体部から口縁部片。体部は内側して裏面に至る。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナヂ。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P2575 10%
4	土師器	B [45] C [8.2]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面底位のヘラナヂ、体部下端位のヘラ削り。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P2576 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成 物	備考
第487図 5	坏須恵器	A [14.0] B 5.7 C [6.6]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・針状結晶物 灰色、普通	P2577 40%
6	坏須恵器	A [12.6] B 4.5 C [6.2]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状結晶物 灰黄色、普通	P2578 30%
7	坏須恵器	A [14.5] B 5.0 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P2579 40%
8	坏須恵器	B (35) C 7.2	底部から体部片。平底。体部は外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状結晶物 灰黄色、普通	P2580 40%
9	高台付坏須恵器	B (35) D 6.6 E 1.1	底部から体部片。平底。高台は八の字形に聞く。体部は外側して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄色 褐色 普通	P2581 30% 底部ヘラ記号
10	高脚盤 須恵器	B (9.1) D 10.6	脚部片。脚部はラッパ状に聞く。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・針状結晶物 灰色、普通	P2582 30%
11	長脚瓶 灰釉陶器	B (5.0)	体部上位の破片。体部上位は内壁気味に立ち上がり、屈曲してながらに内傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面施釉。	長石 にぶい黄色 良好	P2583 5% 黒笠14号~90号窯式期

### 第5号粘土探掘坑（第488・489図）

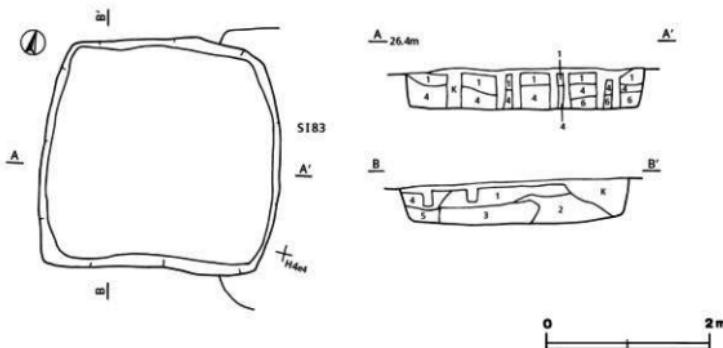
位置 調査4区の南部, H4d3区。

規模と平面形 長軸2.89m, 短軸2.71mの方形で, 深さは55cmである。

主軸方向 N - 9° - W

壁 直立する。

底面 ほぼ平坦である。



第488図 第5号粘土探掘坑実測図

覆土 6層に分層され, 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

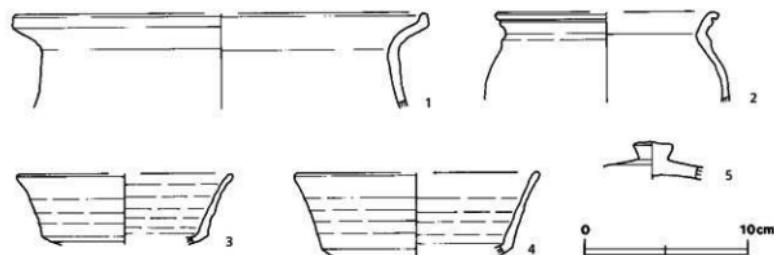
1. 極暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量

2. 極暗褐色 硫化粒子・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量

3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量  
4 にぶい黄褐色 粘土粒子多量・粘土中ブロック少量・粘土小ブロック微量

**遺物** 繩文土器片45点、土師器片43点、須恵器片58点が出土している。うち、土師器2点、須恵器3点を抽出・図示した。第489図1の土師器壺、2の土師器小形壺、3・4の須恵器高台付壺、5の須恵器蓋は、それぞれ覆土中から出土している。

**所見** 時期は平安時代（9世紀）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていてものと考えられる。



第489図 第5号粘土探査坑実測図

第5号粘土探査坑出土遺物観察表

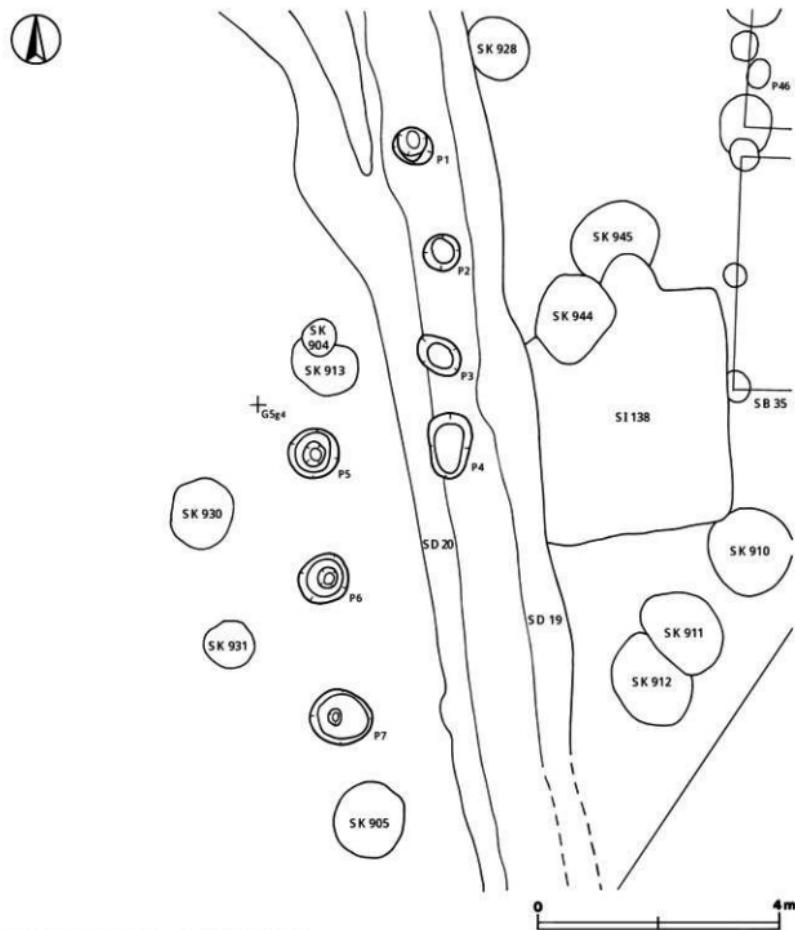
因版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第489図 1	土師器	A [25.0] B [5.8]	口縁部。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P2584 5%
2	小形土師器	A [13.3] B [5.5]	体部から口縁部。体部は内壁気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P2585 5%
3	高台付壺 須恵器	A [13.2] B [4.3]	体部から口縁部。体部は外傾立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P2586 15%
4	高台付壺 須恵器	A [14.8] B [5.1]	体部から口縁部。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P2587 10%
5	蓋 須恵器	B [2.4] F 1.2 G 1.2	天井部。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口クロナデ。外面回転 ヘラ削り。	長石・石英 褐色 普通	P2588 10%

表5 粘土探査坑一覧表

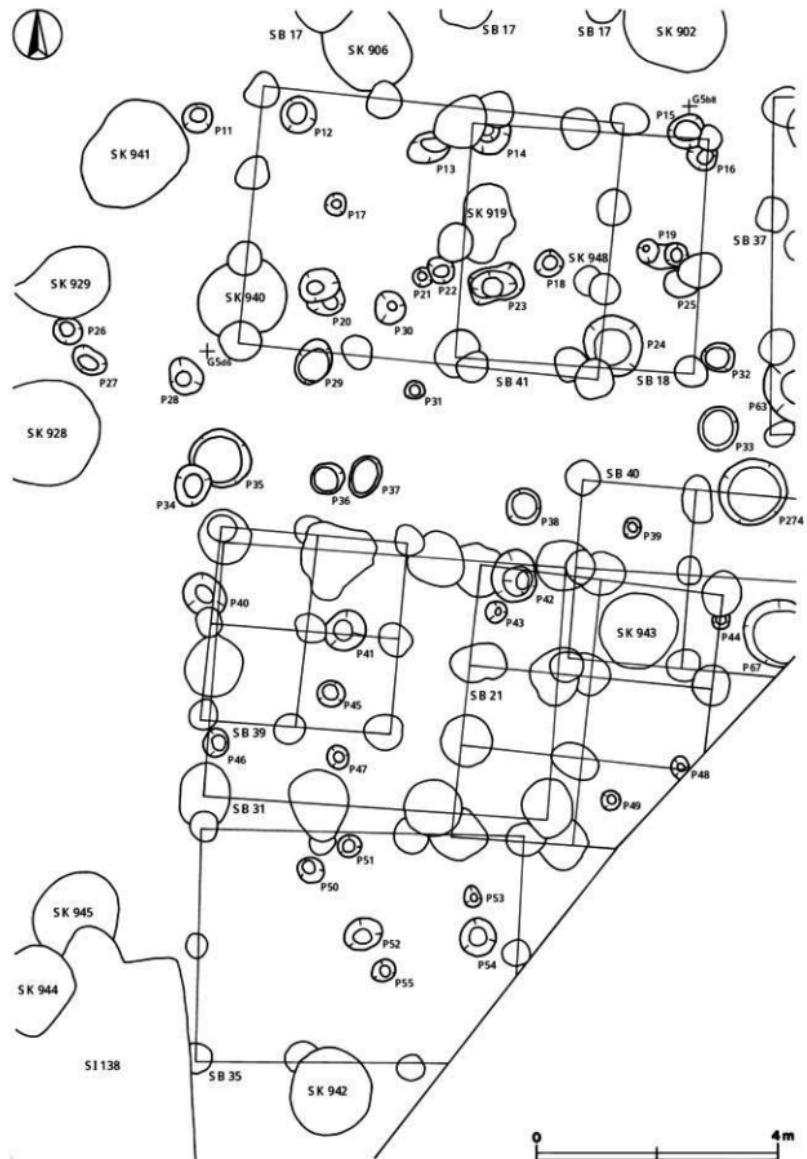
土坑 番号	位置 (標軸方向)	平面上形	規格		裏面	底面	覆土	出土遺物	備考
			長径(m)	深さ(cm)					
1	H4e5	N- 5°- E 不整長方形	3.44× 2.03	37	外傾	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK4006
2	H4e5	N- B°- W 不整横円形	3.70× 2.04	44	外傾	平坦	人為	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK4007
3	H4c6	N- B°- E 横円形	3.02× 2.26	46	外傾	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK4033
4	H4c3	N- 4°- E 横円形	5.68× 3.81	41	外傾	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片、灰陶陶片	SK4065
5	H4c3	N- 9°- W 方形	2.71× 2.89	55	垂直	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK4066

## 7 ピット群

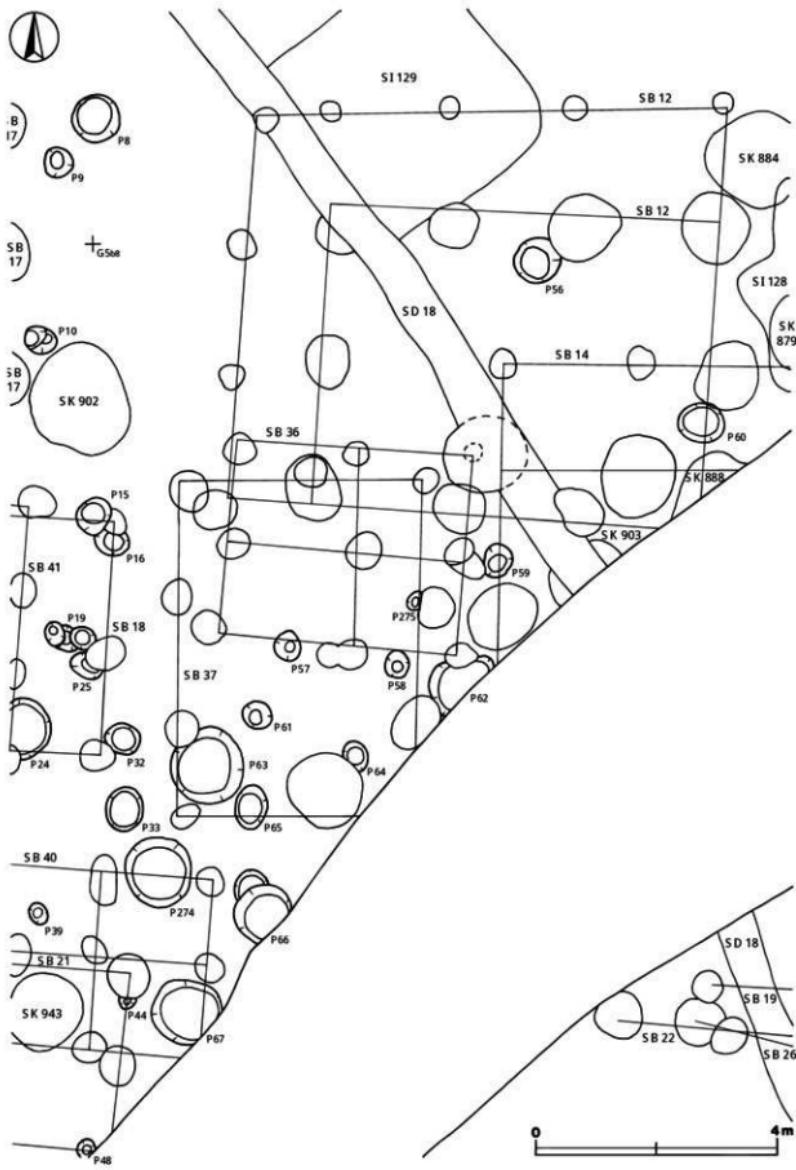
今回の調査で、規模及び形状から柱穴と考えられるピットが346基が検出された。そのうち、3区・5区に集中的に検出され、掘立柱建物跡として復元できなかった322基を、それぞれ、5区を第1号ピット群、3区を第2号ピット群として、一覧表にまとめる。



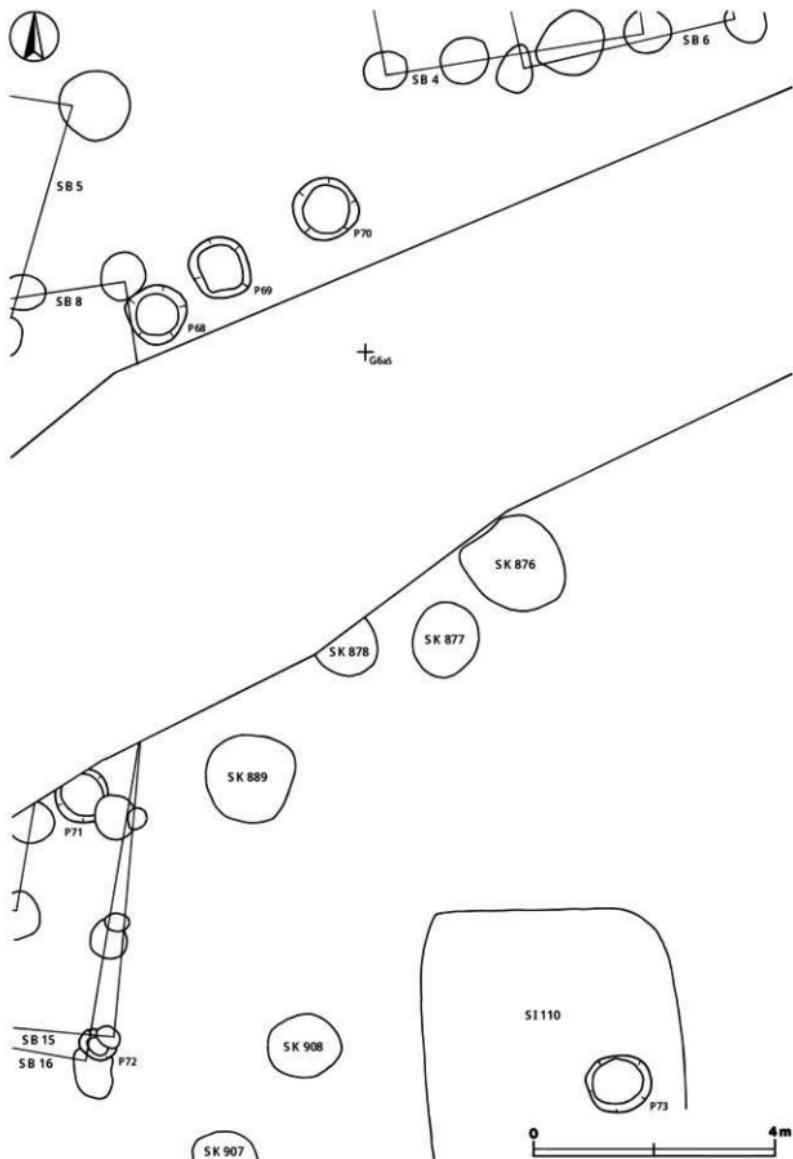
第490図 第1号ピット群実測図(1)



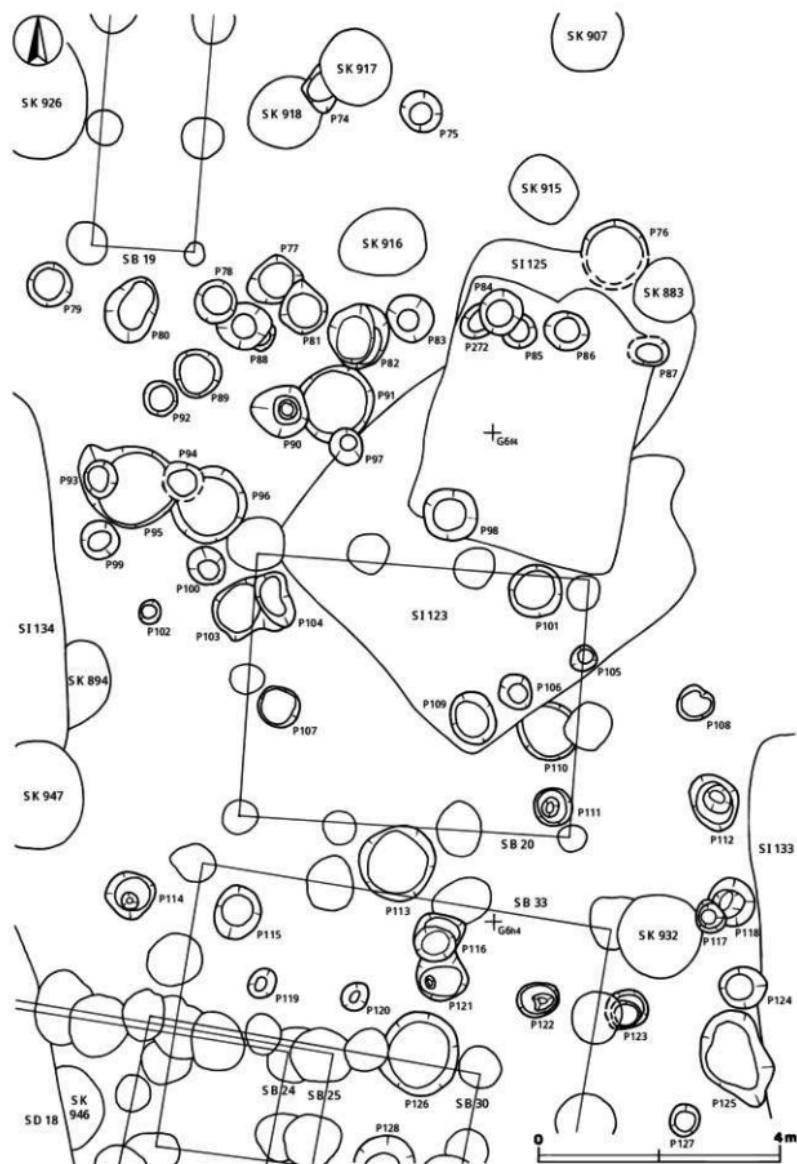
第491図 第1号ピット群実測図(2)



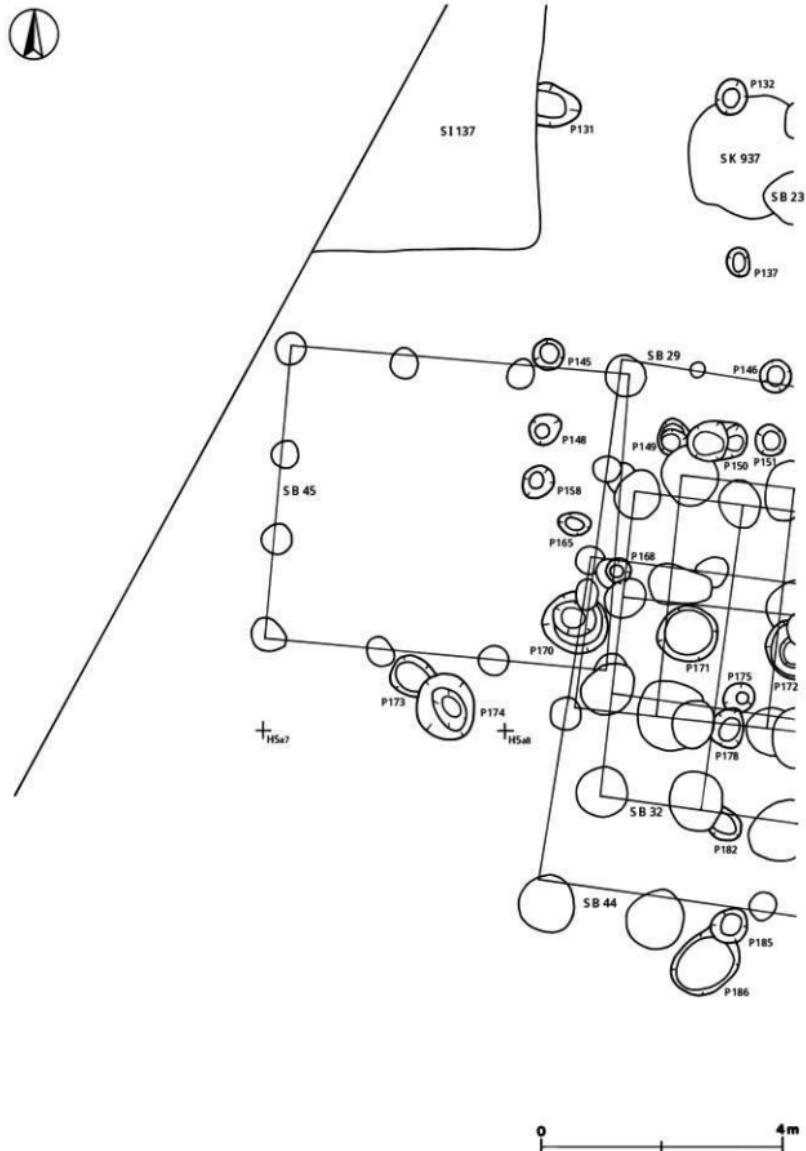
第492図 第1号ピット群実測図(3)



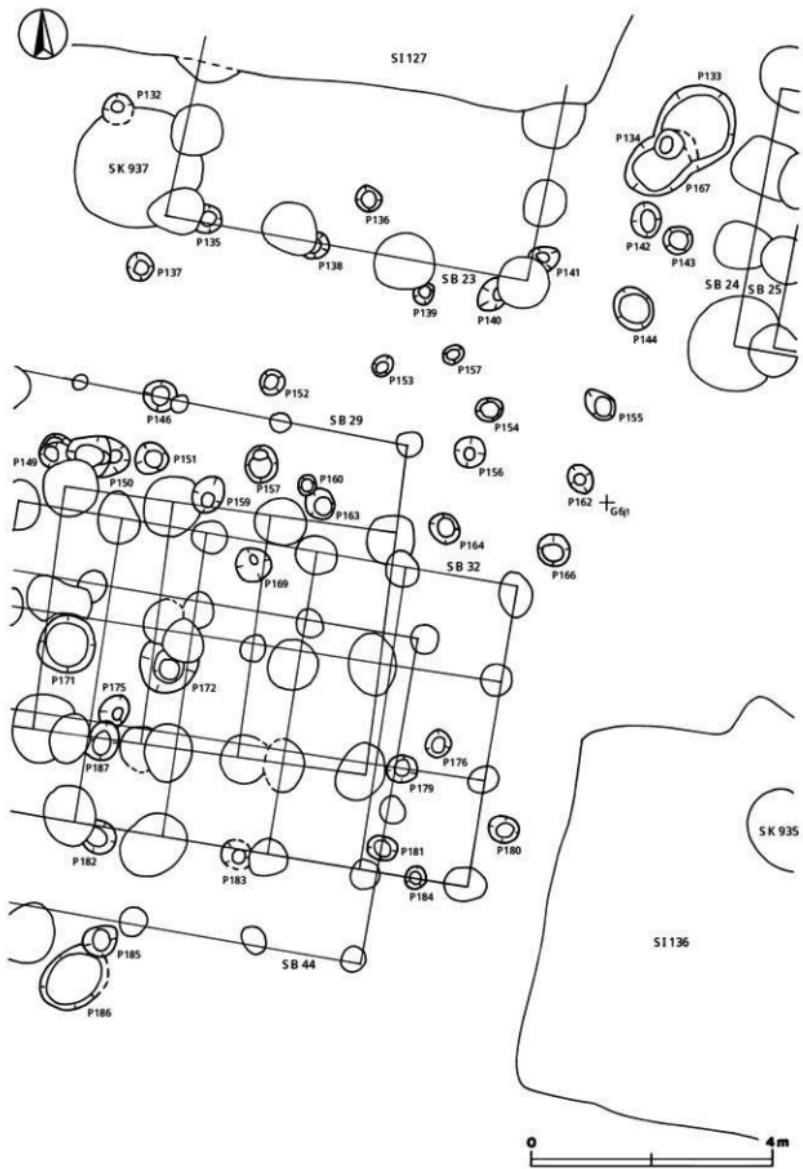
第493図 第1号ピット群実測図(4)



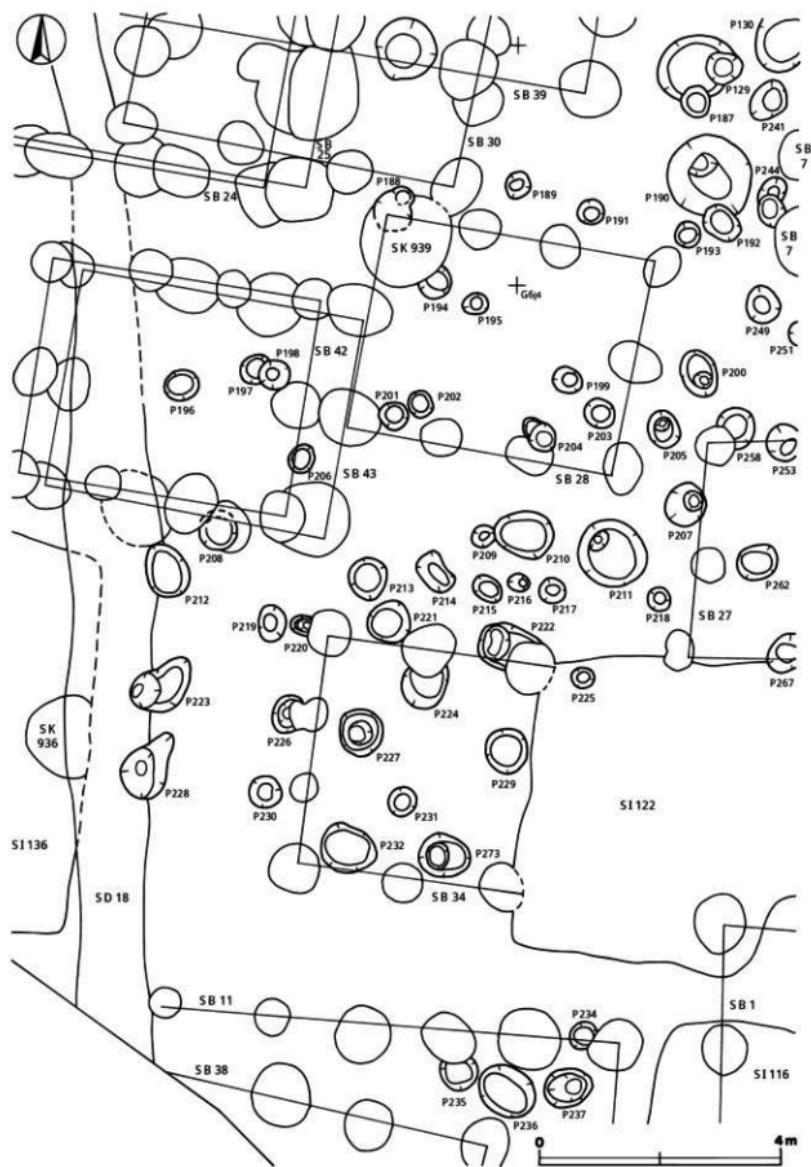
第494図 第1号ピット群実測図(5)



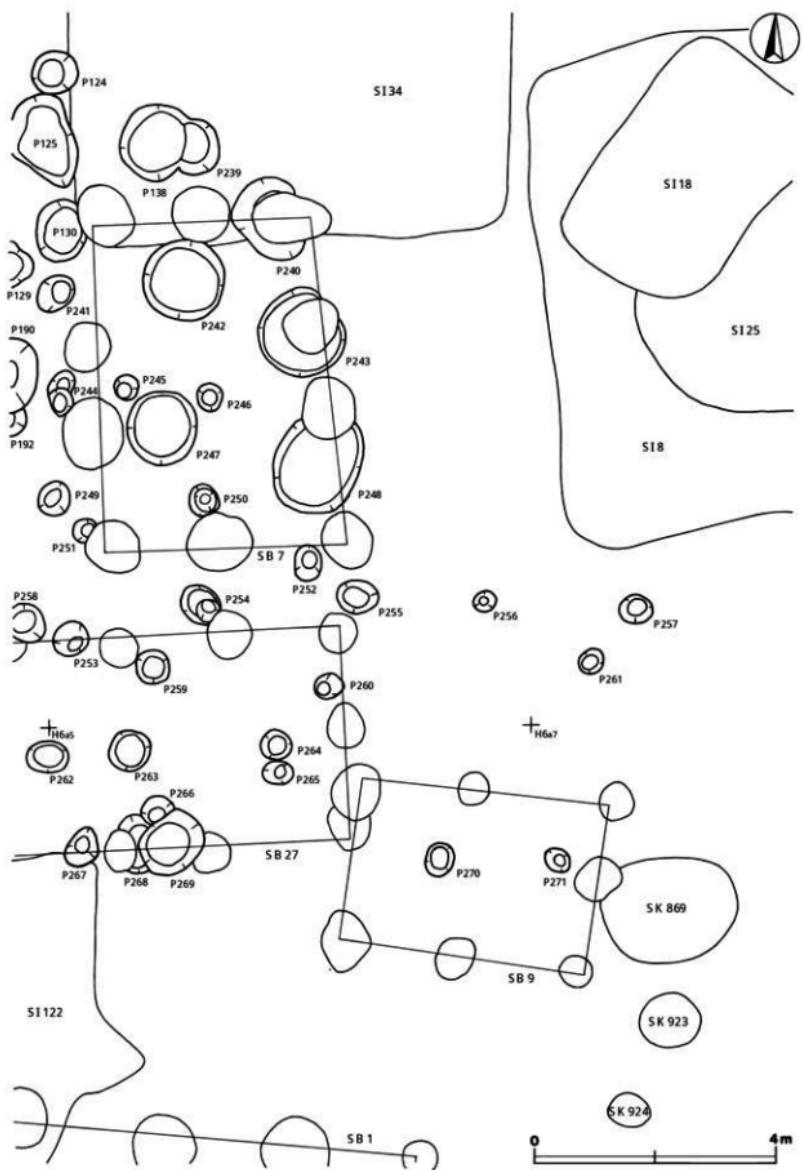
第495図 第1号ピット群実測図(6)



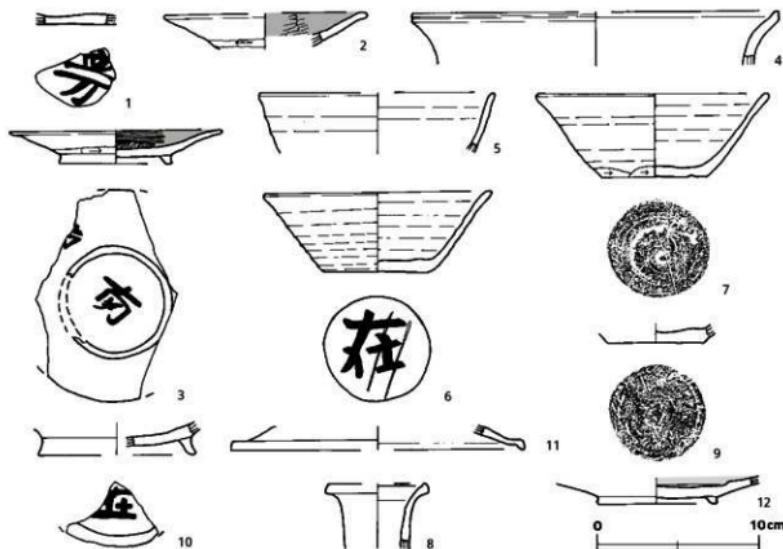
第496図 第1号ピット群実測図(7)



第497図 第1号ビット群実測図(8)



第498図 第1号ピット群実測図(9)



第499図 第1号ピット群出土遺物実測図

第63号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 1	坏 土 試 器	B (0.6) C (4.9)	底部片。平底。	底部内面へラ磨き、外面へラ削り。 内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物、 にぶい黄褐色 普通	P 2651 5% PL73 底部墨書き「益万」

第237号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 2	皿 土 試 器	A [12.4] B (2.1)	体部から口縁部片。体部はわずかに内側しながら開く。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外 面口クロナデ。内面黒色処理。	石英・針状結晶物 にぶい褐色 普通	P 2648 5%

第76号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 3	高台付皿 土 試 器	A 13.0 B 2.1 C 1.8 D 6.8 E 0.6	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して大きく開き、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。体部下側及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物 にぶい黄褐色 普通	P 2654 60% PL 68-74 底部墨書き「南」体部外面墨書き「南」力

第270号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 4	便 土 試 器	A [22.2] B (3.3)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外側横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 2655 5%

第 123 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 5	环 須 恵 器	A [142] B (3.7) C	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口クロナヂ。	長石・石英・針状結晶 灰色、普通	P2661 5%

第 264 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 6	环 須 恵 器	A 13.8 B 5.0 C 6.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び底部内・外面口クロナヂ。 底部回転ヘラ切り。	礫・長石 灰黄褐色 普通	P2652 95% PL68-72 底部墨書き「在」 底部ヘラ記号

第 67 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 7	环 須 恵 器	A 14.0 B 5.2 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口クロナヂ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P2659 90% 底部ヘラ記号
8	長 總 瓶 須 恵 器	A [6.0] B (4.0)	頸部から口縁部片。頸部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	頸部及び口縁部内・外面口クロナヂ。	長石 灰色 普通	P2660 5%

第 87 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 9	环 須 恵 器	B (1.2) C 6.0	底部片。平底。	底部内面口クロナヂ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・針状結晶 灰白色 普通	P2653 10% 底部ヘラ記号

第 38 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 10	高 台 付 环 須 恵 器	B (2.0) D [9.6] E 1.1	底部片。平底。高台はハの字状に開く。	底部及び体部内・外面口クロナヂ。 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P2656 10% PL72 底部墨書き「在」

第 115 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 11	董 須 恵 器	A [18.0] B (1.5)	口縁部片。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口クロナヂ。	長石・石英 黄灰色 普通	P2658 5%

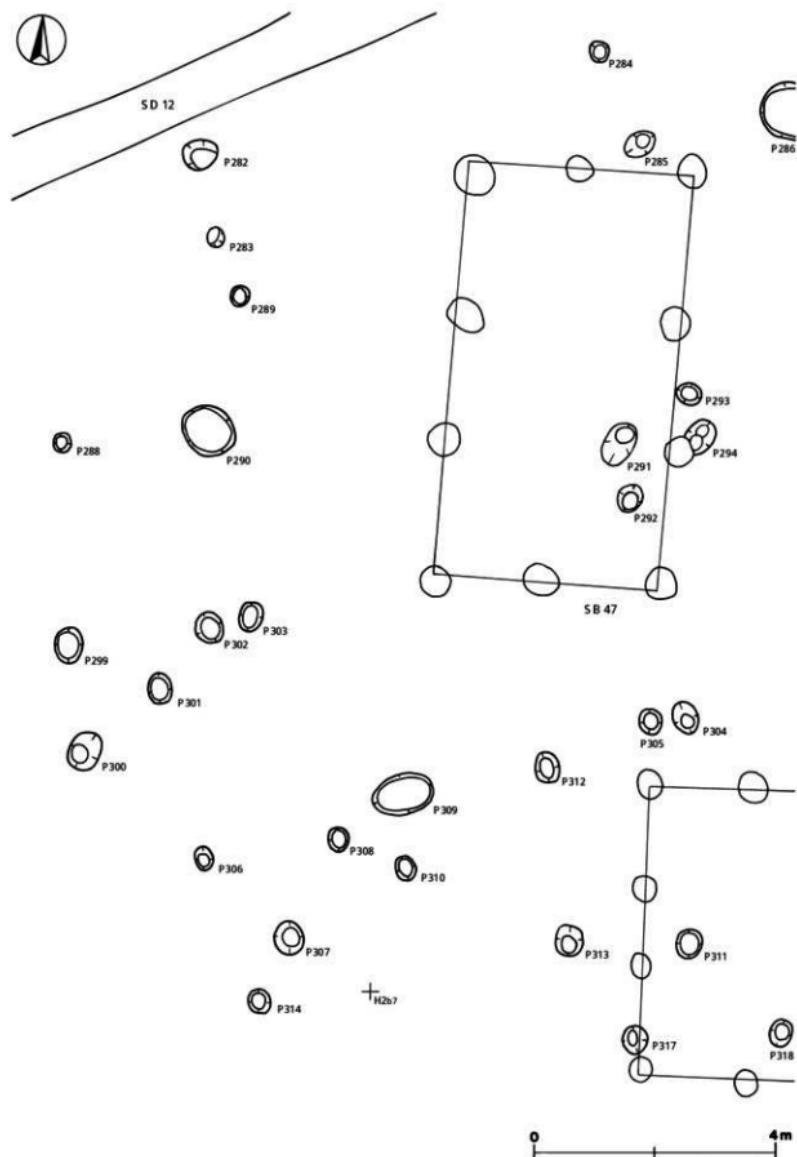
第 191 号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備考
第499図 12	段 盆 灰 稲 菓 器	B (1.7) D 7.2 E 0.5	底部から体部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は直線的に開き、体部内面に段を有する。	底部及び体部内・外面口クロナヂ。 高台貼り付け。底部及び体部内面施釉。	長石 内面灰オーリーブ色 外面灰黄色 普通	P2657 20% 黒窓14号窓式刷

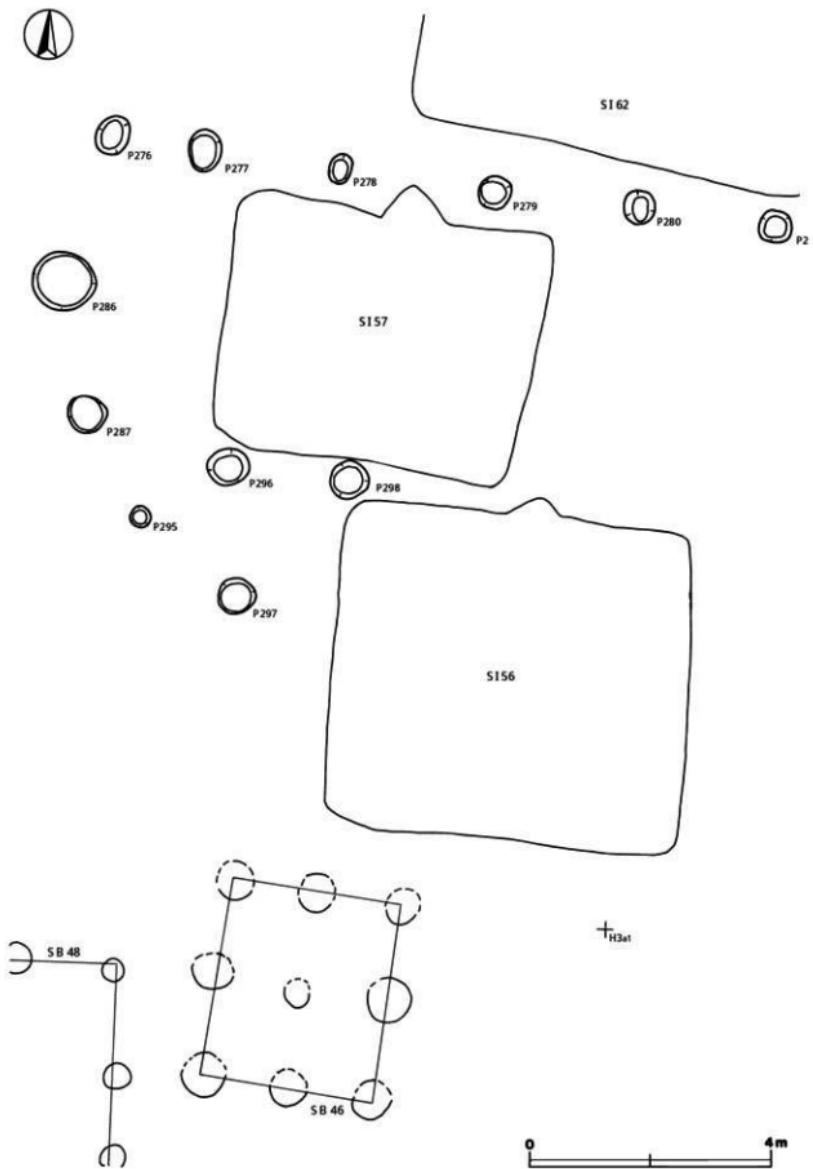
表6 第1号ビット群一覧表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	64	58	26	P 47	39	36	56	P 93	90	60	76
P 2	68	59	53	P 48	31	28	44	P 94	[72]	[70]	48
P 3	80	62	41	P 49	34	32	52	P 95	(108)	140	22
P 4	107	71	40	P 50	47	46	19	P 96	127	120	22
P 5	79	78	55	P 51	42	40	30	P 97	[62]	[58]	36
P 6	85	76	36	P 52	63	27	20	P 98	93	64	62
P 7	100	90	44	P 53	37	30	42	P 99	67	60	19
P 8	82	78	48	P 54	62	53	22	P 100	62	60	16
P 9	52	48	54	P 55	38	34	21	P 101	84	82	28
P 10	56	48	48	P 56	75	70	27	P 102	38	38	12
P 11	52	48	54	P 57	46	45	47	P 103	86	(75)	12
P 12	60	60	58	P 58	46	42	57	P 104	92	58	31
P 13	(76)	55	27	P 59	(50)	52	30	P 105	40	42	18
P 14	[76]	[70]	86	P 60	82	73	55	P 106	60	53	33
P 15	(54)	60	54	P 61	49	48	27	P 107	72	62	26
P 16	(42)	50	52	P 62	98	(76)	48	P 108	60	58	31
P 17	41	38	26	P 63	124	122	34	P 109	94	74	43
P 18	46	45	36	P 64	46	(40)	40	P 110	96	94	8
P 19	90	44	40	P 65	72	60	12	P 111	64	60	56
P 20	80	64	72	P 66	96	83	33	P 112	95	78	34
P 21	40	32	30	P 67	114	96	46	P 113	123	112	52
P 22	50	44	22	P 68	98	98	39	P 114	78	78	56
P 23	92	60	44	P 69	97	90	50	P 115	88	76	44
P 24	130	73	20	P 70	104	101	45	P 116	85	79	57
P 25	60	(24)	48	P 71	86	(66)	24	P 117	54	44	56
P 26	48	46	37	P 72	50	(30)	24	P 118	76	(57)	49
P 27	60	48	15	P 73	103	92	43	P 119	42	40	32
P 28	64	58	102	P 74	65	(36)	30	P 120	44	40	38
P 29	72	60	60	P 75	72	70	30	P 121	(84)	80	55
P 30	54	52	50	P 76	[160]	[110]	24	P 122	65	56	58
P 31	35	33	55	P 77	92	74	30	P 123	66	(66)	58
P 32	62	47	17	P 78	67	66	70	P 124	72	72	48
P 33	72	63	19	P 79	70	69	34	P 125	160	140	30
P 34	68	54	76	P 80	111	81	54	P 126	134	128	42
P 35	104	98	28	P 81	86	78	72	P 127	50	50	32
P 36	56	54	72	P 82	104	98	44	P 128	100	90	24
P 37	70	58	50	P 83	78	73	58	P 129	140	108	40
P 38	60	57	65	P 84	64	60	34	P 130	100	86	40
P 39	36	32	80	P 85	56	(29)	16	P 131	(68)	68	28
P 40	74	62	60	P 86	72	63	43	P 132	[45]	[40]	32
P 41	67	63	56	P 87	[72]	[44]	24	P 133	126	(82)	23
P 42	86	66	58	P 88	(80)	77	56	P 134	50	48	30
P 43	37	34	91	P 89	86	80	18	P 135	45	[45]	39
P 44	(20)	26	56	P 90	84	(62)	64	P 136	35	35	-
P 45	50	43	95	P 91	142	128	34	P 137	46	44	40
P 46	48	42	44	P 92	62	58	17	P 138	[46]	44	38

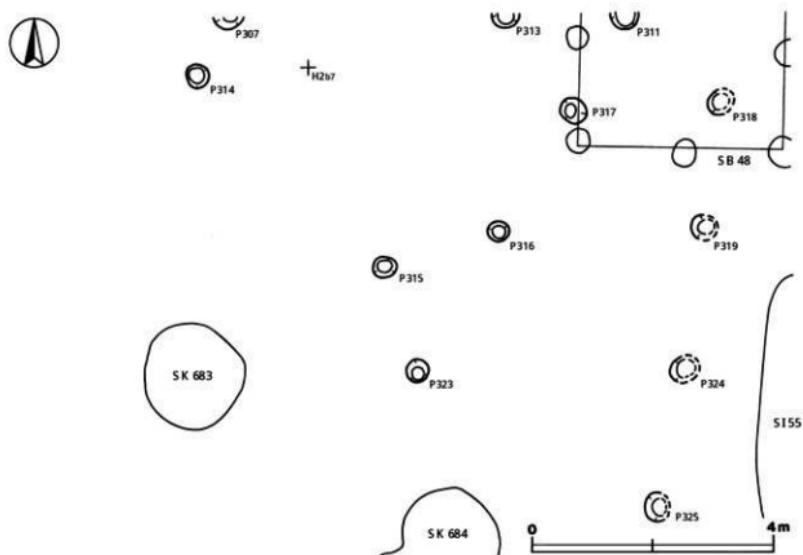
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P139	35	35	44	P186	118	90	28	P231	48	48	42
P140	(48)	44	38	P187	52	46	20	P232	94	74	60
P141	(44)	42	82	P188	42	[42]	32	P233	46	44	30
P142	51	44	26	P189	44	38	32	P234	42	(34)	46
P143	50	50	16	P190	134	130	48	P235	60	(46)	-
P144	70	64	28	P191	43	38	22	P236	98	74	24
P145	50	48	28	P192	(60)	50	36	P237	82	62	60
P146	48	48	27	P193	47	40	20	P238	156	124	36
P147	34	30	50	P194	50	(30)	22	P239	98	(56)	36
P148	52	44	46	P195	39	35	70	P241	72	58	56
P149	60	50	44	P196	60	52	12	P242	136	134	54
P150	96	66	20	P197	51	(32)	14	P243	132	130	52
P151	50	50	38	P198	52	46	18	P244	78	46	44
P152	42	42	28	P199	48	41	32	P245	44	42	12
P153	56	42	44	P200	74	60	48	P246	46	44	8
P154	44	44	44	P201	48	44	33	P247	118	114	60
P155	56	42	44	P202	46	42	36	P248	166	134	60
P156	60	56	30	P203	48	48	26	P249	56	54	32
P157	64	50	32	P204	66	42	-	P250	52	50	26
P158	52	46	26	P205	60	54	24	P251	42	(40)	40
P159	54	49	46	P206	46	43	24	P252	52	46	72
P160	34	30	44	P207	70	64	96	P253	56	56	30
P162	46	40	48	P208	[68]	[62]	34	P254	[70]	56	32
P163	50	48	48	P209	36	32	26	P255	66	50	26
P164	54	44	56	P210	88	62	40	P256	27	27	86
P165	48	36	30	P211	114	106	40	P257	52	48	62
P166	54	50	44	P212	80	60	26	P258	64	[64]	60
P167	[130]	96	20	P213	72	64	22	P259	59	58	20
P168	42	[38]	34	P214	54	38	16	P260	52	46	92
P169	58	50	38	P215	54	40	14	P261	44	42	32
P170	104	100	44	P216	32	30	24	P262	71	53	24
P171	100	92	52	P217	46	44	40	P263	73	68	34
P172	[96]	96	56	P218	38	34	82	P264	50	50	70
P173	(60)	62	16	P219	60	52	64	P265	50	40	56
P174	104	90	26	P220	32	(30)	68	P266	36	48	30
P175	56	48	50	P221	72	72	48	P267	36	36	34
P176	44	40	46	P222	(58)	74	40	P268	(50)	94	-
P178	58	54	18	P223	104	68	22	P269	128	114	54
P179	42	42	28	P224	(52)	76	18	P270	56	50	28
P180	50	44	26	P225	36	36	34	P271	48	38	48
P181	44	36	26	P226	60	[52]	60	P272	60	(38)	26
P182	(42)	42	-	P227	82	78	40	P273	86	70	28
P183	[52]	42	28	P228	108	60	26	P274	114	110	32
P184	36	36	46	P229	74	72	35	P275	34	(16)	-
P185	56	54	28	P230	54	52	30				



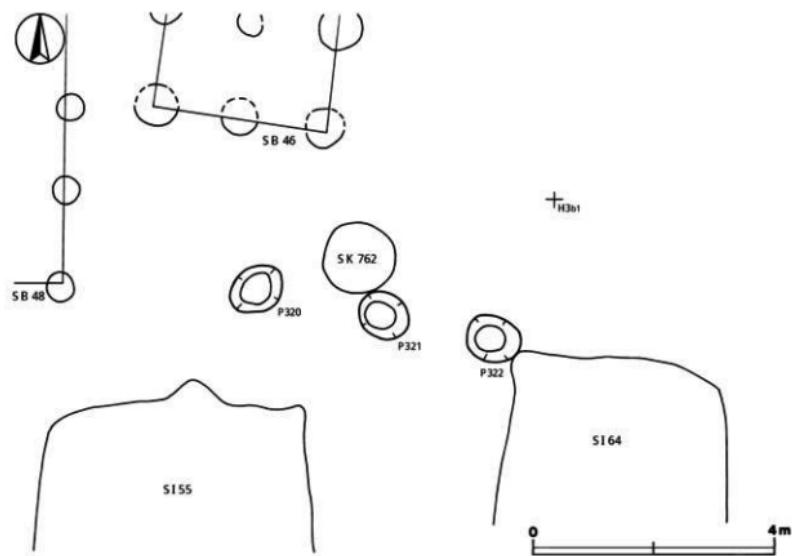
第500図 第2号ピット群実測図(1)



第501図 第2号ピット群実測図(2)



第502図 第2号ピット群実測図(3)



第503図 第2号ピット群実測図(4)

表7 第2号ピット群一覧表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 276	64	56	28	P 293	46	42	-	P 310	40	34	--
P 277	70	58	30	P 294	62	46	-	P 311	48	42	-
P 278	50	37	28	P 295	33	32	-	P 312	54	40	-
P 279	58	54	19	P 296	70	60	38	P 313	54	52	-
P 280	56	52	42	P 297	60	60	-	P 314	40	39	-
P 281	56	53	36	P 298	62	58	40	P 315	37	36	-
P 282	54	52	-	P 299	58	50	-	P 316	37	36	-
P 283	32	29	-	P 300	68	56	-	P 317	48	46	24
P 284	36	33	-	P 301	52	40	-	P 318	[44]	[40]	46
P 285	56	42	-	P 302	54	48	-	P 319	[44]	[42]	47
P 286	98	92	-	P 303	52	40	-	P 320	98	92	27
P 287	68	66	15	P 304	54	42	-	P 321	83	78	34
P 288	34	29	-	P 305	44	42	-	P 322	91	85	20
P 289	34	32	-	P 306	36	28	-	P 323	38	37	-
P 290	86	80	-	P 307	54	52	-	P 324	[46]	[42]	16
P 291	80	52	-	P 308	38	36	-	P 325	[46]	[40]	23
P 292	52	42	-	P 309	102	62	-				

## 8 遺物包含層

調査4区において、遺物包含層1か所を確認した。本跡は、周囲の台地上に調査2・3・5区が分布する埋没谷に堆積している遺物包含層であり、出土遺物の時期は縄文時代中期中葉から平安時代に及んでいる。これらの遺物の多くが、北側に舌状に延びた埋没谷中の暗褐色土から出土しており、調査2・3・5区及び当区の遺構からの流れ込みと考えられる。以下、その状況及び遺物について記載する。

## 第2号遺物包含層（第504～506図）

位置 調査第4区の南東及び南西部、G 4区・H 4区・H 5区

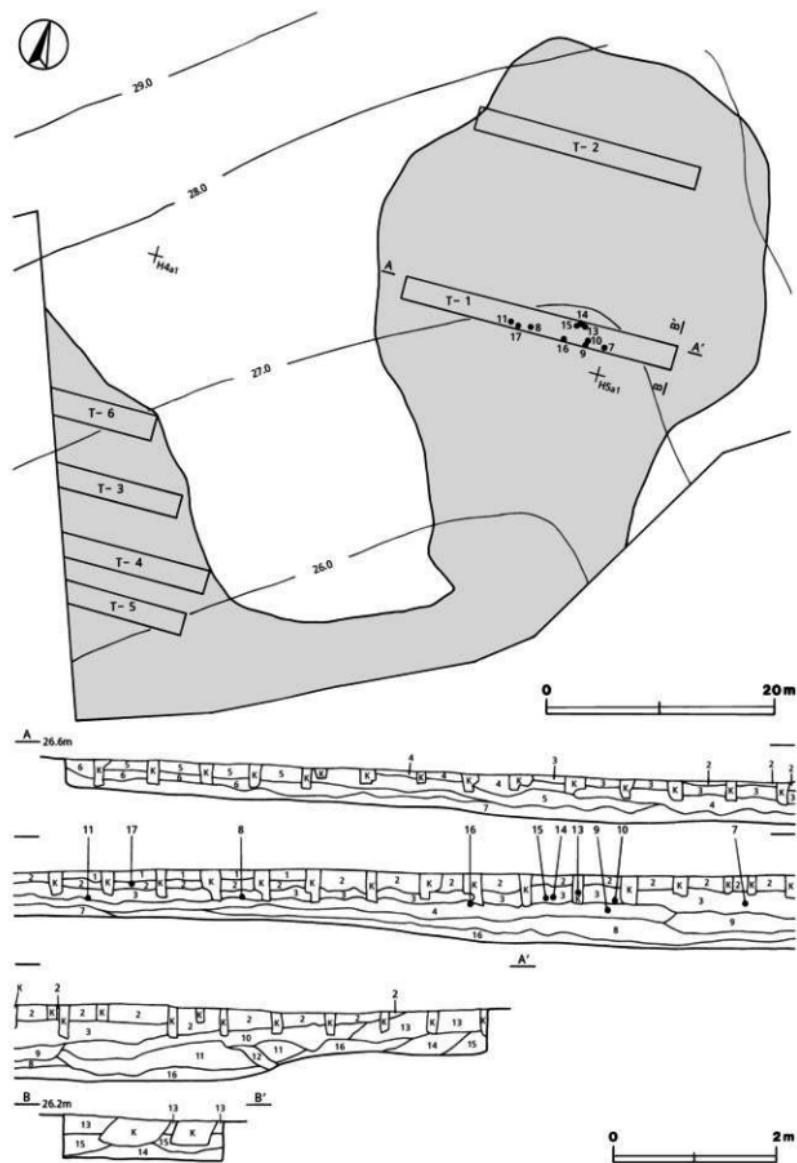
規模 堆積範囲は、調査区内において東西60m、南北68mに及んでいる。厚さは最大で0.95mである。

覆土 16層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

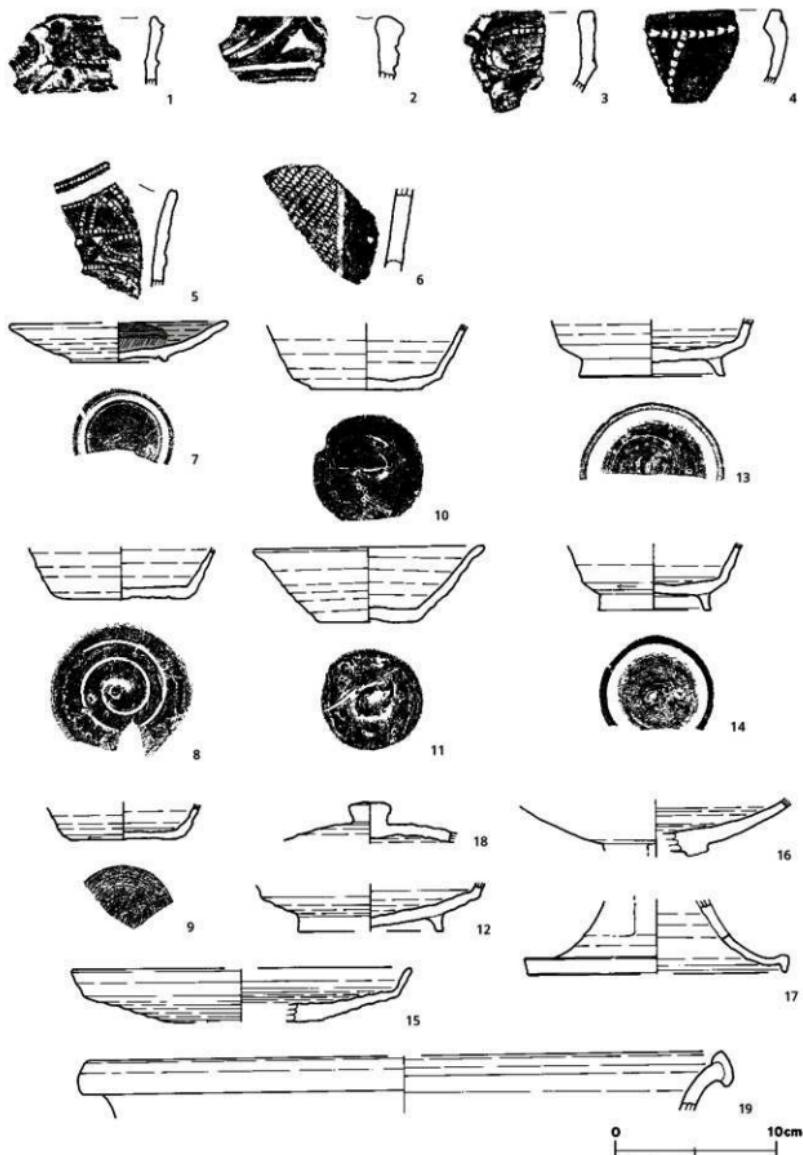
## 土層解説

1 黒色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒色	粘土粒子・白色スコリア微量
2 黒色	炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量・ローム小ブロック微量
3 暗褐色	炭化粒子微量	11 黒色	ローム粒子微量
4 暗褐色	炭化物・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子微量
5 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
6 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量	14 棕色	粘土粒子中量
7 暗褐色	粘土粒子中量・粘土小ブロック微量	15 黑褐色	ローム粒子・炭化物微量
8 黒色	ローム小ブロック・粘土粒子・白色スコリア微量	16 暗褐色	焼土小ブロック微量

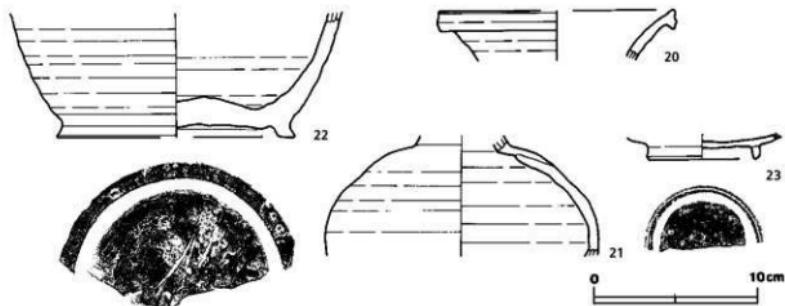
遺物 縄文土器片267点、弥生土器片6点、土師器146点、須恵器220点、灰釉陶器2点、不明鉄製品3点が出士している。うち、縄文土器片6点、土師器1点、須恵器15点、灰釉陶器1点を抽出・図示した。1から5の深鉢の口縁部片は、覆土中から出土しており、縄文時代中期中葉（阿玉台II式期）と考えられる。6の深鉢の胴部片は、覆土中から出土しており、縄文時代中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。7の土師器高台付皿、8から11の須恵器片、13～15の須恵器高台付片、16の須恵器盤、17・18の須恵器高盤、12の須恵器蓋、19の須恵器甕、20～22の須恵器長頸瓶、23の灰釉陶器皿は、いずれも東部の上層から出土している。



第504図 第2号遺物包含層実測図



第505図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第506図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(2)

所見 覆土中から縄文土器片が、また、第3層を中心とした上層に集中して平安時代（9世紀）の土器が出土していることから、少なくとも縄文時代中期以降から平安時代（9世紀）にかけてほぼ堆積していたものと考えられる。調査時において、雨天時にはかなりぬかるむ状況であり、以前からも同じような状況が想像され、堆積時に遺物が流れ込んだものと考えられる。

第2号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1	深縄文土器	B (4.1)	口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁部には墜帯とそれに沿った結節沈線文により、区画文を施している。	長石・石英・雲母、 褐色にぶい褐色、普通	TP2 5%
2	深縄文土器	B (3.8)	突起を有する口縁部片。口縁部は直立する。口縁部には沈縁により、文様を描出している。	長石・石英・雲母、 赤色粒子 橙色、普通	TP3 5%
3	深縄文土器	B (5.0)	口縁部片。口縁部は直立する。口縁部には墜帯とそれに沿った結節沈線文により、区画文を施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP4 5%
4	深縄文土器	B (5.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内寄する。口縁部内面に棱を持つ。口縁部には結節沈線文により文様を描出している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	TP5 5%
5	深縄文土器	B (5.9)	口縁部片。口縁部は外側する。波状口縁を呈する。口底部には結節沈線文を、口縁部には墜帯とそれに沿った結節沈線文により、文様を描出している。	長石・石英・雲母、 赤色粒子 褐色、普通	TP6 5%
6	深縄文土器	B (5.0)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には沈縁による懸垂文を磨り消している。地文はR Lの単節撻文を縱方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP7 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 7	高台付皿 土師器	A [13.4] B 2.4 C 6.0	底部から口縁部片。平底。高台は矧ぐ八の字状に開く。体部は大きく開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ラフ磨き、外面ロクロナダ。底部回転ヘラ削り、内面黒色処理。	長石・石英・針状結晶物、にぶい黄褐色、 普通	P2662 40%
8	坏須恵器	B (3.2) C 8.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面ロクロナダ。底部回転ヘラ切り後、周縁ナダ。	褐色・長石・石英 灰白色 普通	P2663 30%
9	坏須恵器	B (2.1) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面ロクロナダ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 褐色 普通	P2665 15%
10	坏須恵器	B (4.2) C 7.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面ロクロナダ。底部回転ヘラ切り後、周縁ナダ。	褐色・長石・針状結晶物 黄褐色 普通	P2664 40%

因版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎 土・色 調・焼 成	備 考
第505図 11	环 須 恵 器	A 142 B 47 C 60	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・石英 灰色 普通	P2666 75% PL68 底部ヘラ記号
12	高 台 付 环 須 恵 器	B (2.9) D [9.0] E 0.9	底部から体部片。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 褐色 普通	P2669 25%
13	高 台 付 环 須 恵 器	B (3.5) D 9.0 E 1.1	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状結晶 黄灰色 普通	P2667 20%
14	高 台 付 环 須 恵 器	B (4.1) D 7.8 E 1.0	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P2668 30%
15	盤 須 恵 器	A [20.8] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は直線的に開き、屈曲して口縁に至る。	口縁部及び体部内面口クロナデ。体部下端回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P2670 20%
16	高 盤 須 恵 器	B (3.4)	脚部から皿部にかけての破片。脚部は透かしが入る。皿部は直線的に開く。	脚部及び環部内・外面口クロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P2671 10%
17	高 盤 須 恵 器	D [15.8] E (4.5)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部は屈曲し短く垂下する。	脚部内・外面口クロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P2672 10%
18	蓋 須 恵 器	B (2.5) F 2.6 G 1.3	天井部片。龍宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口クロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状結晶 灰色、普通	P2674 20%
19	裏 盤 須 恵 器	A [39.0] B (3.5)	口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P2677 5%
第506図 20	長 簡 版 須 恵 器	A [14.5] B (3.0)	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石 褐色 普通	P2673 5%
21	長 簡 版 須 恵 器	B (7.4)	体部片。体部は内側して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・石英、外面 暗オリーブ色、内 面暗灰黄色、普通	P2675 10%
22	長 簡 瓶 力 須 恵 器	B (7.5) D [14.8] E 0.8	底部から体部片。やや上げ底気味の平底。高台は八の字状に開く。体部は内側しながら外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部ヘラ切り後、高台貼り付け。周縁力強。	長石・石英 灰白色 普通	P2676 10%
23	皿 灰 瓦 壁 器	B (1.6) D 6.6 E 0.9	底部片。平底。高台は八の字状にわざかに開く。	底部内面口クロナデ。高台貼り付け。底部内面施釉。	長石 外面灰白色、内面 オリーブ黄色 普通	P2678 20% PL68 黒窯14号窯式窯(二 川力) 底部ヘラ記号

## 第6節 中世の遺構と遺物

### 1 壺穴状遺構

ここでは、平面形が方形または長方形で、遺構内にピットや突出部等をもつ遺構を壺穴状遺構として扱い、遺構・遺物について記載する。

#### 第1号壺穴状遺構（第507図）

位置 調査1区の南東部、C501区。

重複関係 本跡上部を第7号溝に南北に、北西コーナー部を第515号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.59m、短軸2.88mの隅丸長方形で、東壁中央部付近は、半梢円状に突き出している。

長軸方向 N-22° -W

**壁** 壁高は48~70cmで、西壁は直立し、他は外傾する。

**底面** 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。あまり踏み固められていない。

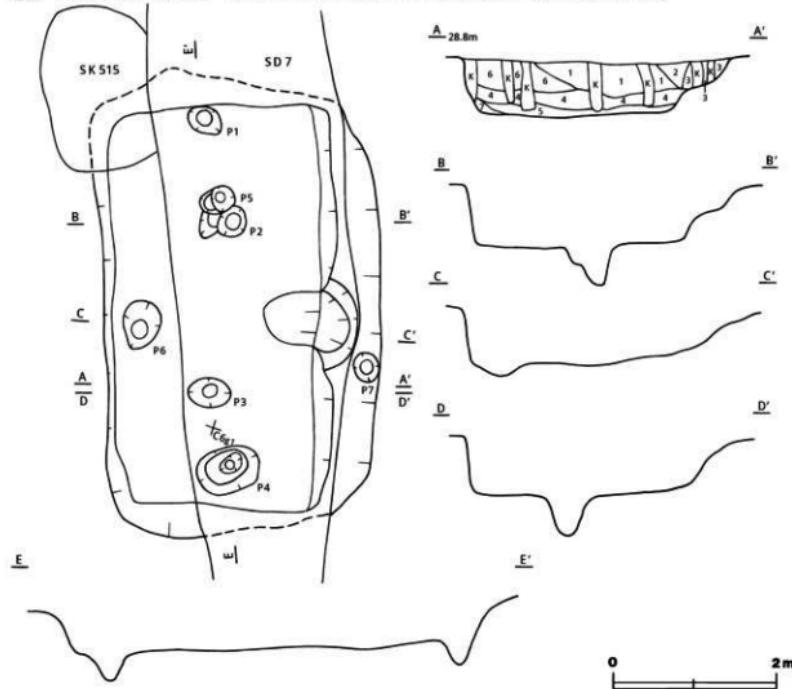
**ピット** 7か所 (P 1 ~ P 7)。P 1 ~ P 5 は長径40~76cm、短径36~56cmの楕円形で、深さ16~45cmである。P 1 は北壁際中央、P 4 は南壁中央寄りに位置する。P 2 · P 3 · P 5 は、P 1 からP 4 間にあり、ほぼ一直線に並んでいる。また、東西の壁とほぼ平行になることから柱穴と思われる。P 6 は長径60cm、短径44cmの楕円形で、深さ6cmである。突出部と向かい合う西壁中央付近に位置するが、深さがあまりないので性格は不明である。P 7 は径30cmの円形で、深さ65cmである。東壁中央の突出部の南東に位置する。

**覆土** 7層からなる。含有物や色調が類似していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	5 灰褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	6 黑褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色	ローム粒子微量	7 灰褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 黑褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

**遺物** 土師質土器(内耳鍋)1点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。



第507図 第1号竖穴状遺構実測図

**所見** P 2 は、P 5 と隣接していることから、柱穴の移動も考えらる。東壁中央部の半楕円形の突出部は、内側方向に傾斜してスロープ状を呈することから出入口に伴う施設と思われる。また、P 7 はその出入口に伴うピットの可能性も考えられる。内耳鍋の小片だけの出土なので、明確な時期は不明である。しかし、コの字状

を呈する堀の内側に位置することから、堀が存続していた時期（15世紀代）と同じ頃と思われる。

#### 第2号竪穴状遺構（第508図）

位置 調査1区の北西部、B3f7区。

規模と平面形 長軸3.60m、短軸2.20mの隅丸長方形で、北西コーナーは、長径1.10m、短径0.70mの半椭円状に突出する。

長軸方向 N-10°-E

壁 壁高は20~30cmで、外傾する。

底面 西壁中央寄り及び北東コーナー付近が高まっている。

ピット 確認できなかった。

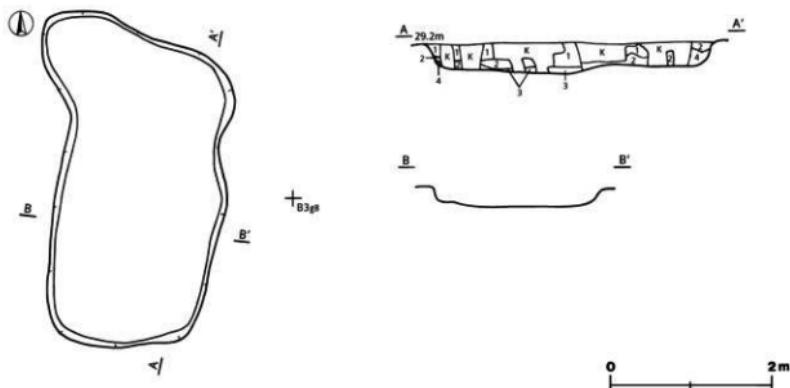
覆土 4層からなるが、擾乱が多いことや覆土が薄いことなどから堆積状況は不明である。

##### 土層解説

- |   |     |                           |                                 |   |   |                             |
|---|-----|---------------------------|---------------------------------|---|---|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック | 4                               | 褐 | 色 | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
|   |     | 燒土粒子微量                    |                                 |   |   |                             |
| 2 | 褐   | 色                         | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量              |   |   |                             |
| 3 | 褐   | 色                         | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少<br>量 |   |   |                             |

遺物 出土していない。

所見 竪穴状遺構の特徴の一つであるピットは、確認できなかったが、内耳鍋が出土した第3号竪穴状遺構と近く、平面形が類似していることなどから、竪穴状遺構とした。出土遺物がないことから、明確な時期は不明であるが、第3号竪穴状遺構と同じ頃と思われる。



第508図 第2号竪穴状遺構実測図

#### 第3号竪穴状遺構（第509図）

位置 調査1区の西部、B3j8区。

規模と平面形 長軸3.09m、短軸1.34mの隅丸長方形、東コーナーは、長径0.68cm、短径0.45cmの半椭円状に突出する。

長軸方向 N-55°-E

**壁** 壁高は15~26cmで、外傾して立ち上がる。

**底面** ほぼ平坦である。

**ピット** 1か所。P 1は長径24cm、短径20cmの梢円形で、深さ27cmである。北コーナー寄りに位置する。

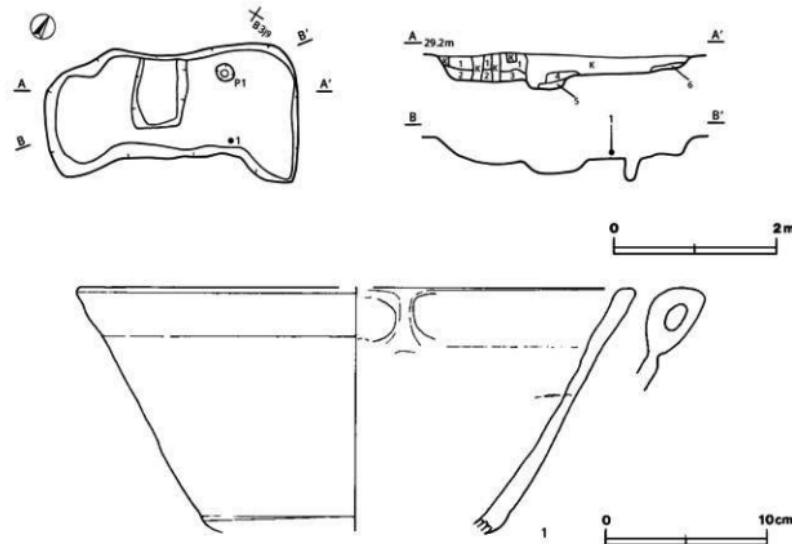
**覆土** 6層からなるが、搅乱が多いことや覆土が薄いことなどから堆積状況は不明である

**土層解説**

1	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、炭化粒子微量

**遺物** 土師質土器1点が出土している。第509図1の土器質土器内耳鍋は、突出部近くの壁際の覆土中層から破片がまとまって出土している。

**所見** 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第509図 第3号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第3号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第509図 1	内耳鍋 土師質土器	A [35.0] B (15.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境の内側に棱を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 耳貼り付け後、ナデ。	長石・針状結晶・雲母 橙色 普通	P3910 25% PL67 体部外面スヌ付着

第4号竪穴状遺構（第510図）

**位置** 調査1区の東部、B4i8区。

**重複関係** 第238号土坑を掘り込んでいる。北コーナー部が、第341～343号ピットに掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸2.28m、短軸1.20mの隅丸長方形である。

**長軸方向** N-70°-W

**壁** 壁高は48～60cmで、北東壁は直立するが、他は外傾して立ち上がる。

**底面** 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

**ピット** 2か所（P1・P2）。P1は径18cmの円形で、深さ22cmである。P2は長径24cm、短径21cmの梢円形で、深さ21cmである。P1は北東壁中央部寄り、P2は南壁際中央部にそれぞれ位置する。

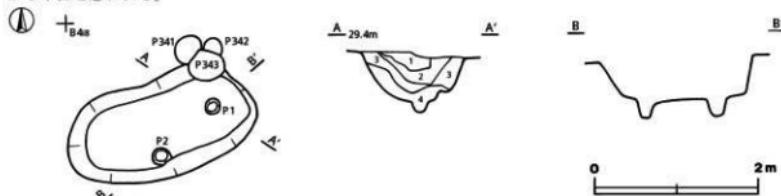
**覆土** 4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

#### 土層解説

1 黑褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	3 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀の内側に位置することや遺構の形態から中世と思われる。



第510図 第4号竪穴状遺構実測図

第5号竪穴状遺構（第511図）

**位置** 調査1区の東部、C5a0区。

**重複関係** 東西両側で、第6号竪穴状遺構と第427号土坑と重複している。第427号土坑を掘り込んでいるが、擾乱が多いことなどから第6号竪穴状遺構との新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 東西で重複しているために、長軸4.33m、短軸2.23mの隅丸長方形と推定される。

**長軸方向** N-66°-E

**壁** 残存する南壁の壁高は30cmで、外傾する。

**底面** 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

**ピット** 2か所（P1・P2）。P1・P2は長径38～39cm、短径30～35cmの梢円形で、深さ34～44cmである。

P1は南東コーナー、P2は中央部の東寄りに、それぞれ位置する。

**覆土** 3層で薄く、また擾乱が多く入っているために堆積状況は不明である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化粒子微量	

**遺物** 出土していない。

**所見** 耕作による擾乱が多数入っていることや第6号竪穴状遺構と重複しているため、ピットは2か所しか確認されなかった。第1号竪穴状遺構と同様に第1号堀の内側にあるので中世のものと思われる。

第6号竪穴状遺構（第511図）

位置 調査1区の東部、C5a9区。

重複関係 南東部で、第5号竪穴状遺構と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形 重複しているが、長軸2.89m、短軸2.02mの楕円長方形と推定される。

長軸方向 N-71°-E

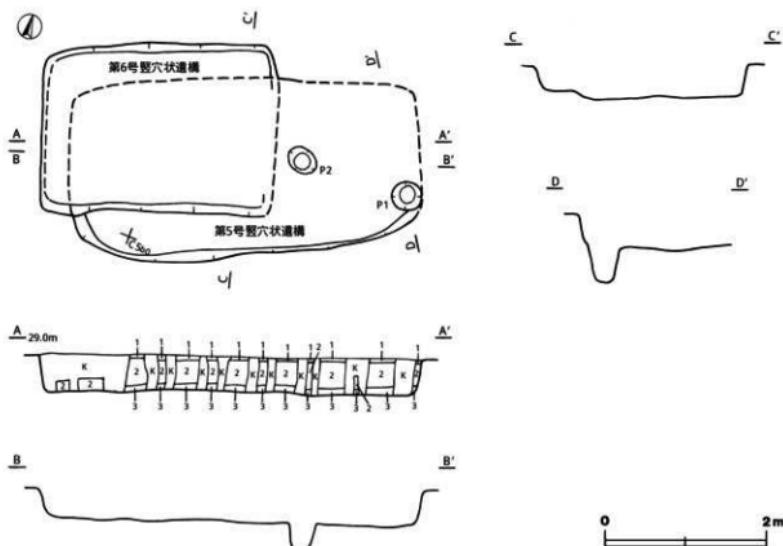
壁 残存する北壁の壁高は40cmで、直立する。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 確認できなかった。

遺物 出土していない。

所見 ピットは検出されなかったが、耕作による擾乱や重複のために検出できなかったことが考えられる。時期は、第1号竪穴状遺構と同じ頃と思われる。



第511図 第5・6号竪穴状遺構実測図

第7号竪穴状遺構（第512図）

位置 調査1区の東部、C5a8区。

規模と平面形 北西コーナーが擾乱されているが、長軸2.32m、短軸1.02mの不整逆台形である。

長軸方向 N-30°-W

壁 壁高は28~30cmで、ほぼ直立する。

底面 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径35cm、短径30cmの楕円形で、深さ13cmである。北壁中央寄りに位置する。P2は長径30cm、短径20cmの楕円形で、深さ20cmである。南コーナー寄りに位置する。主柱穴と思われる。

れる。

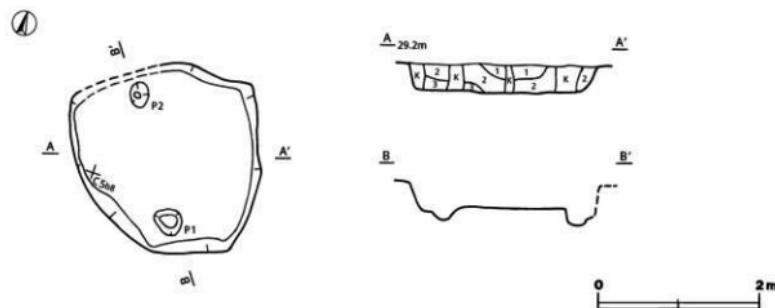
**覆土** 3層と覆土が薄い。含有物が類似していることや同一色調であることなどから人為堆積である。

**土層解説**

- |   |   |
|---|---|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量              | 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少<br>量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少<br>量、炭化物微量 |   |

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第512図 第7号竪穴状遺構実測図

**第8号竪穴状遺構（第513図）**

**位置** 調査1区の東部、C5a6区。

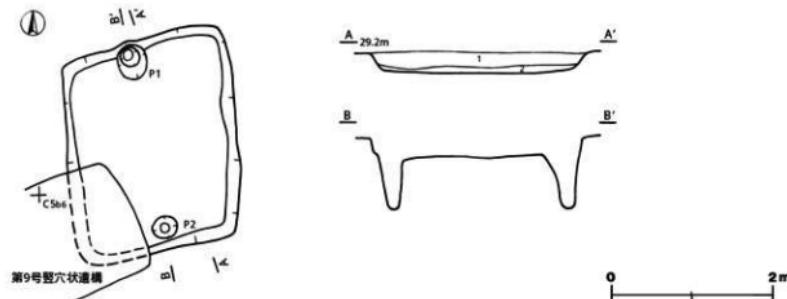
**重複関係** 南西コーナーを第9号竪穴状遺構に掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸2.60m、短軸2.11mの隅丸長方形である。

**長軸方向** N - 9° - W

**壁** 壁高は18~20cmで、外傾する。

**底面** 踏み固められて光沢があり、ほぼ平坦である。



第513図 第8号竪穴状遺構実測図

**ピット** 2か所（P 1・P 2）。P 1は長径41cm、短径37cmの橢円形で、深さ68cmである。P 2は径30cmの円

形で、深さ68cmである。P 1は北壁中央、P 2は南壁際中央にあり、2本を結ぶ線が東西壁とほぼ平行になることから柱穴と思われる。

**覆土** 2層と覆土が薄いので、堆積状況は不明である。

**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・ローム中ブロック微量

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないので、明確な時期は不明である。第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。

**第9号竪穴状遺構（第514図）**

**位置** 調査1区の東部、C5b5区。

**重複関係** 第8号竪穴状遺構を掘り込み、西壁を第568号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸2.31m、短軸1.47mの隅丸長方形である。

**長軸方向** N - 67° - E

**壁** 残存する壁高は26~32cmで、外傾する。

**底面** 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

**ピット** 1か所。P 1は長径50cm、短径44cmの楕円形、深さ56cmである。西壁際中央に位置する。

**P 1土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

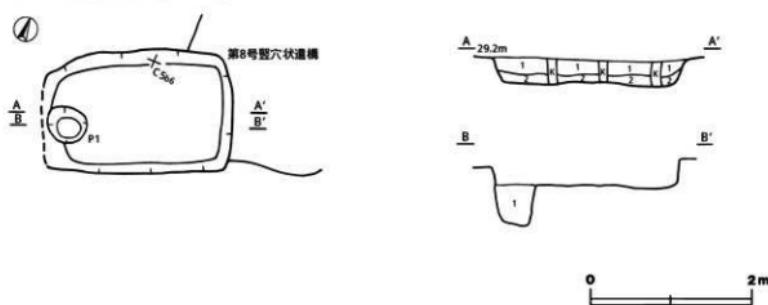
**覆土** 2層と薄いが、ピットの覆土の含有物と類似していることから人為堆積と思われる。

**土層解説**

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第514図 第9号竪穴状遺構実測図

**第10号竪穴状遺構（第515図）**

**位置** 調査1区の東部、C5b8区。

規模と平面形 長軸1.92m、短軸1.86mの隅丸方形である。

長軸方向 N-64°-E

壁 壁高は38~40cmで、西壁南部及び東壁中央部は、内傾して立ち上がり、他はほぼ直立する。

底面 中央部に弱い高まりを持つが、各コーナー付近は平坦である。

ピット 2か所 (P 1・P 2)。P 1は長径75cm、短径54cmの楕円形、深さ14cmである。P 2は径20cmの円形、深さ36cmである。P 1は東壁際中央に、P 2は西壁中央部寄りに、それぞれ位置する。

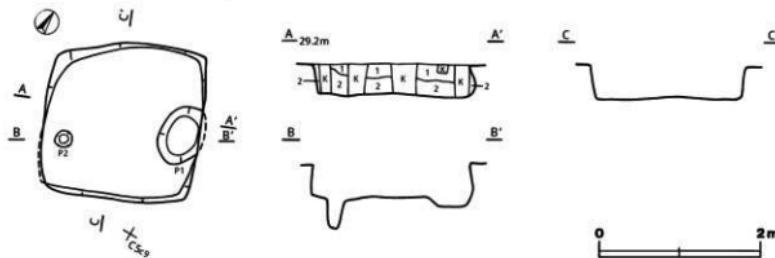
覆土 2層からなる。含有物が類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量  
2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第515図 第10号竪穴状遺構実測図

第11号竪穴状遺構（第516図）

位置 調査1区の東部、B5h8区。

重複関係 東壁中央付近を第416号土坑に、中央部南寄りを第439号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.75m、短軸4.18mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-63°-E

壁 壁高は8~10cmで、外傾する。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P 1~P 3)。P 1は径60cmの円形で、深さ44cm、P 2は長径60cm、短径55cmの円形で、深さ28cm、P 3は長径55cm、短径45cmの楕円形、深さ20cmである。P 1は中央部北壁寄り、P 2は南西コーナー部寄り、P 3は西壁中央部寄りにそれぞれ位置する。P 2とP 3は、接している。

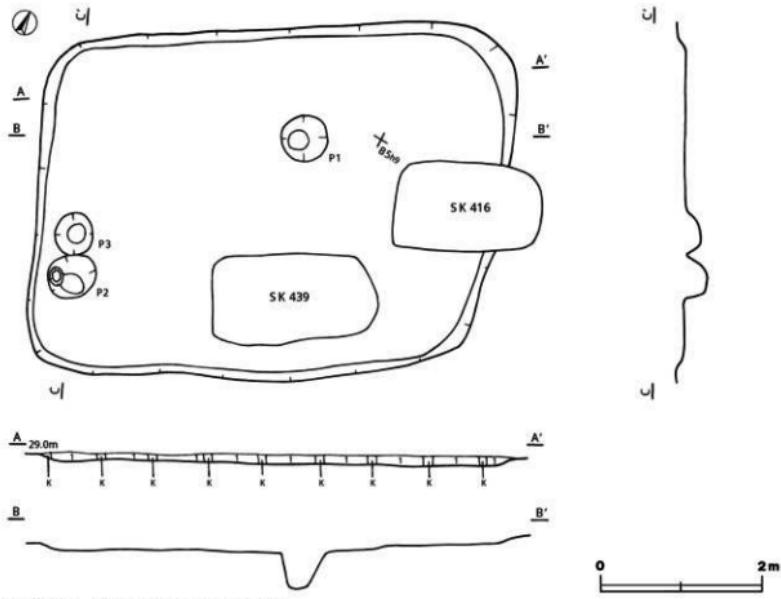
覆土 単一層のため堆積状況は不明である

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・燒土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第516図 第11号竪穴状遺構実測図

表8 竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位置	直径方向 (傾動方向)	平面形	周 長		壁面	底面	覆土	出土遺物	重複關係 (旧→新)	備考 (旧番号)	
				長径	短径(m)							
1	C5B0	N-22° W	圓丸長方形	5.59	2.88	46-70	直立	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD-7, SK515	SK37
2	B3E7	N-10°- E	圓丸長方形	1.10	0.70	20-30	外傾	凹凸	不明			SK147
3	B3E8	N- 55°- E	圓丸長方形	0.68	0.45	15-26	外傾	平坦	不明	土師質土器		SK206
4	B4E8	N- 70°- W	圓丸長方形	2.28	1.20	46-60	直立	平坦	自然	SK238→本跡→P341・342・343	SK254	
5	C5a0	N- 66°- E	圓丸長方形	4.33	[2.23]	30	外傾	平坦	不明	SK427→本跡, 第6号竪穴状遺構と重複	SK437	
6	C5a9	N- 71°- E	圓丸長方形	[2.89]	2.02	40	直立	平坦	不明	第5号竪穴状遺構と重複	SK459	
7	C5a8	N- 30°- W	不整逆台形	2.32	1.02	26-38	直立	平坦	人為			SK573
8	C5a5	N- 9°- W	圓丸長方形	2.60	2.11	18-20	外傾	平坦	不明	本跡→第9号竪穴状遺構	SK575	
9	C5b5	N- 67°- E	圓丸長方形	2.31	1.47	26-32	外傾	平坦	人為	第8号竪穴状遺構→本跡→SK568	SK615	
10	C5b8	N- 64°- E	圓丸方形	1.92	1.86	38-40	直立	平坦	人為			SK656
11	B5b8	N- 67°- E	圓丸長方形	5.75	4.18	8-10	外傾	平坦	不明	本跡→SK416・439	SK700	

## 2 地下式壙

今回の調査で、18基の地下式壙が検出された。これらの遺構及び遺物について記載する。

### 第1号地下式壙（第517図）

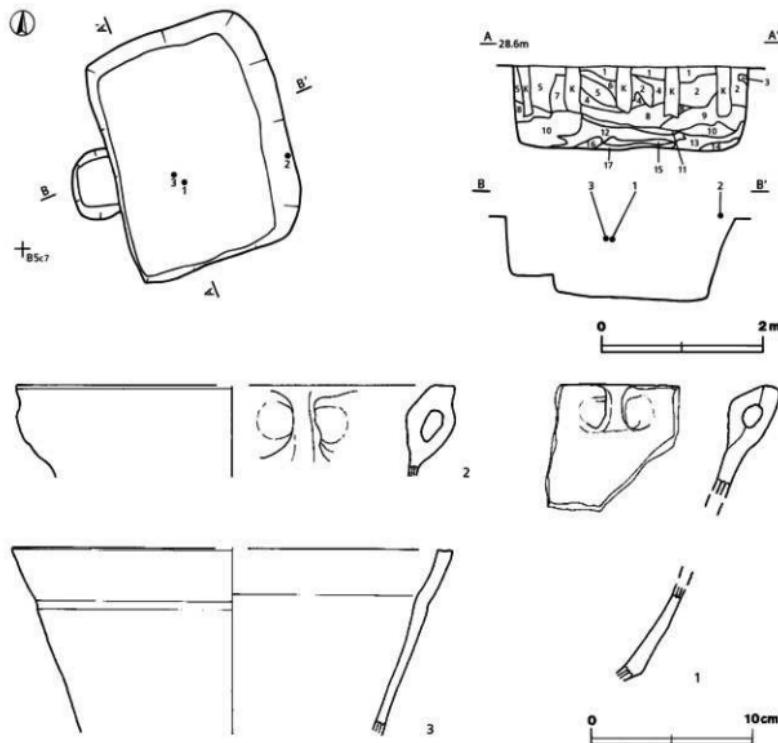
位置 調査1区の北西部、B5b7区。

主軸方向 N-71°-E

**豊坑** 上面は、長径0.84m、短径0.54mの梢円形である。底面は、長軸0.60m、短軸0.50mの長方形で、平坦である。確認面からの深さは0.74mである。

**主室** 底面は、長軸2.66m、短軸1.80mの長方形で、長軸方向はN-15°-Wである。確認面からの深さは、1.02mほどで、平坦である。

**壁** 豊坑は、直立する。天井部が崩落しているため主室は、東壁が外傾し、南北壁が直立する。



第517図 第1号地下式壙・出土遺物実測図

**覆土** 17層からなる。第8層から16層がブロック状に堆積しているので天井部が崩落したものと思われる。

#### 土層解説

- |        |                               |        |   |
|--------|-------------------------------|--------|---|
| 1 黒褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック・炭化粒子少量       | 9 灰褐色  | ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム中ブロック少量                   |
| 2 暗褐色  | ローム粒子多量。ローム小ブロック中量。ローム中ブロック少量 | 10 灰褐色 | ローム中ブロック中量。ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量            |
| 3 黄褐色  | ローム粒子多量。ローム小ブロック少量            | 11 灰褐色 | ローム中ブロック中量。ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量。鹿沼バシミス粒子微量 |
| 4 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子微量              | 12 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック微量                     |
| 5 黑褐色  | ローム粒子中量。ローム小ブロック微量            | 13 灰褐色 | ローム小ブロック中量。ローム中ブロック少量。ローム大ブロック・鹿沼バシミス粒子微量       |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量。鹿沼バシミス粒子微量            |        |   |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量。白色スコリア微量              |        |   |
| 8 暗褐色  | ローム粒子少量。ローム中ブロック・ローム小ブロック微量   |        |   |

14 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	16 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
15 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量	17 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量

遺物 土師質土器13点が出土している。うち土師質土器3点を抽出・図示した。第517図2の土師質土器内耳鍋片は、主室南東コーナー寄りの覆土上層から出土している。1・3の内耳鍋片は、主室中央部の覆土中層から隣り合って出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から15世紀後半と考えられる。

#### 第1号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第517図 1	内耳鍋 土師質土器	B (14.0)	体部下半及び口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に棱を持つ。口縁部は内凹気味に外反する。耳1か所残存。	口縁部及び体内部・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・針状結晶物にぶい橙色、普通	P 3911 10% 体部外面スス付着
		A [28.0] B (5.6)	口縁部片。口縁部は内凹しながら外傾して立ち上がる。耳1か所残存。	口縁部・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・針状結晶物にぶい黄褐色、普通	P 3912 5% 体部外面スス付着
3	内耳鍋 土師質土器	A [27.6] B (11.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、内面に棱を持つ。	口縁部及び体内部・外面横ナデ。	礫・長石・雲母にぶい赤褐色 普通	P 3913 5% 体部外面スス付着

#### 第2号地下式壙（第518図）

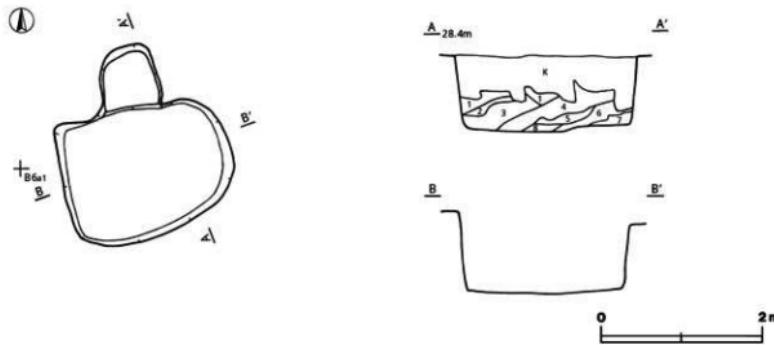
位置 調査1区の北西部、A6j1区。

主軸方向 N-168° - E

豎坑 上面は、長径0.80cm、短径0.62cmの隅丸長方形である。底面は、長軸0.70m、短軸0.66mの方形で、平坦である。確認面からの深さは、0.82mである。

主室 底面は、長軸1.94m、短軸1.46mの隅丸長方形で、長軸方向はN-77° - Eである。確認面からの深さは0.74~0.98mで、平坦である。

壁 豊坑及び主室は、直立する。



第518図 第2号地下式壙・出土遺物実測図

覆土 8層からなる。上層は搅乱が入っている。中～下層はブロック状に堆積しているので天井部が崩落したものと思われる。

#### 土層解説

1	褐 色	ローム粒子多量	6	黒褐色	黒色土中量、ローム粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	7	褐 色	ローム粒子多量、鹿沼バミス粒子少量
3	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少 タ微量	8	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少 量
4	黒 色	ローム粒子、黒色土少量、鹿沼バミス粒子微量			
5	黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少 量、ローム大ブロック微量			

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。

#### 第3号地下式壙（第519図）

位置 調査1区の北部、B6e1区。

主軸方向 N-30° -W

豊坑 上面は長軸1.00m、短軸0.74mの隅丸長方形である。底面は、主室より高くなっている。確認面からの深さは1.42～1.58mで、主室方向に傾斜する。

主室 底面は、長径3.48m、短径1.98mの不整梢円形で、長径方向はN-62° -Eである。確認面からの深さは、1.60～1.70mで、平坦である。東部に天井部の一部が残り、底面から天井部までは1.24mである。

壁 壁坑は、直立する。主室は、天井部の一部が残る部分はオーバーハングし、他は直立する。また、北東部壁と南西部壁に、それぞれ1か所の鎌状の掘り込みがある。

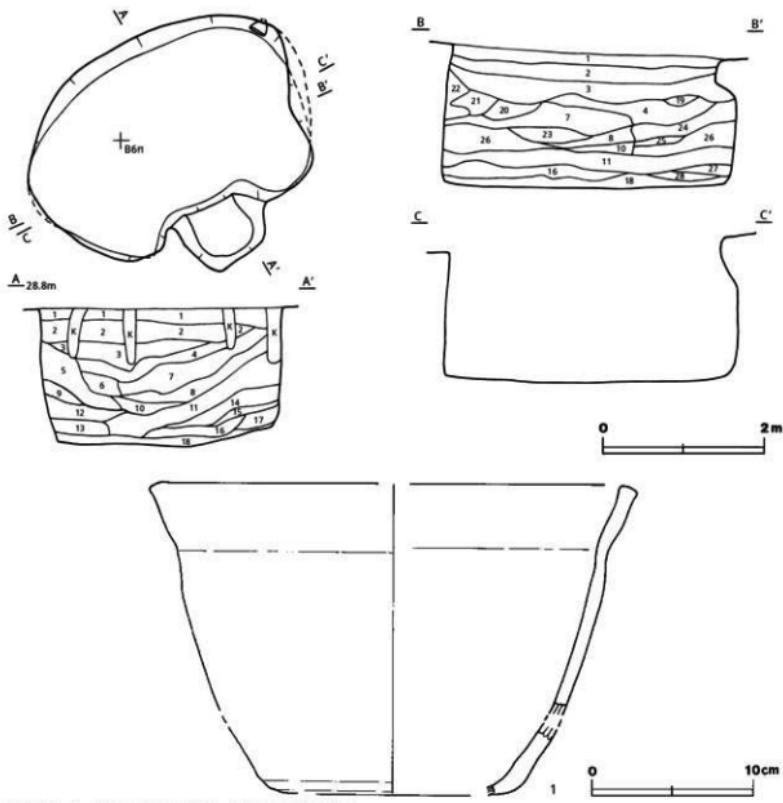
覆土 28層からなる。第5・10・13・14・18層は、ロームブロックを多く含むので、天井部が崩落したものと思われる。覆土上層（第1～3層）は、レンズ状に堆積していることから崩落後に自然堆積したもの、他はブロック状に堆積しているので、天井部が崩落したものと思われる。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子、鹿沼バミス粒子少量、ローム小ブロック微量	16	黒 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク少量、ローム粒子、鹿沼バミス粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子、鹿沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・ ローム小ブロック・炭化粒子微量	17	黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク・ローム粒子、炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子、鹿沼バミス粒子中量、ローム中ブロック・ ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック微 量	18	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロ ック・ローム中ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・鹿 沼バミス粒子微量	19	黒褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
5	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロ ック微量	20	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
6	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	21	暗褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子少量、ローム中ブロ ック・ローム小ブロック微量
7	黒 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	22	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロ ック・ローム中ブロック微量
8	黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼バ ミス粒子微量	23	黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク・鹿沼バミス粒子微量
9	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロ ック・鹿沼バミス粒子少量、鹿沼バミス中ブロック微量	24	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック 少量、ローム大ブロック微量
10	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	25	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック 中量、鹿沼バミス粒子少量
11	黒 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク・粘土小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	26	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロ ック・ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
12	黒 色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロッ ク・鹿沼バミス粒子微量	27	褐 色	ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量、鹿沼バ ミス小ブロック微量
13	黑 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	28	黑 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少 量、ローム小ブロック微量
14	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒 子少量、鹿沼バミス粒子微量			
15	黒褐色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒 子・鹿沼バミス粒子微量			

遺物 土師質土器片10点が出土しているが、細片が多い。うち土師質土器1点を抽出・図示した。第519図1の内耳鍋は、覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第519図 第3号地下式壙・出土遺物実測図

第3号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第519図 1	内耳罐 土師質土器	A [29.0] B [185] C [140]	底部から口縁部にかけての破片。 体部は内寄しながら外傾して立ち上り, 口縁部との境の内側に接を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状結晶 雲母 褐色 普通	P 3914 5% 体部外面スヌ付着

第4号地下式壙 (第520図)

位置 調査1区の北西部, B5a9区。

主軸方向 N-30° - E

豊坑 上面は長径0.78m, 短径0.70mの橢円形である。底面は、主室より高くなっている。長軸0.50m, 短軸0.40mの隅丸長方形である。確認面からの深さは0.80~1.00mで、主室方向に傾斜する。

**主室** 底面は、長径0.78m、短軸0.70mの梢円形で、長径方向はN-51°-Wである。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。確認面からの深さは1.16mで、南東部に天井部の一部が残っている。

**壁** 壁坑は、直立する。主室の南東部はオーバーハングし、他は直立する。北西部に奥行き4~14cmほどの鎧状の掘り込みを持っている。

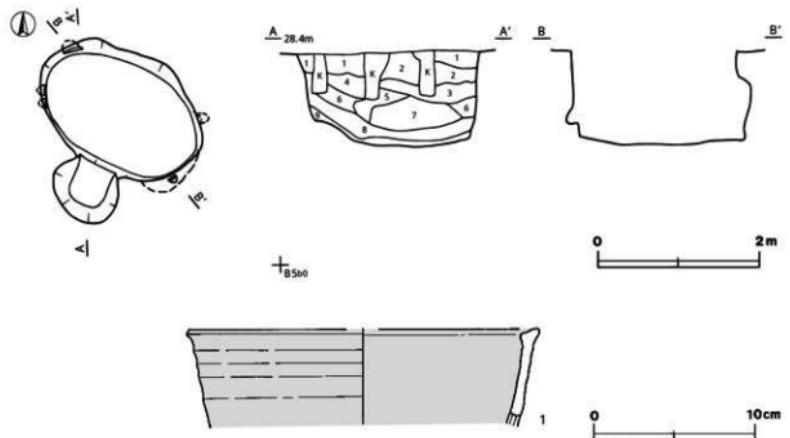
**覆土** 9層からなる。第4~8層はブロック状に堆積しているので、天井部の崩落と思われる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム中ブロック、ローム小ブロック、ローム粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック、ローム粒子少	7	褐色	ローム中ブロック、ローム小ブロック少量、ローム大ブロ
3	褐色	ローム大ブロック、ローム中ブロック、ローム小ブロ	8	黒褐色	ローム小ブロック、ローム粒子微量
4	黒褐色	ク、ローム粒子少	9	暗褐色	鹿沼バミス大ブロック少量、ローム中ブロック、ローム小
5	暗褐色	ブロック、ローム小ブロック、ローム粒子少、炭化			粒子微量
		粒子微量			

**遺物** 陶器片1点が出土しており、それを図示した。第520図1の内・外面に釉のかかった陶器鉢は、覆土中から出土している。

**所見** 陶器片は瀬戸・美濃系と思われるが、時期は特定できない。遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃に造られたと思われる。



第520図 第4号地下式壙・出土遺物実測図

第4号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第520図 1	鉢 器	A [21.7] B (60)	口縁部片。口縁部は内壁気味に外側する。口縁端部は平坦で内外に突出し、新面がT字状を呈する。	口縁部内・外側クロナダ後、鉄輪施報。	礫・長石 浅黄色 普通	P3915 5%

第5号地下式壙 (第521図)

**位置** 調査1区の北西部、B5f9区。

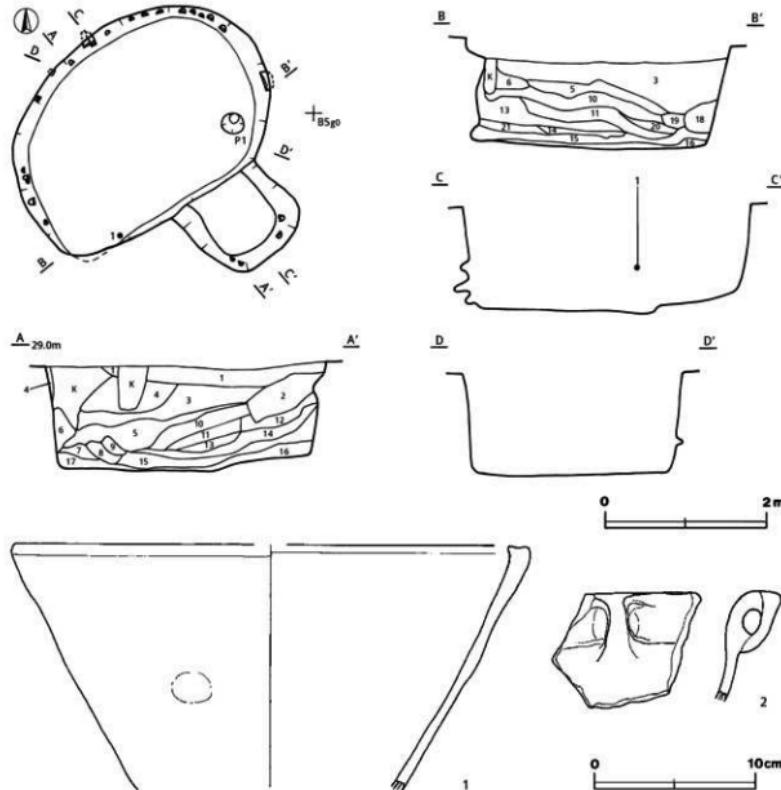
主軸方向 N-37°-W

豊坑 上面は、長軸1.24m、短軸1.06mの隅丸長方形である。底面は、主室より高くなっている。確認面からの深さは1.02~1.10mで、主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は、長径3.00m、短径2.10mの椭円形で、長径方向はN-54°-Eである。確認面からの深さは、1.24~1.30mで、ほぼ平坦である。

壁 豊坑は、南壁上部でオーバーハンプするが、他は直立する。主室の北東壁は、内側して立ち上がり、0.5m上で内傾し、天井部に至る。他は、ほぼ直立する。また、壁の下部に、20箇所の奥行き4~24cmの鉛状の掘り込みを持つ。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径25cmの椭円形で、深さは25cmで、主室の東部に位置する。性格は不明である。



第521図 第5号地下式塙・出土遺物実測図

覆土 21層からなる。覆土下層（第14・15・21層）は、ロームのブロックを多く含んでいることから天井部が崩落したものと思われる。他は、ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2 極端褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	13 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック
4 黑色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
5 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック	16 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム中ブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック	17 黑色	鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
7 黑色	ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量、ローム小ブロック微量	18 黑褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
8 黑色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	19 黑色	ローム粒子・炭化粒子微量
9 黑褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	20 黑色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム大ブロック
10 黑色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	21 褐色	ローム小ブロック微量
11 黑色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・炭化粒子微量		ローム中ブロック微量

遺物 土師質土器20点、陶器2点が出土している。うち土師質土器2点を抽出・図示した。第521図2の土師質土器内耳鍋片は、覆土中から出土している。1の土師質土器内耳鍋は、主室の南西コーナー寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

## 第5号地下式塙（SK 333）出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第521図 1	内耳鍋 土師質土器	A [31.8] B (15.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内側向外方に外傾して立ち上がる。口縁部は平坦で、内側に突出する。	口縁部及び体部内・外腹模ナデ。体部外面指頭圧痕。耳貼り付後、ナデ。	礫・長石・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P 3916 40% PL68 体部外面スス付着
		B (6.7)	口縁部片。口縁部は外反し、底部は平坦である。	口縁部内・外腹模ナデ。耳貼り付後、ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P 3917 5% 体部外面スス付着
2	内耳鍋 土師質土器					

## 第6号地下式塙（第522図）

位置 調査1区の北部、B5e3区。

主軸方向 N-165° -W

竪坑 上面は長径1.10m、短径0.50mの椭円形である。底面は、長径0.90m、短径0.50mの椭円形で、確認面からの深さは0.90mである。主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は長径2.00m、短径1.12mの椭円形で、北西方から南東方向にゆるやかな傾斜を持っている。確認面からの深さは1.24mである。長径方向は、N-65° -Wである。

壁 竪坑は、南壁上部でオーバーハングするが、他は直立する。主室の北東壁は、内彌して立ち上がり、0.5m上で内傾し、オーバーハングを呈する。他は、ほぼ直立する。また、壁の下部に、20数か所の奥行き4~20cmの鎧状の掘り込みと南東壁近くに径26cmの円形で、深さ6cmほどのレンズ状の窪みを持つ。

覆土 11層からなる。第5~7層はブロック状に堆積していることなどから天井部の崩落と思われる。

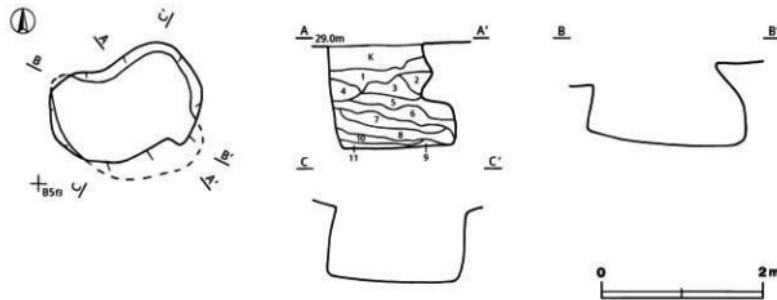
## 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	5 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック微量
2 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量		
4 黑褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量		

- 7 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中プロック・ローム小プロック、  
堺沼バミス粒子微量  
8 褐色 ローム小プロック・ローム粒子中量、ローム大プロック、  
ローム中プロック少量  
9 黄褐色 堀沼バミス粒子多量
- 10 棕色 ローム粒子多量、ローム小プロック少量、ローム中プロック微量  
11 褐色 ローム小プロック・ローム粒子中量、ローム大プロック、  
ローム中プロック少量

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式塙と同じ頃と思われる。



第522図 第6号地下式塙実測図

#### 第7号地下式塙（第523図）

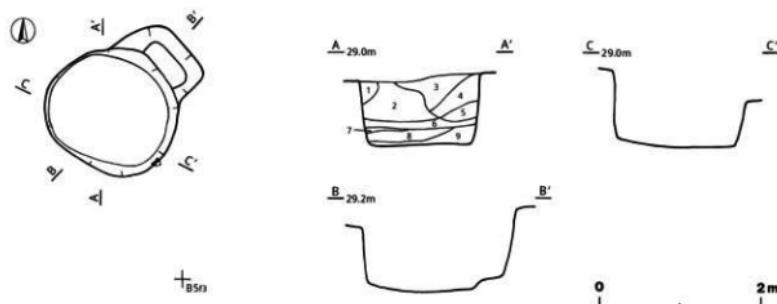
位置 調査1区の北部、B5e2区。

主軸方向 N-48° - E

**豊坑** 上面は長軸1.00m、短軸0.58mの隅丸長方形である。底面は、長軸0.62m、短軸0.36mの隅丸長方形で、ほぼ平坦である。主室より高くなっている。確認面からの深さは0.90mほどである。

**主室** 底面は長径1.50m、短径1.30mの椭円形で、長径方向はN-45° - Wである。確認面からの深さは0.90mで、ほぼ平坦である。

**壁** 豊坑は外傾し、主室はほぼ直立する。



第523図 第7号地下式塙実測図

**覆土** 9層からなり、第3～5層はロームプロックを多く含み、またプロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

**土層解説**

- |        |   |       |                                      |
|--------|---|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量                       | 6 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量         |
| 2 黒褐色  | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 7 褐色  | ローム粒子多量、鹿沼バミス粒子少量                    |
| 3 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量                             | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス大ブロック微量          |
| 4 黑褐色  | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミス小ブロック微量                | 9 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量         |       |                                      |

**遺物** 出土していない。

**所見** 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。

**第8号地下式壙 (第524・525図)**

**位置** 調査1区の北西部、B5f4区。

**重複関係** 第360号土坑の南東部を掘り込んでいる。

**主軸方向** N-148° -W

**堅坑** 上面は、長径0.68m、短径0.62mの円形である。底面は、長径0.54m、短径0.46mの椭円形で、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは0.78mほどである。

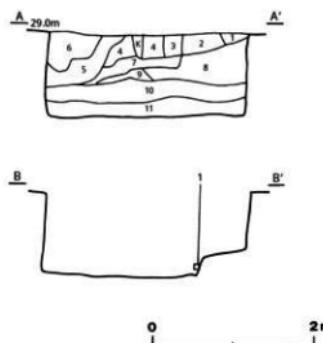
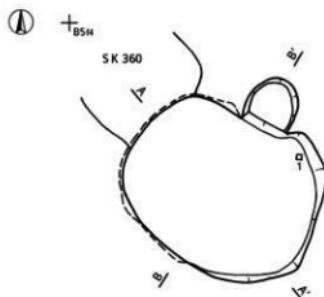
**主室** 底面は長径2.46m、短径1.82mの椭円形、長径方向はN-57° -Wである。確認面からの深さは1.02mで、ほぼ平坦である。

**壁** 堅坑は、直立する。主室の南西壁は内傾するが、他は直立する。

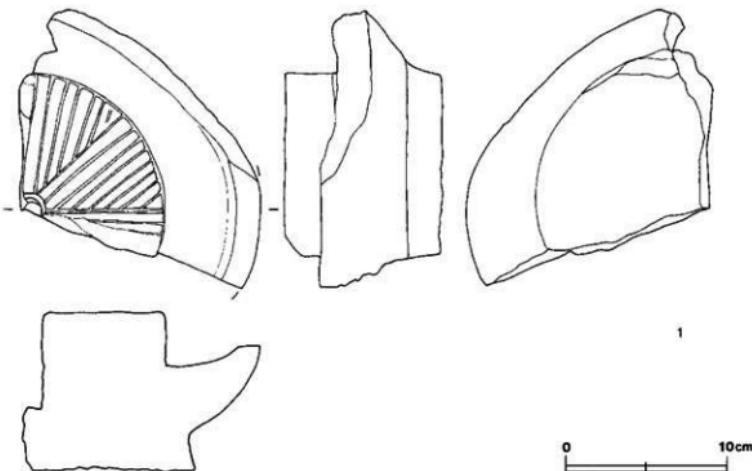
**覆土** 11層からなる。第7～10層が天井部崩落土層と思われる。

**土層解説**

- |       |   |        |  |
|-------|---|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量                              | 6 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量              |
| 2 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量、鹿沼バミス小ブロック微量 | 7 明黄褐色 | 鹿沼バミス粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 3 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量  | 8 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子微量                         |
| 4 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量        | 9 黒褐色  | ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量                        |
| 5 細褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量                | 10 黒色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                |
|       |   | 11 褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量            |



第524図 第8号地下式壙実測図



第525図 第8号地下式壙出土遺物実測図

遺物 石製品（石臼）1点が出土し、国示した。第525図1の石臼（茶臼）は、主室北東コーナー部の底面の10cmほど上から出土している。

所見 茶臼は中世のものと思われるが、明確な時期は分からぬ。時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。

第8号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅・径(cm)	高さ(cm)	重量(g)			
第525図1	石臼	-	[28.8]	9.8 (1604.3)		安山岩	茶臼の下臼、8分面と思われる。	Q3034 PL78

第9号地下式壙（第526図）

位置 調査1区の北西部、B5g4区。

主軸方向 N-153° - E

豎坑 上面は長径1.00m、短径0.80mの楕円形である。底面は、長径0.72m、短径0.54mの楕円形である。確認面からの深さは、0.84~1.00mで、主室方向に傾斜する。

主室 底面は、長径2.36m、短径1.68mの不整楕円形で、長径方向はN-67° - Eである。確認面からの深さは1.04mで、ほぼ平坦である。

壁 豊坑は、直立する。主室の西部は、丸味を持ちながら内傾して立ち上がり、オーバーハング状を呈する。他は、直立する。

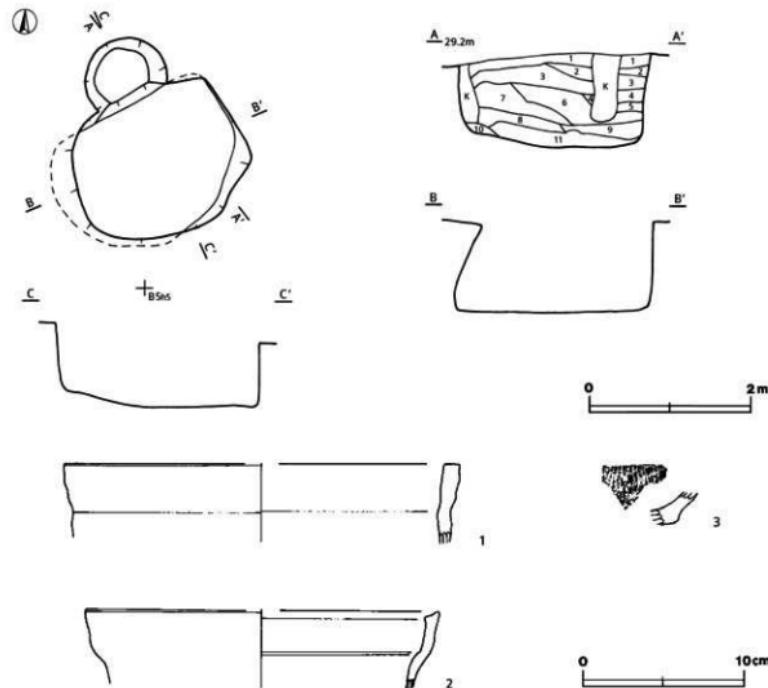
覆土 11層からなり、第4~11層がブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土少量、炭化粒子微量	8 黒 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子、ローム小ブロック微量	9 褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
3 黒 色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子、鹿沼バミス粒子微量
4 黒 色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	11 黑 色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量
5 褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量		
6 黒 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量		
7 黒 色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

遺物 土師質土器12点、陶器1点が出土している。うち土師質土器2点、陶器1点を抽出・図示した。第526図の1・2の内耳鍋は15世紀代に、3の鉢鉢は16世紀前後に、それぞれ位置づけられていることから、本跡は、15世紀後半から16世紀頃と考えられる。

所見 1・2の内耳鍋は15世紀代に、3の鉢鉢は16世紀前後に、それぞれ位置づけられていることから、本跡は、15世紀後半から16世紀頃と考えられる。



第526図 第9号地下式塙・出土遺物実測図

#### 第9号地下式塙出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第526図 1	内耳鍋 土師質土器	A [24.6] B (4.9)	口縁部片。口縁部は外反し、内側に棱を持つ。	口縁部内面・外面横ナデ。	礫・長石・針状結晶物 雲母・赤色粒子 橙色・普通	P 3922 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第526図 2	壠 土部質土器	A [22.0] B (49)	口縁部片。口縁部は内側下端に棱を持ち、内縁気味に立ち上がる。 底部は断面がT字状を呈する。	口縁部内・外縁横ナデ。	礫・長石・針状結晶物 雲母 にぶい橙色、普通	P3923 5%
	壠 周	B (29)	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面擦り目施文、外面口クロナデ。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P3925 5% 志戸焼焼の可能性
3	鉢 器					

### 第10号地下式壠（第527図）

位置 調査1区の南東部、C55区。

主軸方向 N-14° - E

堅坑 上面は、長径0.84m、短径0.60mの椭円形である。底面は、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは、1.10mである。

主室 底面は、長径1.38m、短軸1.20mの椭円形で、長径方向はN-71° - Wである。確認面からの深さは、1.26~1.34mで、ほぼ平坦である。

壁 壁坑は、ほぼ直立する。主室は、西部の一部分を除き、内傾して立ち上がり、オーバーハング状を呈する。堅坑及び主室の底面付近に、9か所の奥行き6~24cmの鎧状の掘り込みを持つ。

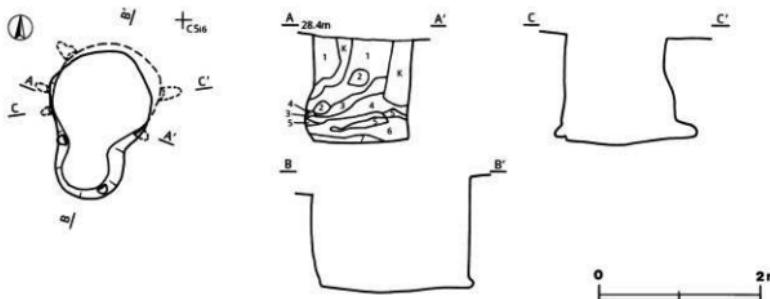
覆土 7層からなる。第4~7層がブロック状に堆積をしていることから天井部が崩落したものと思われる。

#### 土層解説

- |       |   |       |                                     |
|-------|---|-------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化<br>粒子微量            | 4 黄褐色 | 鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミ<br>ス粒子中量 |
| 2 褐 色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量                     | 5 褐 色 | 鹿沼バミス大ブロック微量<br>鹿沼バミス粒子微量           |
| 3 茶褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロ<br>ック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム大ブロック微量<br>ローム小ブロック・ローム粒子微量      |
|       |   | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量                    |

遺物 陶器片2点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 時期を特定できる土器が出土している同様な遺構や小陶器片から、15世紀後半から16世紀頃と考えられる。



第527図 第10号地下式壠実測図

### 第11号地下式壠（第528図）

位置 調査1区の中央部、C5a2区。

重複関係 第1号壠と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-55°-W

豊坑 上面は長径0.76cm、短径0.54cmの椭円形で、底面は、長径0.76cm、短径0.54cmの椭円形である。確認面からの深さは、1.10~1.28mで、主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は、長軸1.54m、短軸1.42mの隅丸方形で、長軸方向はN-35°-Eである。確認面からの深さは1.50mで、平坦である。南部を除いて天井部が残り、底面から天井部までの高さは0.96mである。

壁 豊坑は、南東部から主室方向に階段状に掘られている。主室の南西部は直立するが、他は丸味を持って内傾し、オーバーハング状を呈する。

覆土 13層からなる。覆土下層(第12・13層)は、豊坑からの自然堆積と思われる。上層は、ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

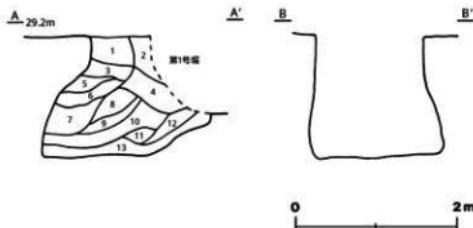
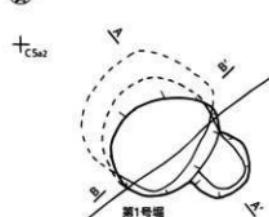
#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化物微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・黒色土少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子・鹿沼バミス粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・少量、炭化物・鹿沼バミス中ブロック微量
5 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム小ブロック微量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	13 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量
7 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量		

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。

①



第528図 第11号地下式壙実測図

#### 第12号地下式壙 (第529図)

位置 調査1区の中央部、C4c9区。

重複関係 第671号土坑を掘り込んでいる。第1号壙と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 第1号壙と重複しているため、主室の南部が確認できなかった。N-9°-Eと推定される。

豊坑 上面は長径0.50m、短径0.44mの椭円形である。底面は、長径0.50m、短径0.44mの椭円形で、主室方向にゆるやかに傾斜し、確認面からの深さは0.50~0.70mである。

主室 壁と重複しているため平面形は不明である。残存する底面は、長径1.80m、短径0.70mの半椭円形で、平坦である。確認面からの深さは0.72mである。

壁 豊坑の西壁は、直線的に内傾し、他は直立する。主室の残存する壁は、直立する。

覆土 壁と重複しているために本跡のものと確認できた覆土は、2層だけである。堆積状況は、不明である。

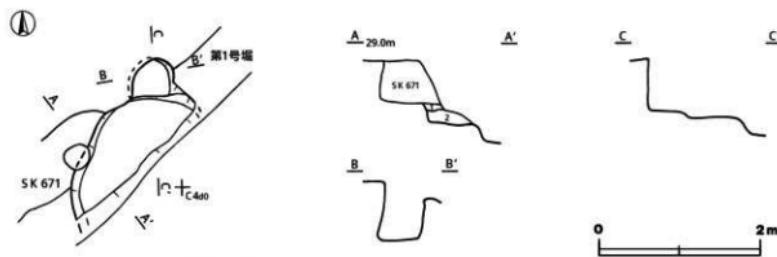
## 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・黒色土中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。



第529図 第12号地下式壙実測図

## 第13号地下式壙（第530図）

位置 調査1区の東部、C5a4区。

重複関係 第10号溝及び第679号土坑に掘り込まれている。

主軸方向 N-69°-E

竪坑 上面は長径1.02m、短径0.46mの椭円形である。底面は、確認面からの深さは0.40~0.56mで、主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は、長径1.10m、短径0.76mの椭円形で、長径方向はN-17°-Wである。確認面からの深さは、0.74~0.80mで、中央部が皿状に窪む。

壁 竪坑は直立し、主室は外傾する。

覆土 5層からなる。第2~5層はブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

## 土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

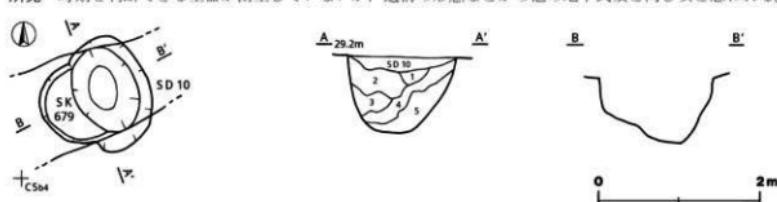
2 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量

5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

3 明褐色 ローム大ブロック多量

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。



第530図 第13号地下式壙実測図

### 第14号地下式塙（第531図）

位置 調査4区の北東部, G4a7区。

重複関係 坑の上部を第14号溝と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-172° - E

堅坑 上面は長径0.80m, 短径0.54mの椭円形である。底面は、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは、0.54mである。

主室 底面は長軸1.60m, 短軸1.00mの台形で、長軸方向はN-87° - Eである。天井部の一部が残り、底面からの高さは、0.74～0.94mである。底面は平坦で、確認面からの深さは1.16mである。

壁 坑は、外傾する。主室は、内湾気味に外傾する。

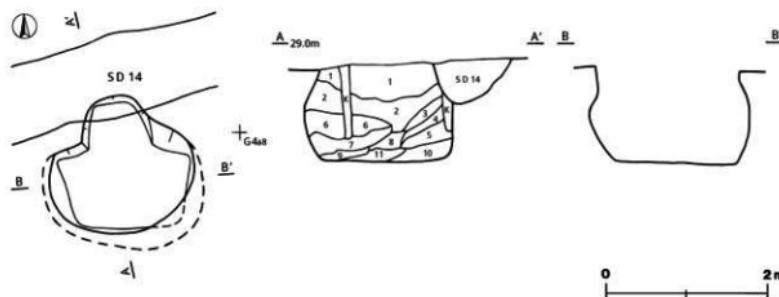
覆土 12層からなり、第4～12層はブロックに堆積していることから天井部が崩落したもの、第1～3層は崩落後に自然堆積したものと思われる。

#### 土層解説

1 黒 色 ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バニス粒子微量	6 黒 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 色 ローム粒子少量。ローム中ブロック・純土粒子・炭化物微量	7 褐 褐 色 ローム粒子多量
3 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バニス粒子微量	8 黒 色 ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化物粒子微量
4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量	9 暗 褐 色 ローム粒子中量。鹿沼バニス粒子微量
5 黒 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量	10 暗褐色 ローム粒子少量。ローム小ブロック・鹿沼バニス粒子微量
	11 黒 褐 色 ローム粒子中量。ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式塙と同じ頃と思われる。



第531図 第14号地下式塙実測図

### 第15号地下式塙（第532図）

位置 調査4区の北東部, F4i9区。

重複関係 第15号溝と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-81° - E

堅坑 上面は長径1.04m, 短径0.84mの椭円形である。底面は、長径1.04m, 短径0.84mの椭円形で、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは1.20～1.30mである。

主室 底面は、長軸1.34m, 短軸0.94mの長方形で、長軸方向はN-9° - Wである。確認面からの深さは、1.36mで、平坦である。

壁 坑は、外傾する。主室は、南西部を除いて外傾して立ち上がり、中位で内傾してオーバーハング状を呈

する。

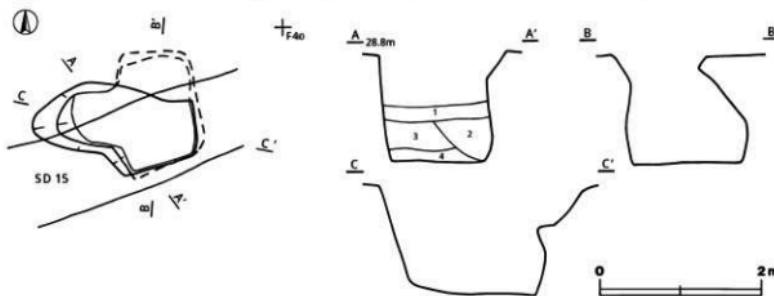
**覆土** 溝の掘り込み中に検出されたので確認できた層は、4層と薄いことから、堆積状況は不明である。

土層解説

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 1 黒色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量       |
| 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  | 4 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

**遺物** 出土していない。

**所見** 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式壙と同じ頃と思われる。



第532図 第15号地下式壙実測図

第16号地下式壙（第533図）

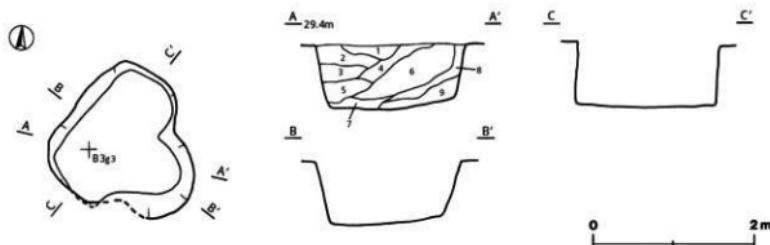
**位置** 調査2区の北部、B3f3区。

**主軸方向** N - 49° - W

**竪坑** 上面は、長径1.20m、短径0.75m、底面は、長径0.79m、短径0.51mで、いずれも半円形状である。底面は確認面からの深さは0.73mである。

**主室** 底面は、長軸1.70m、短軸0.91mの隅丸長方形で、長軸方向はN - 41° - Eである。確認面からの深さは、0.76mほどで、平坦である。

**壁** 主室の北西壁及び竪坑は外傾して立ち上がる。主室は北西壁を除いて直立する。



第533図 第16号地下式壙実測図

**覆土** 9層からなる。

土層解説

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子微量             | 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 4 黒色 ローム粒子少量             |

- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 6 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 7 赤褐色 ローム小ブロック多量

- 8 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 9 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の形態から中世と考えられる。

#### 第17号地下式塙（第534図）

**位置** 調査2区の北部、D2a7区。

**主軸方向** N-18°-E

**豊坑** 天井部が崩落しており、上面の形状は不明である。底面は長軸0.56m、短軸0.45mの長方形で、主室に向かってわずかに傾斜している。確認面からの深さは0.84~0.94mである。

**主室** 底面は、長軸0.97m、短軸0.81mの長方形で、長軸方向はN-12°-Eである。確認面からの深さは0.98mで、平坦である。

**壁** 豊坑及び主室は、外傾して立ち上がる。

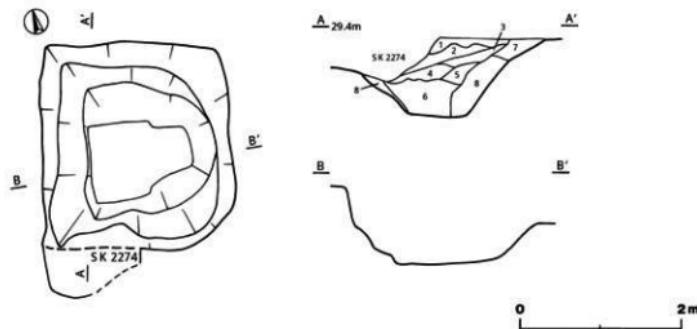
**覆土** 8層からなる。

##### 土層解説

- |       |                             |       |                            |
|-------|-----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック微量 | 5 赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少 |
| 2 赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック微量 | 6 赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック中 |
| 3 赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量            | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量           |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中  | 8 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量  |
|       | 微量                          |       | 微量                         |

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の形態から中世と考えられる。



第534図 第17号地下式塙実測図

#### 第18号地下式塙（第535図）

**位置** 調査2区の北部、B3i3区。

**主軸方向** N-46°-E

**豊坑** 上面は、長径0.89m、短径0.62m、底面は、長径0.72m、短径0.54mで、いずれも半円形状である。底面は主室に向かってわずかに傾斜している。確認面からの深さは、0.80~0.88mである。

**主室** 底面は、長径1.44m、短径1.20mの椭円形で、長径方向はN-35°-Wである。確認面からの深さは1.08mで、平坦である。

**壁** 壁坑は直立する。主室はわずかにオーバーハングする。

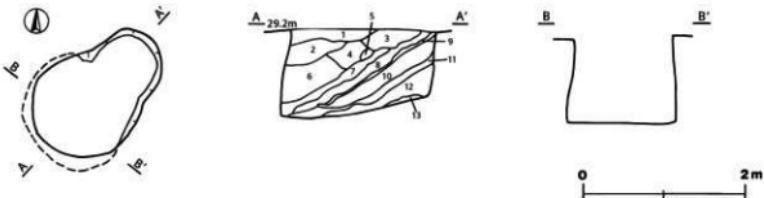
**覆土** 13層からなる。壁坑から主室へ流れ込むような堆積状況を示している。第5・6層はローム大ブロックが主体となっていることから、天井部が崩落したものと考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	9 黒色	ローム中ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子、鹿沼バミス粒子少量	10 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック微量	11 黒色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
5 黄褐色	ローム大ブロック多量	12 黑褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
6 褐色	ローム大ブロック多量	13 黑褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子少量
7 黑色	ローム中ブロック・ローム粒子少量		

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の形態から中世と考えられる。



第535図 第18号地下式墳実測図

表9 地下式墳一覧表

通 番 番 号	位 置	長軸方向 (長軸方向)	規 模 (m)						底面	覆 土	出 土 遺 物	重複関係 (旧→新)	備 考 (旧番号)		
			壁 坑		主 室		底面	出 土 遺 物	重複関係 (旧→新)						
長径×短径		深さ		平 圓 形	長径×短径										
1 BS67	N-71° E	0.84×0.54	0.74	椭 圆 形	2.6×1.80	1.02	長 方 形	平坦	崩落	土師質土器				SK11	
2 A61	N-16° E	0.80×0.62	0.82	隅丸長方形	1.94×1.46	0.98	隅丸長方形	平坦	崩落					SK271	
3 B6e1	N-30° E	1.00×0.74	1.58	隅丸長方形	3.48×1.98	1.70	不整橢円形	平坦	崩落	土師質土器				SK321	
4 B5a6	N-30° E	0.78×0.70	1.00	椭 圆 形	0.78×0.70	1.16	椭 圆 形	平坦	崩落	陶器				SK326	
5 B5b9	N-37° E	1.24×1.06	1.10	隅丸長方形	3.00×2.10	1.30	椭 圆 形	平坦	人骨	土師質土器、陶器				SK333	
6 B5e3	N-165° E	1.10×0.50	0.90	椭 圆 形	2.00×1.12	1.24	椭 圆 形	縫斜	崩落					SK363	
7 B5e2	N-48° E	1.00×0.58	0.90	隅丸長方形	1.50×1.30	0.90	椭 圆 形	平坦	崩落					SK373	
8 B5a4	N-148° E	0.68×0.62	0.78	円 形	2.46×1.82	1.02	椭 圆 形	平坦	崩落	石製品	SK360→本跡			SK374	
9 B5g4	N-153° E	1.00×0.80	1.10	椭 圆 形	2.36×1.68	1.04	不整橢円形	平坦	崩落	土師質土器、陶器				SK423	
10 C55	N-14° E	0.84×0.60	1.10	椭 圆 形	1.38×1.20	1.34	椭 圆 形	平坦	崩落	陶器				SK592	
11 CSa2	N-55° E	0.76×0.54	1.28	椭 圆 形	1.54×1.42	1.50	隅 丸 方 形	平坦	人骨		第1号窓と重複			SK674	
12 C4c9	[N-9° E]	0.50×0.44	0.70	椭 圆 形	(1.80×0.70)	0.72	不 明	平坦	不明		SK671→本跡、第1号窓と重複			SK748	
13 CSa4	N-69° E	1.02×0.46	0.56	椭 圆 形	1.10×0.76	0.80	椭 圆 形	縫狀	崩落		本跡→第10号溝			SK763	
14 C4a7	N-172° E	0.80×0.54	0.54	椭 圆 形	1.60×1.00	0.94	台 形	平坦	人骨		第14号溝と重複			SK4017	
15 F49	N-81° E	1.04×0.84	1.30	椭 圆 形	1.34×0.94	1.36	長 方 形	平坦	不明		第15号溝と重複			SK4059	
16 B3f3	N-49° W	1.20×0.75	0.73	半 圓 形 状	1.70×0.91	0.76	隅丸長方形	平坦	不明					SK2005	
17 D2a7	N-18° E	0.56×0.45	0.94	長 方 形	0.97×0.81	0.96	長 方 形	平坦	不明					SK2275	
18 B3j3	N-46° E	0.89×0.62	0.88	半 圓 形 状	1.44×1.20	1.08	椭 圆 形	平坦	崩落					SK2440	

### 3 堀

調査1区の中央部から南部にかけて、平面形が南向きにコの字状を呈する堀が、1条検出された。以下、遺構と遺物について記載する。

#### 第1号堀（第536～538図、付図）

位置 調査1区の中央部以南、C4h5～D7a1区。

重複関係 第25・26・43号住居跡を掘り込み、第11号地下式壙に掘り込まれている。また、第10号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 検出できた長さは199.0m、上幅2.55～4.25m、下幅0.75～2.10m、深さ0.78～1.10mである。

1区の南部を東西及び南北方向に走り、平面形がコの字状を呈する。壁は、底面から21～40度の角度で立ち上がる。12～38cm立ち上がった後、角度を45～50度に変えて確認面まで立ち上がる。断面形は箱築研状である。

方向 検出されたD4a6区から北西方向（N-23°-W）に延び、C4g5区で北東方向（N-49°-E）に向を変え、再びB6c2区で南東方向（N-150°-E）へと向きを変え、D7c1区の調査区端まで直線的に延びる。

底面 鹿沼層の中・下層まで掘り込んでいる。北側及び東側部分から多数のビットが検出され、凸凹である。

しかし、西側部分（D4区付近）には、ビットはほとんど存在せず、平坦である。

ビット 底面・壁面から多数のビットが検出された。そのうち底面から壁が立ち上がる付近の両側に長径30～70cm、短径24～60cmの円形ないし梢円形、深さ5～30cmほどのビットが並行しているところがあるが、間隔は必ずしも一定ではない。

覆土 6～11層からなる。土層断面図中のSPD-D'付近は绳文時代の遺構が多く、そこを掘り込んでいるために、不規則な堆積状況をしている。遺構の重複が少ないとこどろの土層（SPA、SPB、SPC、SPE）は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説（SPD-D'）3区

- |   |  |    |  |
|---|--|----|--|
| 1 | 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子                       | 6  | 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                     |
| 2 | 暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量                                | 7  | 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量           |
| 3 | 暗褐色 ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量                               | 8  | 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 9  | 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量                      |
| 5 | 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量                      | 10 | 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量  |
| 6 | 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量                                 | 11 | 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量    |

#### 土層解説（SPE-E'）1区

- |   |                                 |    |  |
|---|---------------------------------|----|--|
| 1 | 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量    | 6  | 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量          |
| 2 | 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量          | 7  | 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量            |
| 3 | 暗褐色 ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 8  | 暗褐色 鹿沼バミス小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量        |
| 4 | 黒褐色 白色粘土ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 9  | 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量     | 10 | 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック・ローム中ブロック微量 |

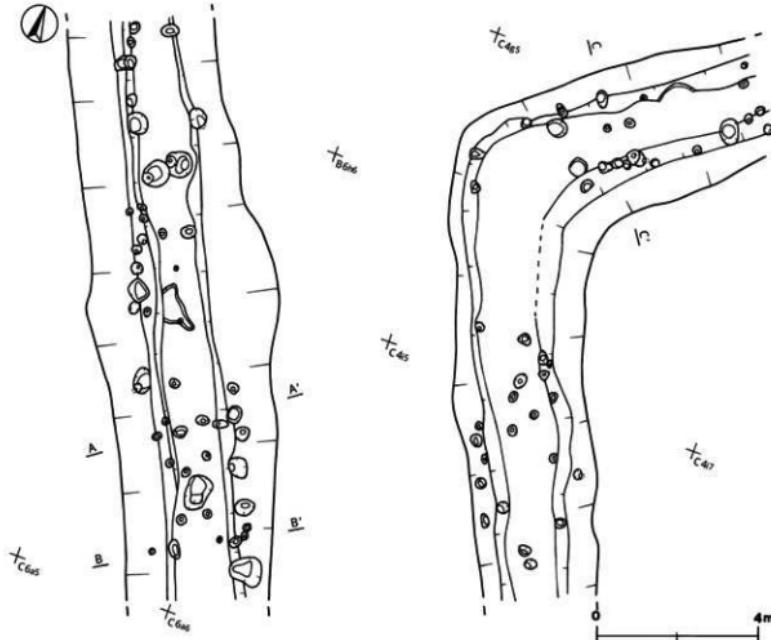
#### 土層解説（SPF-F'）17区

- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量          | 4 | 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量         |
| 2 | 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量     | 5 | 黄褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                   |
| 3 | 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量                | 6 | 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量    |
| 4 | 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量  | 7 | 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量                       |
| 5 | 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 8 | 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量         | 9 | 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量              |

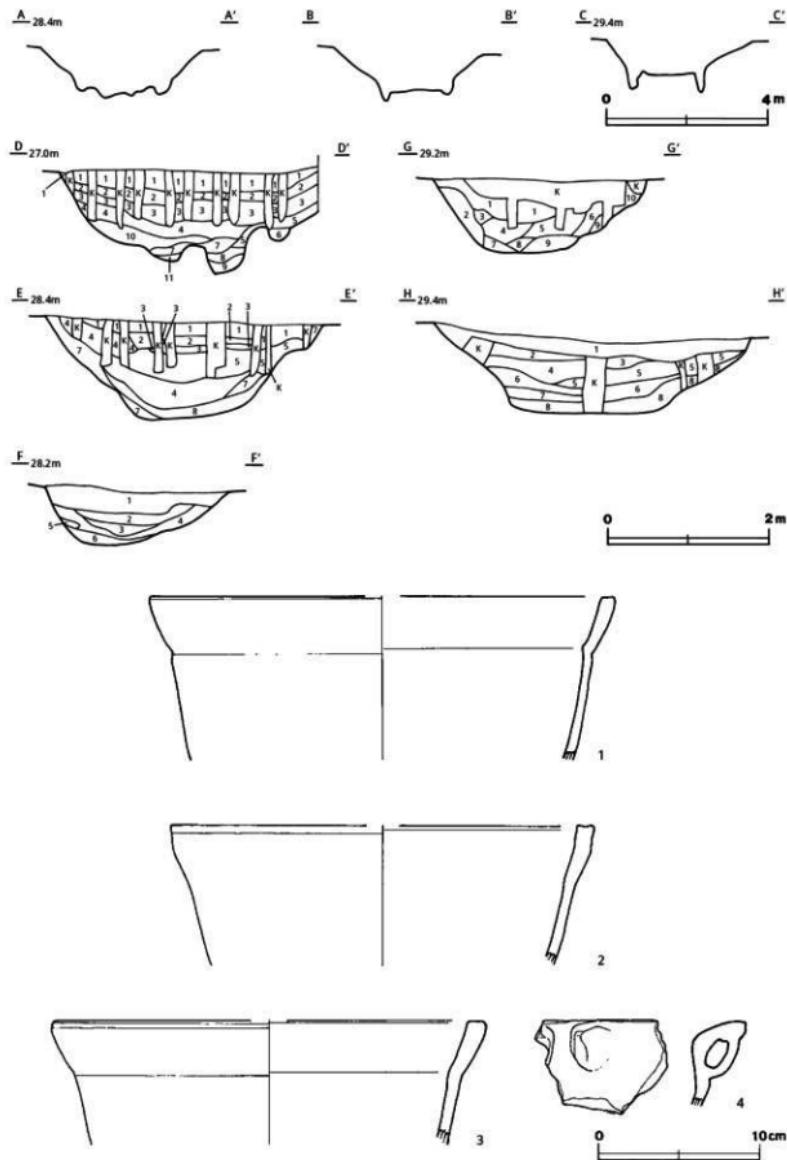
7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・龜沼バミス粒子少量	9 棕色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
8 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量	10 褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
土層解説 (SPH-H') 35区			
1 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・龜沼バミス粒子微量
3 赤褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・龜沼バミス中ブロック微量	7 赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子・龜沼バミス粒子少量
4 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8 赤褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子・龜沼バミス粒子少量

**遺物** 東西方向に走る北側堀の東側、南北方向に走る東側堀を中心に、土師質土器80点、陶器片24点等が出土している。細片が多いので、うち土師質土器4点、陶器片4点を抽出・図示した。第537図1~4の土師質土器内耳鍋は、東側堀の覆土から出土している。6の陶器鉢片は、東側堀の覆土中層から出土している。5の陶器甕の口縁部片は、覆土下層から出土している。7の陶器片口鉢は、東側堀の南部の覆土下層から出土している。8の陶器擂鉢は、北側堀の覆土中層から出土している。

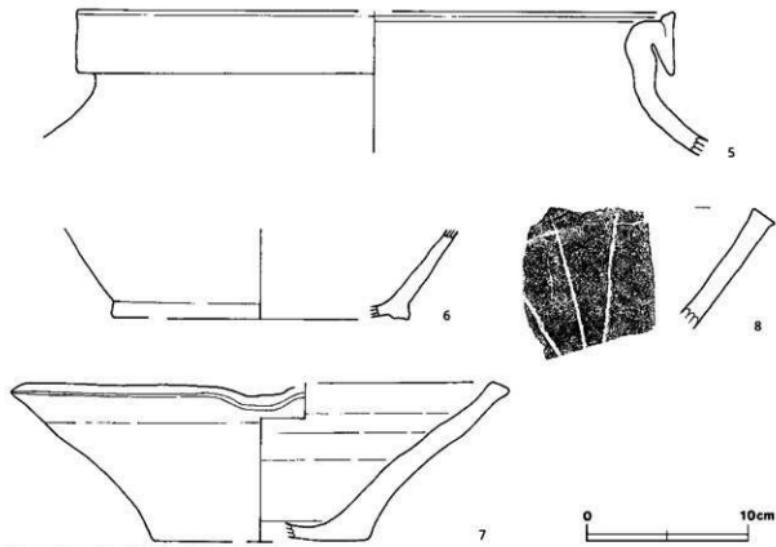
**所見** 本跡は箱築研状に掘られただけではなく、底面に沿って不規則な並びのピットが検出されていることから柵のようなものを伴っていたことも考えられる。出土遺物の中で5の甕片と6の鉢片は、断面が滑らかになっていることから、砥石に転用されたと思われる。5の甕片は、常滑産で、口縁部の様子から14世紀前半のもの。一方、内耳鍋片は胎土に金雲母を含むことから在地産で、15世紀代のものと思われることなどから、14世紀代に掘られ、15世紀代に廃絶されたものと考えられる。また覆土中から硬化面（道路状遺構）が検出されたことから、通路としても利用されたと思われる。



第536図 第1号塙実測図



第537図 第1号堀・出土遺物実測図



第538図 第1号塚出土遺物実測図

第1号塚出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第537図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.0] B (10.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状結晶・雲母・赤褐色、普通	P 3926 10% 体部外面ス付着
2	内耳鍋 土師質土器	A [26.4] B (8.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的に外傾して立ち上がる。 口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・針状結晶・雲母・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 3927 5%
3	内耳鍋 土師質土器	A [26.8] B (7.6)	体部上部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。 口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状結晶・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 3928 5%
4	内耳鍋 土師質土器	B (5.7)	口縁部片。 口縁部は外傾する。	口縁部内面・外面横ナデ。耳貼り 付け後、ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 3929 5%
第458図 5	要 陶器	A [37.0] B (7.8)	口縁部片。口縁部は折り返されて 上下に突出し、口縁部との間に隙 間を持ち、断面N字状を呈する。	口縁部内・外面口クロナデ後、鉄 錆施釉。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3930 5% PL68 常滑系、新面筋石 転用、外面自然釉
6	鉢 陶器	B (5.5) A [18.4]	高台部から体部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	礫・長石・石英 灰赤色 普通	P 3931 5%
7	鉢 陶器	A [28.8] B 9.8 A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。 底部。体部は外傾して立ち上がり、口 縁部に至る。口縁部は片口を呈する。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。	礫・長石・石英・赤 色粒子 明褐色、普通	P 3932 20% PL68
8	鑊 陶器	B (7.0)	体部上部から口縁部にかけての破 片。体部は直線的に外傾して立ち 上がり、口縁部に至る。口縁部は 断面がT字状を呈する。	口縁部及び体部内面擦り目施釉、 外面指痕。	礫・長石 暗褐色 普通	TP3087 5%

#### 4 井戸跡

今回の調査で井戸跡が13基検出され、うち7基を遺構の形態や遺物から中世の井戸跡とした。以下遺構及び遺物について記載する。

第1号井戸跡（第539図）

位置 調査1区の北部、A4g0区。

規模と平面形 長径1.70m、短径1.48mの楕円形である。断面の形態は、下位が狭くなる逆台形に掘り込まれているが、湧水のために確認面から2.21mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-32°-E

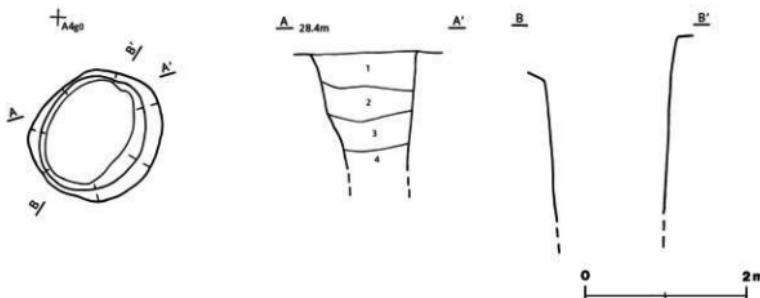
覆土 崩落のために固化できたのは、確認面から1.45mの深さまでである。4層からなり、ブロック状に堆積しているので人為堆積である。

##### 土層解説

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量         | 4 細褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量            |  |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・白色粘土中ブロック微量 |  |

遺物 土師質土器片18点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 本跡は、谷部の先端部にある。谷部は、黒色土除去後、雨天になると水が溜まり、プールの状態を呈し、なかなか抜けないことから水量は豊かであったと思われる。抽出・図示はできなかったが、出土した土師質土器（内耳鉢）片は、第3号井戸跡と同様なものであることから、15世紀後半から16世紀前半と思われる。



第539図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡（第540図）

位置 調査1区の北西部、B4d1区。

規模と平面形 長径1.64m、短径1.41mの楕円形である。断面形の形態は、確認面から0.95mの深さまで漏斗状に、そこから下は径約0.85mの円錐形に、それぞれ掘り込まれている。湧水及び崩落の危険のために確認面から1.77mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-86°-E

覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

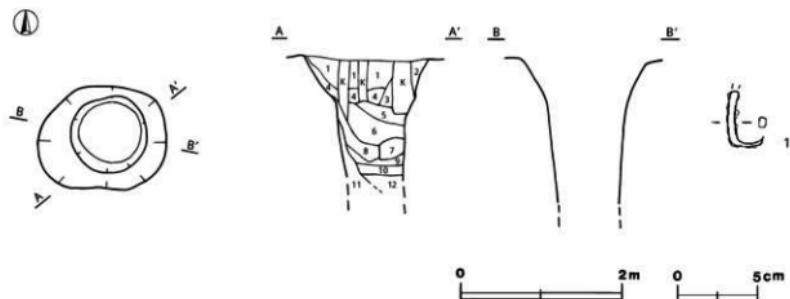
##### 土層解説

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量   | 3 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物微量          |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 4 細褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 |

5 黒褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	9 黒色	ローム粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック、鹿沼バミス粒子微量	10 白褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
7 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 白褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量
8 白褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量	12 白褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 金属製品1点(釘)が出土している。第540図1の釘は、覆土から出土している。

所見 釘が出土しているが、本跡に伴うものかどうか不明である。その他に遺物は出土していないが、遺構の形態などから近在する第1号井戸跡と同じ頃と思われる。



第540図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第540図1	釘	(35)	0.4	0.5	(38)	鉄	先端がJ字状に屈曲。	M3147

第3号井戸跡(第541図)

位置 調査1区の北西部、B3e6区。

規模と平面形 長径1.50m、短径1.30mの椭円形である。断面形は、確認面から深さ約0.55mまで漏斗状に、そこから底面の粘土層まで径約0.94mの円筒形状に、それぞれ掘り込まれている。東壁の中層から下層にかけて壺鏡状の掘り込みがある。

長径方向 N-62°-W

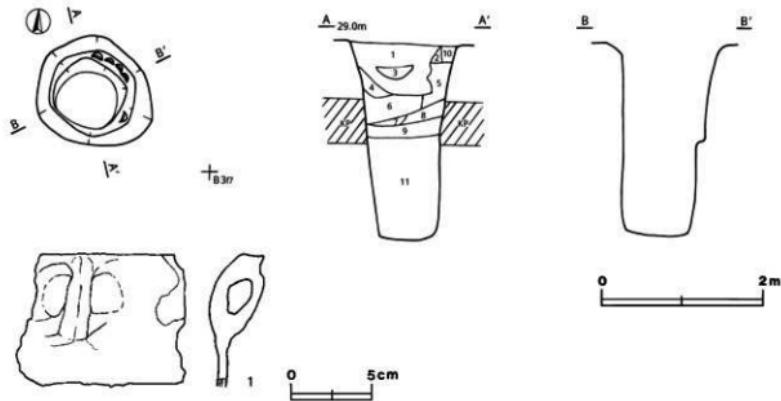
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 白褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	8 白褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子少量、ローム小ブロック微量
3 白褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量	9 白褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量
4 白褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	10 白褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量
5 白褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス小ブロック微量	11 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量

遺物 土師質土器片3点、陶器片5点、水中より長さ約50cm、幅約30cmの長方形、厚さ3~4cmのわらで編まれたものが出土している。うち土師質土器内耳鍋片1点を抽出・図示した。第541図1の土師質土器内耳鍋は、覆土中から出土している。

所見 わら製のものは、井戸の屋根などに用いられていたものと考えられる。時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と思われる。



第541図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

### 第3号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第541図 1	内耳溝 土師質土器	B (8.2)	口縁部片。口縁部は内側しながら外側して立ち上がる。	口縁部内・外側横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	礫・長石・石英・雲母にぶい橙色、普通	P3933 5%

### 第4号井戸跡（第542図）

位置 調査1区の北部、A512区。

規模と平面形 長径2.03m、短径1.94mの円形である。断面形の形状は、確認面から約1.30mの深さまで漏斗状に掘り込まれ、この付近に壺鉢状の掘り込みを持つ。それより下位は、逆台形状に開いて掘り込まれているが、湧水のために確認面から2.22mまでしか掘り下げられなかった。

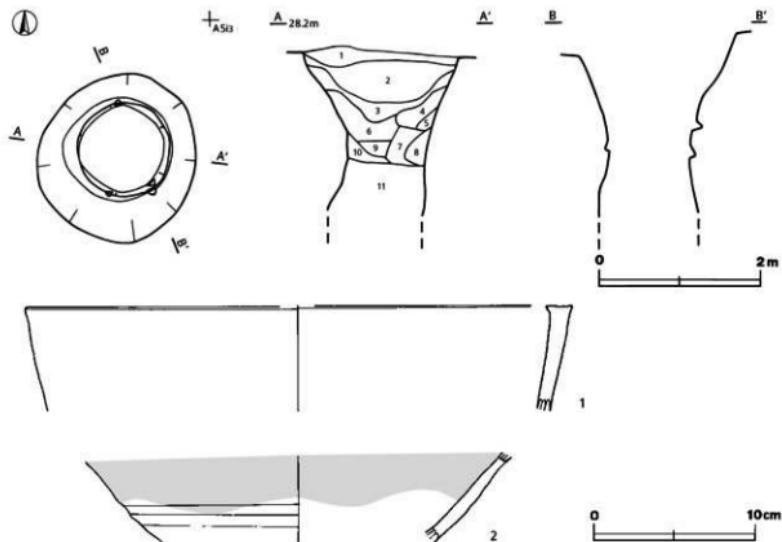
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 黒色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	9 暗褐色	ローム中ブロック微量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バニス粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼バニス粒子微量	11 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バニス粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量、炭化物・炭化粒子・鹿沼バニス粒子微量		

遺物 土師質土器2点、陶器片5点と出土遺物は少なく、細片である。うち陶器2点を抽出・図示した。第542図1の陶器片口鉢（常滑産）と2の陶器深鉢（瀬戸産）は、出土位置は不明であるが、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第542図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

第4号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 1	片口鉢 器	A [34.4] B (65)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。底部は平坦で断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	礫・長石・石英明 暗赤褐色 普通	P 3934 5%
2	深 鉢 器	B (55)	体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ロクロナデ、外面回転ヘラ削り後、内・外面上半部施輪。	長石 灰黄色 良好	P 3935 5% 輪：オリーブ黄色

第5号井戸跡（第543図）

位置 調査1区の西部、C4c2区。

規模と平面形 径1.18mの円形である。断面形の形状は、確認面から約0.80mの深さまで漏斗状に掘り込まれている。そこから下位は、径約1.00mの円筒形状に掘り込まれているが、湧水のために確認面から約1.37mまでしか掘り下げられなかった。確認面から0.74～1.72m間の壁に、壺造状の掘り込みを持つ。

覆土 13層からなる。黒色土中心のあまり繊りのない、しかも湿り気のある土層のため崩れやすかったが、湿り気のある覆土のため馬骨の残りが良かった。馬骨が入っていたことなどから人為堆積と思われる。

#### 土層解説

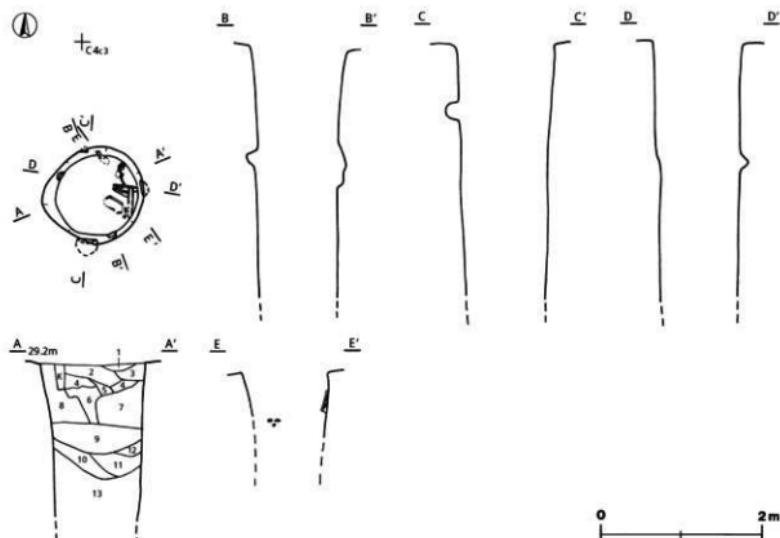
- |       |                                      |        |                                  |
|-------|--------------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量           | 6 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量・ローム粒子・炭化物微量               | 7 黒褐色  | ローム粒子少量・炭化粒子微量                   |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量       | 8 黒褐色  | ローム粒子少量・ローム小ブロック・炭化物微量           |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 9 黒褐色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量                  |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量                     | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量    |
|       |                                      | 11 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子・白色コアリヤ微量           |

12 暗褐色 鹿沼バミス粒子多量

13 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量

**遺物** 陶器片1点と馬骨が出土している。陶器は、細片で図示できなかた。馬骨（頭・足等）は、折り重なるように確認面から0.24~0.72m（第4~8層）の間で出土している。

**所見** 馬骨を挟む土層がブロック状に堆積していることから、馬骨は、井戸の廃棄時に意図的に埋められたと思われる。時期は、壁に鎧状の掘り込みを持つ第4号井戸跡等と同じ頃と思われる。



第543図 第5号井戸跡実測図

## 第6号井戸跡（第544図）

**位置** 調査1区の南東部。C5d0区。

**重複関係** 第1号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 径1.45mのはば円形で、北側付近の壁は、確認面から深さ0.95mまで急な傾斜を持つが、他はほぼ直に垂下する。それから下位は、径0.78~0.94mの円筒形状に、3.55mの底面まで掘り込まれている。底面は、平坦である。

**覆土** 12層からなる。確認面から深さ0.95mまで擾乱が入り、特にそれが著しい0.45m前後までは、土層を割愛した。1層から11層までは、白色粘土ブロックを中心とした覆土である。壁は、鹿沼層下の褐色系のローム土であることから、人為的に埋め戻されたものと思われる。

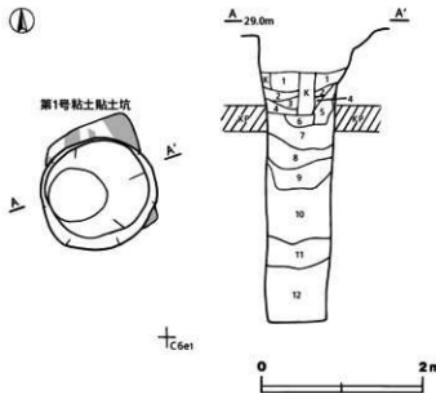
## 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・粘土中ブロック少量、ローム小ブロック	5 黄褐色	白色粘土粒子多量、鹿沼バミス粒子中量、炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	6 オリーブ色	白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・白色粘土小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量	7 黄褐色	ローム粒子中量、白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子・砂粒少量、ローム小ブロック微量
4 暗褐色	白色粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量		

- 8 オリーブ色 白色粘土大ブロック、白色粘土中ブロック多量、ローム粒子、白色粘土小ブロック、白色粘土粒子、砂粒少量、炭化物、灰化粒子微量
- 9 灰オリーブ色 白色粘土大ブロック、白色粘土中ブロック、白色粘土小ブロック、白色粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子少量、炭化物、炭化粒子微量
- 10 オリーブ黄色 白色粘土大ブロック、白色粘土中ブロック、白色粘土小ブロック、白色粘土粒子多量、ローム粒子、炭化粒子微量

**遺物** 陶器片2点が出土しているが、細片のために抽出・図示できなかった。

**所見** 小支谷を望むやかな斜面上に位置する。小陶器片や遺構の形態などから、15世紀後半～16世紀前半と思われる。



第544図 第6号井戸跡実測図

#### 第8号井戸跡（第545図）

**位置** 調査1区の南東部、C5g9区。

**重複関係** 北西部を第520号土坑に掘り込まれている。

**規模と平面形** 北西部上部を第520号土坑に掘り込まれているため、長径1.45m、短径1.23mの楕円形と推定される。確認面から深さ1.62mにある底面は、長径1.33m、短径1.08mの楕円形である。断面の形状は、確認面から約1.30mの深さまで漏斗状に掘り込まれ、この付近に壺蓋状の掘り込みを持つ。それより下位は、円筒形を呈するが、湧水のために確認面から2.22mまでしか掘り下げられなかった。

**長径方向** N-66°-E

**覆土** 8層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

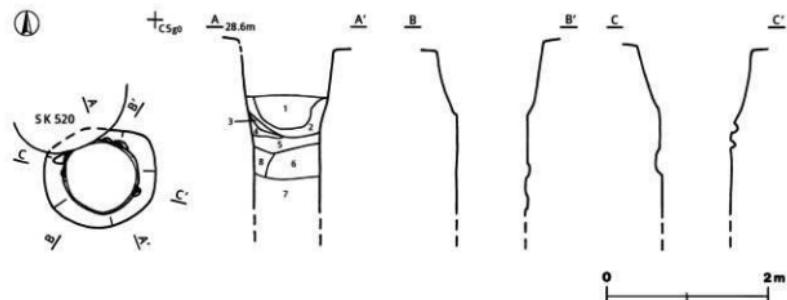
#### 土層解説

- |       |                                       |       |  |
|-------|---------------------------------------|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子、粘土小ブロック微量   | 6 前褐色 | ローム小ブロック多量、ローム大ブロック・ローム粒子中量、鹿沼バニス粒子少量、鹿沼バニス大ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、鹿沼バニス粒子少量、ローム中ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック、鹿沼バニス粒子少量、ローム大ブロック微量   |
| 3 黑褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック微量                    | 8 前褐色 | 鹿沼バニス粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量              |
| 4 黑褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、鹿沼バニス中量            |       |  |
| 5 黑褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バニス粒子微量            |       |  |

**遺物** 出土していない。

**所見** 出土遺物は無いが、遺構の形態や第1号堀の内側に位置することなどから他の多くの井戸跡と同じ頃と

思われる。



第545図 第8号井戸跡実測図

表 10 中世井戸跡一覧表

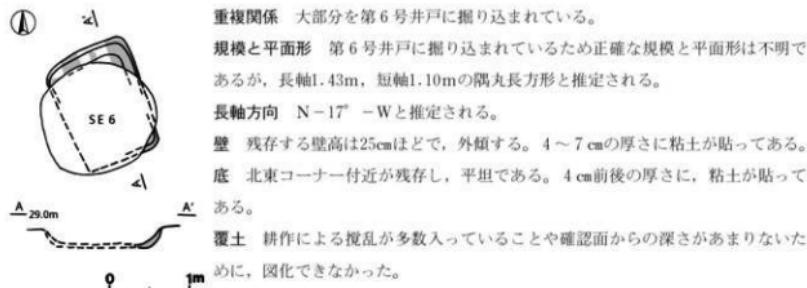
遺構 番号	位置 (長軸方向)	平面形	規 模		断面形	覆土	出 土 遺 物	重複関係 (旧→新)	備 考 (旧番号)
			長径	短径(m)					
1 A4g0	N-32°- E	椭円形	1.70	1.46	(221)	逆台形状	人馬	土師質土器	SK51
2 B4d1	N-86°- E	椭円形	1.64	1.41	(177)	漏斗状・円錐状	人馬	金屬製品	SK75
3 B3e1	N-62°- W	椭円形	1.50	1.30	094	漏斗状・円錐状	人馬	土師質土器、陶器、自然遺物(茎)	SK162
4 A5g2	-	円形	2.03	1.94	(222)	漏斗状・逆台形状	人馬	土師質土器、陶器	SK211
5 C4c2	-	円形	1.18	-	(137)	漏斗状・円錐状	人馬	陶器、馬骨	SK248
6 C5g0	-	円形	1.45	-	355	円錐状	人馬	第1号粘土貼土坑→本跡	SK482
8 C5g9	N-66°- E	[椭円形]	1.45	1.23	(222)	漏斗状・円錐状	人馬	本跡→SK520	SK601

### 5 粘土貼土坑

1区南部のゆるやかな斜面部に粘土を貼った土坑が、1基検出された。以下、遺構について記載する。

第1号粘土貼土坑（第546図）

位置 調査1区の南東部、C5d0区。



第546図 第1号粘土貼土坑実測図

所見 出土遺物がないため明確な時期は不明であるが、15世紀後半から16世紀前半と思われる第6号井戸に掘り込まれていることから、それ以前と考えられる。

## 6 土坑墓

調査1区の北東部から、人骨と古銭を伴う土坑墓1基が検出されているので、その状況及び遺物について記載する。

### 第2号土坑墓（第547図）

位置 調査1区の北東部、B3b4区。

規模と平面形 北壁東側がやや突出しているが、長軸2.01m、短軸1.28mの隅丸長方形で、深さ40~50cmである。

長径方向 N-47°-W

底面 踏み固められていないローム土で、北側がやや高くなっている。

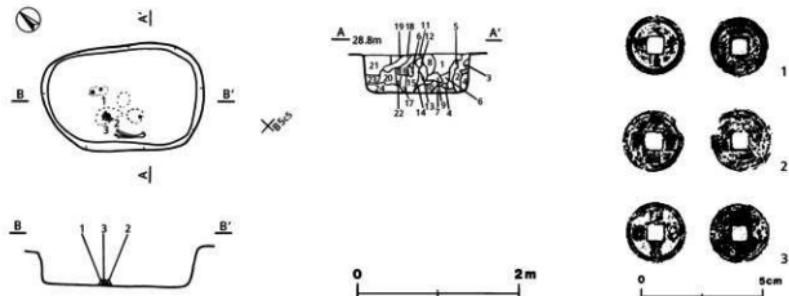
覆土 24層からなる。不規則な堆積状況をしていることから、人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック ク中量、燒土粒子・炭化粒子微量	14	褐	色	ローム粒子・炭化物中量、ローム中ブロック微量
2	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量	15	褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
3	褐	色	ローム粒子中量、炭化物少量、ローム大ブロック微量	16	褐	色	ローム大ブロック・ローム粒子、炭化粒子少量、燒土 粒子微量
4	褐	色	ローム粒子中量	17	黄	褐	色
5	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化物・炭化粒子微量	18	黄	褐	ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子中量
6	褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物微量	19	褐	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
7	褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量、燒 土粒子・炭化粒子微量	20	褐	色	ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブ ロック少量、燒土粒子微量
8	褐	褐	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量	21	褐	色
9	褐	褐	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、燒土粒子・炭化 粒子微量	22	褐	色
10	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	23	に赤褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロッ ク・炭化粒子微量	
11	褐	色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物中量	24	褐	色	ローム大ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロッ ク少量、燒土粒子微量
12	褐	褐	色	ローム粒子・炭化材多量			
13	褐	色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量				

遺物 人骨片5点、古銭3点が出土している。骨は最大で37cmほどの長さをもつが、粒状及び粉状の部分もある、脆い状態で出土している。また、古銭が3点まとまって、北コーナーよりの頭骨と思われる近くの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、人骨と古銭が出土していることや遺構の形態から土坑墓と考えられる。出土している古銭のうち2点は、「元豊通寶（行書体）」と判読できる。「元豊通寶」は、11世紀後半（1078~1086年）に铸造された北宋銭であることから中世の土坑墓と思われる。当遺跡の中世の遺構である堀や地下式壙の時期は、15世紀~16世紀前半と考えられることから、本跡もこの頃のものと思われる。



第547図 第2号土坑墓・出土遺物実測図

第2号土壤墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第547図 1	古銭	24	0.7	0.2	2.8	銅	「元豐通寶」, 初鋤年1078年, 北宋銭	M3148 PL80
2	古銭	25	0.7	0.2	2.8	銅	「元豐通寶」, 初鋤年1078年, 北宋銭	M3149 PL80
3	古銭	24	0.7	0.2	3.1	銅	「元豐通寶」,	M3150

## 7 道路状遺構

コの字状を呈する第1号堀の内側に道路状遺構1条が検出されている。検出された道路状遺構について記載する。

## 第1号道路状遺構（第548図・付図）

位置 調査1区の中央部。G4f6～C5a2区。

重複関係 第1号堀の一部が埋まった後、踏み固められている。

規模と平面形 底面から26～40cmほど埋まった覆土上に、幅が0.10～1.14m、長さが34.56mの光沢のある硬化面が検出できた。深さは、堀の確認面から60～70cmほどである。硬化面の北部は厚さ4～8cm（第1層）であるが、南部は踏み固めが弱く、硬化面の幅が狭くなったり途切れたりする。また、硬化面と堀の覆土境が不明瞭である。

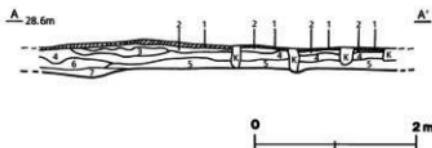
覆土 北東部の硬化面下の土層は、7層からなる。堀の土層の多くは、レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・炭化粒子微量	6 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量。ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子、鹿沼バミス粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量。ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス中ブロック微量
3 赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		
4 極端褐色	ローム粒子少量。ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量		
5 褐色	ローム粒子中量。ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量		

遺物 出土していない。

所見 本跡は、北東コーナー方向に続いていたと思われる。第1号堀が底面から26～40cmほど埋まった頃に、通路として利用されたため硬化したものと思われる。時期は、出土遺物がなく不明であるが、堀の埋まりが少ないことから、まだ堀が機能していた頃（15世紀代）のものと考えられる。



第548図 第1号道路状遺構実測図

## 第7節 時期不明の遺構と遺物

### 1 壑穴住居跡

調査1区及び4・5区から、遺構の重複がなく、遺構にともなう遺物も出土していないため、時期が明らかでない壃穴住居跡が6軒検出された。以下、これらの遺構について記述する。

#### 第4号住居跡（第549図）

位置 調査1区の西部、B3h0区

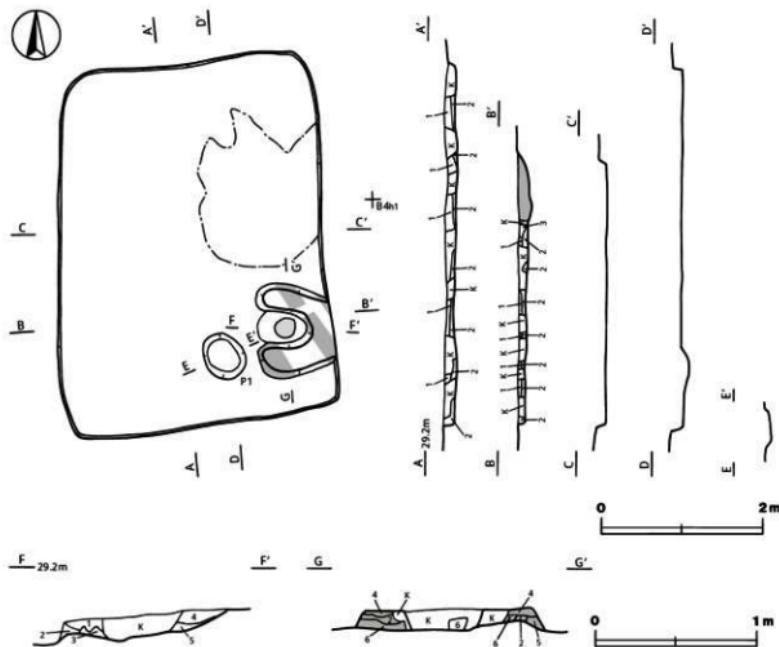
規模と平面形 長軸4.34m、短軸3.42mの長方形である。

主軸方向 N-96°-E

壁 壁高は10~12cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦である。耕作機械による搅乱がひどく、竈左袖部の北側にのみ踏み固められた部分が遺存している。

ピット 1か所。P1は、南壁寄りの竈近くにあり、長径60cm、短径48cmの梢円形、深さ8cmである。性格は不明である。



第549図 第4号住居跡実測図

**窓** 東壁の南コーナー寄りに、粘土と少量の砂粒を混ぜて構築されている。壁外への掘り込みは、搅乱により確認できなかった。規模は、確認できた北壁から焚口部まで98cm、最大幅118cmである。火床面は床面と同じレベルの平坦面を使用している。搅乱を免れた袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。

#### 窓土層解説

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1 赤 褐 色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 5 褐 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子微量         |
| 2 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量               |   |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 6 褐 色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 黄 褐 色 砂質焼土粒子多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量 |   |

**覆土** 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説

- |   |  |
|---|--|
| 1 赤 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・微量        | 3 赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 褐 色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |  |

**遺物** 出土量は少なく、窓中及び窓の周りの床面から土器の細片が6片出土しているだけである。図示できるものはない。

**所見** 出土土器も少なく、細片であることから、本跡の時期は不明である。

#### 第16号住居跡（第550図）

**位置** 調査1区西部、B4j6区。

**確認状況** 壁や床は残存していないが、炉とピットが確認されたことから住居跡と判断した。

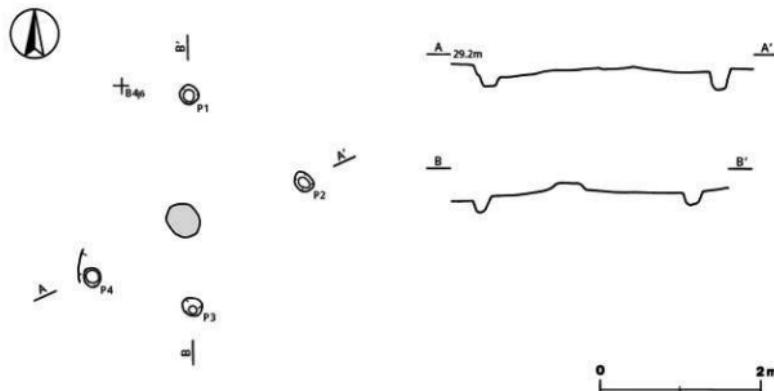
**規模と平面形** 不明である。

**主軸方向** 不明である。

**壁** 確認されなかった。

**床** 確認されなかった。

**ピット** 4か所（P1～P4）。P1は長径24cm、短径22cmの円形、P2～P4は長径25～26cm、短径20～22cmの梢円形で、確認面からの深さは14～29cmである。



第550図 第16号住居跡実測図

**炉** 長径45cm, 短径38cmで、ほぼ椭円形を呈する地床炉と考えられる。確認面で炉床が検出された。

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土しておらず、時期は不明である。

#### 第22号住居跡（第551図）

**位置** 調査1区南西部, C4d6区。

**確認状況** 壁や床は残存していないが、炉とピットが確認されたことから住居跡と判断した。

**規模と平面形** 不明である。

**主軸方向** 不明である。

**壁** 確認されなかった。

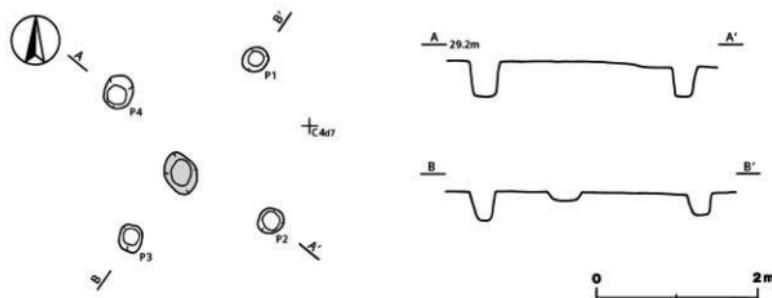
**床** 確認されなかった。

**ピット** 4か所（P1～P4）。P1～P3は長径30～32cm, 短径31～34cmの円形、P4は長径45cm, 短径34cmの椭円形で、確認面からの深さは29～44cmである。

**炉** 長径54cm, 短径39cmで、椭円形を呈する地床炉である。確認面から10cmほど下に炉床が見られる。

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第551図 第22号住居跡実測図

#### 第29号住居跡（第552図）

**位置** 調査1区の東部, C6g7区

**規模と平面形** 床面がほぼ露出した状態で検出され、壁などが検出できなかったが、竈の火床部と出入口ピット等から、長幅2.78m, 短幅2.70mの方形と推定される。

**主軸方向** [N - 2° - E]

**床** ほぼ平坦である。

**ピット** 3か所（P1～P3）。P1は径26cmほどの円形、深さ31cmで、竈の火床部の南方に位置することなどから出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径24cmほどの円形、深さ36cmである。P3は長径38cm、短径32cmの椭円形、深さ31cmである。両者の性格は不明である。

**竈** 北側から火床部と思われる赤変下椭円形の皿状のくぼみと、その周りに袖部の痕跡と思われる薄い粘土の

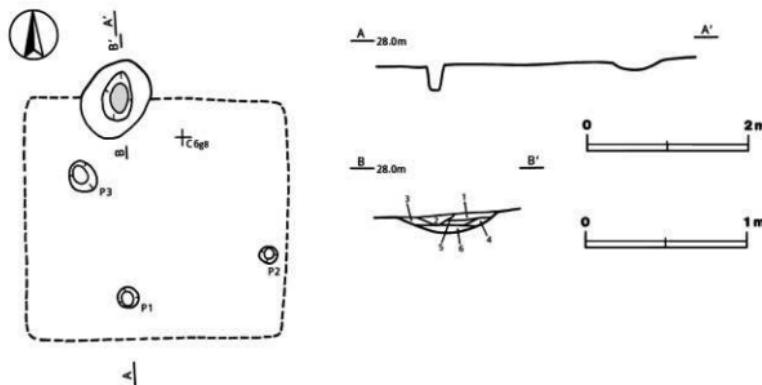
広がりが検出された。

#### 竪火床部土層解説

- |  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| 1 に赤い赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 4 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量  |
| 2 前赤褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量   | 5 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量           | 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量                   |

遺物 出土していない。

所見 床面しか残存していなかったため、覆土の堆積状況は不明である。また、出土遺物がないことから時期も不明である。



第552図 第29号住居跡実測図

#### 第90号住居跡（第553図）

位置 調査4区の西部、G4h1区。

重複関係 第13号溝に掘り込まれており、第794号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 段差のある斜面部に位置しているため、南部及び東部は確認できなかった。床面と思われる硬化面が確認できたため、住居跡の可能性を考えた。硬化面の範囲は南北1.32m、東西1.20mである。

主軸方向 硬化面だけの検出のため、不明である。

壁 搾乱及び溝や土坑と重複しているために確認できなかった。

床 検出された部分は、ほぼ平坦で、踏み固められている。

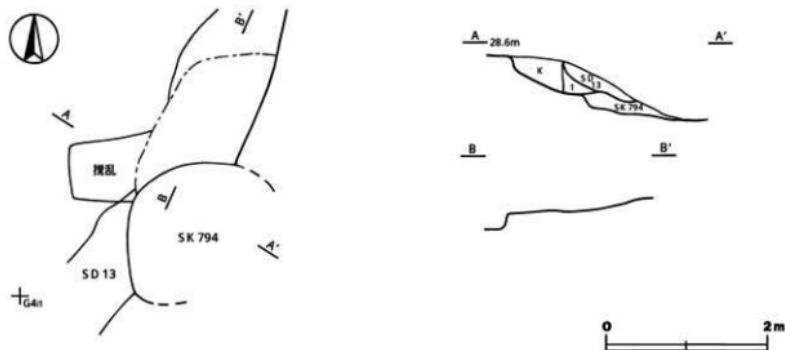
覆土 本跡のものと確認できたのは、1層だけである。堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス少量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、また住居跡の形状が不明なため、時期は不明である。



第553図 第90号住居跡実測図

#### 第125号住居跡（第229図）

位置 調査5区の中央部、G6e4区。

重複関係 第124号住居及び第76・87号ピットに掘り込まれ、第883号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 第124号住居跡等に掘り込まれているため、残存状況は悪い。残存する壁の長さは、東西3.57m、南北1.75mである。平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 残存する壁高は35~55cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。検出された範囲は、踏み固められている。

遺物 弥生土器や土師器、須恵器の細片が少量出土しているが、抽出・図示できるものはなかった。

所見 弥生時代や奈良・平安時代の土器が混じって出土していることや遺構の形態が不明であることなどから、時期は不明である。

表 11 時期不明住居跡一覧表

住居跡 番号	位 置	主軸方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模 (m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設				覆 土	出 土 遺 物	重 複 関 係 (旧→新)	発 見 番 号	
								主柱穴	出入口	ピット	歩・堀					
4	B3h0	N~90°~E	長 方 形	434×342	10~12	平坦	—	—	—	1	1	—	自然	土師器		S14
16	B4g6	不 明	不 明	不 明	—	—	—	—	—	4	1	—	不明			S119
22	C4d6	不 明	不 明	不 明	—	—	—	—	—	4	1	—	不明			S126
29	C6g7	[N~2°~E]	方 形	278×270	—	平坦	—	—	1	2	1	—	不明			S129
90	G4h1	不 明	長 方 形	(132×120)	—	平坦	—	—	—	—	—	—	不明	本跡→SD13+5 SK794	SD4010	
125	G6e4	不 明	不 明	(357×175)	35~55	平坦	—	—	—	—	—	—	不明	SK883→本跡→ S1123P76~87	S15032	

#### 2 挖立柱建物跡

調査2区の北部に、遺物が出土しておらず、時期不明の挖立柱建物跡3棟が検出された。以下、その遺構について解説する。

第51号掘立柱建物跡（第554図）

位置 調査2区の北部、C2e0区。

重複関係 第146号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

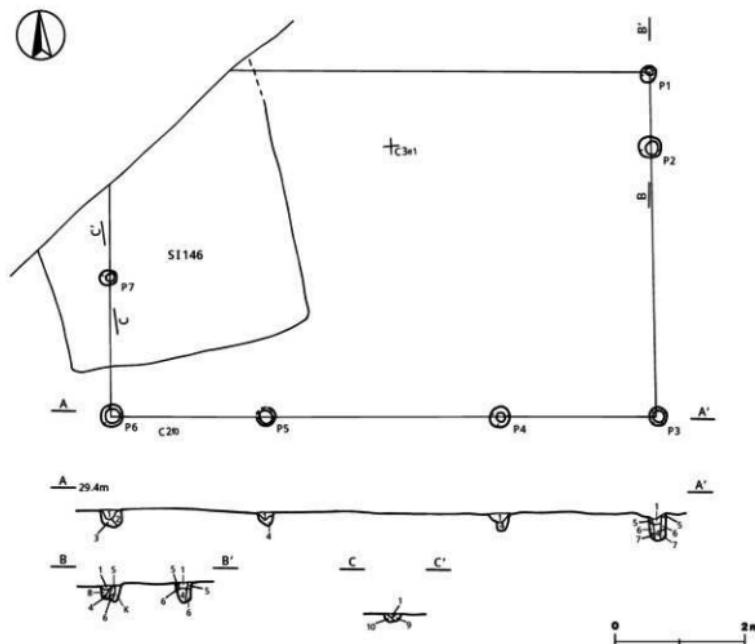
規模 東側柱列の柱穴1ヶ所及び北側柱列は確認されなかつたが、検出された柱穴の覆土及び配列から、掘立柱建物跡とした。東西棟で、桁行3間、梁行3間の側柱建物跡と考えられる。桁行は8.44m、梁行は5.30mである。桁行は、P4・P5間に3.50mとばかり広く、それ以外の柱間寸法は、2.45mほどである。また、梁行は、P5・P6間に1.75mとP1・P7間に2.13mより狭くなっている。柱穴は、平面形が長径22~35cm、短径10~24cmの円形及び楕円形で、深さは12~52cmである。

桁行方向 N-86°-W

覆土 第1・4・8層は柱抜き取り後の覆土である。第5~7層は、土層断面図上、柱抜き取り痕をはさんで、ほぼ水平な堆積状況を示す埋土である。その他は不規則な堆積状況を示し中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	6 極端褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量	7 鮎褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子少量、燒土小ブロック微量	8 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 極端褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
5 黒褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量



第554図 第51号掘立柱建物跡実測図

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土しておらず、時期は不明である。

#### 第52号掘立柱建物跡（第555図）

**位置** 調査2区の北部、C3d2区。

**重複関係** 第55号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 北側柱列は確認されなかったが、検出された柱穴の覆土及び配列から、掘立柱建物跡とした。南側柱列は2間であり、東側及び西側柱列は1間以上で、側柱建物跡と考えられる。南側柱列が3.15m、西側柱列が1.90m、東側柱列が1.53mである。柱間寸法は南側柱列が1.70・1.81mである。柱穴は、平面形が長径35~42cm、短径30~40cmの楕円形及び円形、深さは36~50cmである。

**桁行方向** N-19°-W

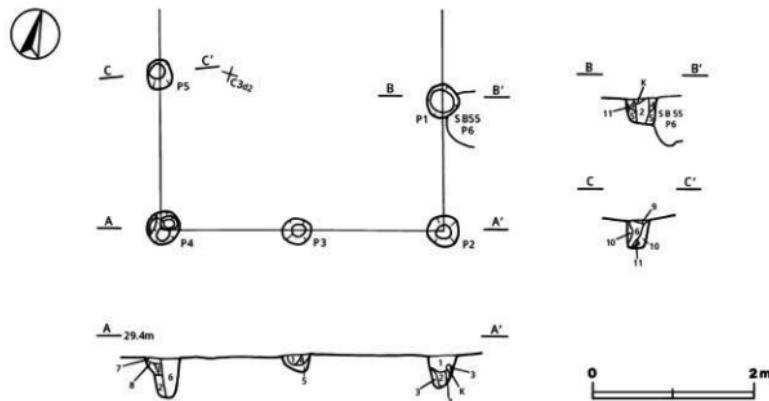
**覆土** いずれも不規則な堆積状況を示し、中程度に縮まった柱抜き取り後の覆土である。

##### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 茶褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子多量
3 茶褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量	9 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 茶褐色	ローム粒子中量	10 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	11 褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量		

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第555図 第52号掘立柱建物跡実測図

#### 第55号掘立柱建物跡（第556図）

**位置** 調査2区の北部、C3c3区。

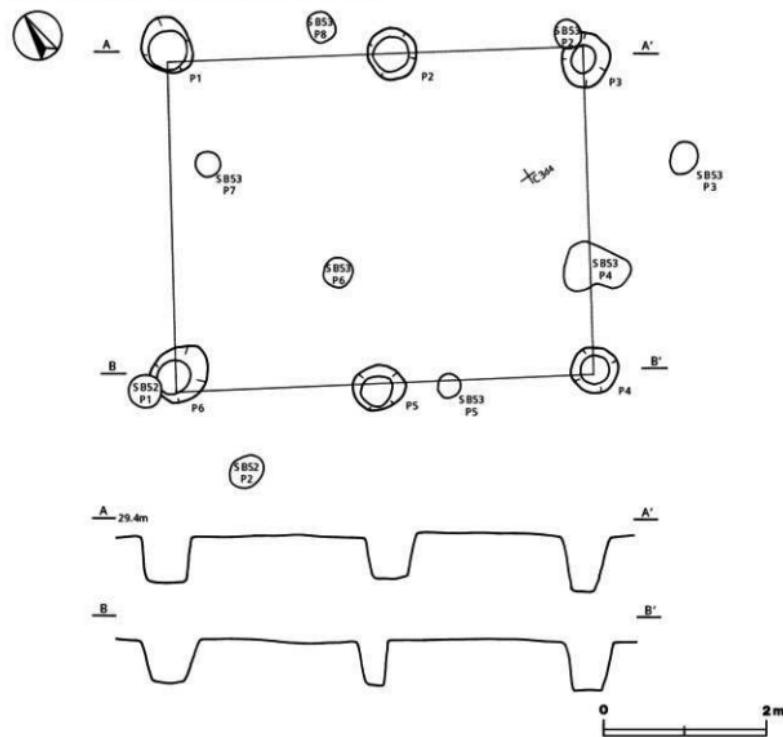
**重複関係** 第52・53号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 衍行2間、梁行1間で東西棟の側柱建物跡である。衍行5.14m、梁行4.04mである。柱間寸法は衍行が2.40~2.75m、梁行が4.03~4.07mである。柱穴は、平面形が長径59~76cm、短径54~64cmの楕円形及び円形で、深さが48~68cmである。

航行方向 N - 57° - W

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第556図 第55号掘立柱建物跡実測図

表 12 時期不明掘立柱建物跡一覧表

掘立柱 建物跡 番号	位 量	航行方向	航× 延 (間)	規 構 (m)	構 造	航行柱間 (m)	航行柱間 (m)	柱 穴 (cm)			新 旧 係 (旧→新)	実測番号	
								平 圓 形	長(短)軸	短(長)軸	深 底		
51	C2e0	N- 86°- W	3× (2)	8.44× (5.30)	東西側・側柱	2.45	1.75	橢円形・円形	22- 35	10- 24	12- 52	S146と重複	SB-2001
52	C3d2	N- 19°- W	(1)× 2	4.65× 3.35	側柱	1.70- 1.81	-	橢円形・円形	35- 42	30- 40	36- 50	S855と重複	SB-2002
55	C3c3	N- 57°- W	2× 1	5.14× 4.04	東西側・側柱	2.40- 2.75	4.03- 4.07	橢円形・円形	59- 76	54- 64	48- 66	S852・53と重複	SB-2005

### 3 屋外炉

今回の調査で、壁や床、ピットが確認できず、炉のみを検出した遺構11基を屋外炉とした。そのなかで、時期不明の屋外炉8基について記載する。

#### 第9号屋外炉（第557図）

位置 調査2区の北部、D2a7区。

規模と平面形 長径60cm、短径45cmの楕円形で、確認面からの深さは7cmほどでの地床炉ある。

炉壁 底面から緩やかな傾斜をもって立ち上がる。火熱を受けた痕跡は北側から西側の炉壁に顯著で、赤変硬化が認められた。

炉床 砂状である。ロームが凹凸状に硬化しているが、赤変は認められなかった。

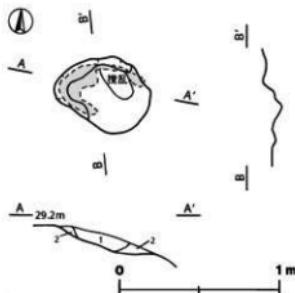
覆土 2層からなる。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片1点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。



第557図 第9号屋外炉実測図

#### 第11号屋外炉（第558図）

位置 調査2区の北部、C3f4区。

規模と平面形 径80cmの円形を呈し、確認面からの深さは9cmほどの地床炉である。

炉壁 底面から緩やかな傾斜をもって立ち上がる。南西側が火熱を受けて赤変硬化している。

炉床 砂状である。火熱を受けて赤変硬化している。

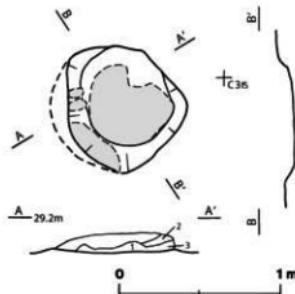
覆土 3層からなる。全体に焼土粒子が含まれ、中程度に縛まっている。

##### 土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 に赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片19点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。



第558図 第11号屋外炉実測図

#### 第12号屋外炉（第559図）

位置 調査2区の北部、C3e5区。

規模と平面形 調査の過程で南側を掘り込んでしまったため全容はつかみがたいが、長径102cm、短径80cmの椭円形を呈する地床炉と推定される。確認面からの深さは20~30cmほどである。

主軸方向 N - 52° - W

炉床 火熱を受けて凹凸状に赤変硬化している。

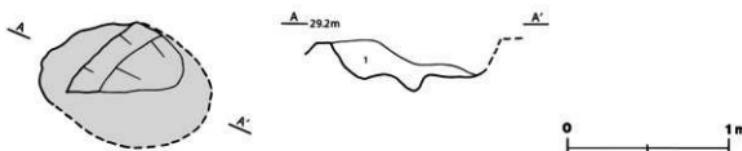
覆土 単一層である。

土層解説

1. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片20点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。



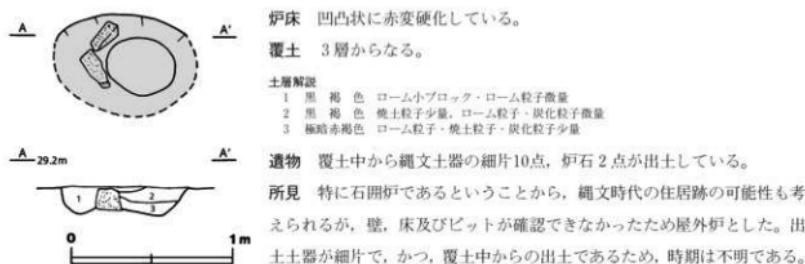
第559図 第12号屋外炉実測図

第13号屋外炉（第560図）

位置 調査2区の北部、C3j5区。

規模と平面形 長径92cm、短径64cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは18cmほどの石窯炉と推定される。炉石は、西側で2点のみ検出され、ともに火熱を受けた痕跡が認められた。

主軸方向 N - 58° - E



第560図 第13号屋外炉実測図

第14号屋外炉（第561図）

位置 調査2区の中央部、E3d4区。

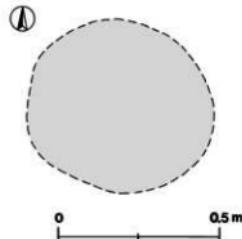
規模と平面形 確認面が炉床であり、全容は不明であるが、残存する焼土範囲から、長径59cm、短径51cmの楕円形と推定される。

主軸方向 N - 58° - W

炉床 撥乱により残存状況はよくないが、火熱を受け凹凸状に赤変硬化している部分が一部認められた。

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第561図 第14号屋外炉実測図

#### 第15号屋外炉（第562図）

位置 調査2区の中央部、E3c5区。

重複関係 第25号溝に掘り込まれている。

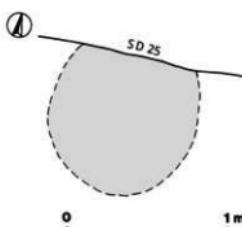
規模と平面形 確認面が炉床であり、また、第25号溝に掘り込まれているため、全容はつかみがたいが、残存する焼土範囲から、長径111cm、短径91cmの楕円形と推定される。

主軸方向 N - 18° - E

炉床 わずかに赤変硬化している。

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第562図 第15号屋外炉実測図

#### 第16号屋外炉（第563図）

位置 調査2区の北部、C3e6区。

規模と平面形 長径88cm、短径58cmの楕円形で、確認面からの深さは23cmほどの地床板ある。

主軸方向 N - 12° - E

炉壁 西壁が緩やかに、東壁が外傾して立ち上がる。火熱を受け赤変硬化している。

炉床 火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる。

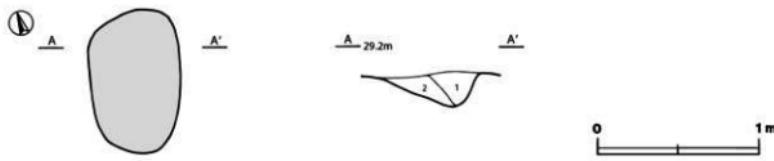
##### 土層解説

1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 始赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第563図 第16号屋外炉実測図

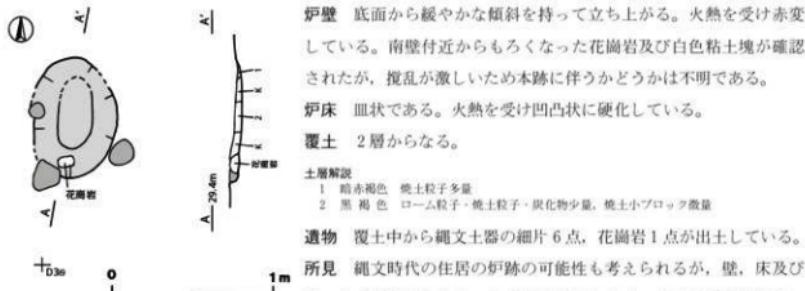
#### 第18号屋外炉（第564図）

位置 調査2区の中央部、D3h9区。

確認状況 確認面において、楕円形の焼土の広がりと白色粘土ブロックが認められた。

規模と平面形 長径75cm、短径55cmの楕円形で、確認面からの深さは8cmほどである。

主軸方向 N-6°-E



第564図 第18号屋外炉実測図

表13 時期不明屋外炉一覧表

遺構 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		出土 遺 物	重 墓 間 係 (旧→新)	備 考 (旧番号)
				長径×短径(m)	深さ(cm)			
9	D2a7	N-82°-W	楕円形	60×45	7	縄文土器片		屋外炉2
11	C3e4	—	円形	80	9	縄文土器片		屋外炉4
12	C3e5	[N-52°-W]	[楕円形]	[102×80]	20-30	縄文土器片		屋外炉5
13	C3e4	[N-58°-E]	[楕円形]	[92×64]	18	縄文土器片, 炉石		屋外炉6
14	E3d4	[N-58°-W]	[楕円形]	[59×51]	—			屋外炉7
15	E3c5	[N-18°-E]	[楕円形]	[111×91]	—		本跡→SD25	屋外炉8
16	C3e6	N-12°-E	楕円形	88×58	23			
18	D3h9	N-6°-W	楕円形	75×55	8	縄文土器片, 花崗岩		SI2108

#### 4 火葬土坑

2区及び1・5区の斜面部に、焼けた骨片及び炭化物を伴う平面形が長方形や眼鏡状の遺構が5基検出された。それらを火葬土坑とし、以下遺構と遺物について記載する。

### 第1号火葬土坑（第565図）

位置 調査1区の南東部、C5e9区。

規模と平面形 全長1.60mで、平面形は眼鏡状である。燃焼部は長径0.70m、短径0.65mの円形、焚口部は、長径1.06m、短径0.82mの楕円形である。焚口部と燃焼部の間に、長さ20cm、上幅18cm、下幅10cm、深さ15~23cmで、燃焼部方向に傾斜する溝が入る。

長軸方向 N-21°-W

壁 燃焼部の壁高は10cm、焚口部の壁高は20cmほどで、ともに外傾して立ち上がる。

底 小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は、長径25cm、短径20cmの楕円形、深さ25cmで、燃焼部の西側に位置する。対になるとと思われるが、擾乱が多いために東側では確認できなかった。

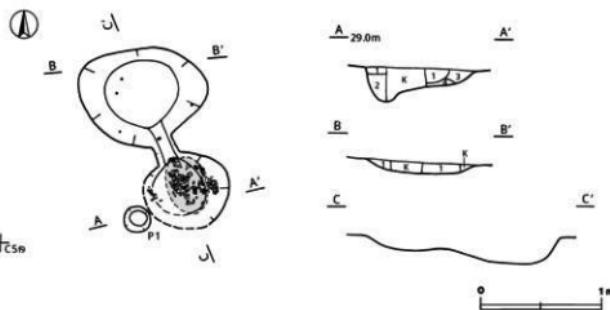
覆土 4層からなる。含有物が類似していることやブロック状に堆積していることから、人為堆積である。

#### 土層解説

- |   |                                    |   |                                |
|---|------------------------------------|---|--------------------------------|
| 1 | 暗褐色 ローム粒子中量、炭化材・炭化物少量、燒土粒子微量       | 4 | 黒褐色 ローム粒子・燒土粒子中量、ローム小ブロック・骨片少量 |
| 2 | 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子中量、炭化粒子少量            |   |                                |
| 3 | 暗褐色 ローム粒子・糞沼バミス粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・骨片微量 |   |                                |

遺物 最大で3~4cmほどの焼けた骨片と骨粉が出土している。

所見 本跡は、焼けた骨片や炭化物等が出土したことから火葬土坑と思われる。焚口部と燃焼部を結ぶ溝は、燃焼部に空気を入れる通気溝と考えられる。また、ピットは、火葬にする時に遺骸を支えるための支柱の穴と思われる。時期を特定できる遺物等が出土していないことから、時期は不明である。



第565図 第1号火葬土坑実測図

### 第2号火葬土坑（第566図）

位置 調査1区の南東部、C5f5区。

規模と平面形 確認面に焼けた骨片及び骨粉が検出された。掘り込みは確認されなかったことから、骨片のある面が底面と思われる。規模及び平面形は不明であるが、骨片及び骨粉は、南北約1.11m、東西約0.57m長方形状の広がりを持っている。

長軸方向 骨片及び骨粉の広がり方向は、N-5°-Wである。

壁 なし。

底 あまり縮まりがなく、赤化した場所もなかった。南方向に緩やかな傾斜をもつ。

覆土 なし。

第566図 第2号火葬  
土坑実測図

**遺物** 焼けた骨片及び骨粉が出土している。

**所見** 骨片が焼けていることや大きな骨がないこと、同じ斜面で、南東に約17m離れて第3号火葬土坑が存在することなどから、地形（斜面部）を利用し、遺骸を火葬にした施設と思われる。時期は、特定できるような遺物が出土していないので不明である。

### 第3号火葬土坑（第567図）

**位置** 調査1区の南東部、C5h8区。

**規模と平面形** 全長（東西）1.82mで、平面形は、眼鏡状である。燃焼部は、長径0.65m、短径0.55mの楕円形、焚口部は長径1.15m、短径0.65mの楕円形である。燃焼部と焚口部の間に、長さ50cm、上幅25~28cm、下幅13cmほど、深さ13~25cmの溝が入る。

**長軸方向** N-83°-W

**壁** 燃焼部の壁高は10cm、焚口部の壁高は20cm、ともに外傾して立ち上がる。

**底** 耕作による搅乱がひどく、遺存している部分は少ないが、ほぼ平坦である。東側土坑に径0.40cmの円形、深さ10cmほどのビットを持つ。西側の底面は、少し赤味を帯びている。

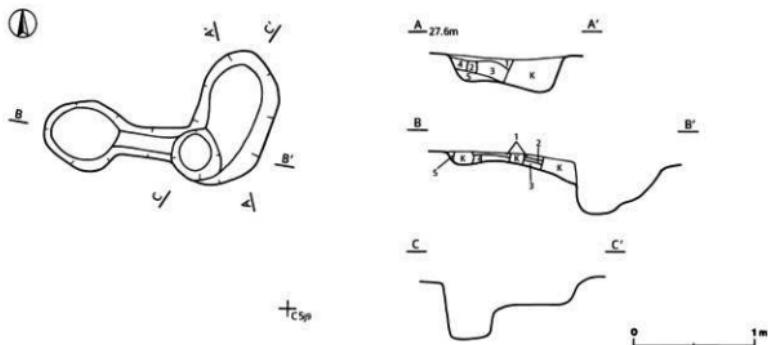
**覆土** 7層からなる。ブロック状に堆積していること、焼けた骨片や炭化物が含まれることなどから人為堆積と思われる。

#### 土層解説

1 黑褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	3 黒色 炭化粒子多量、炭化物中量、骨片・骨粉微量
2 黒褐色 ローム粒子微量	4 黒色 炭化粒子中量、ローム粒子・炭化物微量

**遺物** 焼けた骨片と骨粉が、出土している。

**所見** 燃焼部の底面に火熱による赤化した部分があることや焼けている骨片及び骨粉が出土していることなどから、地形（斜面部）を利用した火葬土坑と考えられる。時期は、特定できような遺物が出土していないことから不明である。



第567図 第3号火葬土坑実測図

### 第4号火葬土坑（第568図）

**位置** 調査5区の南東部、H7a1区。

規模と平面形 長軸2.20m、短軸0.95mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-53°-W

壁 壁高は19cmほどで、外傾して立ち上がる。南コーナー壁及び北東壁の南側が、火熱により赤化している。

底 南東方向に緩やかな傾斜を持つ。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径20cm、短径17cmの椭円形、深さ8cmで、壁は北方向にオーバーハングする。P2は径22cmの円形、深さ9cmで、壁は南方向にオーバーハングする。

P1・P2 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

覆土 6層からなる。含有物に焼土粒子や炭化粒子等が混じることや、ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・炭化物中量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブ

ロック、焼土粒子微量

3 褐褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、炭化物少量

4 黒色 炭化物・炭化粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

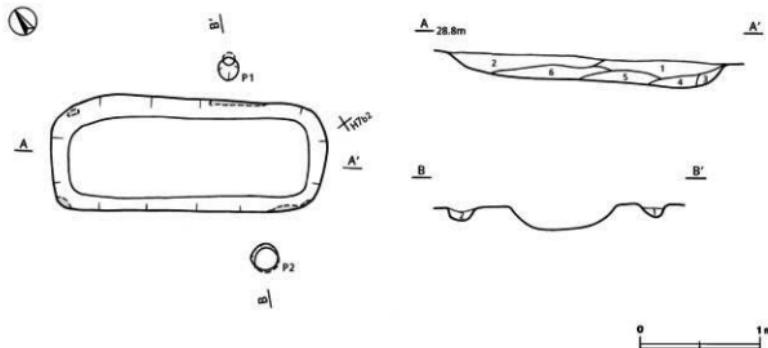
5 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子・ロ

ーム小ブロック微量

6 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少、ローム小ブロック微量

遺物 覆土から土器片1点、須恵器片4点、覆土及び底面から焼けた骨片及び骨粉が出土している。土器片は、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 骨片や南側の壁が焼けていることや炭化物類が多く出土していることから、遺骸を火葬にした施設と思われる。ピットは、オーバーハングしているので、支柱を差し込んだものと思われる。覆土から出土した土器は、平安時代のものと思われるが、斜面部に位置することから、本跡が埋まりきらない窪地の状態時に流れ込んだものとも考えられるので、時期は不明である。



第568図 第4号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑 (第569図)

位置 調査2区の中央部、E4c5区。

重複関係 第26号溝を掘り込んでいる。

**規模と平面形** 燃焼部は長径1.25m、短径0.56mの長楕円形で、その中央部西側に長軸0.32m、短軸0.13mの半円形状の焚口部を有している。燃焼部中央に通気溝と考えられる溝が入っている。通気溝は長さ0.69m、幅0.29mである。

**長軸方向 N-24° - W**

**壁** 燃焼部は深さ29cm、焚口部は深さ21cmで、ともに外傾して立ち上がる。通気溝は深さ35cm、断面形はU字状である。

**底** 凹凸である。

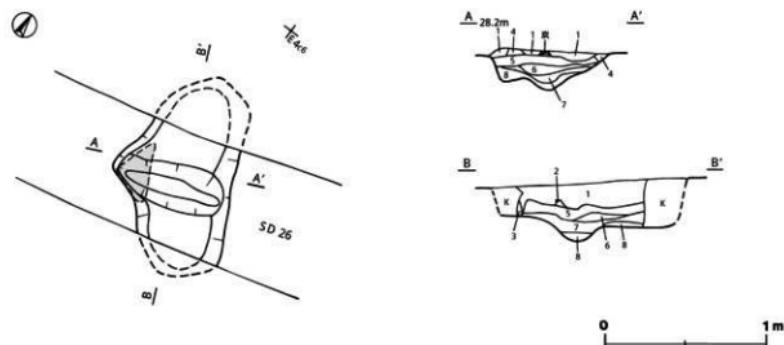
**覆土** 8層からなる。焼土や炭化物が混じってブロック状に堆積していることから、人為堆積である。

#### 土層解説

1 黑褐色	ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子・炭化材微量	6 黑褐色	炭化物・炭化粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック、燒土粒子・骨片少量
2 黑褐色	炭化物・炭化粒子多量、焼土粒子少量	7 暗赤褐色	炭化物・炭化粒子多量、焼土粒子中量、骨片微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量		
5 黑褐色	炭化物・炭化粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量		

**遺物** 最大で5cmほどの骨片と骨粉が出土している。

**所見** 本跡は、骨片や焼土・炭化物等が出土したことから火葬土坑と思われる。時期は、特定できる遺物等が出土していないことから不明である。



第569図 第5号火葬土坑実測図

表 14 火葬土坑一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	底構造(cm)								底面	覆土	出土遺物	墓壙關係 (旧→新)	測量番号		
				燃焼部		通気溝				焚口部								
				長軸	短軸	深さ	壁面	長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	長軸	短軸	深さ	壁面		
1 CS6	N-21°W	横椭状	70×65	10	18	10	15~23	外傾	106	82	20	外傾	平坦	人為	骨片、骨粉		SK568	
2 CS5	N-5°W	不規則	(110×57)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	平坦	不明	骨片、骨粉		SK603	
3 CS8	N-83°W	横椭状	65×55	10	外傾	50	25~28	13	13~25	外傾	115	65	20	外傾	平坦	人為	骨片、骨粉	SK731
4 H7a1	N-53°W	圓角長方形	220×95	19	外傾	—	—	—	—	—	—	—	平坦	人為	骨片、骨粉		SK563	
5 E4c5	N-24°W	T字状	125×56	29	外傾	69	29	—	21	外傾	—	—	—	凹凸	人為	骨片、骨粉	SD26+本跡	SK2061

## 5 井戸跡

1区から8基、2区から5基の井戸跡が検出されたが、遺構の形態が違うもの、または遺物が出土していないか、遺構に伴うと思われる遺物が出土していない6基を時期不明とした。その遺構について記載する。

第7号井戸跡（第570図）

位置 調査1区の南東部、D6b9区。

規模と平面形 長径1.42m、短径1.37mのはば円形。確認面から深さ1.62mの底面は、長径1.33m、短径1.08mの梢円形で、断面形は円筒状である。底面中央部に、平面形が長軸0.90m、短軸0.70mの隅丸長方形、深さ0.46mで、断面形がU字状の掘り込みを持つ。

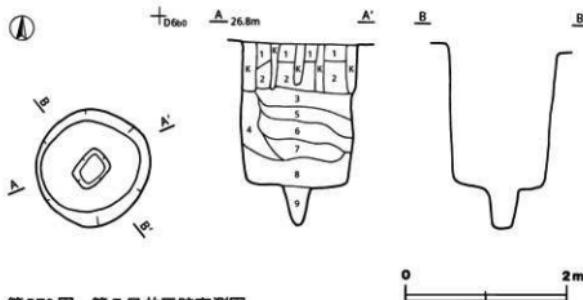
覆土 9層からなる。含有物が類似していることなどから人為堆積である。

### 土層解説

1 級	色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック、鹿沼バミス粒子微量	6 級	色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量
2 黄 級	色 ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量、ローム中ブロック・鹿沼バミス中ブロック・白色粘土小ブロック微量	7 級	色 ローム小ブロック・粘土中ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、鹿沼バミス小ブロック微量
3 級	色 粘土中ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量	8 級	色 ローム小ブロック中量、砂粒少量、ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量
4 級	色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量	9 いぶい黄褐色	色 砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
5 級	色 粘土中ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量		

遺物 出土していない。

所見 底面は、灰色の砂質で湿り気を持っている。コの字形状の堀の内側にあることから中世のものと考えられるが、中央部に窓みを持つ同様の遺構の形態が他にないことなどから、時期は不明である。



第570図 第7号井戸跡実測図

第9号井戸跡（第571図）

位置 調査2区の北部、C2e5区。

規模と平面形 長径1.94m、短径1.82mの円形である。断面の形状は、漏斗状であるが、崩落の危険があるために確認面から2.06mまでしか掘り下げられなかった。

覆土 12層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

### 土層解説

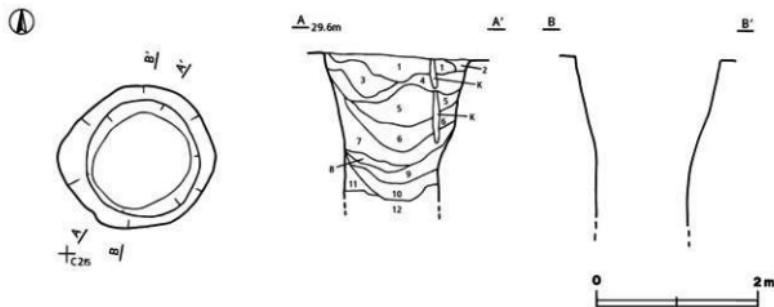
1 級	色 ローム小ブロック多量、ローム大ブロック中量、鹿沼バミス小ブロック少量	3 級	色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
2 黒褐色	色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量	4 黒 色	色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
		5 黒 色	色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
		6 白褐色	色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

- 7 楽色 ローム中ブロック多量、ローム大ブロック中量  
 8 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 9 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

- 10 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量  
 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

**遺物** 出土していない。

**所見** 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、遺物が出土していないため、時期は不明である。



第571図 第9号井戸跡実測図

#### 第10号井戸跡（第572図）

**位置** 調査2区の北部、C33区。

**規模と平面形** 長径0.94m、短径0.86mの円形である。断面形の形状は、漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.38mまでしか掘り下げられなかった。

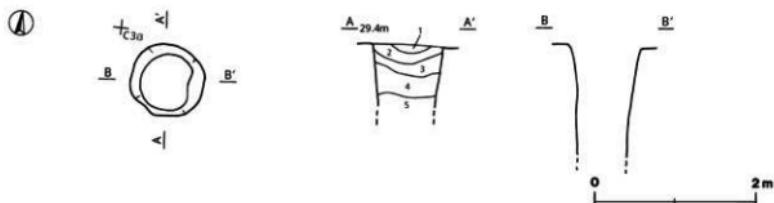
**覆土** 5層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                             |      |                    |
|-------|-----------------------------|------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バニス粒子微量  | 4 黒色 | ローム粒子・鹿沼バニス粒子少量    |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼バニス小ブロック | 5 黒色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼バニス小ブロック |      |                    |
|       | ク・鹿沼バニス粒子少量                 |      |                    |

**遺物** 出土していない。

**所見** 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、遺物が出土していないため、時期は不明である。



第572図 第10号井戸跡実測図

#### 第11号井戸跡（第573図）

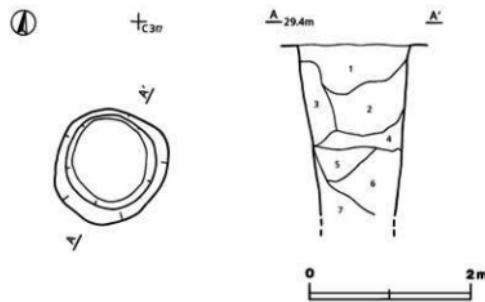
**位置** 調査2区の北部、C3f6区。

規模と平面形 長径1.48m、短径1.36m  
の円形である。円筒状に掘り込まれている。崩落の危険のために確認面から2.10mまでしか掘り下げられなかった。

覆土 7層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子・砂質粘土粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量
- 5 黒色 ローム粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 7 黒色 ローム小ブロック・粘土小ブロック微量



第573図 第11号井戸跡実測図

遺物 繩文土器片31点、土師器片・須恵器片各1点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、伴う遺物が出土していないため、時期は不明である。

第12号井戸跡（第574図）

位置 調査2区の南部、F3e6区。

規模と平面形 長径2.32m、短径2.00mの椭円形である。断面形の形状は、漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.42mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N - 7° - E

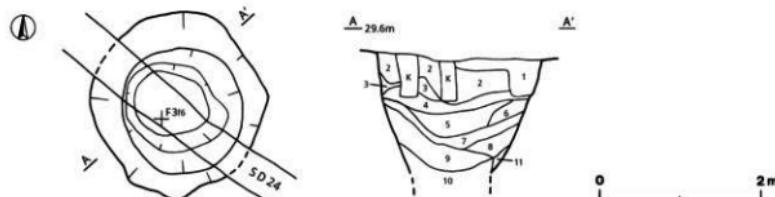
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量・ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黑褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黑褐色 ローム粒子微量
- 6 黑褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 8 黑褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 9 黑褐色 ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量
- 10 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 11 始褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量・鹿沼バミス粒子微量

遺物 繩文土器片136点、土師器片1点、須恵器片7点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、伴う遺物が出土していないため、時期は不明である。



第574図 第12号井戸跡実測図

### 第13号井戸跡 (第575図)

位置 調査2区の中央部、E3c3区。

規模と平面形 長径2.10m、短径1.95mの円形である。断面形の形状は、漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.85mまでしか掘り下げられなかった。

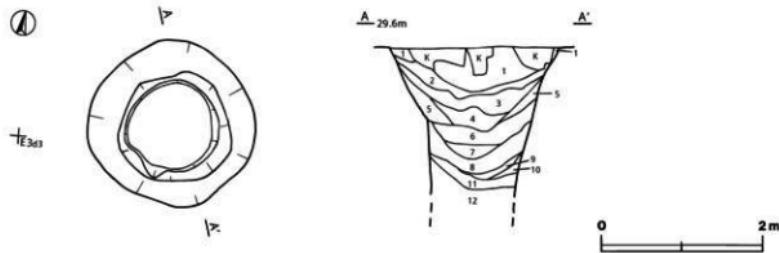
覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・燒土粒子少量、炭化物微量	7 黒褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・燒土粒子微量	8 黒褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子、鹿沼バミス粒子少量、燒土小ブロック・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量	10 紫褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック微量	11 黒褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、鹿沼バミス粒子・穀粒少量
6 黒褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック微量、ローム大ブロック・穀微量	12 黒褐色	ローム小ブロック多量、鹿沼バミス粒子少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス中ブロック微量

遺物 繩文土器片118点、土師器片15点、須恵器片16点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、伴う遺物が出土していないため、時期は不明である。



第575図 第13号井戸跡実測図

表 15 時期不明井戸跡一覧表

道 標 番 号	位 置	長径方向 (横軸方向)	平 面 形	規 模		新 面 形	覆 土	出 土 遺 物	重 量 因 体 ( 旧 → 新 )	考 察 番 号
				長径(m)	短径(m)					
7 D 6b9	—	円 形	1.42× 1.37	1.62	逆台形状	人為				SK556
9 C 2e5	—	円 形	1.94× 1.98	(2.06)	漏斗状	人為				SE2001
10 C 3i2	—	円 形	0.94× 0.86	(1.38)	漏斗状	人為				SE2002
11 C 3i6	—	円 形	1.48× 1.36	(2.10)	円錐形状	人為	縄文土器・土師器・須恵器			SE2003
12 F 3e6	N- 7°- E	椭 圓 形	2.32× 2.00	(1.42)	漏斗状	人為	縄文土器・土師器・須恵器			SE2004
13 E 3c3	—	円 形	2.10× 1.95	(1.85)	漏斗状	人為	縄文土器・土師器・須恵器			SE2005

### 6 溝

調査1区から10条、2区から5条、3区から2条、4区から4条、5区から5条の計26条の溝が確認された。第1・5・13・19号溝などのように最近の地図上の筆記と位置がほぼ一致し、土地の区画・根切り等に利用されたものと考えられるものもある。しかし、多くは時期を特定できる出土遺物が少ないために性格や時期は不明である。ここでは11条の溝について記述し、その他は一覧表に記載する。

### 第8号溝（第576図・付図）

位置 調査1区南部、C5g1～C5j3区。

重複関係 第9号溝と重複しているが、耕作による擾乱のため新旧関係は不明である。

形状と規模 斜面部に位置するために南部は検出できなかった。検出できた長さは14.52m、上幅1.08～1.24cm、下幅0.24～0.54cm、深さ17～28cmである。断面形はゆるやかなU字形である。

方向 南部は検出できなかったが、南方向（N-151°-E）に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説（SPA-A'）4区

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 瓦質土器1点、土師質土器片1点、陶器片6点が出土している。うち瓦質土器1点、陶器1点を抽出・図示した。1の瓦質土器香炉と2の陶器碗は、ともに覆土中から出土している。

### 第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第576図 1	瓦質土器	B (32) E 0.7	底部から体部にかけての破片。平底。断面が逆台形の支脚が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。支脚貼り付け。	磯・長石・菅母 灰色 普通	P 3936 10%
	陶器	B (35) D [46] E 0.6	底部から体部にかけての破片。平底。断面逆台形の高台が付く。体部は内側しながら外傾して立ち上がる。	体部内面・外面クロナナ。底部調整不明。内面灰輪、外側鐵輪施。	長石 内:灰白色、外:黒褐色、良好	P 3937 5% 瀬戸・美濃系
2						

所見 中世（瓦質土器香炉）や近世（瀬戸・美濃系陶器）と時期幅がある遺物が出土していること、本跡南部が検出されていないことなどから、時期及び性格は不明である。

### 第9号溝（第577図・付図）

位置 調査1区の南部、C4g7～C5j2区。

重複関係 第36・46号住居跡を掘り込んでいる。第8号溝と重複しているが、耕作による擾乱のため新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形は南を向くU字形で、南北方向に走る東側は斜面部のために南部は検出できなかったが、東西とも調査区域外に延びると思われる。検出できた長さは61.96m、上幅0.60～1.45cm、下幅0.10～0.60cm、深さ35～66cmである。断面形はU字形ないし箱築研状である。

方向 1区南部から北西方向（N-37°-W）に向かい、C4e9区で北東方向（N-24°-E）に屈曲する。さらに、C4e9区で南東方向（N-124°-E）に屈曲する。

覆土 2～3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説（SPA-A'）4区

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック  
微量

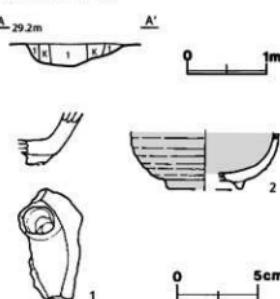
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

3 極端褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子微量

土層解説（SPB-B'）2区南側

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

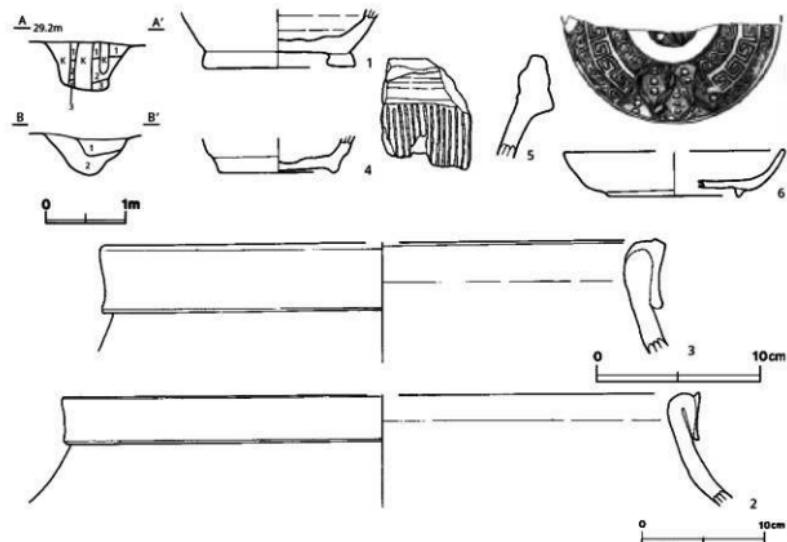
2 黒褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量



第576図 第8号溝・出土遺物実測図

遺物 灰釉陶器1点、土師質土器18点、陶磁器23点が出土している。うち灰釉陶器1点、陶器4点、磁器1点を抽出・図示した。1の灰釉陶器壺片、2~6の陶磁器片は、覆土中から出土している。

**所見** 古代から近現代までの時期幅がある遺物が出土している。「天王様」と呼ばれる祠の周囲をU字状に廻ることから、それに関連する区画構と思われるが、時期は不明である。



第577図 第9号溝・出土遺物実測図

第9号墓出土遺物觀察表

伝承番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第577回 1	盃 灰釉陶器	B (3.6) D 9.5 E 0.9	底面部。断面台形の高台が付く。 体部は外側して立ち上がる。	底部回転糸切り後、高台貼り付け。	礫・砂粒・長石 灰白色 普通	P 3939 5% 三河・遠江地方 底部内面輪
2	模 陶 器	A [50.6] B (9.1)	口縁部片。側部は内側する。折返 し口縁で、端部外面はつまみ上げ られている。	口縁部上部は折り返されている。 外面鉄鉻。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3940 5% PL68 常滑系
3	模 陶 器	A [34.0] B (7.1)	口縁部片。幅の広い粘土紐が巡る。	口縁部内面クロコナデ、外腹幅広 の粘土紐貼り付け。内・外腹鉄鉻。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3941 5% 断面砥石転用 常滑系
4	鉢 陶 器	B (2.2) D [7.2] E 0.4	高台部片。高台は断面が逆台形の 型である。体部は外側して立ち上がる。	体部内面クロコナデ、外腹ヘラ削 り。削り出し高台。	長石 淡黄色 良好	P 3943 10% 瀬戸・美濃系
5	擂 陶 器	B (0.9)	口縁部片。口縁部は外側して立ち 上がり、上部に隆蒂が貼られる。	口縁部上部に隆蒂貼り付け。内面 擗り目跡文。	礫・長石 にぶい赤褐色 普通	P 3942 5% 埴・明石系力
6	皿 磁 器	A [13.8] B 2.8 D [8.2] E 0.4	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内寄しながら外側して 開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部ロクロ成型。削り だし高台。餘付け。透明釉。	- 灰白色 普通	P 3938 40%

### 第11号溝（第578図・付図）

位置 調査3区の中央部及び4区の北西部、G23～G3b8区

重複関係 第62・73・74号住居跡を掘り込んでいる。また、第786号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

形状と規模 3区中央部の西端から直線的に東端に向かい、調査区域外の町道部分を越え、4区に11.5mほど延びる。検出された長さは約43.5m、上幅0.50～1.28cm、下幅0.30～0.64cm、深さ12～50cmである。断面形はU字状である。

方向 東方向（N-76°-E）に直線的に延びる。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説（SPA-A'）2区

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・燒土粒子・炭化物微量

#### 土層解説（SPB-B'）9区

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器や須恵器片が出土している。住居跡と重複する付近の覆土上層から出土していることから、住居跡を掘り込んでいることによるものと思われる。

所見 本跡に伴うと思われる遺物が出土していないために、時期は不明である。本跡は4区まで延びて途切れるが、途切れた所から東側に90cmほど離れて、第15号溝が、東方向に延びている。本跡と第15号溝は、3区の西端から4区の東端にかけて、一直線に延びていることから関連する溝と思われる。

### 第15号溝（第579図・付図）

位置 調査4区の北部、G3b9～F5h1区

重複関係 第88号住居跡及び第817号土坑を掘り込んでいる。また、第15号地下式壙及び第16号溝と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

形状と規模 4区の東端で調査区域外に延びる。検出された長さは、50.32m、上幅0.70～1.80cm、下幅0.26～0.70cm、深さ52～60cmである。断面形はU字状である。

方向 東方向（N-76°-E）に直線的に延びる。

覆土 2～5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説（SPA-A'）5区

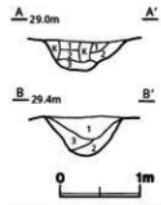
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・燒土粒子微量

#### 土層解説（SPB-B'）3区

- 1 黑褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量

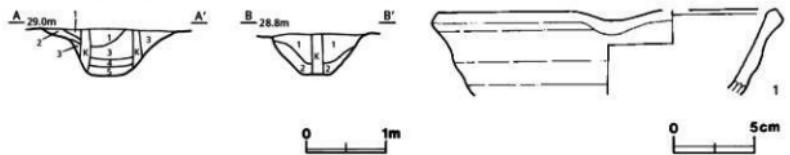
遺物 土師器片や須恵器片が出土しているが、住居跡を掘り込んでいることによるものと思われる。他に陶器片1点（片口鉢）が出土している。

所見 1の片口鉢片は常滑産で、13世紀代に位置づけられるものであるが、この時期の土器が1点しか出土していないことや第15号地下式壙との重複関係も不明なため時期不明とした。また、5区の第18号溝は断面形が



第578図 第11号溝  
実測図

類似していることや、これら3条の溝（第11・15・18号）を結ぶと4区の谷部をL字状に囲むようになることなどから関連性も考えられるが、性格は不明である。



第579図 第15号溝・出土遺物実測図

第15号溝出土遺物観察表

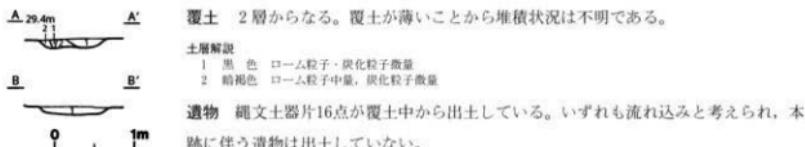
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第579図 1	片口鉢 器	A [21.0] E (52)	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は肥厚する。	口縁部及び体内部・外面クロロナ テ後、施釉。	長石 淡黄色 良好	P3944 10% PL68 瀬戸・美濃系

第22号溝（第580図）

位置 調査2区北部、C2a9～B3h1区。

形状と規模 長さは17.0mで、上幅26～62cm、下幅12～47cm、深さ11cmである。断面は皿状である。

方向 C2a9区から北東方向（N-141° - W）に直線的に延びる。

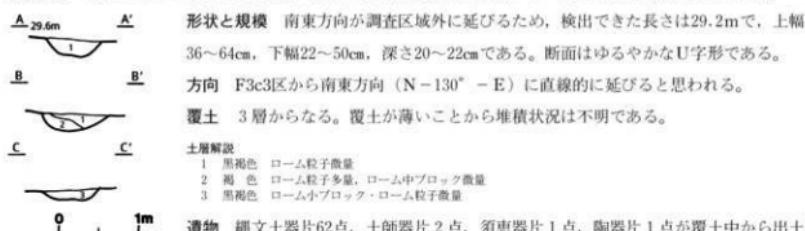


第580図 第22号溝  
実測図

第24号溝（第581図）

位置 調査2区南部、F3c3～F3h9区。

重複関係 第12号井戸、第204号居住跡、第58号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



第581図 第24号溝  
実測図

所見 時期及び性格は不明である。

#### 第25号溝（第582図）

位置 調査2区中央部、E3b2～E3d0区。

形状と規模 西方向が調査区域外に延びるものと思われるが、検出できた長さは31.85mで、上幅84～102cm、下幅34～68cm、深さ5～14cmである。断面は皿状である。

方向 E3d0区から西方向（N-80°-W）に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

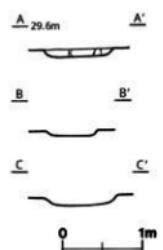
##### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量

遺物 繩文土器片370点、土師器片2点、須恵器片6点が覆土中から出土している。

いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第582図 第25号溝  
実測図

#### 第26号溝（第583図）

位置 調査2区中央部、E4c3～E4c6区。

重複関係 第5号火葬土坑を掘り込んでいる。

形状と規模 東方向が調査区域外に延びるものと思われ、検出できた長さは13.2mで、上幅58～84cm、下幅30～54cm、深さ15cmである。断面は皿状である。

方向 E4c3から北東方向（N-75°-E）に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

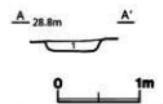
##### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 繩文土器片80点、土師器片2点、須恵器片10点が覆土中から出土している。

いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第583図 第26号溝  
実測図

#### 第27号溝（第584図）

位置 調査2区北部、D2c6～D2e8区。

形状と規模 北西方向が調査区域外に延びるものと思われ、検出できた長さは11.5mで、上幅112～162cm、下幅58～90cm、深さ14cmである。断面は皿状である。

方向 D2e8区から北西方向（N-30°-W）に直線的に延びると思われる。

覆土 3層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

##### 土層解説

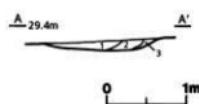
1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

2 黒色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第584図 第27号溝  
実測図

表 16 時期不明溝一覧表

溝番号	位 置	方 向	形 状	規 模				新 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	重 複 関 係 ( 旧 → 新 )	発掘番号
				幅 距 間	上 幅	下 幅	深 底						
1 A5b6-A5e6	南北 - 北東	直線状	(24.03)	0.86 - 1.44	0.32 - 0.74	0.17 - 0.28	U字形	直状	不規				S01
2 A5f9-A5e6	南北 - 北東	直線状	( 7.42)	0.48 - 0.66	0.12 - 0.44	1.00 - 1.40	U字形	直状	不規				S02
3 A5c9-A5e6	南北 - 北東	直線状	( 5.18)	0.32 - 0.48	0.12 - 0.22	0.10 - 0.14	U字形	直状	不規				S03
4 B5c5-B6e4	西 - 東	直線状	( 38.32)	0.48 - 1.46	0.66 - 0.88	0.17 - 0.36	U字形	直状	自然				S05
5 B63-C6a4	東 - 西	L字状	(139.9)	0.24 - 0.36	0.15 - 0.34	0.14 - 0.24	U字形	平坦	自然				S07
		南北 - 北											
6 B5j8-B6z2	西 - 東	直線状	(16.62)	1.24 - 1.72	0.38 - 1.28	0.24 - 0.48	U字形	直状	自然			S131と重複	S08
7 B5j7-C6g1	北西 - 南東	直線状	(36.98)	1.10 - 2.80	0.44 - 1.12	0.18 - 0.45	U字形	平坦	自然			S131・S8 SK440-S15-S83・ 第1号大型六状溝と重複	S09
8 C5g1-C5j3	北西 - 南東	直線状	(145.2)	1.08 - 1.24	0.24 - 0.54	0.17 - 0.28	U字形	直状	不明	瓦片土器、土師質 土器、陶器		S08・11と重複	S010
9 C4g7-C5j2	南東 - 北西 南北 - 北東 状	二字口	(61.99)	0.60 - 1.45	0.10 - 0.60	0.35 - 0.66	U字形	平坦	自然	灰褐色陶片、土師質 土器、陶器		S136・本跡、S08と重複	S011
10 H2b6-H2d9	西 - 東	直線状	(12.76)	1.14 - 1.50	0.72 - 1.02	0.17 - 0.23	U字形	平坦	不規				S0301
11 G23-G3b6	西 - 東	直線状	(43.59)	0.50 - 1.28	0.30 - 0.64	0.12 - 0.50	U字形	平坦	自然	土師器、須恵器		S161・72・73→本跡、SK7 B6cと重複	S0302
13 G3j9-G5h2	南北 - 東	直線状	(64.98)	0.66 - 2.22	0.08 - 1.50	0.10 - 0.33	U字形	平坦	自然			S169・90、SK772・782・7 83・794・786と重複	S0401
14 G3g9-E5a1	南北 - 東	直線状	(63.19)	0.19 - 0.96	0.10 - 0.44	0.16 - 0.44	U字形	直状	自然			第14号地下式構と重複	S0402
15 G3b9-F5h1	西 - 東	直線状	(50.32)	0.70 - 1.80	0.26 - 0.70	0.52 - 0.60	U字形	直状	自然	土師器、須恵器、 陶器		S167・SK817・本跡、第15 号地下式構、SD16と重複	S0403
16 F-4j1-G4a2	北西 - 南東	直線状	(12.17)	0.52 - 0.72	0.18 - 0.36	—	—	—	不規			S166・SK827と重複	S0404
17 F8g3-F65	西 - 東	直線状	9.86	1.14 - 1.36	0.94 - 1.12	—	—	—	不規			S94・6、SK849・855と重 複	S0501
18 G5a8-H6a2	北西 - 南	直線状	(50.19)	1.18 - 1.82	0.22 - 0.46	0.23 - 0.68	U字形	直状	自然			S112b-13b・135、S812-24- 25-30-42-43、SK882-936、 P223-228・243・946と重 複	S0502
19 G5c4-G5i5	北 - 南	直線状	(29.24)	0.46 - 1.12	0.14 - 0.72	0.45 - 0.55	U字形	直状	自然			S1137、SK927と重複	S0503
20 G5d2-G5i5	南 - 北 東 - 西	L字状	(21.54)	0.24 - 0.74	0.68 - 0.34	0.13 - 0.15	U字形	平坦	不規			P3・4と重複	S0504
21 G5d3-G5i4	北 - 南	直線状	7.58	0.42 - 0.78	0.12 - 0.48	0.12 - 0.17	U字形	平坦	不規				S0505
22 C2a9-B3h1	南北 - 北東	直線状	17	0.26 - 0.62	0.12 - 0.47	0.11	直 状	平坦	不規	縞文土器片			S0201
24 F3k3-F3h1	南北 - 北西	直線状	(29.2)	0.36 - 0.64	0.22 - 0.50	0.20 - 0.22	U字形	平坦	不規	縞文土器、土師器、 須恵器、陶器		SB58・S1204・SE12と重複	S0203
25 E3b2-E3d0	東 - 西	直線状	(31.89)	0.84 - 1.02	0.34 - 0.68	0.05 - 0.14	直 状	平坦	不規	縞文土器、土師器、 須恵器		第5号火葬坑 - 本跡	S0204
26 E4c3-E4k6	東 - 西	直線状	(13.2)	0.58 - 0.84	0.30 - 0.54	0.15	直 状	平坦	不規				S0205

## 7 土坑・土坑墓

今回の調査で、時期不明の366基の土坑が検出された。そのうち、人骨及び遺物を伴い土坑墓と考えられる2基について記載し、その他は一覧表で報告する。

## 第3号土坑墓（第585図）

位置 調査1区の北東部、B3e6区。

規模と平面形 長径1.41m、短径0.82mの梢円形で、確認面からの深さは13cmである。

長径方向 N - 8° - W

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

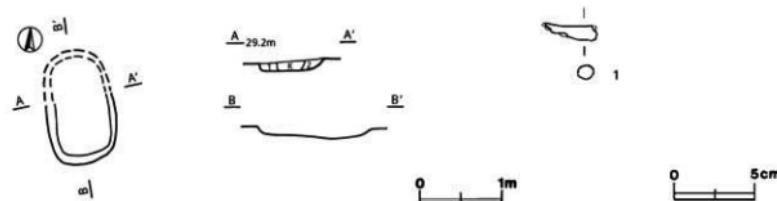
覆土 2 層からなる。堆積状況は不明である。

土層解説  
1 黒褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物 人骨 1 点及び骨粉、煙管の雁首が出土している。骨は西壁際、骨粉は南壁際の底面から、煙管の雁首は覆土中から出土している。

所見 人骨及び煙管の雁首が出土していること、遺構の規模や形態などから土坑墓と考えられる。正確な時期は不明であるが、煙管の雁首が出土していることから、近世以降と考えられる。



第585図 第3号土坑墓・出土遺物実測図

第3号土坑墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第585図 1	煙管	(3.3)	(0.9)	-	(2.0)	銅	雁首の一部。断面形が円形。	M2506

第5号土坑墓 (SK743) (第586図)

位置 調査1区の中央部、C5a2区。

重複関係 第1号堀に掘り込まれている。第661号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形 北西部の下部が残存しているのみで、正確な規模及び平面形は不明である。

長径方向 不明である。

壁 北西壁が残存しており、なだらかに立ち上がる。

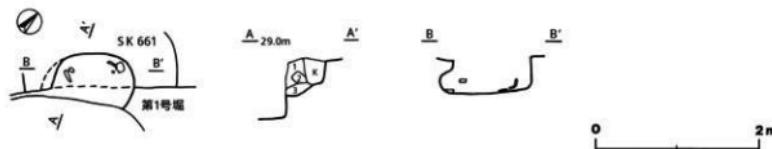
底面 平坦である。

覆土 3層からなり、不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・  
ローム小ブロック微量



第586図 第5号土坑墓実測図

遺物 人骨4点及び骨粉が出土している。うち、1点は一部歯の残る頭骨で、北西際から出土している。

所見 人骨が出土していること及び覆土が人為堆積であることから、土坑墓の可能性が考えられる。人骨以外に出土遺物がなく、時期は不明である。

表17 時期不明土坑墓・土坑・ピット一覧表

土坑 番号	位 置	長径方向 (長径方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重 複 関 係 (旧→新)	発 掘 番 号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
第1号 土坑墓	B3e6	N- 8°- W	椭円形	1.41× 0.82	13	縦斜	平坦	人為			SK141
第4号 土坑墓	C5e2	-	-	-	-	縦斜	平坦	人為		本跡→第1号墓, SK661と重複	SK743
218	B3e6	N- 10°- E	椭円形	2.25× 1.15	50	直立	平坦	自然	SK207→本跡		SK236
302	B5c0	N- 29°- W	長方形	1.43× 1.13	42	外傾	平坦	不明			SK327
343	B5c9	N- 18°- W	圓丸長方形	2.06× 1.06	46	外傾	平坦	不明			SK369
344	B5b9	N- 23°- W	長方形	1.83× 0.74	67	直立	平坦	不明			SK370
360	B5a4	-	[ 円形 ]	(1.48) ×	114	直立	平坦	不明		第8号地下式壙と重複	SK388
376	C4e	N- 35°- W	台形	2.14× 1.48	13	外傾	平坦	不明			SK405
406	C6b2	N- 75°- E	長方形	2.13× 1.68	25- 27	直立	平坦	人為			SK436
407	C5b0	N- 16°- W	圓丸長方形	1.93× 1.77	38	外傾	平坦	不明			SK438
411	C5j0	N- 16°- W	椭円形	1.50× 1.03	17	縦斜	平坦	不明			SK442
413	C6a3	N- 17°- W	圓丸長方形	1.94× 1.23	26	縦斜	平坦	人為			SK444
416	B5h9	N- 67°- E	圓丸長方形	1.77× 1.08	15- 30	縦斜	平坦	人為		本跡→第11号竪穴状遺構	SK447
425	B6h4	-	不整円形	1.45× 1.38	12	縦斜	圓状	不明			SK457
428	C5c0	-	不整円形	1.16× 1.14	18	縦斜	圓状	不明			SK462
430	C6c2	-	椭円形	1.83× 0.71	30	縦斜	平坦	不明			SK465
432	C6b3	-	円形	0.57	34	縦斜	平坦	不明			SK467
433	C6b2	N- 26°- W	圓丸長方形	2.65× 1.25	18- 20	外傾	平坦	人為			SK468
438	C6c2	N- 12°- E	圓丸長方形	2.52× 1.36	23- 32	外傾	平坦	人為			SK473
439	B5h8	N- 65°- E	圓丸長方形	2.03× 1.10	10- 15	外傾	平坦	人為		第11号竪穴状遺構→本跡	SK474
440	C5c0	N- 0°	椭円形	1.32× 1.20	48	外傾	平坦	人為			SK475
442	C6e3	N- 24°- W	椭円形	1.68× 1.05	29	縦斜	平坦	自然			SK477
451	C6e5	N- 77°- E	圓丸長方形	2.48× 1.50	32- 40	外傾	平坦	人為		SK433と重複	SK489
452	C6b5	N- 20°- W	椭円形	1.60× 1.47	22	縦斜	圓狀	不明			SK490
453	C6b5	N- 70°- E	圓丸長方形	2.43× 1.34	35- 40	直立	平坦	不明			SK491
454	C6d5	-	不整円形	1.35	62	外傾	平坦	人為			SK492
455	C4g5	N- 37°- W	椭円形	1.07× 0.67	37	外傾	平坦	不明			SK494
466	C6b6	N- 15°- W	椭円形	1.20× 1.00	28	外傾	平坦	不明			SK505
468	C6h2	N- 68°- E	椭円形	1.20× 1.00	8	外傾	平坦	不明			SK507
469	C6e	-	圓丸形	1.97× 1.96	11	縦斜	平坦	自然			SK509
470	C6h2	-	円形	1.40× 1.36	39	外傾	平坦	不明			SK511
471	C6b3	N- 25°- W	椭円形	1.49× 1.28	53	直立	平坦	人為			SK512
472	C6h4	N- 0°	椭円形	1.52× 1.32	22	縦斜	平坦	不明			SK513
473	C6e	N- 0°	不整椭円形	1.42× 1.03	34	縦斜	凹凸	不明			SK514
476	D6c0	N- 22°- W	[ 椭円形 ]	(1.47) × (1.20)	37	外傾	平坦	不明			SK517
477	C6q9	N- 0°	[ 椭円形 ]	(1.50) × 1.28	33	外傾	平坦	不明			SK518
478	C6h7	N- 10°- W	椭円形	1.53× 0.94	10	縦斜	平坦	人為			SK519
479	C6f7	N- 33°- W	椭円形	1.50× 1.07	42	直立	平坦	不明			SK520
480	D6a8	-	円形	1.46× 1.40	37	外傾	平坦	人為			SK521
481	C6q9	N- 16°- W	椭円形	1.63× 1.14	46	外傾	平坦	不明			SK522

土 坑 番 号	位 置	長径方向 ( 指輪方向 )	平 面 形	端 横		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重 棚 間 係 ( 旧 → 新 )	男 露 号
				長径× 短径 ( m )	深さ ( cm )						
482	C69	N- 25°- E	不整楕円形	1.65× 1.20	23	外傾 平坦	不明				SK523
483	D680	-	円 形	1.32× 1.30	47	外傾 平坦	不明				SK524
484	D69	-	[ 円 形 ]	1.72× ( 0.53 )	33	外傾 平坦	不明				SK526
485	D69	N- 22°- W	[ 椭 圓 形 ]	1.63× ( 0.37 )	38	外傾 平坦	人為				SK527
486	D68	N- 18°- W	椭 圓 形	1.32× 1.24	38	外傾 平坦	不明				SK528
487	D69	N- 27°- W	[ 椭 圓 形 ]	( 1.67× 0.73 )	56	縫斜 平坦	不明		SK490→本跡		SK529
488	D68	-	[ 円 形 ]	1.33× 1.32	32	外傾 平坦	不明				SK530
489	D689	-	[ 円 形 ]	1.33× ( 0.92 )	37	外傾 平坦	不明				SK531
490	D689	N- 32°- E	[ 椭 圓 形 ]	( 1.13× 1.16 )	53	縫斜 平坦	不明				SK532
491	D69	-	円 形	1.33× 1.32	44	直立 平坦	不明				SK533
492	C67	-	円 形	1.32× 1.30	31	外傾 平坦	不明				SK534
493	C67	-	円 形	1.24× 1.14	65	外傾 平坦	自然	弥生土器片、須恵器片			SK535
494	C66	-	円 形	1.20× 1.10	17	縫斜 平坦	不明				SK536
495	C68	N- 7°- E	[ 椭 圓 形 ]	1.35× ( 0.57 )	47	縫斜 平坦	不明				SK537
496	C66	-	円 形	1.33× 1.28	44	直立 平坦	人為				SK538
497	C66	N- 10°- E	椭 圓 形	1.48× 1.12	52	外傾 平坦	不明				SK539
498	C65	N- 43°- E	椭 圓 形	1.60× 1.38	43	外傾 平坦	人為				SK540
499	C66	-	円 形	1.41× 1.30	48	外傾 平坦	不明				SK541
500	C65	-	円 形	1.32	50	縫斜	圓状	不明			SK542
501	C65	N- 5°- E	椭 圓 形	1.67× 1.48	47	外傾 平坦	人為				SK543
502	C64	-	円 形	1.50× 0.94	53	外傾 平坦	不明				SK544
503	C66	N- 9°- W	椭 圓 形	1.60× 1.44	45	縫斜 平坦	不明				SK545
504	C64	N- 34°- W	椭 圓 形	1.68× 1.50	38	外傾 平坦	不明				SK546
505	C64	-	円 形	1.32	32	外傾 平坦	不明				SK547
506	C63	-	円 形	1.41× 1.40	48	直立 平坦	不明				SK548
507	D689	-	円 形	1.43× 1.42	41	外傾 平坦	不明				SK549
508	C65	N- 55°- W	椭 圓 形	1.74× 1.37	8	縫斜 平坦	不明				SK550
514	C65	N- 59°- E	[ 椭 圓 形 ]	2.10× ( 1.81 )	37	外傾 平坦	不明				SK557
515	C68	N- 20°- W	椭 圓 形	0.90× 0.84		平坦	不明		第1号棚・SK511→本跡		SK558
520	C59	N- 66°- E	[ 椭 圓 形 ]	1.50× [ 1.38 ]	25	外傾 平坦	不明				SK565
521	C50	N- 10°- E	椭 圓 形	1.34× 1.00	22	縫斜	圓状	不明			SK566
522	C569	N- 16°- W	圓丸長方形	1.50× 0.78	20	外傾 平坦	不明				SK567
524	C569	N- 24°- E	椭 圓 形	2.40× 1.76	38	外傾 平坦	不明				SK570
525	C569	N- 24°- E	圓丸長方形	2.27× 2.11	34	外傾	圓状	人為			SK571
526	C569	N- 0°	椭 圓 形	2.17× 1.94	19	外傾	圓状	不明			SK572
527	C566	N- 69°- W	圓丸長方形	2.35× 1.38	32- 37	直立	平坦	不明			SK574
529	C566	-	円 形	1.44× 1.35	34	外傾 平坦	不明				SK577
531	C567	-	円 形	1.48× 1.47	41	縫斜 平坦	不明				SK580
535	C565	-	不整円形	1.62	14	縫斜 平坦	不明				SK583
536	C565	N- 13°- W	椭 圓 形	1.10× 0.78	19	縫斜	圓状	不明			SK584
537	C565	-	円 形	1.37× 1.35	40- 50	外傾	凹凸	自然			SK585
538	C565	N- 18°- W	圓丸長方形	2.65× 1.75	10- 30	外傾	凹凸	人為			SK586
539	C567	-	不整円形	1.50× 1.46	21	縫斜 平坦	不明				SK588
540	C566	N- 35°- W	椭 圓 形	1.82× 0.93	18	縫斜	圓状	不明			SK589
541	C566	N- 17°- W	椭 圓 形	1.05× 0.88	15	縫斜 平坦	不明				SK590
543	C566	N- 18°- W	椭 圓 形	1.32× 1.20	24	縫斜	圓状	不明			SK593

土 坑 番 号	位 置	長径方向 ( 長軸方向 )	平 面 形	端 横		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重 要 性 係 ( 旧 → 新 )	男 露 号
				長径× 短径 ( m )	深さ ( cm )						
544	C502	N- 30°- E	不 定 形	1.17× 0.67	37	外傾	皿状	不明			SK594
545	C504	N- 18°- W	[ 構 円 形 ]	( 0.82× 1.68 )	50	外傾	皿状	不明			SK595
546	C504	-	円 形	1.64× 1.50	17	縫斜	皿状	不明			SK596
548	C502	N- 28°- W	圓 丸 長 方 形	1.75× 1.57	80	外傾	平坦	不明			SK598
549	C502	-	円 形	2.10× 1.98	15	外傾	平坦	自然			SK599
551	C505	-	[ 円 形 ]	( 1.12× 1.08 )	43	外傾	平坦	不明			SK604
555	C511	N- 41°- W	椭 円 形	1.05× 0.80	14- 20	直立	平坦	自然	石		SK608
556	D469	-	-	-	-	-	-	-	SK 467 と 重複		SK609
562	C501	-	円 形	1.45× 1.30	18	外傾	平坦	不明			SK616
566	D469	-	円 形	1.71× 1.61	54	外傾	平坦	不明			SK623
567	D468	-	円 形	1.46× 1.35	50	外傾	平坦	不明			SK624
573	C48	N- 28°- W	椭 円 形	0.88× 0.75	38	外傾	皿状	不明			SK630
579	C601	N- 18°- W	椭 円 形	1.92× 1.33	30	直立	平坦	人為			SK636
580	C502	-	円 形	0.86	30	外傾	皿状	不明			SK637
581	D469	-	円 形	1.70× 1.57	50	外傾	平坦	不明			SK639
583	B508	N- 27°- E	椭 円 形	1.03× 0.93	60	直立	平坦	人為			SK641
584	C47	N- 4°- W	圓 丸 長 方 形	1.80× 1.00	15	縫斜	平坦	人為			SK642
586	C47	N- 80°- E	椭 円 形	2.10× 1.64	20	外傾	平坦	自然			SK644
587	C507	N- 17°- W	圓 丸 長 方 形	2.55× 1.40	15- 18	外傾	平坦	不明			SK645
588	C507	-	円 形	0.63× 0.55	67	外傾	平坦	人為			SK646
589	C506	N- 19°- W	長 方 形	2.85× 1.37	20	直立	平坦	不明			SK647
593	C508	N- 10°- E	[ 構 円 形 ]	2.16× ( 1.92 )	35	外傾	平坦	不明			SK654
594	C504	N- 24°- W	椭 円 形	1.05× 0.92	65	直立	凸凹	自然			SK655
595	C507	N- 44°- E	[ 構 丸 方 形 ]	1.77× ( 1.77 )	32	外傾	平坦	人為			SK658
596	C507	N- 16°- W	椭 円 形	1.90× 1.68	22	外傾	平坦	人為			SK659
597	C507	-	円 形	0.87× 0.83	16	縫斜	皿状	自然			SK660
598	C507	N- 20°- W	不 定 形	1.24× 0.82	43	外傾	皿状	自然	第1号墓と重複		SK661
599	C506	-	円 形	1.40× 1.28	44	直立	平坦	不明			SK662
603	C506	-	円 形	1.17× 1.15	24	外傾	皿状	自然			SK667
604	C505	N- 0°	[ 構 円 形 ]	1.14× ( 0.75 )	23	外傾	皿状	不明	本跡→SK605		SK668
605	C505	-	円 形	1.34× 1.24	57	縫斜	平坦	不明	SK 604 → 本跡		SK669
623	C508	N- 0°	椭 円 形	1.54× 1.23	19	外傾	平坦	不明			SK689
626	C45	-	円 形	1.38× 1.32	17	外傾	平坦	不明			SK692
627	C48	N- 37°- E	椭 円 形	1.56× 1.30	23	縫斜	平坦	不明			SK694
628	C48	N- 33°- E	不 定 形	2.67× 1.74	15	外傾	平坦	自然			SK695
635	B511	N- 16°- E	椭 円 形	1.07× 0.76	10	縫斜	平坦	不明			SK703
653	C508	N- 23°- E	不整 丸 長 方 形	1.67× 0.94	23	縫斜	平坦	不明			SK729
654	C509	N- 10°- E	圓 丸 長 方 形	2.47× 0.83	8	縫斜	皿状	不明			SK730
655	C507	N- 14°- E	椭 円 形	1.00× 0.82	17	縫斜	皿状	不明			SK732
657	C46	N- 13°- E	椭 円 形	1.64× 0.90	12	外傾	平坦	不明			SK736
660	C504	N- 84°- E	圓 丸 長 方 形	2.84× 1.80	10- 25	外傾	平坦	不明	織文土器片・土網器片・ 漆器残片・石		SK739
661	C504	N- 58°- E	[ 構 丸 長 方 形 ]	1.88× ( 0.85 )	20	外傾	平坦	不明	織文土器片・石	SK 656- 第1号墓→本跡	SK740
671	C49	-	不 明	( 1.50× 0.66 )	55	直立	平坦	不明			SK753
677	C460	N- 31°- W	長 椭 円 形	1.50× 0.70	25	直立	平坦	不明			SK758
680	C460	N- 92°- E	椭 円 形	( 1.76× 1.55 )	28- 30	外傾	平坦	不明		第1号墓と重複	SK764
681	C460	N- 38°- E	椭 円 形	( 1.27× 0.90 )	42	外傾	凸凹	不明		第1号墓と重複	SK765

土 坑 番 号	位 置	長径方向 ( 短軸方向 )	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重 棚 間 係 ( 旧 → 新 )	男 露 号
				長径× 短径 (m)	深さ (cm)						
683	H2c6	N- 10°- W	椭 圆 形	1.77× 1.48	23	縦斜	血状	自然			SK3001
684	H2c7	N- 43°- W	不 定 形	1.95× 1.45	26	縦斜	平坦	自然			SK3002
685	H2b6	N- 0°- E	椭 圆 形	1.09× 0.87	20	縦斜	平坦	不明			SK3004
686	H2b6	N- 40°- W	椭 圆 形	1.70× 1.35	16	縦斜	血状	人為			SK3005
687	H2a4	N- 33°- W	[ 椭 圆 形 ]	( 1.69 ) × 1.43	35	縦斜	血状	不明			SK3006
688	H114	N- 18°- W	[ 椭 圆 形 ]	( 1.73 ) × 1.30	33	縦斜	血状	不明			SK3007
689	H114	N- 20°- W	[ 検 圆 形 ]	( 1.35 ) × 1.10	21	縦斜	平坦	不明			SK3008
690	G2f3	-	円 形	2.15× 1.57	22	縦斜	平坦	人為			SK3011
691	F3/2	N- 23°- W	椭 圆 形	2.57× 2.45	14	縦斜	平坦	自然			SK3012
692	F3/1	N- 20°- W	圓丸長方形	1.30× 0.82	27	縦斜	平坦	自然			SK3013
693	F3h1	N- 5°- E	椭 圆 形	1.98× 1.40	33	直立	平坦	人為			SK3014
694	F2h0	N- 18°- W	椭 圆 形	1.14× 0.95	38	縦斜	平坦	人為			SK3015
695	F2g0	N- 2°- E	椭 圆 形	1.48× 1.25	60	外傾	平坦	自然			SK3016
697	F3/1	-	円 形	1.83× 1.75	56	縦斜	平坦	自然			SK3018
699	F2j0	N- 40°- W	椭 圆 形	1.78× 1.42	66	縦斜	血状	自然			SK3020
700	F2j1	N- 17°- W	不 定 形	1.37× 1.36	50	縦斜	血状	自然			SK3021
701	F2j8	N- 18°- W	不 定 形	2.60× 1.75	57	縦斜	平坦	不明			SK3022
703	G2a6	N- 20°- W	椭 圆 形	1.82× 1.14	17	縦斜	平坦	不明			SK3024
704	G2a8	N- 58°- W	不整椭円形	2.67× 1.62	20	縦斜	平坦	自然			SK3025
705	G2d7	N- 23°- W	不整長方形	2.97× 1.64	35	縦斜	血状	人為			SK3026
707	G2e5	N- 25°- W	椭 圆 形	1.68× 1.50	24	縦斜	平坦	不明			SK3028
708	G2b5	N- 20°- W	不 定 形	3.10× 2.48	118	外傾	平坦	自然			SK3029
709	G2a5	N- 73°- E	不整長方形	4.00× 1.15	56	縦斜	平坦	人為			SK3030
710	G2b3	N- 2°- W	椭 圆 形	1.40× 0.93	37	縦斜	平坦	不明			SK3031
711	G2b4	N- 5°- W	椭 圆 形	2.03× 1.45	30	縦斜	平坦	自然			SK3032
712	G2c4	-	円 形	1.33× 1.24	54	縦斜	平坦	自然			SK3033
713	G2c2	N- 16°- W	椭 圆 形	1.93× 1.55	32	縦斜	平坦	自然			SK3034
714	G2c3	N- 41°- E	不整椭円形	2.19× 1.37	36	縦斜	平坦	不明			SK3035
715	G2e3	N- 19°- W	椭 圆 形	2.26× 1.27	38	縦斜	平坦	自然			SK3036
716	G2d5	N- 0°-	椭 圆 形	1.19× 1.04	46	外傾	平坦	自然			SK3037
717	G3c4	N- 6°- E	[ 圓丸長方形 ]	( 1.92 ) × 1.00	65	外傾	血状	不明			SK3038
718	F3/1	-	円 形	1.19× 1.11	70	外傾	平坦	自然			SK3039
722	F2h3	N- 51°- W	椭 圆 形	1.90× 1.37	43	外傾	平坦	自然			SK3043
723	F2h4	-	円 形	1.67× 1.66	28	縦斜	平坦	自然			SK3044
725	F2d5	N- 3°- W	椭 圆 形	0.83× 0.74	112	外傾	平坦	人為			SK3046
727	F2g8	-	円 形	1.46× 1.37	33	縦斜	平坦	自然			SK3048
729	F2g6	N- 20°- W	椭 圆 形	1.21× 1.00	22	外傾	平坦	不明			SK3050
730	F2h9	N- 30°- W	椭 圆 形	1.67× 1.44	60	縦斜	平坦	人為			SK3051
733	F2g2	N- 14°- E	不 定 形	1.58× 1.22	17	縦斜	平坦	自然			SK3054
735	F2o2	N- 40°- E	不整椭円形	1.34× 1.00	30	縦斜	平坦	自然			SK3056
736	F3h2	N- 60°- E	不 定 形	1.48× 1.36	34	外傾	平坦	自然			SK3057
737	F3/2	-	円 形	0.80× 0.76	16	縦斜	平坦	不明			SK3058
740	F3g2	N- 14°- W	不 定 形	1.34× 1.32	22	縦斜	平坦	不明			SK3061
741	G2g7	N- 70°- E	圓丸長方形	1.34× 0.94	24	縦斜	平坦	自然			SK3063
742	G2e6	N- 25°- W	不 整 方 形	1.46× 1.38	30	縦斜	平坦	自然			SK3064
743	G2f8	N- 65°- E	圓 丸 方 形	1.22× 1.18	24	縦斜	平坦	自然			SK3065

土 坑 番 号	位 置	長軸方向 ( 指輪方向 )	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重複関係 ( 旧 → 新 )	男爵号
				長径×短径( m )	深さ( cm )						
744	G2d7	N- 25°- W	椭円形	1.80×1.50	36	縫斜	皿状	自然			SK3066
745	G2e8	-	円 形	1.05×1.02	50	外傾	平坦	人為			SK3067
746	G2e6	N- 70°- W	不 定 形	1.96×1.40	48	外傾	皿状	不明			SK3069
747	G2e9	N- 11°- W	不整長方形	1.02×0.80	40	外傾	皿状	不明			SK3070
748	G2d8	N- 22°- W	椭円形	0.60×0.50	38	外傾	平坦	不明			SK3071
749	F2h3	-	円 形	0.54×0.52	42	縫斜	皿状	不明			SK3073
751	F2d5	N- 28°- W	[ 椭円形 ]	0.84×( 0.80 )	138	外傾	平坦	人為			SK3077
752	F2d5	N- 28°- W	[ 椭円形 ]	1.18×( 0.94 )	[ 110 ]	外傾	平坦	人為			SK3078
754	F2c6	-	円 形	1.14×1.06	24	外傾	平坦	不明			SK3080
755	G2b7	N- 7°- W	不整橢円形	1.64×1.38	26	外傾	平坦	不明			SK3068
757	F2b0	N- 16°- W	椭円形	1.38×1.24	46	外傾	平坦	人為			SK3082
758	F2b0	N- 29°- W	不 定 形	2.30×1.58	34	縫斜	凹凸	人為			SK3083
760	G32	N- 83°- W	圓丸長方形	2.58×1.46	20	縫斜	平坦	人為			SK3085
762	H2b0	-	円 形	1.26×1.22	28	外傾	平坦	不明			SK3087
764	G3g2	N- 68°- E	長 方 形	1.70×0.96	18	外傾	平坦	不明			SK3089
766	F2f7	N- 15°- W	椭円形	1.48×1.25	50	外傾	平坦	人為			SK3092
767	F2d7	N- 48°- E	[ 椭円形 ]	1.06×( 0.79 )	42	外傾	平坦	人為			SK3093
768	G3j2	N- 11°- W	椭円形	1.66×1.46	118	外傾	平坦	人為			SK3094
769	H4c2	-	円 形	1.28×1.20	28	外傾	平坦	不明			SK4001
770	H3j1	-	円 形	1.46×1.42	44	外傾	平坦	不明			SK4002
771	G4j1	N- 48°- W	椭円形	1.26×1.14	46	外傾	平坦	自然			SK4003
772	G3j0	N- 25°- W	[ 椭円形 ]	1.42×( 1.02 )	35	外傾	平坦	不明			SK4004
773	G4f1	N- 38°- W	不 定 形	4.75×3.75	50	縫斜	凹凸	不明			SK4005
774	G4g3	-	円 形	1.24×1.23	70	縫斜	皿状	自然			SK4008
775	G4g3	-	円 形	1.24×1.16	32	縫斜	平坦	不明			SK4009
776	G4f4	-	円 形	1.14×1.10	28	外傾	平坦	不明			SK4010
777	G4f4	N- 27°- W	椭円形	1.20×1.07	56	外傾	皿状	自然			SK4011
778	G4f5	-	円 形	1.03	52	外傾	皿状	不明			SK4012
779	G4f5	N- 32°- W	椭円形	1.11×0.98	46	縫斜	皿状	不明			SK4013
780	G4d6	N- 19°- W	長 方 形	2.07×0.76	40	外傾	平坦	人為			SK4014
781	G4e6	N- 22°- W	長 方 形	1.89×0.82	61	外傾	平坦	人為			SK4015
782	G4d5	N- 18°- W	圓丸長方形	1.64×1.03	93	直立	平坦	人為			SK4016
783	G4e3	N- 16°- W	[ 圓丸長方形 ]	( 1.94 )×1.00	90	直立	平坦	人為			SK4018
784	G3e8	N- 40°- W	椭円形	1.26×1.14	21	縫斜	皿状	自然			SK4019
785	G3e7	N- 38°- W	椭円形	1.53×1.38	24	縫斜	平坦	自然			SK4020
786	G3c7	N- 5°- W	[ 椭円形 ]	1.74×( 1.43 )	52	縫斜	平坦	自然			SK4021
787	G3b6	-	円 形	1.04×0.98	57	外傾	平坦	不明			SK4022
788	G3b6	N- 26°- E	椭円形	0.97×0.80	52	外傾	平坦	人為			SK4023
789	G3c6	N- 7°- W	円 形	1.24×1.22	50	外傾	平坦	自然			SK4024
790	F3j6	N- 4°- W	椭円形	1.64×1.42	20	外傾	平坦	自然			SK4025
791	F3j7	N- 30°- E	[ 椭円形 ]	1.84×( 1.44 )	23	縫斜	皿状	不明			SK4026
792	F3h9	N- 0°	長 方 形	1.64×1.03	34	外傾	平坦	不明			SK4027
793	F3h0	N- 7°- W	圓丸長方形	1.33×0.86	50	外傾	平坦	不明			SK4028
794	G4b1	N- 70°- E	椭円形	2.0×1.64	20	縫斜	平坦	不明			SK4031
795	F3j8	N- 17°- W	椭円形	1.21×1.05	22	外傾	平坦	不明			SK4032
796	H4c2	-	円 形	1.33×1.23	33	外傾	平坦	人為			SK4034

土 坑 番 号	位 置	長軸方向 ( 長軸方向 )	平 面 形	端 横		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重複関係 ( 旧 → 新 )	男爵番号
				長径	短径 (m)						
797	H4b1	-	不 肿 円 形	1.25	1.21	25	縫斜	凹凸	不明		SK4035
798	G30	N- 15°- W	椭 円 形	1.26	0.92	33	縫斜	血状	不明		SK4036
799	G4e0	N- 0°	椭丸長方形	( 1.58 )	0.88	74	外傾	平坦	不明		SK4037
800	G4e0	N- 8°- W	長 方 形	( 2.08 )	0.88	55	外傾	平坦	不明		SK4038
801	G4c1	N- 40°- E	椭 円 形	1.10	0.98	9	縫斜	血状	不明		SK4039
802	G4e0	N- 13°- W	長 方 形	1.66	0.86	26	外傾	平坦	不明		SK4040
803	F4b3	-	円 形	1.47	1.38	14	外傾	平坦	不明		SK4043
804	F4-2	-	不 肿 円 形	1.74	1.64	12	外傾	血状	不明		SK4044
805	F4-2	-	円 形	1.48	1.47	14	縫斜	平坦	不明		SK4045
806	F4b5	N- 35°- W	不 肿 椭円形	1.76	0.80	28	縫斜	血状	自然		SK4046
807	F4b6	-	円 形	0.84	0.80	17	縫斜	凹凸	自然		SK4047
808	F4-2	N- 8°- W	椭丸長方形	1.36	0.86	46	縫斜	平坦	人為		SK4048
809	G4b6	N- 4°- W	椭 円 形	1.94	1.57	17	縫斜	平坦	自然		SK4049
810	F4-2	N- 8°- W	[ 椭丸長方形 ]	1.10	( 0.46 )	28	縫斜	平坦	不明		SK4050
811	F4-3	-	円 形	1.93	1.87	31	縫斜	平坦	自然		SK4051
812	H4b1	N- 44°- W	[ 不 肿 椭円形 ]	1.14	( 0.33 )	37	縫斜	平坦	人為		SK4052
813	H4b1	-	円 形	1.24	1.02	55	外傾	血状	人為		SK4053
814	H4b1	-	不 肿 円 形	1.36	1.29	20	外傾	平坦	不明		SK4054
815	H4b2	-	円 形	1.35	1.25	28	外傾	平坦	不明		SK4055
816	H4b1	N- 20°- W	椭 円 形	1.41	0.82	20	外傾	平坦	不明		SK4056
818	F50	N- 10°- W	椭 円 形	1.09	0.86	10	縫斜	血状	不明		SK4060
819	F51	N- 4°- W	椭 円 形	0.83	0.71	31	外傾	血状	自然		SK4061
820	F39	N- 0°	椭 円 形	1.57	1.02	17	縫斜	凹凸	人為		SK4062
821	H3m	-	円 形	1.28	1.20	37	縫斜	平坦	不明		SK4063
822	C41	N- 42°- E	不 肿 椭円形	2.62	1.29	37	縫斜	凹凸	不明		SK4064
828	F5e8	-	円 形	0.97	0.93	40	外傾	平坦	不明		SK5006
830	F6e0	N- 33°- E	椭 円 形	1.45	1.30	30	外傾	平坦	不明		SK5008
831	F6e9	-	円 形	1.28	1.26	52	外傾	平坦	不明		SK5009
832	F6d0	-	円 形	1.25	1.20	62	外傾	凹凸	不明		SK5010
833	F7d1	N- 40°- W	椭 円 形	1.04	0.92	14	縫斜	平坦	不明		SK5011
838	G7e4	N- 77°- W	椭 円 形	1.07	0.85	52	外傾	血状	不明		SK5016
839	G7e7	N- 13°- E	不 定 形	2.22	1.27	92	外傾	平坦	不明		SK5017
840	G7e4	N- 63°- W	不 定 形	1.15	0.95	65	外傾	凹凸	不明		SK5019
842	G7e3	N- 27°- E	椭 円 形	1.00	0.90	24	外傾	平坦	不明		SK5022
843	G7e4	N- 41°- W	椭 円 形	1.30	1.15	45	外傾	平坦	不明		SK5023
844	G7e4	-	円 形	1.48	1.37	20	縫斜	平坦	不明		SK5024
845	F7j5	N- 21°- E	椭 円 形	1.10	0.90	50	外傾	平坦	不明		SK5025
846	F7e4	N- 9°- E	椭 円 形	1.85	1.20	45	縫斜	血状	不明		SK5026
847	G7e4	N- 30°- W	椭 円 形	1.49	1.25	32	外傾	平坦	不明		SK5027
848	F85	N- 46°- E	[ 椭 円 形 ]	( 0.90 )	0.70	42	外傾	平坦	不明		SK5032
849	F6g3	N- 31°- W	椭 円 形	1.35	1.20	34	縫斜	血状	不明		SK5034
850	H7e4	N- 4°- E	不 肿 椭円形	1.40	1.26	25	縫斜	血状	不明		SK5035
855	H6e7	N- 14°- E	椭 円 形	1.70	1.37	50	外傾	平坦	不明		SK5041
856	H6e6	-	円 形	1.68	1.67	47	外傾	凹凸	不明		SK5042
859	G7c3	N- 54°- E	椭 円 形	1.20	1.09	14	縫斜	平坦	不明		SK5047
860	G6c9	N- 67°- W	椭 円 形	2.20	1.60	23	縫斜	平坦	不明		SK5049

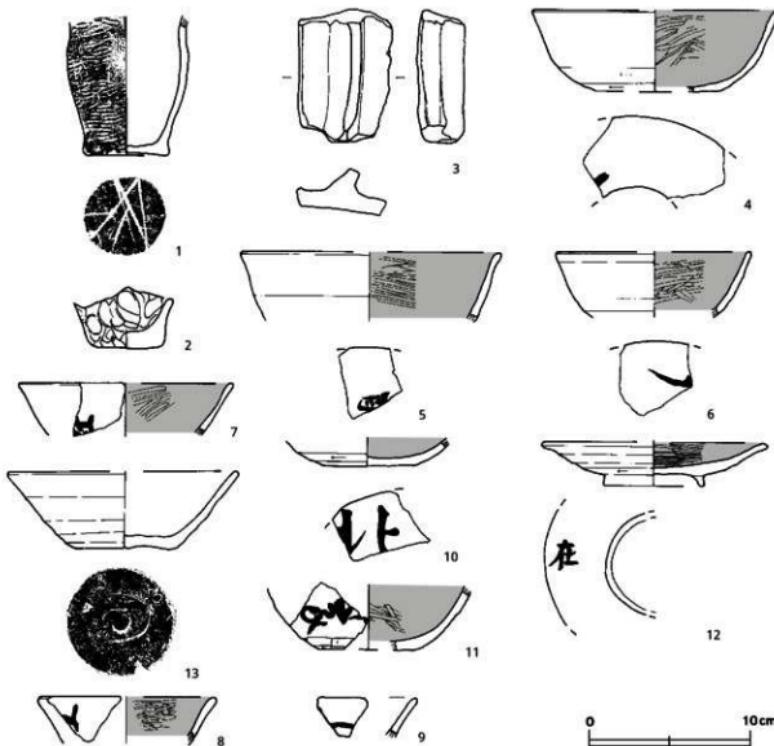
土 坑 番 号	位 置	長 軸 方 向 ( 横軸 方 向 )	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	重複関係 ( 旧 → 新 )	男爵番号
				長 軸 × 短 軸 (m)	深 底 (cm)						
861	F6h3	N- 0°	椭 圆 形	1.35× 1.11	64	縫斜	平坦	不明			SK5050
862	G6h0	N- 45°~ W	椭 圆 形	0.80× 0.66	20	縫斜	平坦	人骨	S1119と重複		SK5053
863	F7j4	-	円 形	0.80× 0.79	22	外傾	皿状	不明			SK5054
864	F7j5	-	円 形	0.60× 0.58	41	外傾	平坦	不明			SK5055
865	G7e5	N- 25°~ W	椭 圆 形	0.83× 0.64	25	外傾	平坦	不明			SK5056
866	G6c0	-	円 形	1.23× 1.20	26	外傾	平坦	不明			SK5057
867	G6g9	N- 90°~ W	椭 圆 形	1.15× 0.84	35	縫斜	凹凸	不明			SK5058
868	G6g0	N- 70°~ W	椭 圆 形	2.03× 1.16	20	外傾	平坦	不明			SK5059
869	H6e7	N- 50°~ E	不整椭円形	2.00× 1.75	25	外傾	平坦	不明			SK5060
870	H6e5	-	円 形	1.25	93	外傾	凹凸	不明			SK5061
871	G6g8	N- 53°~ E	[ 不整椭円形 ]	1.60× ( 1.45 )	25	外傾	平坦	不明			SK5062
872	G6f7	N- 0°	椭 圆 形	1.40× 1.20	33	縫斜	皿状	不明			SK5064
873	G6g8	N- 70°~ E	椭 圆 形	1.50× 1.15	24	外傾	平坦	不明			SK5067
874	G6g7	N- 38°~ E	椭 圆 形	1.06× 0.89	43	縫斜	平坦	不明			SK5098
875	G6b9	N- 80°~ W	椭 圆 形	1.67× 1.04	10	縫斜	平坦	不明			SK5069
880	G6g7	-	円 形	1.15× 1.10	60	外傾	平坦	不明			SK5075
882	G6e1	-	円 形	1.78× 1.77	52	外傾	平坦	不明			SK5077
885	F6h4	N- 64°~ W	椭 圆 形	1.84× 1.40	100	縫斜	皿状	不明			SK5081
887	F7b1	N- 50°~ E	椭 圆 形	0.88× 0.69	36	縫斜	皿状	不明			SK5084
889	G6c4	-	円 形	1.55× 1.45	60	外傾	平坦	不明			SK5086
890	G6b6	-	円 形	2.80× 2.68	19	外傾	平坦	不明			SK5087
892	G6f1	N- 40°~ E	[ 楕 圆 形 ]	1.52× ( 1.32 )	36	外傾	平坦	不明			SK5089
894	G6g1	-	[ 円 形 ]	1.12× ( 0.76 )	16	縫斜	皿状	不明			SK5092
895	G6d5	N- 81°~ E	椭 圆 形	1.10× 0.92	36	外傾	平坦	不明			SK5093
896	G6d5	N- 48°~ W	椭 圆 形	1.10× 0.94	43	外傾	平坦	不明			SK5094
897	G6d5	N- 42°~ W	不整椭円形	1.56× 1.10	41	縫斜	皿状	不明			SK5095
899	H6c7	N- 28°~ W	不整椭円形	1.29× 1.10	57	外傾	平坦	不明			SK5097
900	H6b7	N- 3°~ W	椭 圆 形	1.29× 0.96	28	縫斜	平坦	不明			SK5098
901	H6c7	N- 34°~ W	椭 圆 形	0.97× 0.84	32	縫斜	平坦	不明			SK5099
902	H5b8	N- 18°~ W	椭 圆 形	1.95× 1.70	50	外傾	平坦	不明			SK5100
905	G5h4	N- 8°~ W	椭 圆 形	1.26× 1.11	13	縫斜	平坦	不明			SK5108
906	G5b6	-	円 形	1.27× 1.22	40	縫斜	皿状	不明			SK5109
907	G6d4	-	円 形	1.25× 1.14	25	外傾	平坦	不明			SK5111
908	G6c4	N- 90°~ W	椭 圆 形	1.87× 1.10	29	外傾	平坦	不明			SK5112
909	G6b5	N- 57°~ E	不 定 形	1.69× 1.64	65	縫斜	皿状	不明			SK5113
910	G5g6	-	円 形	1.41× 1.33	40	外傾	平坦	不明			SK5114
912	G5h5	-	[ 円 形 ]	1.36× ( 1.10 )	19	縫斜	平坦	不明			SK5116
914	G6c2	-	円 形	1.24× 1.18	47	外傾	平坦	不明			SK5118
915	G6e4	-	円 形	1.11× 1.10	18	外傾	平坦	不明			SK5119
916	G6e3	N- 40°~ E	[ 楕 圆 形 ]	1.31× 1.16	22	外傾	凹凸	不明			SK5120
917	G6d3	-	円 形	1.22× 1.21	36	外傾	平坦	不明			SK5121
918	G6d3	N- 50°~ E	椭 圆 形	( 1.10 )× 1.05	14	縫斜	平坦	不明			SK5122
919	G5c7	N- 0°	不 定 形	1.36× 0.80	20	縫斜	平坦	不明			SK5123
921	H7b4	-	円 形	1.04× 1.00	57	外傾	平坦	不明			SK5125
922	H7b4	N- 25°~ W	椭 圆 形	1.60× 1.25	73	外傾	凹凸	不明			SK5126
923	H6b7	N- 61°~ W	椭 圆 形	1.00× 0.75	20	縫斜	皿状	不明			SK5127

土 坑 番 号	位 置	長 軸 方 向 ( 指標方向 )	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	重 要 性 係 ( 旧 → 新 )	男 女 号
				長 軸 ( m )	短 軸 ( m )						
924	H6b7	N- 63°- E	椭 圆 形	0.60× 0.50	11	縫斜	平坦	不明			SK5128
925	H6b7	N- 84°- E	椭 圆 形	1.15× 0.61	29	外傾	平坦	不明			SK5129
926	G6d2	-	円 形	2.23× 2.20	68	外傾	平坦	不明			SK5130
927	G5e5	-	円 形	1.20× 1.15	60	外傾	平坦	不明			SK5131
928	G5d5	-	円 形	1.92× 1.76	98	縫斜	皿状	不明			SK5139
930	G5g3	N- 20°- W	椭 圆 形	1.10× 0.95	45	外傾	平坦	不明			SK5145
931	G5g3	-	円 形	0.80× 0.76	15	縫斜	皿状	不明			SK5146
932	G6h4	-	円 形	1.55× 1.41	47	外傾	平坦	不明			SK5152
933	G6e1	-	円 形	1.70× 1.57	50	外傾	平坦	不明			SK5160
934	G6e1	-	円 形	1.31× 1.29	24	外傾	平坦	不明			SK5161
935	H6a1	N- 26°- W	椭 圆 形	1.22× 1.10	31	外傾	平坦	不明			SK5162
936	H6a2	-	[ 円 形 ]	1.31× ( 1.10 )	33	縫斜	平坦	不明			SK5163
937	G5h9	-	円 形	2.01× 1.95	43	外傾	平坦	不明			SK5165
939	G63	N- 37°- W	椭 圆 形	1.70× 1.54	3	外傾	平坦	不明			SK5180
942	G5g6	-	円 形	1.42× 1.30	64	外傾	皿状	不明			SK5188
944	G5b5	N- 65°- E	椭 圆 形	1.18× 1.06	40	縫斜	平坦	不明			SK5221
945	G6h2	-	[ 円 形 ]	1.41× ( 1.41 )	25	縫斜	平坦	不明			SK5216
947	G6g2	-	円 形	1.56× 1.50	50	外傾	平坦	不明	SI13aと重複		SK5331
948	G5c7	N- 26°- E	椭 圆 形	0.52× 0.43	76	外傾	平坦	不明			SK5332
949	G3f2	N- 20°- W	圓 丸 長 方 形	2.04× 1.12	27	外傾	平坦	不明	SI82と重複		SK3074
950	G3f2	N- 20°- W	圓 丸 長 方 形	2.16× 1.02	44	外傾	平坦	不明			SK3075
951	G3g3	N- 71°- W	椭 圆 形	0.98× 0.78	22	外傾	平坦	不明	SI58と重複		SK3090
952	F2e5	N- 16°- E	椭 圆 形	1.26× 0.86	12	縫斜	平坦	不明	本跡→SI77		—
1014	C2j7	N- 42°- W	長 方 形	1.77× 0.70	49	直立	平坦	不明			SK2087
1194	D2a6	N- 27°- W	圓 丸 長 方 形	( 1.64 )× 0.80	20	縫斜	平坦	不明	SD23と重複		SK2265
1203	D2a7	N- 14°- E	不 定 形	[ 1.77 ]× 1.22	50	縫斜	平坦	不明			SK2274
2023	D3g5	N- 31°- E	椭 圆 形	1.15× 0.78	18	外傾	平坦	不明			SK2023
1630	D3j3	N- 19°- W	長 方 形	1.85× 1.04	72	直立	凸凹	不明			SK2926
1631	E3a3	N- 22°- W	長 方 形	1.85× 1.04	70	直立	凸凹	不明			SK2927
1722	E3e9	N- 50°- E	椭 圆 形	2.24× 0.64	15	外傾	平坦	不明			SK20020
1726	F3b5	N- 68°- E	圓 丸 長 方 形	2.32× 1.86	28	外傾	平坦	不明			SK20024
1731	E4c3	N- 37°- E	圓 丸 長 方 形	3.10× 2.70	36	外傾	平坦	自然			SK20029
1784	E3e5	N- 40°- W	長 方 形	( 2.13 )× ( 1.01 )	11	外傾	平坦	不明			SK20085
P326	B4e5	N- 21°- E	椭 圆 形	0.64× 0.50	100	直立	平坦	不明	SK 220 + 本跡		SK301
P327	C4b6	N- 23°- W	椭 圆 形	0.78× 0.55	56	直立	平坦	不明			SK394
P328	B4g9	N- 21°- E	椭 圆 形	1.02× 0.52	135	直立	凸凹	不明			SK408
P329	B5j1	N- 67°- E	椭 圆 形	0.42× 0.33	50	直立	平坦	不明			SK452
P330	C6d2	N- 18°- W	椭 圆 形	0.90× 0.68	-	直立	平坦	不明			SK464
P331	C5h1	N- 43°- E	椭 圆 形	0.53× 0.43	52	直立	平坦	人為			SK617
P332	C4c8	-	不整椭円形	1.13× 0.70	-	直立	2段	不明	縄文土器片		SK649
P333	C4c9	N- 57°- E	椭 圆 形	0.77× 0.67	94	直立	平坦	人為	縄文土器片		SK675
P334	C4b6	N- 38°- W	椭 圆 形	0.57× 0.48	94	直立	平坦	不明			SK721
P335	C4b8	-	円 形	0.37	110	直立	平坦	不明			SK723
P336	C4c8	-	円 形	0.5	125	直立	平坦	不明			SK727
P337	C4d7	-	椭 圆 形	0.48× 0.40	122	直立	平坦	不明			SK754
P338	C5b1	N- 75°- E	[ 椭 圆 形 ]	( 0.58 )× 0.33	53	直立	平坦	自然	第1号塚と重複		SK760

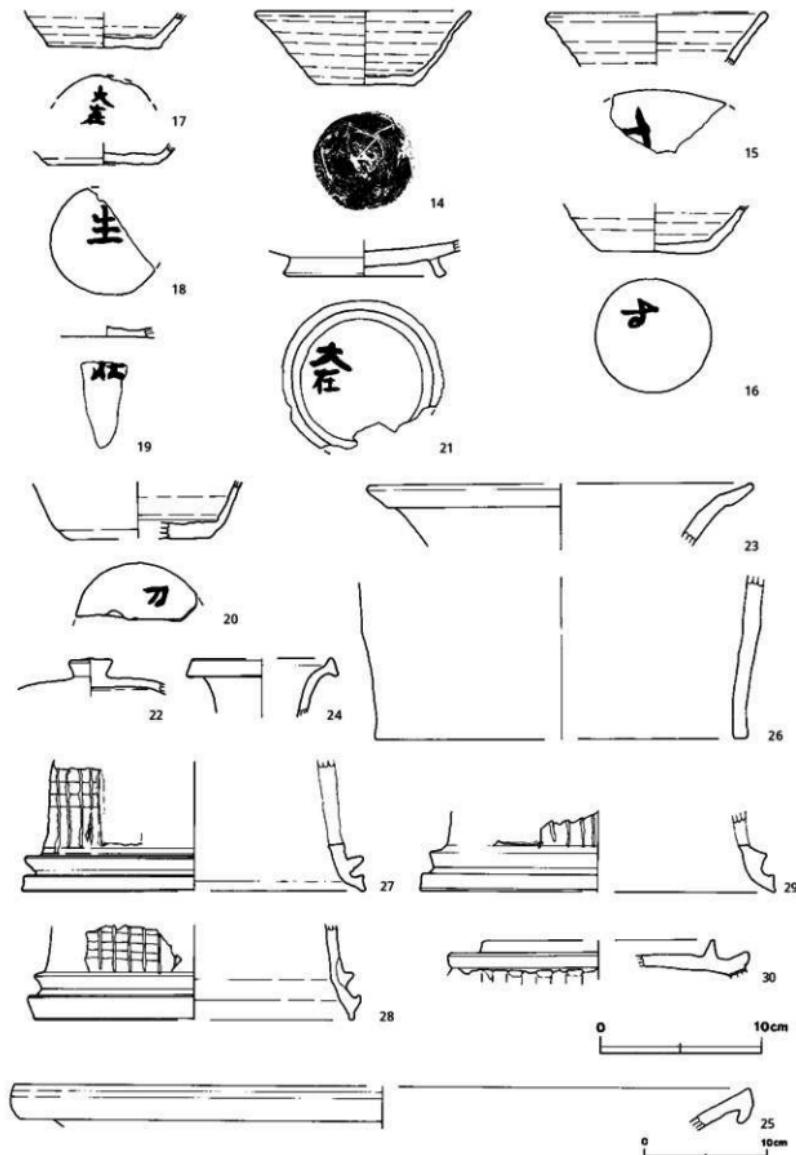
土 坑 番 号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 標		壁面	底面	覆 土	主な出土遺物	重複関係 (旧→新)	発 見 番 号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
P339	C460	N- 40°~ E	橢円形	0.42× 0.36	23	外傾	平坦	不明	SK682→第1号塗	SK766	
P340	B46	-	円 形	0.36× 0.33	60	直立	平坦	不明	S115と重複		
P341	B48	-	[ 円 形 ]	0.37× (0.27)	105	直立	平坦	不明	S118・第4号竪穴状遺構と重複		
P342	B48	-	円 形	0.22× (0.18)	不明	直立	平坦	不明	S118・第4号竪穴状遺構と重複		
P343	B48	-	円 形	0.43× 0.40	82	直立	平坦	不明	S118・第4号竪穴状遺構と重複		
P344	C465	N- 20°~ W	不整椭円形	0.35× 0.30	10	直立	平坦	不明	S122・23と重複		
P345	C467	-	円 形	0.38× 0.35	不明	直立	平坦	不明	S122・23と重複		
P346	C477	-	円 形	0.28× 0.26	30	直立	平坦	不明	S125と重複		
P347	B52	-	円 形	0.35× 0.34	177	直立	平坦	不明	S127と重複		
P348	B52	-	円 形	0.35	145	直立	平坦	不明	S127と重複		
P349	B53	-	円 形	0.37× 0.34	174	直立	平坦	不明	S128と重複		

## 第8節 遺構外出土遺物

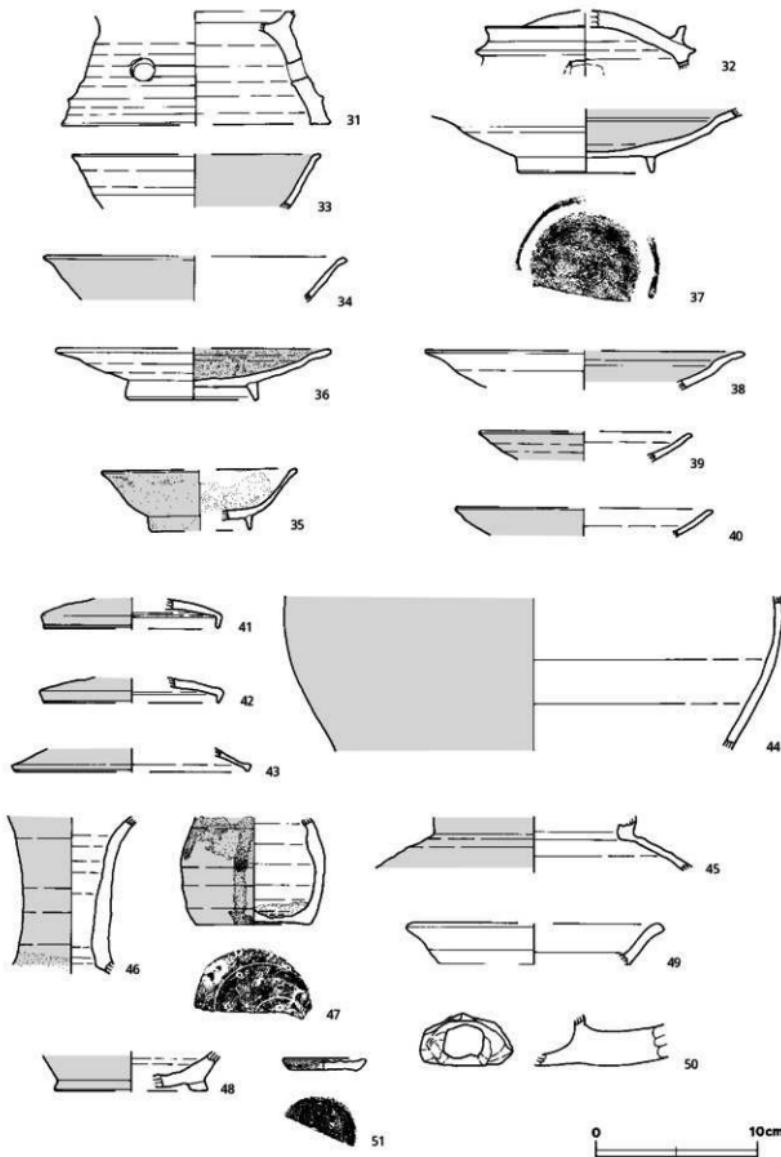
今回の調査では、遺構に伴わない遺物が多数出土している。ここではそれらの遺物のうち、弥生時代から中近世の遺物で特徴のあるものについて図示・解説する（第587～590図）。



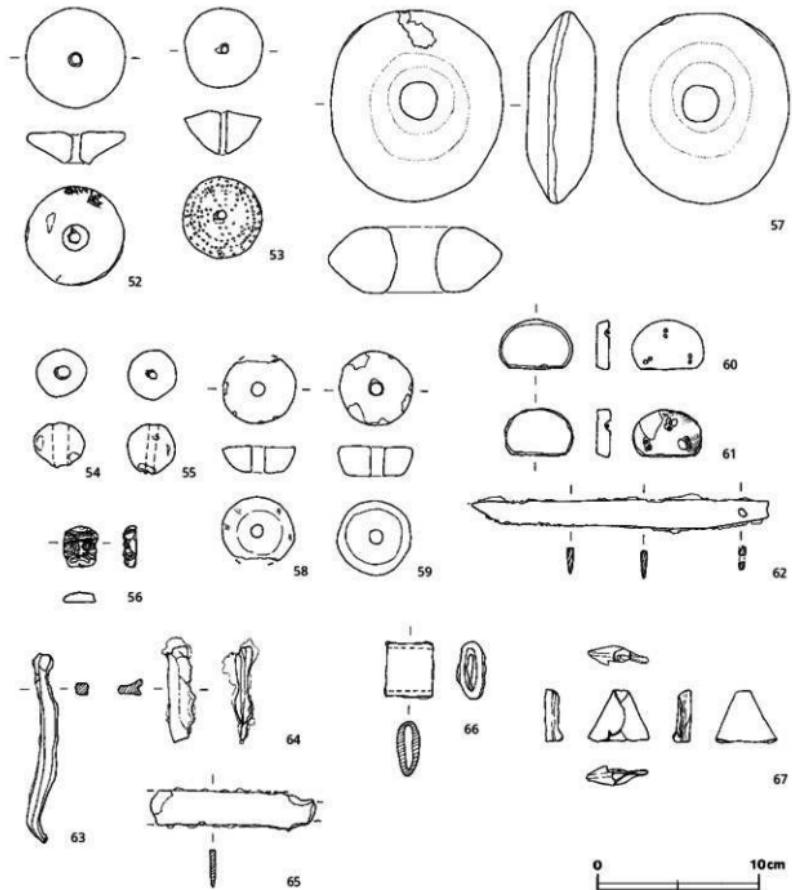
第587図 遺構外出土遺物実測図(1)



第588図 遺構外出土遺物実測図(2)



第589図 遺構外出土遺物実測図(3)



第590図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第587図 1	小形広口壺 弔生土器	B (8.5) C 52	頸部から底部にかけての破片。平底。頸部は内唇気味に外傾して立ち上がる。頸部には、附加条二種(附加1条)の雛文が施され、羽状構成をとる。底部は木葉底。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 2679 70%
第587図 2	手捏土器 土師器	A 6.0 B 3.8 C 4.4	口縁部及び体部一部欠損。肉厚の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面指頭によるナデ。	P 2680 70%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第587回 3	重カマド 土師器	B (8.1)	焚口部片。焚口部は直立する。底 が付く。	焚口部内面ナデ。外面ヘラ削り後, ナデ。	長石・石英・針状結 晶色, 普通	P2689 5%
4	环 土 師 器	A [15.7] B 5.0 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は 内側しながら外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き, 外 面口クロナデ。体部下端及び底部 回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2683 25% PL74 体部外側墨書き 「○」
5	环 土 師 器	A [15.8] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内側し ながら外傾して立ち上がり, 口縁 部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き, 外 面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P2684 10% PL74 体部外側墨書き 「前」力
6	环 土 師 器	A [11.9] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内側し ながら外傾して立ち上がり, 口縁 部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き, 外 面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P2726 5% 体部外側墨書き 「○」
7	环 土 師 器	A [13.2] B (3.1)	体部から口縁部片。体部はわずかに 内側しながら, 外傾して立ち上 がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き, 外 面口クロナデ。内面黒色処理。	石英 にぶい褐色 普通	P2687 5% PL72 体部外側墨書き 「在」力
8	环 土 師 器	A [10.7] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は外傾し て立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き, 外 面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P2682 5% PL72 体部外側墨書き 「○」
9	环 土 師 器	B (2.4)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラ磨き, 外面クロ ナデ。内面黒色処理。	長石 にぶい黄橙色 普通	P2681 5% 体部外側墨書き 「○」
10	环 土 師 器	B (1.8) C [5.4]	底部から体部片。平底。体部は内 側しながら外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き, 外面ロクロナ デ。体部下端及び底部回転ヘラ削 り。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P2685 5% PL74 底部墨書き 「北」
11	环 土 師 器	B [4.0] C [5.8]	底部から体部片。平底。体部は内 側しながら外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き, 外面ロクロナ デ。体部下端及び底部回転ヘラ削 り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P2688 10% PL73 体部外側墨書き 「東」
12	高台付 土 師 器	A [13.6] B 2.7 D 6.2 E 0.7	底部から口縁部片。平底。高台は 八の字状に開く。体部は内側しな がら外傾して開き, 口縁部に至る, 口縁部はわずかに外反する。	体部内面ヘラ磨き, 外面ロクロナ デ。体部下端及び底部回転ヘラ削 り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P2686 60% PL72 体部外側墨書き 「在」
13	环 須 惠 器	A [14.0] B 4.8 C 6.3	体部及び口縁第一部欠損。平底。 体部は外傾して立ち上がり, 口縁 部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り後, ナデ。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P2691 70% 底部ヘラ記号
第588回 14	环 須 惠 器	A 13.1 B 4.6 C 5.8	体部及び口縁第一部欠損。平底。 体部は外傾して立ち上がり, 口縁 部に至る。口縁部はわずかに外反す る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転ヘラ切り後, ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P2690 70% 底部ヘラ記号
15	环 須 惠 器	A [13.2] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は外傾し て立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。	長石 浅黄色 普通	P2694 5% PL72 体部外側墨書き 「○」
16	环 須 惠 器	B (3.0) C 7.0	底部から体部片。平底。体部は外 傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転ヘラ切り。	長石・針状結 晶物, 灰白色 普通	P2621 65% PL74 底部墨書き 「寸」(村)力
17	环 須 惠 器	B (2.1) C 6.8	底部から体部片。平底。体部は外 傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転ヘラ切り後, ナデ。	長石・石英・針状結 晶物, 灰オリーブ色 普通	P2728 10% PL70 底部墨書き 「大在」
18	环 須 惠 器	B (1.3) C 6.8	底部片。平底。	底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰白色 普通	P2692 10% PL74 底部墨書き 「生」
19	环 須 惠 器	B (0.8)	底部片。平底。	底部外側調整不明。	長石・石英 灰色 普通	P2727 5% 底部墨書き 「在」力
20	环 須 惠 器	B (3.5) C [8.4]	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下 端ナデ。底部回転ヘラ切り後, 手 持ちヘラ削り。	礫・長石 灰色 普通	P7179 25% 底部墨書き 「万」
21	高台付 环 須 惠 器	B (2.2) D 9.4 E 1.2	底部片。やや丸味のある平底。高 台は八の字状に開く。	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付 け。	長石・石英 褐色 普通	P2695 20% 底部墨書き 「大在」

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第588図 22	蓋 須恵器	B (2.3) F 2.8 G 1.1	天井部片。腹宝珠状のつまみが付く。	天井部内面クロコナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 褐灰色 普通	P2697 30%
23	裏 須恵器	A [23.6] B [3.8]	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P2698 5%
24	長 須 瓶 器	A [8.6] B [3.6]	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面クロコナデ。	長石・石英 灰色 普通	P2701 5%
25	裏 須 瓶 器	A [59.2] B [3.4]	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面クロコナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P2699 5%
26	蓋 須 瓶 器	B [10.0] C [23.0]	底部から体部下端にかけての破片。 体部はわずかに外傾して立ち上がる。	体部外面クロコナデ、内面ヘラナデ。	長石・針状結晶物 灰黄色 普通	P2700 10%
27	円 面 硯 器	B [8.0] D [20.9]	脚部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石・石英 褐灰色 普通	P2706 5%
28	円 面 硯 器	B [5.8] D [19.6]	脚台部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 褐灰色 普通	P2707 5%
29	円 面 硯 器	B [4.9] D [21.6]	脚台部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 石英 普通	P2703 5%
30	円 面 硯 器	A [18.1] B [2.3]	脚台部片。外縁の内側にU字状の窪が巡る。脚部と脚台との境に透かし窓の痕跡を残す。	外縁及びU字状窪部ナデ。	長石 外面灰黄色 内面淡黄色、普通	P2702 10% 硯部内面自然輪
第589図 31	円 面 硯 器	B [7.0] D [16.5]	脚台部片。脚台部は内縫の透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が巡る。	脚台部内面ナデ。	長石 灰色 普通	P2704 5%
32	円 面 硯 器	A [12.2] B [3.6]	脚台部片。脚部と脚台との境に透かし窓の痕跡を残す。	脚部内面及び外縁ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P2705 5%
33	横 灰 釉 陶 器	A [15.2] B [3.3]	体部から口縁部片。体部はわずかに内側しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。口縁部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P2716 5% 黒毫90号茎式期
34	横 灰 釉 陶 器	A [18.4] B [2.7]	体部から口縁部片。体部はわずかに内側しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。口縁部内・外面施釉。	長石、内面灰黄色、 外面灰白色 良好	P2717 5% 黒毫90号茎式期
35	横 灰 釉 陶 器	A [11.9] B [3.7] D [6.1] E 0.9	高台部から口縁部にかけての破片。 新規三日月形の高台が付く。体部はわずかに内側しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。周縁ナデ。口縁部及び体部施釉。	長石 灰白色 良好	P7185 45% P168 見込み堆ね焼き痕 黒毫90号茎式期
36	段 灰 釉 陶 器	A [16.8] B 3.2 D [8.0] E 1.2	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状開く。体部は直線的に開き、体部と口縁部の境に段をなす。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。周縁ナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P2710 50% P168 黒毫14号茎式期
37	段 灰 釉 陶 器	B (3.8) D 8.2 E 1.0	底部から口縁部片。平底。高台は開き、体部は直線的に開き、口縁部の境に段をなす。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。周縁ナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石、内面オリー ブ黄色、外側灰白 色、良好	P2711 30% 黒毫14号茎式期
38	段 灰 釉 陶 器	A [19.4] B (1.8)	底部から口縁部片。体部は直線的に開き、口縁部の境に段をなす。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P2712 5% 黒毫14号茎式期
39	皿 灰 釉 陶 器	A [13.0] B (1.8)	口縁部片。口縁部はわずかに内側しながら開く。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。口縁部内・外面施釉。	礎長石 灰白色	P2709 10% 黒毫14号茎式期
40	皿 灰 釉 陶 器	A [15.5] B (1.7)	口縁部片。口縁部はわずかに内側ながら開く。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面クロコナデ。口縁部内・外面施釉。	長石 灰オリーブ色 良好	P2708 5% 黒毫14号茎式期

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第589図 41	蓋 灰 糊 陶 器	A [10.6] B [1.8]	天井部から口縁部片。天井部はなだらかな丸味を持つて口縁部に至る。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部ナデ。口縁部及び天井部外面施釉。	長石、内面灰オリーブ色、外側灰黄色、良好	P2713 25% 黒窓14~90号窯式期
42	蓋 灰 糊 陶 器	A [10.7] B [1.6]	天井部から口縁部片。天井部はなだらかに口縁部に至る。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部ナデ。口縁部及び天井部施釉。	長石、内面灰オリーブ色、外側灰黄色、良好	P2715 10% 黒窓14~90号窯式期
43	蓋 灰 糊 陶 器	A [14.4] B [1.4]	口縁部片。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部ナデ。口縁部外面施釉。	長石、内面灰オリーブ色、外側灰黄色、良好	P2714 10% 黒窓14号窯式期
44	壺 力 灰 糊 陶 器	B [9.3]	体部片。体部は内寄して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面施釉。	長石、内面灰白色、外側灰黄色、良好	P2721 10% 黒窓14~90号窯式期
45	短 頭 壺 灰 糊 陶 器	B [3.4]	体部上位から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。口縁部内・外面及び体部外面施釉。	長石、内面灰黄色、外側灰オリーブ色、良好	P2723 5% 井ヶ谷78号窯式期
46	長 頭 瓶 灰 糊 陶 器	B [9.6]	頭部片。頭部は外反して立ち上がる。	頭部内・外面ロクロナデ。頭部下面外側外面施釉。	長石 灰白色 良好	P2722 15% 黒窓90号窯式期
47	小 瓶 灰 糊 陶 器	B [6.5] C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は内寄して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部余切り。体部外面施釉。	長石、内面灰黄色、外側オリーブ色、良好	P2718 5% PL 6 8 黒窓14~90号窯式
48	長 頭 瓶 力 灰 糊 陶 器	B [2.4] C [9.4]	底部から体部下端の破片。平底。高台は八の字状に開く。体部下端は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部調査不明。高台貼り付け後、ナデ。体部外面施釉。	長石 灰白色 良好	P2720 10% 黒窓90号窯式期
49	皿 周 器	A [15.0] B [2.5]	口縁部片。口縁部下端で屈曲し、外側する。口縁端部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石、内面灰黄色、外側オリーブ色、良好	P2724 5%
50	培 烙 力 土師質土器	B [2.8]	体部から把手部片。体部は内寄しながら外傾して立ち上がる。断面構円形で中窓の把手を持つ。	体部及び把手部ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P2725 10%
51	小 團 周 土師質土器	A 5.0 B 0.7 C 4.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内寄外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部余切り離し。	白色粒子 橙色 普通	P7186 50%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第590図52	紡錘車	6.1	2.0	0.6	55.2	土 製	断面三角形。	DP2501 PL76
53	紡錘車	5.0	2.7	0.4~0.6	47.1	土 製	断面三角形。	DP2502 PL76
54	土 玉	3.1	2.7	1.0	21.5	土 製	断面形は球状。	DP2503
55	土 玉	3.0	3.0	0.4~0.6	22.4	土 製	断面形は球状。	DP2504

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第590図56	泥面子	2.6	2.1	0.7	3.5	土 製	扁平。人面突出。	DP2505

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第590図57	環状石斧	11.8	10.5	4.2	613.5	砂 岩	ほぼ円形、中央部に断面X字状になる穿孔有り。	Q2501 PL78
58	紡錘車	-	4.4	1.6	(455)	泥 岩	一部欠損。中央部に0.8cmの孔が空く。	Q2502
59	紡錘車	-	4.5	1.8	64.1	不 明	黒色。中央部に0.8cmの孔が空く。	Q2503 PL77
60	腰帶具	3.0	4.5	0.7	19.0	花崗岩質岩石	丸窓。オリーブ色と白色が混じる。3ヶ所に穿孔穴。	Q2504 PL77
61	腰帶具	2.9	4.2	0.7	19.7	粘板岩	丸窓。黒色。3ヶ所に穿孔穴。	Q2505 PL77

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第590図62	小刀	(18.1)	1.8	0.3	(40.3)	鉄	茎一部欠損。径0.4cmの目釘穴1ヶ所。	M7014 PL80
63	釘	(11.6)	1.3	0.8	(26.3)	鉄	頭部欠損。断面が方形。	M7015
64	鍔	(6.3)	1.7	0.5~1.0	(15.6)	鉄	断面がY字状。	M7016
65	小刀	(10.2)	2.2	0.3	(36.5)	鉄	刀身の剥片。平造。	M7017
66	鍔	(4.4)	0.6	0.6	20.5	鉄	完形。断面が長楕円形。	M7018
67	不明	3.2	3.7	1.2	8.2	銅	平面が三角形。	M7019 PL80

## 第9節 まとめ

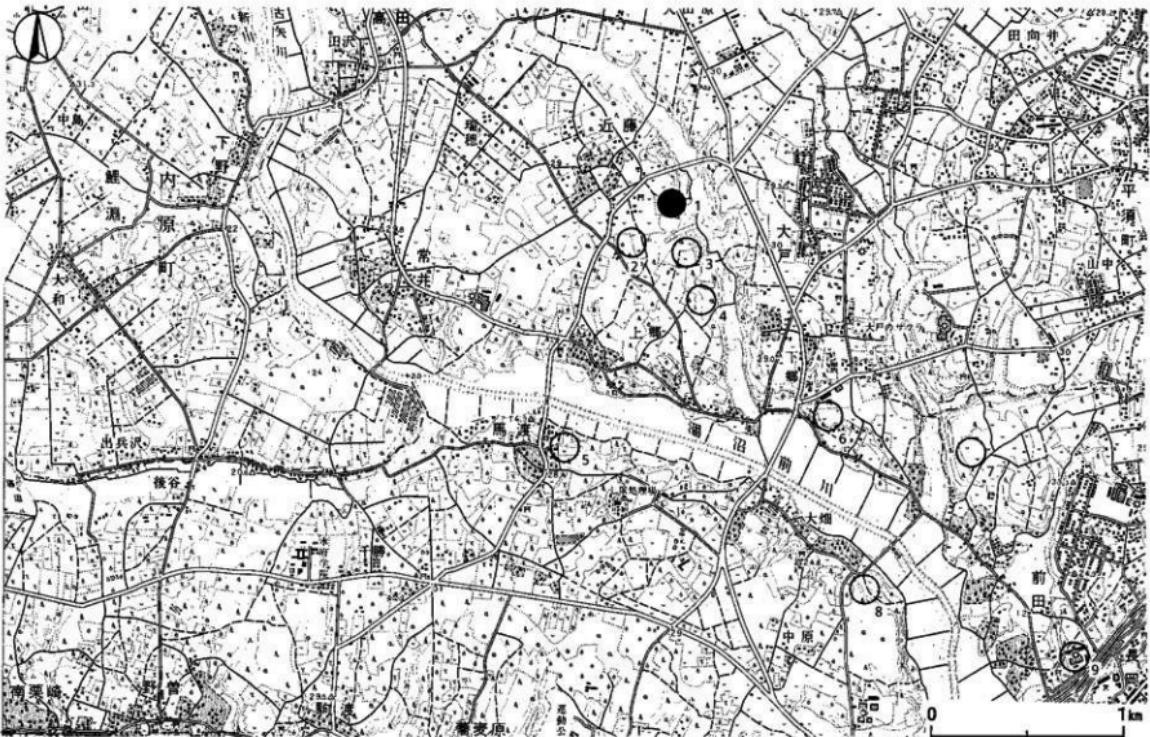
宮後遺跡は、縄文時代から中・近世にわたる複合遺跡であることが明らかになり、特に縄文時代中期中葉から後葉、弥生時代後期後半から古墳時代前期、さらに奈良時代から平安時代にかけて大きな集落が形成されたことが確認された。本書が取り扱った時代は、このうち弥生時代から中・近世までである。ここでは、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代及び中・近世の調査成果を概観し、まとめとする。

### 1 弥生時代～古墳時代

当遺跡からは、弥生土器だけが出土した住居跡1軒、弥生土器と古墳時代前期の土師器と一緒に出土した住居跡が4軒、古墳時代前期の土師器が出土した住居跡8軒、古墳時代後期の土師器が出土した住居跡2軒が検出されたが、検出数が少ないので、当遺跡が位置する潤沼前川沿いの遺跡から考えてみたい。潤沼前川沿いには、大畠遺跡、矢倉遺跡、桜の郷遺跡群（石原遺跡・綱山遺跡・大塚遺跡）等の弥生時代後期後半の遺跡が多く分布し、県北部から中央部にかけてを中心に分布する十王台式土器が出土している。各遺跡を概観してみると、大畠遺跡や矢倉遺跡では弥生土器（十王台式）と土師器との共伴事例はなかったが、上流に位置する石原遺跡や当遺跡ではその事例が見られた。海老澤稔氏の十王台式編年をもとに弥生時代後期後半と弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭とに分け、その出土土器の特徴及び文様に焦点を当てて述べることとする。

#### （1） 弥生時代後期後半

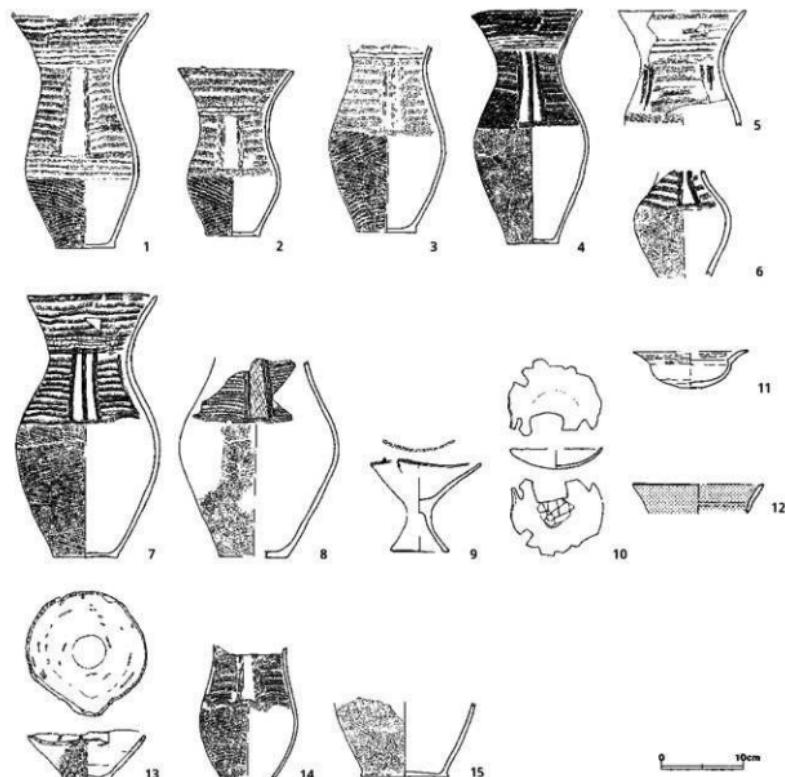
当該期の構造は、第126号住居跡の1軒である。小支谷を挟んで綱山遺跡（石原遺跡と隣接）と対峙する標高28~29mの5区の平坦部に構築されている。石原遺跡では、10数軒（第2・4・12号住居跡等）が検出され、中央に広場をもつ4・5軒の小グループに分けられるようであると記述されていることから、奈良・平安時代に住居や掘立柱建物等の建設で掘り込まれなければ、当遺跡の小支谷を見下ろす台地の平坦部にも小さなまとまりをもった住居群の存在が確認されたのではないかと考えられる。土器の編年から当遺跡より先行すると思われる大畠遺跡や矢倉遺跡は潤沼前川に面した台地の縁辺部に立地しているが、石原遺跡や本跡は潤沼前川に流れ込む支流（小橋川）沿いに立地している。このことは人口の増加などにより土地を求めて川沿いに遷ったことによるもの（第591図「宮後遺跡及び周辺遺跡」参照）と考えられる。遺物は広口壺・片口鉢・炉石・環状石斧などが出土している。片口鉢（第592図13）は、色調が橙色を帯び、胎土に針状鉱物を含んでいることなど広口壺との違いが見られる。また、口唇部付近に孔が2つ空けられており、木製か革製の蓋を留める穴と思われる。石原遺跡でも2個体出土しているが、全体的に出土数が少ないとから貴重なものを入れていたことも考えられる。また、この期の広口壺（第592図14・15）は、2点しか出土していないが、14の広口壺の頸部文様は、櫛描文が密に胸部の最大径の近くまで施文されていることから矢倉遺跡の第14・23号住居跡（第



第591図 宮後遺跡及び周辺遺跡 1 宮後遺跡 2 大塚遺跡 3 煙山遺跡 4 石原遺跡 5 東烟遺跡  
6 大戸下郷遺跡 7 矢倉遺跡 8 大畠遺跡 9 長岡遺跡

592図1～3), 石原遺跡の第5号住居跡(第592図4～6)出土の土器と同時期のものと思われる。住居の規模と平面形は、矢倉遺跡の第14号住居跡が長軸6.1m、短軸5.4mの隅丸方形、第23号住居跡が長軸3.8m、短軸3.5mの隅丸方形、石原遺跡の第5号住居跡が長軸5.58m、短軸4.55mの隅丸長方形で、当遺跡の第125号住居跡は長軸3.74m、短軸3.70mの隅丸方形である。このようにこの時期は、隅丸方形と隅丸長方形が併存することが窺われる。

特筆する遺物として環状石斧があげられる。5区の遺構外から出土したものではあるが、完形品は本県で初出である。

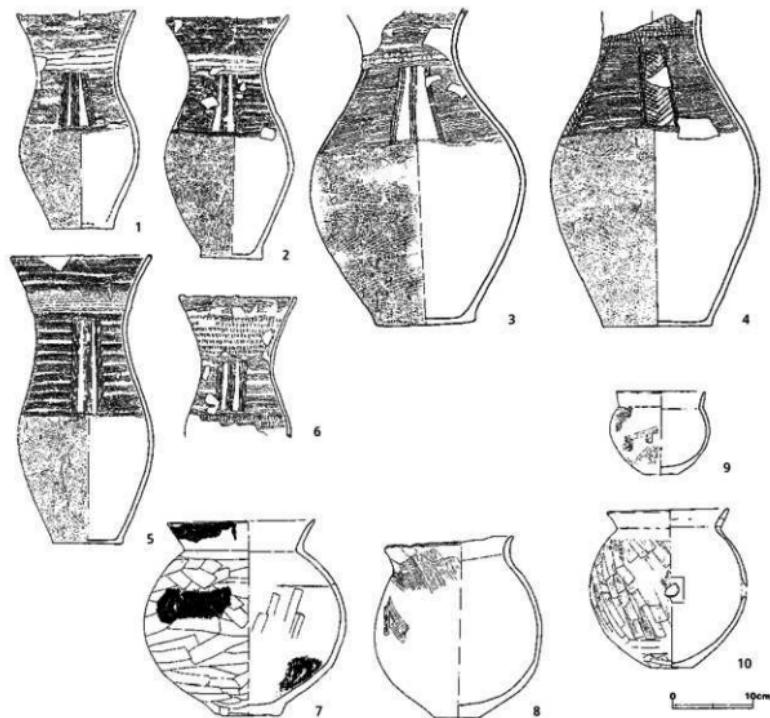


第592図 矢倉遺跡・石原遺跡・宮後遺跡出土弥生土器・土師器

- 1：矢倉遺跡第14号住 7～12：石原遺跡第23号住
- 2・3：矢倉遺跡第23号住 13～15：宮後遺跡第126住
- 4～6：石原遺跡第5号住

(2) 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

次に、弥生土器と古墳時代前期の土師器と一緒に出土した住居は、第101・103・110・121号住居跡の4軒である。弥生時代後期後半の住居跡と同様に、当遺跡の南部（5区）の平坦部の中央に位置し、南北に弧状に並んでいた。平面形は、不明1軒を除き、隅丸長方形である。石原遺跡でも共伴事例が第23号住居跡（第592図7～12）などに見られる。第592図7の広口壺は口縁部の幅が広く、頸部境の隆帯がほとんど隆起していない。また、頸部の櫛描文が胴部の最大径近くまで施文されている。当遺跡の広口壺（第593図1・2・5・6）も石原遺跡と同様な文様構成をもち、特に第593図5の広口壺の頸部と胴部の境の隆帯が半截竹管状の工具で刺突された爪形文に変化している。ひたちなか市武田石高遺跡の第41号住居跡でも爪形文をもつ土器が出土し、土師器を伴っている。また、第593図3・4のような器高のある広口壺も、石原遺跡の第23号住居跡（第592図8）等から出土しており、頸部の文様構成が類似しており、この点からも二つの住居跡が同時期といえる。ところで、広口壺の用途を考えてみると、器高が30cm前後より以下のもの多くに、二次焼成痕があったり、炭化物・ススが付着していたりすることが見られ、第592図3・4のような50cm以上の大形のものにはその痕跡



第593図 宮後遺跡出土弥生土器・土師器  
1-4・6-8：宮後遺跡第110号住  
5・9・10：宮後遺跡第103号住

は見受けられなかった。このことから中形・小形のものは煮炊き具として、大形のものはそれ以外の用途として、というように機能が分かれていたことが窺える。

土師器と一緒に出土した弥生土器の全体的な特徴は、①口唇部に小突起がつくものが多く見受けられる。②頸部文様帯の縦区画が3本のものが多い。③頸部と胴部境との区画は、横走波状文がほとんどである。④底部は布目痕が多いことなどが挙げられる。この傾向は矢倉遺跡や石原遺跡でも言え、久慈川流域出土の弥生土器と様相を異にしていることから濱沼前川流域の弥生時代後期後半の弥生土器に共通する特徴と思われる。

ところで、当遺跡と同様に弥生土器と土師器が共存した遺跡には、石原遺跡以外に石岡市外山遺跡、大洗町長峰遺跡、水戸市大鋸町遺跡、ひたちなか市鷺ノ巣遺跡、平成11年度に調査された大塚遺跡や綱山遺跡などがある。弥生土器は、前述したように十王台式土器の終わりの様相を呈している。一方の土師器は、第593図の8~10のようにハケ目を持つものが多いが、第593図7のように見受けられないものもある。第593図8の甕は胴部の下位に最大径を持ち、口唇部は小波状を呈するのが特徴的である。口唇部が小波状を呈する土器は、石原遺跡からも出土しており、さらに波状が強くなった土器が、当遺跡から南西に3.4kmほど離れた古墳時代前期の集落である南小割遺跡から数多く出土している。南小割遺跡出土の強く波状を呈する土師器は、弥生土器を伴っていないことなどから当遺跡より後の時期とも考えられ、関連性が注目される。第110号住居跡の弥生土器と共存した土師器は、外山遺跡の第5号住居跡から弥生土器と一緒に出土した土師器の様相と類似していることも記しておきたい。

### (3) 古墳時代前期

次に、土師器だけが出土した住居は、古墳時代前期（4世紀代）の炉をもつ竪穴住居跡9軒である。調査区北部（1区）に5軒、南部（5区）に4軒である。小橋川や小支谷を望む台地の縁辺部に沿って立地し、南北に二つのグループに分かれる。住居の平面形は、（隅丸）方形が5軒（第1・37・38・104・129号）、（隅丸）長方形が3軒（第31・41・102号）、不明が1軒で、南北での形状の違いは見られない。規模は、長軸が長くても5m代であるが、第101号住居跡は、長軸8.14m、短軸7.34mと大きく、遺物として手握土器（10個体以上）及び土玉（4個）が出土していることが注目される。祭祀的なことや濱沼前川や小橋川に挟まれたこの地で、漁労が行われていたことが想定できる。出土土器の様相からみて、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭から継続して、集落が営まれたことが窺える。

4世紀末には2度目の集落の終わりを迎える、古墳時代中期（5世紀代）から後期（6世紀代）の遺構は検出されない。しかし、石原遺跡では中期（5世紀代）の住居跡が、綱山遺跡や大塚遺跡では後期（6世紀代）の住居跡がそれぞれ検出されており、集落の移動を小橋川と濱沼前川に挟まれた地域で考える必要がある。

### (4) 古墳時代後期

途絶えて後の古墳時代後期（7世紀代）になってからの遺構としては、調査1区の西部から住居跡1軒（第3号住居跡）と、2区の南部から1軒（第143号住居跡）が検出された。遺物としては土師器壊や長胴の甕が出土している。

## 2 奈良・平安時代

奈良・平安時代の主な遺構は、竪穴住居跡117軒・竪穴状遺構1基・掘立柱建物跡63棟・土坑25基・溝1条・粘土採掘坑5基である。この時代は大きな集落が形成された時期で、多くの土器が出土している。住居跡から出土した土器をI~VI期の6期に区分し、その変遷を把握し、各時期の様相を述べていくことにする。

### (1) 奈良・平安時代の土器の変遷

ここでは当時代の土器を、この時代のほぼ全体にわたってみられる須恵器の変遷を中心に分類し、その変遷をみていくことにする。

なお、杯については形態や調整技法によって以下のように分類した。

土師器杯A類	丸底で半球形状を呈するもので、口縁部が内彎、外傾、直立するものがある。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
B類	平底で体部が内彎気味に立ち上がるもので、口縁部が外傾、外反するものがある。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
C類	丸底もしくは扁平な丸底で、底部と口縁部の境に稜を持つもの。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
D類	平底で体部が内彎気味に立ち上がるもので、口縁部が外傾、外反するものがある。ロクロ成形のものである。
須恵器杯A類	丸底で口径と底径の差が小さく、底部外周に段があり、いわゆる二次底部面を有するもの。
B類	平底で口径と底径の差が小さく、底部外周に段があり、いわゆる二次底部面を有するもの。
C類	B類以外で平底のもの。

#### I期（8世紀前葉）

食膳具は、土師器が目立つ段階である。

須恵器は丸底のA類、平底のB類、C類がみられる。

A類及びB類の底部及び外周部には、回転ヘラ削りが施されている。

C類は、いずれも底部に回転ヘラ削りが施されている。

A類・B類の杯は、大・中・小が確認され、大形が口径約14cm、中形が約口径12cm、小形が口径約10cmである。

土師器杯は丸底で半球形状を呈するA類（1～4）、平底で体部が内彎気味に立ち上がるB類（5～8）、丸底で口縁部との境に稜を持つC類（9～12）がみられる。いずれの杯も体部外面もしくは底部には手持ちヘラ削りが、口縁部には横ナデが施されている。A類のなかには黒色処理のされているもの（3）、B類のなかには底部に木葉痕を残すもの（5）がみられる。

須恵器蓋は、須恵器の大形と中形のものの口径と合うものが出土しており、それぞれの杯とセットになるものと思われる。口縁部にかえりが付くものと、口縁端部がわずかに垂下するもの認められる。形態的にかえりが付くものから、端部がわずかに垂下するものへと移行すると思われるが、当遺跡では両者が共存するため明確に時期差として区別できないため、当該期に含めた。いずれの蓋も扁平なつまみが付き、天井部からなだらかに口縁部に至るもの、直線的に口縁部に至るもの、全体的に低く扁平なものがみられる。

須恵器高台付杯は、低い高台が底部の外側に付いており、高台径が大きい。当該期で1点認められる（34）。

煮沸具・貯蔵具は須恵器より土師器の占める割合が非常に多い。

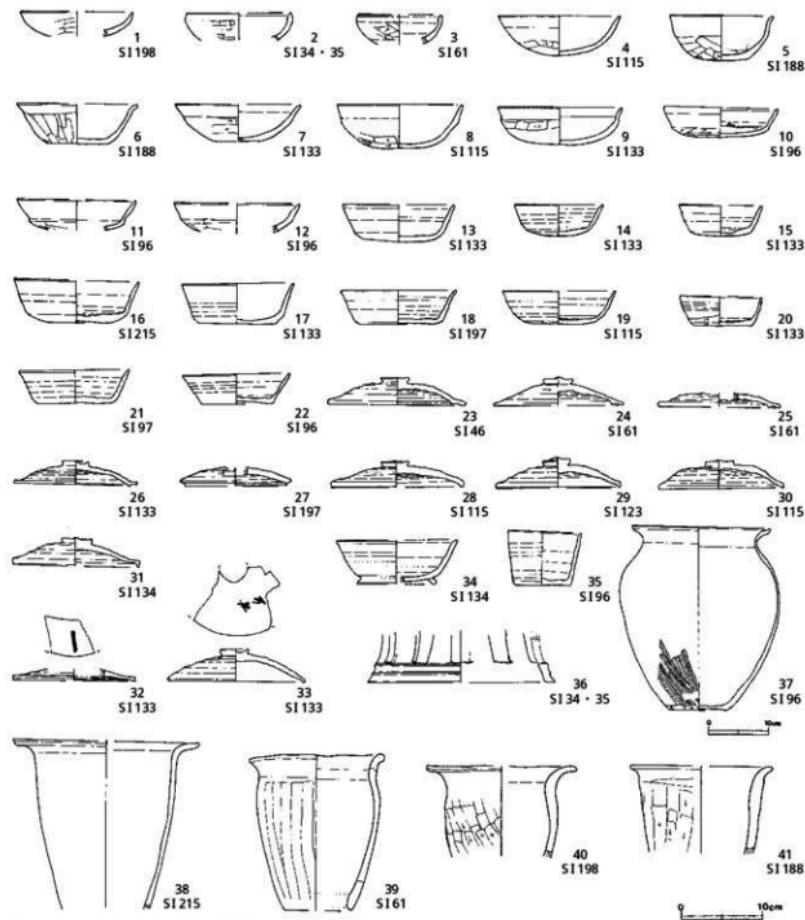
土師器瓶は体部が内彎気味に、または、直線的に立ち上がり、口縁部が外反するものである。口縁部は外反度合いの弱いもの（39・41）と強いもの（38・40）がある。底部が確認できるものは1点のみであり、無底式である。調整は、口縁部が横ナデ、体部が横ナデまたは縦位のヘラ削りである。

土師器甕は、体部上位に最大径を持ち肩に張りのあるもので、口縁部のつまみ上げは明瞭でない。胴部下半

に縦位のヘラ磨きが、胴部下端に手持ちヘラ削りが施されている（37）。

須恵器裏は、破片であり、全容は不明である。縦位の平行叩きが施された体部片のはか、口縁上部に断面三角形の隆帯を持ち、体部外面に同心円叩きが施されたものもみられる。

その他に、須恵器円面鏡（36）、同小形鉢（35）が出土している。



第594図 宮後遺跡I期の土器群

II期（8世紀中葉）

食膳具は、土師器が少くなり須恵器が大部分を占めるようになる。

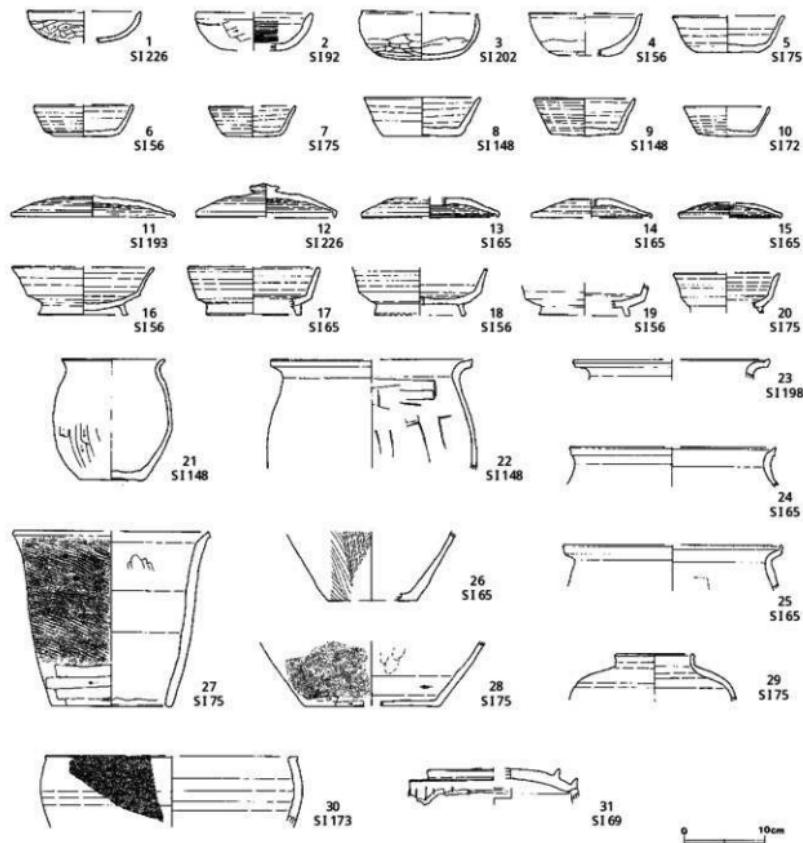
須恵器は平底のB類（5～7）、C類（8～10）がみられる。前段階と同様に大（5・8）、中（6・9）、小（7・10）に分けられ、大型が口径約14cm、中形が約口径12cm、小形が口径約10cmである。いわゆる二次底

部面を有するB類の底部周縁は、回転ヘラ削りを施したものがみられる。B類及びC類の底部は、回転ヘラ削りを施したものが多く、ほかに回転ヘラ切り後、ナデまたはヘラナデを施したものもみられる。

土師器杯は丸底のA類（1～3）、平底のB類（4）がみられる。いずれも体部外面または底部にヘラ削りが、口縁部には横ナデが施されている。A類にはヘラ磨きが施され内面黒色処理されたもの（2）もみられる。

須恵器高台付杯は、当該期から増加する。高台は前段階のものより高くなり、より底部の内側につけられる。口縁部は、外傾するもの（17）と、外反するもの（16）がみられる。高台付杯は、大（16）・中（17）・小（20）に分けられ、大形が口径約19cm、中形が約口径16cm、小形が口径約13～14cmである。

須恵器蓋は、天井部はやや扁平であり、口縁端部は短く垂下している。つまみが確認できるものは1点で、扁平な擬宝珠状である。口径は、約20cmのもの、約16cmのもの、約14cmのもの、約12cmのものに分けられ、口径が約16cmのものは須恵器高台付杯とセットになるものと思われる。



第595図 宮後遺跡II期の土器群

煮沸具・貯蔵具は前段階に比べて、須恵器の占める割合が若干多くなってくる。須恵器甌（27）、鉢（30）、短頸壺（29）が新たに確認される。

土師器甌は、破片であり全容は不明であるが、体部下半に縦位のヘラ磨きが施されているもの（26）が確認されている。口縁部のつまみ上げは、前段階より明瞭になってくる（22～25）。また、当該期から体部下半に縦位のヘラ削りが施されている小形甌がみられる（21）。

須恵器甌も、破片であり全容は不明であるが、前段階と同様に外面に同心円叩きが施されたものも認められる（28）。

須恵器甌は、外面に横位の平行叩き、下端にヘラ削りが施された無底式のものである。

### III期（8世紀後葉）

食膳具は、当該期において、須恵器の占める割合が非常に多くなり、器種も豊富になる。

須恵器甌はC類が中心となり、当該期において、前段階の浅身の杯に加えて、深身のものがみられるようになる（3～6）。計測値は、口径13～14cmのものがほとんどであり、なかに、口径約12cmとやや小振りのものもみられる。底部は、ヘラ切りのもの、ヘラ切り後にナデを施したものが多く、回転ヘラ削りのものもみられる。

土師器甌は、A類にヘラ磨きが施され、内面黒色処理のもの（1）が前段階に引き続いてみられる。当該期のものは、薄手で、口縁部内面に稜を持っています。体部外面にはヘラ削り後にナデが、口縁部には横ナデが施されている。

当該期から土師器高台付皿（2）が加わる。体部内・外面にはロクロナデが施され、底部は回転ヘラ切り後、高台を貼り付けている。

須恵器高台付杯は、前段階の一番大形のものがみられなくなり、口径が約16cmのもの（14）と口径約14cmのもの（15）がみられ、新たに口径約10cmのもの（16）がみられるようになる。口縁部は外反するものが多い。底部の調整は、いずれも回転ヘラ削りである。

須恵器蓋は、擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が短く垂下する（7～13）。口径約16cmのものが確認され、須恵器高台付杯の口径の合うものとセットになると思われる。また、新たに擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が長く垂下するもの（26・27）がみられ、それは短頸壺（28）の口径の合うものとセットになると思われる。計測値は、口径が約17cmのものと、口径が約13cmのものがある。

須恵器の器種で、当該期から新たに加わるものとして、盤（20・21）と高盤（17～19）がある。

須恵器盤は、口径約20cmのものと、口径約17cmのものの、大・小が確認される。底部は丸底気味で、体部と口縁部の境にはっきりとした稜をもっている。底部の調整は回転ヘラ削りである。

須恵器高盤は、裾が大きく開き、透かしを持つもの（17・19）と、持たないもの（18）がある。杯部の径が、約22cmと大形のもの（17）のほかに、脚部片からみて、中形と小形のものもあるようである。

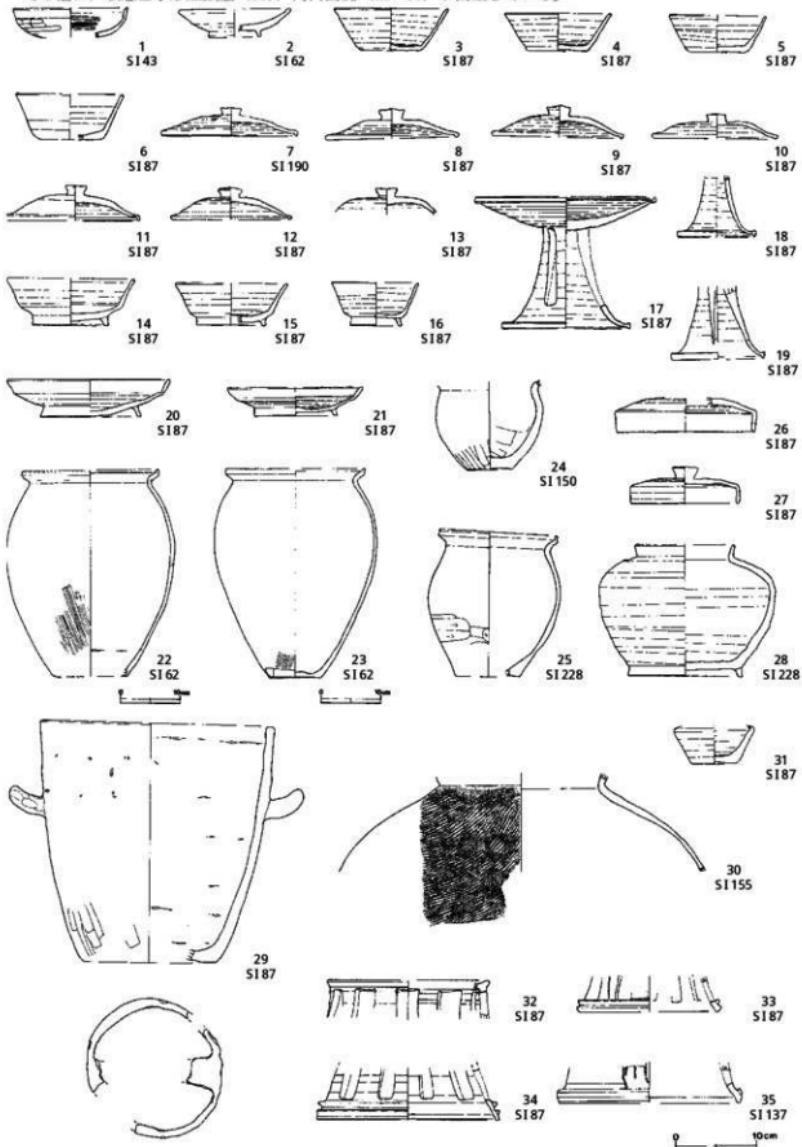
煮沸具・貯蔵具は、須恵器の割合は多くなるものの、依然として土師器が多い。

土師器甌は、口縁部をつまみ上げ、体部下半に縦位のヘラ磨きが施された常縦型甌（22・23）が引き続いてみられる。

須恵器甌は、破片であり、全容は不明であるが、櫛齒状工具による波状文を施した口縁部片、斜位の平行叩きを施したもの（30）がみられる。

須恵器甌は、体部外面にロクロナデが、下端にヘラ削りが施され、把手の付く2孔式のもの（29）が新たにみられる。

その他に、須恵器小形短頸壺（31）、同円面鏡（32～35）が出土している。



第596図 宮後遺跡III期の土器群

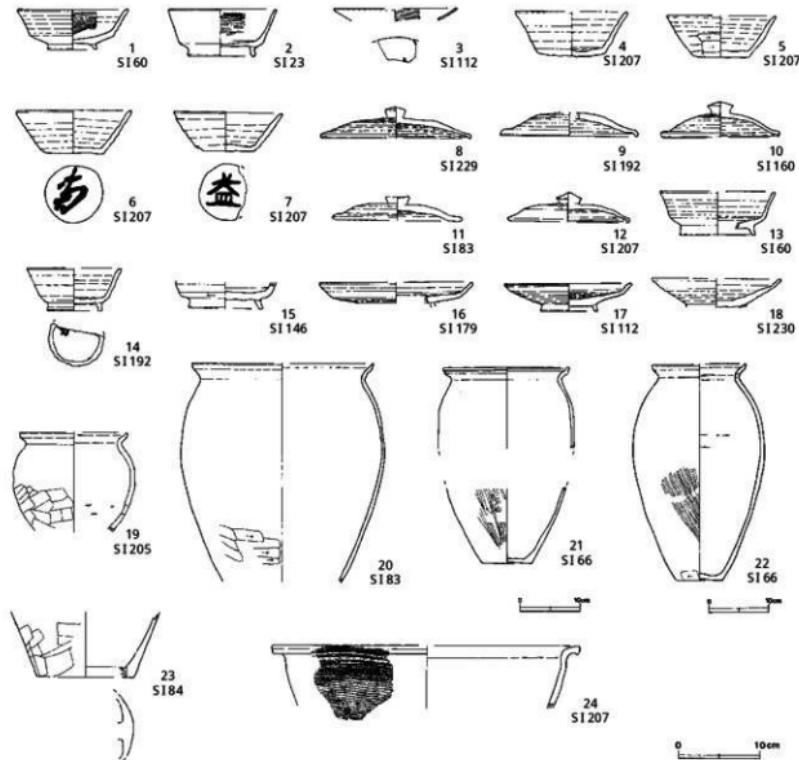
IV期（9世紀前葉）

須恵器杯は、当期以降C類のみになる。前段階と同様に、深身で、口径が13~14cmであるが、前段階のものよりも口径と底径との差が若干大きくなる（4~7）。底部の調整は、回転ヘラ削りのものが多く、ほかに、ヘラ削り後ナデのものと一方向の手持ちヘラ削りのものがみられる。

土師器杯は、当期において確認できず、食器具では、土師器高台付杯が少量みられるだけになる。土師器高台付杯は、体部下端に稜を持つもの（1・2）であり、須恵器高台付杯を模倣したものと思われる。調整は、ヘラ磨きで内面に黒色処理が施されている。

須恵器高台付杯は、体部下端の稜が前段階のものよりも弱くなるもの（13~15）がみられる。計測値は、口径約14cmのもの（13）と、口径約11cmのもの（14）が確認される。

須恵器盤は、口縁部の屈曲が弱くなるもの（16~18）がみられる。



第597図 宮後遺跡IV期の土器群

須恵器蓋は、前段階と同様に、擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が短く垂下するもの（8~10・12）がほとんどであるが、ほかに、天井部が扁平で、口縁部が水平になり端部を丸く収めているもの（11）も1点確認

されている。口径14~15cmのものと、口径17~18cmのものがある。

煮沸具・貯蔵具は、前段階よりさらに須恵器の割合が増える。土師器の瓶はみられなくなり、破片であり全容は不明であるが、須恵器の瓶（23）のみとなる。

土師器甕は、大形のもので体部下半にヘラ磨きを施したもの（21・22）に加え、横位のヘラ削りを施したもの（20）がみられ、調整がヘラ削りのものは大（20）と小（19）に分けられる。長胴であり、口縁部は明瞭につまみ上げられている（22）。

須恵器甕は、破片であり全容は不明であるが、口縁部片は、前段階と同様に、波状文を施したものに加え、無文のものが確認される。

その他、須恵器高盤、同長頸瓶の破片が出土している。

#### V期（9世紀中葉）

食膳具は、前段階から一転して、土師器の占める割合が増え、器種も豊富になる。

須恵器杯は、前段階のものより口径と底径の差がさらに大きくなり、体部は直線的に大きく開くもの（13~15）がみられる。計測値は、口径が13~14cmである。調整は体部下端に回転ヘラ削りのものが極少量みられる。底部は、①回転ヘラ切りのもの、②回転ヘラ切り後、ヘラナデ及びナデのもの、③回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り及びヘラ削りのものがみられ、①と②のものが多い。

土師器杯は、ロクロ成形のD類がみられるようになる。口径と底径の差が大きいもの（3・4）と小さいものの（1・2）がみられ、それぞれ浅身のものと深身のものがある。なかに口縁部が外反するものがみられる。計測値は、口径が約15cmでやや大形のものと、口径13~14cmのものがあり、後者が大部分を占める。

土師器鉢は、大形の杯ともいえるような浅身のもの（5）と、深身のもの（6）が極少量みられる。

土師器碗は、高台が低いもの（9・10）と、高いもの（7・8）があり、なかに口縁部が外反するものがある。計測値は、前者が口径約13cm前後、後者が口径約16cmである。

土師器高台付皿は、体部が直線的に立ち上がり口縁部に至るもの（11）と、内輪気味に立ち上がり口縁部が外反するもの（12）がある。口径が約15cmの大形のものと、口径が12~13cmの小形のものがみられる。

上記の土師器の調整は、ヘラ磨きでいずれも内面黒色処理が施され、体部下端及び底部は回転ヘラ削りである。

須恵器高台付皿は、当期から新たに加わる（21・22）。計測値は、口径14~15cmである。

須恵器盤（20）及び高台付杯（16~19）は、わずかにみられる程度になる。

煮沸具・貯蔵具は、依然として須恵器の占める割合が多い。

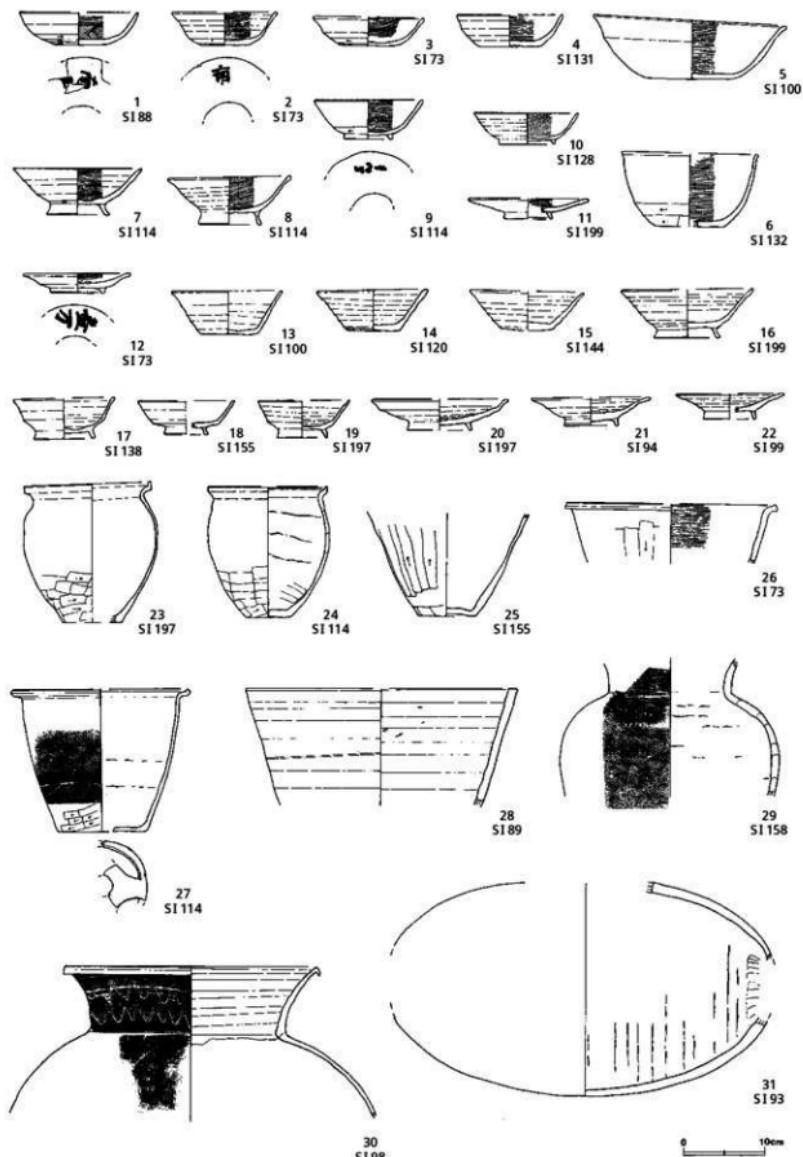
当期から、土師器の鉢形の瓶が新たに加わる（26）。調整は、外面が縦位のヘラ削り、内面がヘラ磨きで、内面に黒色処理が施されている。

土師器の甕は、大形のものの全容は不明であるが、小形のもの（23・24）は体部が前段階よりもやや長胴化し、また、体部の最大径が口径とほぼ同じになる。体部下半には横位のヘラ削りが施されている。

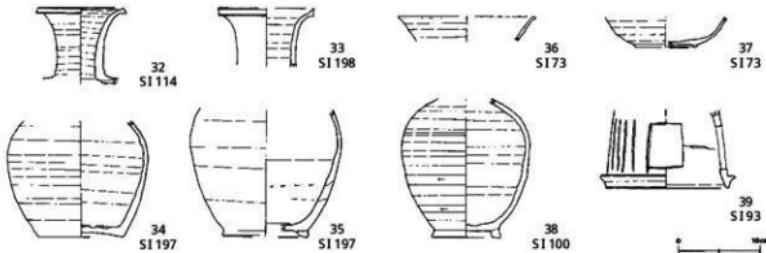
須恵器甕は、口縁端部が下方に突出し、肩の張りが弱くなる（30）。

須恵器瓶は、直線的に外傾し、内・外面にロクロナデが施されたもの（28）がみられる。また、外面に格子目叩きが施されたもの（27）もみられる。

その他に、須恵器長頸瓶（32~35）、同横瓶（31）、同円面硯（39）、灰釉陶器碗（36・37）、同長頸瓶（38）が出土している。



第598図 宮後遺跡V期の土器群(1)



第599図 宮後遺跡V期の土器群(2)

VI期(9世紀後葉)

食膳具は、ほとんどが土師器で占められるようなり、須恵器は杯のみが少量みられる程度になる。須恵器杯は、前段階より底径がわずかに拡大し、体部が内彌氣味に立ち上がるもの(17・18)のみになる。土師器杯は、D類のものであり、前段階のものと同様に、口径と底径の差が大きいものと小さいもの、浅身のものと深身のものがみられる。なかに口縁部が外反するものがある。計測値は、やはり口径13~14cmのもののがほとんどであり、新たに口径約18cmの大形のもの(7)もみられる。

土師器高台付皿は、前段階のものと比べ大きな変化はみられないが、なかに高台の高いもの(10)もみられるようになる。

土師器椀は、高台の低めのものがみられなくなる。また、体部が直線的に開く足高高台椀が1点認められる(13)。

土師器鉢は、前段階と比べ大きな変化はみられないが、より大形のもの(15・16)が加わる。上記の土師器の調整は、杯に底部ヘラ磨きのものが1点、鉢に体部下端に手持ちヘラ削りのものが1点みられるほかは、いずれもヘラ磨きで内面黒色処理が施され、体部下端及び底部には回転ヘラ削りが施されている。

煮沸具・貯藏具も、土師器の占める割合が多くなる。

土師器甕は、口縁部をつまみ上げたもののはかに、口縁端部を丸く収めたもの(22)もみられるようになる。前者は破片であり、その全容は不明であるが、後者は縦位のヘラ削りが施されている。

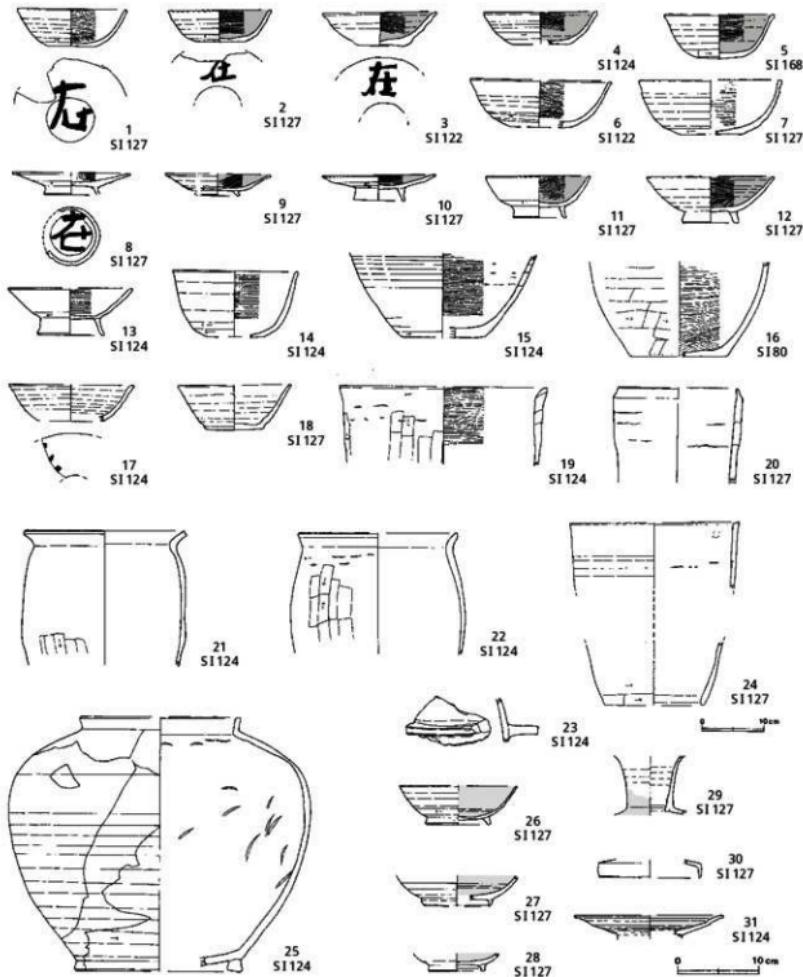
土師器瓶も、口縁端部を丸く収めたもの(19)が認められる。調整は、内面がヘラ磨き、外側が縦位のヘラ削りで、内面に黒色処理が施されている。

土師器鉢は、筒状のもの(20)がみられる。また、当該期から、新たに土師器羽釜が加わる(23)。

須恵器瓶は、ロクロナデが施されたもの(24)のみになる。

その他に、灰釉陶器椀(26~28)、同段皿(31)、同蓋(30)、同短頸壺(25)、同長頸瓶(29)が出土している。

以上のように、当遺跡の奈良・平安時代の土器は、6期にわたる変遷が認められる。各期の年代的位置づけは、須恵器の多くが木葉下窯産の製品であることから、木葉下窯須恵器の編年による年代観などを参考に、次のように考えておく。I期は8世紀前葉、II期は8世紀中葉、III期は8世紀後葉、IV期は9世紀前葉、V期は9世紀中葉、VI期は9世紀後葉である。



第600図 宮後遺跡VI期の土器群

(2) 奈良・平安時代の集落変遷

ここでは、6期にわたる土器の変遷をもとに、住居跡及び主な出土遺物について各期の様相を述べる。



第601図 宮後遺跡I期の遺構群



第602図 宮後遺跡II期の遺構群

Ⓐ



第603図 宮後遺跡III期の遺構群



第604図 宮後遺跡IV期の遺構群



第605図 宮後遺跡V期の遺構群



第606図 宮後遺跡VI期の遺構群

## I期（8世紀前葉）

この時期の住居跡は14軒で、調査1区に3軒、2区に4軒、3区に1軒、5区に6軒と遺跡の南部及び西部に集中している。この期は小支谷を挟んで立地する網山遺跡や大塚遺跡との関連が強いと思われる。遺物は、第61・96・115・116・133・134号住居跡から刀子・鎌・鎌先・鉄斧等の金属製品が出土している。中でも役人が使用する腰帶具（鉄具）が2軒の住居跡から1個ずつ出土していることが特筆され、第133号住居跡からは円面鏡と墨書き土器（「万益」カ）と金属製品（刀子・鎌・鉄具）が一緒に出土しており、宮後遺跡の中心的な家であったことや、土器に書かれた墨書きからは、開墾や農作業を行うにあたって豊作を祈ったことが窺える。また、建て替えがあったと考えられる第34・35号住居跡からは、静岡県の湖西窯産の須恵器の甕の口縁部片が出土していることも特筆される。また、第44号掘立柱建物が確認できることから、この時期に5区には、竪穴住居以外に掘立柱建物が造られ始めたと考えられる。

## II期（8世紀中葉）

この時期の住居跡は10軒で、住居数の変化はあまり見られない。調査2区に5軒、3区に4軒、5区に1軒と遺跡の西部に集中しており、隣接する大塚遺跡との関連が考えられる。遺物は、第56・65・75号住居跡から金属製品（鎌・刀子）、紡錘車が出土している。

## III期（8世紀後葉）

この時期の住居跡は13軒で、調査1区に2軒、2区に5軒、3区に3軒、4区に1軒、5区に2軒と、どちらかといえば西部に集中しているが、遺跡全体に広がりをみせる。遺物は、第62・69・87・118・137号住居跡から刀子・鉄斧・鎌先の金属製品が、また、円面鏡及び紡錘車が出土している。第87号住居跡からは、円面鏡及び刀子と併せて「益」「万」等と墨書きされた土器が出土していることも注目される。文字は楷書体で書かれている。

## IV期（9世紀前葉）

この時期の住居跡は21軒で、前時期より倍近くに増え、人口の増加が窺われる。調査1区に1軒、2区に9軒、3区に3軒、4区に4軒、5区に4軒と遺跡の北部から中央部及び南部にまとまっている。今まで住居がなかった4区の小支谷の先端にも住居が構築されるようになる。遺物は、第66・84・86号住居跡から刀子・鎌等の金属製品が、第105号住居跡から緑釉陶器が出土している。緑釉陶器は、胎土が精選され、窯内周辺で作られたと考えられるものである。物資の集散地と考えられている奥谷遺跡に近いとは言え、貴重な物を入手できる基盤があったことが窺える。

## V期（9世紀中葉）

この時期の住居跡は33軒と前時期よりさらに増えて当遺跡での最大規模となる。掘立柱建物も住居同様に、この時期多く建てられたようである。調査1区に4軒、2区に8軒、3区に5軒、4区に6軒、5区に10軒で、やはり遺跡の南部にまとまっている。遺構数の増加は、人口の増加等が考えられる。遺物は、第55・57・88・93・94・95号住居跡から刀子・鎌・馬具等の金属製品が、第58・73・85・93・94・97・98・100号住居跡から円面鏡や灰釉陶器がそれぞれ出土している。また、4区の住居跡の1軒をのぞき金属製品や灰釉陶器が出土しており、この時期の中心的な家が集まっていたと思われる。中でも第93号住居跡は、馬具の一部が出土していることから馬を飼っていたこと、灰釉陶器の出土から財力の基盤があったことも窺える。第88号住居跡からは、刀子が6本も出土し、また「南主」と書かれた墨書きが出土していることが注目される。墨書き土器は、33軒の住居跡中16軒から出土している。

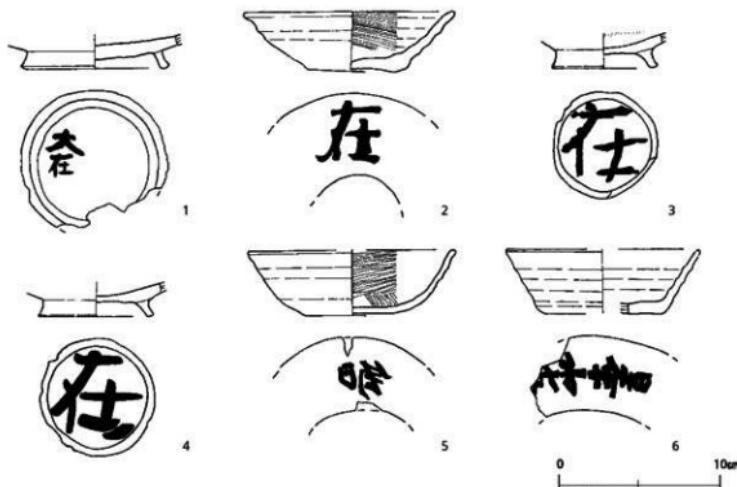
#### VI期（9世紀後葉）

この時期の住居跡は10軒と前時期の約3分の1に減る。調査1区に3軒、3区に3軒、5区に4軒で、やはり遺跡の南部にまとまっている。住居の数は減るもの、5区では大型の第127号住居跡を中心にして、掘立柱建物がまわりに巡るように建てられていたことが考えられ、また、その第127号住居跡の出土遺物からも經濟的に豊かな人々の存在が想像される。遺物は、第80・122・127号住居跡から刀子・鎌・鎌・火打金・鍵等の金属製品が、第122・124・127号住居跡から円面鏡や灰釉陶器や腰帶具がそれぞれ出土している。第124号住居跡から出土した灰釉陶器は大形の短頸壺で、黒塗90号窯式段階のものと思われる。なお、掘立柱建物跡は短期間に建て替えが行われていたようである。5区の西部の第127号住居跡からは、大量の焼土等が検出され、その中から竹のようなものの炭化物や鍵などが出土している。焼土は、近くの掘立柱建物跡の柱穴からも出土しており、覆土の堆積状況から住居や掘立柱建物などが焼けた後、埋められたと思われる。焼土は住居等の壁材と思われ、近くの粘土採掘坑の粘土等を使用しているかどうか分析してみたが、成分が違うという結果が出た。

当期以後の住居跡は確認できず、この時期をもって集落としての終焉を迎えると思われる。

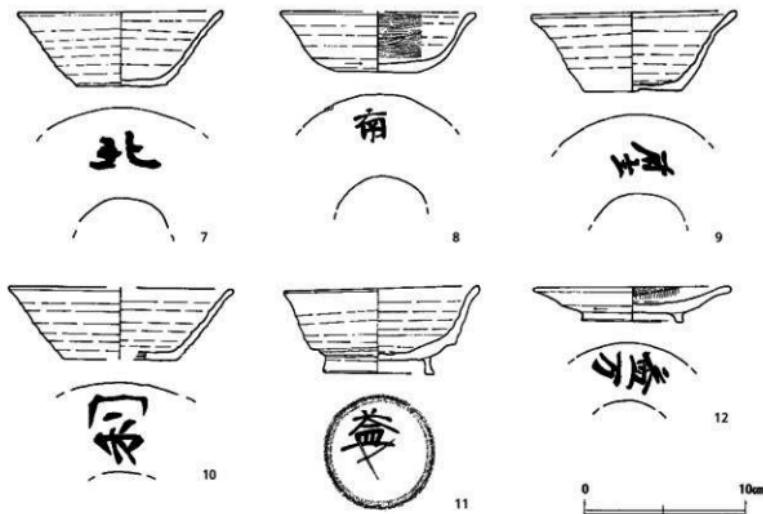
このほかに出土遺物から判断して平安時代と考えられる住居跡が13軒ある。

当遺跡の奈良・平安時代を特徴づけるものとして墨書き土器がある。表18から、8世紀中葉から出現し、9世紀中頃にピークを迎え、9世紀の終わりに終焉したことが分かる。墨書き土器の出土点数は119点あり、その内推定した文字を含めて判読できるものは108点ある。器種では土師器が全体の約70%を占め、須恵器は8世紀代に多い傾向があることが分かる。主な文字を挙げてみると、①名字（他田・日奉部：第594図5・6）、②吉祥的な文字（利・益万・万益・益：第594図10・11・12）、③方位を表すような文字（北・南・南主：第594図7・8・9）、④家がつく文字（子家・畠家・多了家・家）、⑤地域ないし集団を表すと思われる文字（大在・



第607図 宮後遺跡出土墨書き土器（1）

1：遺構外 2：第122号住 3・4：第127号住 5：第105号住 6：第62号住



第608図 宮後遺跡出土墨書き土器(2)

7:第132号住 8・11:第73号住 9:第49号住 10:第55号住 12:第62号住

在:第594図1~4),⑥その他(中上・村・生)等である。まず①の「日奉部」は、鹿の子C遺跡の漆紙文書にみられ、墨書き土器としては県内で初めての出土である。墨書きされた須恵器坏の時期が、住居の時期と合わないことから、それらは投棄されたものと思われるが、石原遺跡では8世紀前半の第16号住居跡から出土している。宮後遺跡の近くにも「他田日奉部」を名乗る一族がいたことが想像できる。次に、8世紀中葉から出現し、9世紀後葉に多く出土する「在」という文字は、墨書き全体の約40%を、5区で出土した文字の約64%を占めることから当集落の中心的な文字と言える。また、「在」という文字(第594図2・3・4)に筆跡の違いが見られ、文字の書ける人が、複数いたことが窺える。

当遺跡から小橋川沿いに遡った台地の大山原地区からは「前家□□」と墨書きされた須恵器坏が出土していること、当遺跡と隣接した大塚遺跡、綱山遺跡、石原遺跡の立地等から小橋川を挟んだ両岸の台地上には、平安時代の大きな集落が存在したことが考えられる。

最後に紡錘車(石製や土製)の出土数は、4点と少ない。金属製のものは、出土していない。つまり、織物は宮後集落の特産物ではなかったと考えられ、鎌・鋤先などの農具の出土からこの集落は農業を基盤としていたと考えられる。

表 18 宮後遺跡墨書土器一覽

真混入

調査区 時 期	1 - 4 区			5 区		
	文 字	器種・器形・部位・墨書き方向	遺 槽	文 字	器種・器形・部位・墨書き方向	遺 槽
I 期 ( 8 C 前葉)				万益力	須・壺・外・横	SI133
				益力	* 須・壺・外	
				在力	* 須・环・底	
				在	* 須・高台付环・外	↓
II 期 ( 8 C 中葉)				口	士・环・底	SI136
				在力	士・环・体・正	↓ 2点
III 期 ( 8 C 後葉)	益	須・壺・底	SI136	口	須・环・底	SI137
	上( 蔵面 )	須・环・底	SI150	在	須・环・底	↓
	口	須・高台付环・底	SI174			
	日暮部古力	須・环・体・横 × 石面連續S116から出土	SI162			
	益	須・高台付环・底	↓			
	益	須・高台付环・底	SI187			
	万	須・环・底	↓			
	益	須・环・底	↓			
	口	須・环・底	↓			
	口	須・高台付环・底	↓			
IV 期 ( 9 C 前葉)	口	須・环・底	SI192	他田	士・环・体・横	SI105
	万	須・高台付环・底	↓	口	士・高台付环・体	SI112
	万	士・高台付环・底	SI205	口	須・环・体	↓
	益	須・环・底	↓	在	士・环・体・正	SI130
	益	須・环・底	↓	口	士・高台付环・底	↓
	南	須・环・底	↓			
V 期 ( 9 C 中葉)	口	土・环・体	SI155	中上力	士・环・体・正	SI198
	利	須・环・体・横	↓	在	須・环・体・横	SI199 2点
	益万	土・高台付环・体・横	SI173	鼎家	士・环・体・横	SI100
	南	士・环・体・正	↓ 3点	家	士・环・体・横	
	在力	士・环・体・横	SI193	家力	士・高台付环・体・横	
	家力	士・环・体・横	↓	鼎家	士・高台付环・体・横	
	家力	須・环・体・横	↓	口 ( 蔵面 )	須・环・底	↓
	南主	士・环・体・横	SI188	多了家	士・环・体・横	SI114
	口	士・环・体・底	↓	口	士・环・体	
	子家	士・环・体・横	SI194	在力	士・环・底	
	家力	士・环・体・横	↓	口	士・高台付环・体・横	↓
	口	士・环・体	↓	在	士・高台付环・底	SI128
	在	士・高台付环・体	↓	在	士・高台付环・底	SI131
	口	士・高台付环・体	↓	鼎	須・环・底	↓
	益	須・环・体・横	SI189	在	士・高台付环・底	SI132
	南主	士・环・底	SI197	北	須・环・体・正	↓
	益	士・环・体・横	↓	万	* 須・高台付环・底	SK824
	在力	士・环・体・正	↓	在	士・环・底	
	口	須・环・体	↓	十万	士・环・底	
	口	須・环・体	↓	在力	士・环・体	SK943
VI 期 ( 9 C 後葉)	口	土・环・体・横	SI147	大鼎	士・环・体・横	SI122
	在	士・环・底	SI167	家力	士・环・体・横	
				在	士・环・体・横	
				在	士・环・体・正	
				在力	士・环・体・正	
				口	士・环・体	
				在力	士・环・底	
				在力	士・环・体・横	
				在	須・环・体・横	
				在力	士・环・体・正	SI124
				在力	士・环・体・正	2点
				在力	須・环・体・正	2点

調査区 時 期	1 - 4 区			5 区			
	文 字	器種・器形・部位	墨書方向	遺 構	文 字	器種・器形・部位・墨書方向	遺 構
					口	土 坏 体	SI 127
					在	土 坏 体 正	3点
					在	土 坏 底	2点
					在 力	土 坏 底	4点
					在	土 高 坏 体	3点
					在 力	土 高 坏 体	2点
					口	土 高 坏 体	3点
					在	土 高 圆 底	↓
					在 力	土 高 圆 底	
時期不明 遺構外	口 北 在 力 万	土 坏 体 土 坏 底 須 坏 体 須 坏 体	遺構外	大 在 在 力 大 口 在 益 万 力 南 在 在 口 在 力 在 力 口 家 口 生 在 力 口 寸 = 村 力 大 在 大 在 前 力	須 坏 体 土 坏 体 正 須 坏 体 横 土 高 坏 体 土 坏 底 土 高 圆 底 須 坏 体 土 高 圆 底 土 坏 体 土 坏 体 横 土 坏 体 横 土 坏 体 須 坏 体	SB19 SB23 SB28 P38 P63 P76 P264 遺構外 2点	

表 19 宮後遺跡の主な金属製品・灰釉陶器・円面鏡等一覧

\* 丸数字は出土点数

調査区 時 期	1 - 4 区			5 区		
	遺 物	住 居 跡	遺 物	住 居 跡		
I 期 (8世紀前葉)	円面鏡① 刀 子①	SI 34・35 SI 61	刀 子① 鐵 鏈① 鐵 鏈① 紡錘車① 織 先① 紋 具① 圓 ① 刀 子① 円面鏡① 刀 子② 織 ① 紋 具① 鏡 ① 鐵 鏈①	SI 96 ↓ SI 97 SI 115 ↓ SI 133 ↓ SI 134		
II 期 (8世紀中葉)	鐵 鏈① 刀 子① 紡錘車① 鐵 鏈① 刀 子①	SI 56 SI 65 ↓ SI 75 ↓	灰釉陶器①	SI 136		
III 期 (8世紀後葉)	円面鏡① 鐵 斧① 刀 子② 円面鏡① 紡錘車①	SI 69 SI 62 SI 87 ↓	織 先① 円面鏡①	SI 118 SI 137		

調査区 時 期	1 ~ 4 区		5 区	
	遺 物	住 居 跡	遺 物	住 居 跡
IV 期 (9世紀前葉)	刀子① 刀子② 刀子③ 鉄鏃①	SI 66 SI 84 SI 86 ↓	縁輪陶器①	SI 105
V 期 (9世紀中葉)	灰輪陶器② 刀子② 鍾① 灰輪陶器① 灰輪陶器② 灰輪陶器① 刀子④ 鍾① 馬具① 円面鏡② 灰輪陶器① 刀子② 刀子⑤ 鍾① 刀子① 鍾① 灰輪陶器①	SI 197 SI 55 SI 57 SI 58 SI 73 SI 85 SI 93 ↓ SI 95 SI 88 ↓ SI 94 ↓	灰輪陶器① 灰輪陶器① 防錐筆①	SI 98 SI 100 SI 128
VI 期 (9世紀後葉)	鍾①	SI 80	鉄鏃① 円面鏡② 灰輪陶器① 灰輪陶器① 腰帶具② 刀子⑦ 鍾② 鉄鏃① 火打金② 鍾① 円面鏡① 灰輪陶器①	SI 122 ↓ SI 124 ↓ SI 127 ↓

### 3 中・近世

中世の遺構として堀1条、地下式壙18基、堅穴状遺構11基、粘土貼土坑1基、土坑墓1基、井戸跡7基、道路状遺構1条が検出された。平安時代(9世紀後葉)に集落としての機能がなくなつてから、しばらく間をおいて14世紀代にコの字状の堀が掘られた。当時は、大戸氏がこの一帯を治めていたと思われるが、居城の所在地は不明である。当遺跡付近に城館が存在した記述がないため、堀等の遺構の性格は不明である。第1号堅穴状遺構は、長軸5.59m、短軸2.88mの長方形で、柱穴が2か所並び、東壁側にスロープを持っている。その形態から倉庫と思われ、堀の内側の中央部付近にあることから堀に伴うものと思われる。堀は15世紀代に廃絶され、踏み固めの状況から、埋没する過程で通路として利用されたと考えられる。

15世紀後半から地下式壙(第1号)が造られ始めた。第3号地下式壙は、15世紀後半から16世紀前半に位置づけられることや堀の内外に存在することから、1世紀ほどの間に地下式壙は造られたと思われる。また、地下式壙や遺構外から茶臼が、それぞれ出土している。当時、お茶は武士や上流階級しか嗜まなかつたようであることから、有力な人がいたと考えられる。また、第4号井戸跡は断面形がラッパ状で、鐘状の掘り込みを持っている。ここから常滑産と瀬戸産の15世紀後半から16世紀前半に位置づけられる陶器が出土している。同じ鐘状の掘り込みを持つ第5号井戸跡からは、馬の骨が出土している。これらの状況から廃棄時に祭祀的なことが行われたことが考えられる。

その後、当遺跡のある近藤地区は、16世紀後半に佐竹氏の所領に、さらに江戸時代には旗本領となり、「今藤」という名が文書に登場した。

以上のことから、当遺跡は、縄文時代から中・近世まで人々の生活の舞台となった複合遺跡であることが明らかになった。

#### 註

- 1) 川又清明「潤沼前川流域における弥生時代後期の遺跡の分布状況」『研究ノート』第9号 茨城県教育財団 2000年6月
- 2) 海老澤稔『東日本弥生時代後期の土器編年』(第2分冊)茨城県 東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 2000年1月
- 3) 茨城県教育財団「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」茨城県教育財团文化財調査報告第163集 2000年3月
- 4) 山本静男「外山遺跡5号住居跡についての一考察」『年報』3 茨城県教育財団 1984年3月

#### 参考文献

- ・飯島一生「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡・後口原遺跡」茨城県教育財团文化財調査報告第135集 1998年3月
- ・長谷川聰「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡・大畑遺跡」茨城県教育財团文化財調査報告第136集 1998年3月
- ・中村敬治・江幡良夫「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚遺跡・後原遺跡」茨城県教育財团文化財調査報告第129集 1998年3月
- ・茨城県考古学協会『茨城県における弥生時代研究の到達点～弥生時代後期の集落構成から～』 1999年11月
- ・黒沢彰成「茨城県における古式土師器の問題」『婆良岐考古』第3号 婆良岐考古同人会 1981年3月
- ・海老澤稔「十王台式と伴出する土器群の考察」『婆良岐考古』第9号 婆良岐考古同人会 1987年5月
- ・佐藤次男「茨城における弥生時代終末期の一様相ーとくに十王台式土器と五領式土器の共存関係について」『考古学叢考』下巻 吉川弘文館 1988年10月

## 付 章

### 宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器及び 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について

茨城県工業技術センター窯業指導所

#### 1. 目的

茨城町宮後遺跡から出土した土器片と第4号粘土採掘坑から採取した粘土2種の元素組成及び鉱物組成分析を行い、これらから当該粘土が土器片の原料か否かの推定を行った。

#### 2. 調査対象試料

茨城町大字近藤222-3 茨城町宮後遺跡：第110・115号住居跡及び第4号粘土採掘坑

試料① 土器片：IS-1 / SI-115 / 1区

試料② 土器片：IS-1 / SI-115 / 3区 上層

試料③ 土器片：IS-1 / SI-115 / 1区 中層

試料④ 土器片：IS-1 / SI-110 / 3区 上層

試料⑤ 白粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

試料⑥ 粘 土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

#### 3. 測定項目及び測定方法

##### (1) 元素組成

試料を100°Cで乾燥させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉砕し、蛍光X線分析に供した。

蛍光X線分析はガラスピート法（四ほう酸リチウム：試料=10:1希釈）により前処理後、蛍光X線分析装置を用い、周期律表でNa以上の元素の測定を行った。

##### (2) 鉱物組成

試料を風乾させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉砕し、分析に供した。鉱物組成は、X線回析（粉末法）により測定した。

#### 4. 測定結果

##### (1) 元素組成分析結果

元素組成分析結果を表1に示す。各試料の主構成元素は表1に示した10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。

表1 元素組成分析結果

試料名	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	MnO	CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>
試料① IS-1/SI-115/1区	67.00	23.73	4.05	1.08	0.00	1.03	0.47	1.26	1.29	0.09
試料② IS-1/SI-115/3区上層	70.46	22.14	3.57	0.11	0.00	0.41	0.40	1.29	0.97	0.65
試料③ IS-1/SI-115/1区中層	69.78	22.63	3.53	1.09	0.00	0.42	0.31	1.24	0.96	0.04
試料④ IS-1/SI-110/3区上層	66.04	24.19	5.91	0.90	0.00	0.36	0.37	1.29	0.85	0.10
試料⑤ IS-1 第4号粘土探掘坑白 粘土	55.50	32.88	4.66	0.88	0.00	2.53	1.57	0.71	1.16	0.11
試料⑥ IS-1 第4号粘土探掘坑 粘土	65.94	22.35	7.11	1.48	0.11	0.80	0.62	0.99	0.60	0.00

## (2) 鉱物組成分析結果

鉱物組成分析結果を図1-1～図1-6及び表2に示す。

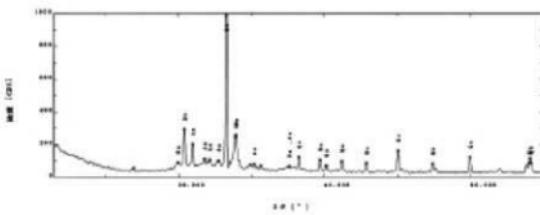


図1-1 X線回析試験結果 試料① 土器片：IS-1/SI-115/1区

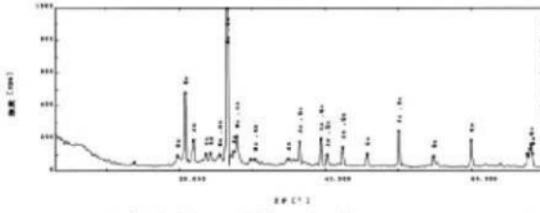


図1-2 X線回析試験結果 試料② 土器片：IS-1/SI-115/3区上層

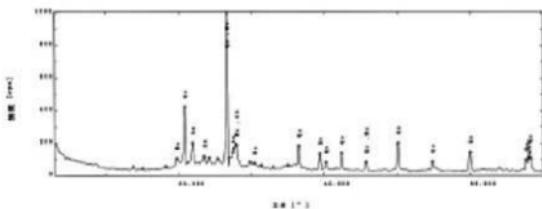


図1-3 X線回折試験結果 試料③ 土器片：IS-1/SI-115/1区 中層

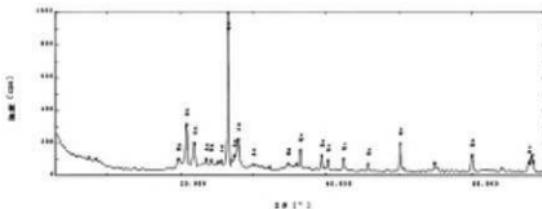


図1-4 X線回折試験結果 試料④ 土器片：IS-1/SI-110/3区 上層

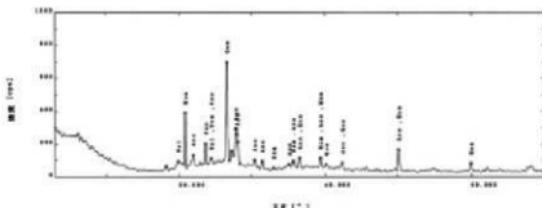


図1-5 X線回折試験結果 試料⑤ 白粘土：IS-1/第4号粘土探掘坑

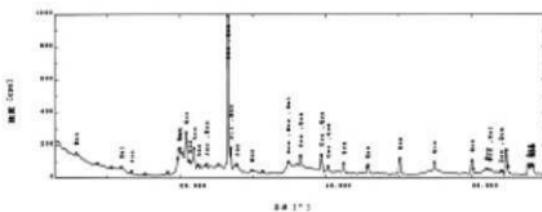


図1-6 X線回折試験結果 試料⑥ 粘土：IS-1/第4号粘土探掘坑

凡例 Qu:石英( $\text{SiO}_2$ ) An: $\text{Al}_2\text{Si}_2\text{O}_5$ (長石類) Mu: $\text{KAl}_3\text{Si}_3\text{O}_{10}$ (雲母類) Ha: $\text{CaMg}_3\text{Si}_3\text{O}_{10}$ (粘土類)  
Mo: $\text{MgAl}_2\text{Si}_3\text{O}_{10}$ (粘土類) Al: $\text{Al}_2\text{Si}_2\text{O}_5$ (粘土類) He: $\text{Mg}_3\text{Si}_3\text{O}_{10}$ (酸化鉄)

各土器片の鉱物組成は図1-1～1-4及び表2から、試料②、③は石英／長石／雲母系のはば同様の組成であり、試料①及び④は石英／長石／粘土系の組成であった。しかし、第4号粘土探掘坑の粘土2種とは大きく組成が異なり、特に石英の含有割合が大きく異なる。

表2 宮後遺跡出土土器片の鉱物組成(同定した鉱物及び簡易定量値)

鉱物種	No	鉱物名	5IS-1 / SI-115 / 1区	3IS-1 / SI-115 / 3区 上層	5IS-1 / SI-115 / 1区 中層	3IS-1 / SI-110 / 3区 上層	粘土探掘坑	粘土探掘坑
石英	33-1161	Quartz	82%	87%	87%	81%	63%	68%
長石	09-0465	Anorthite, sodian, ordered	13%		9%	11%		
石	18-1202	Anorthite, sodian, intermediate					26%	
類	20-0528	Anorthite, sodian, ordered		10%				7%
雲母類	25-0649	Muscovite-2 m # 2, calcian			3%	4%		
	34-0175	Muscovite-2 m # 2						2%
粘土類	29-1487	Halloysite-7 A	5%			8%	8%	7%
	09-0451	Halloysite-10 A						1%
	13-0259	Montmorillonite-14 A						
	38-0449	Allophane						8%
その他	33-0664	Hematite, syn					2%	
	29-0713	Goethite						

##### 5. 考察：元素組成および鉱物組成分析結果に基づく出土品に関する考察

元素組成分析結果をIg.lossを除いた珪酸分(SiO<sub>2</sub>)、アルミニナ分(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、アルカリ土類成分(CaO+MgO)、アルカリ成分(Na<sub>2</sub>O+K<sub>2</sub>O)および鉄分(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)のグループにまとめ、土器片4種を図2に示す。

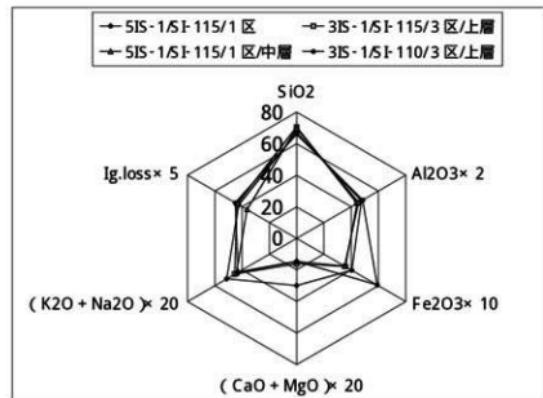


図2 元素組成比較：宮後遺跡出土土器片

図2から試料② 3IS-1 / SI-115 / 3区上層と試料③：5IS-1 / SI-115 / 1区中層はほぼ同じ元素組成

であった。また、試料①：5IS-1 / SI-115 / 1はFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>（鉄分）がやや多く含まれるほかは前者とほぼ同じ組成であった。

次に、第4号粘土採掘坑採取粘土2種と各土器片の元素組成比較を図3-1～3-4に示す。

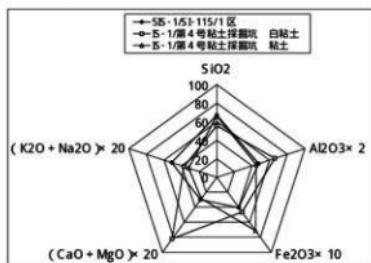


図3-1 元素組成比較：5IS-1/SI-115/1区  
と粘土

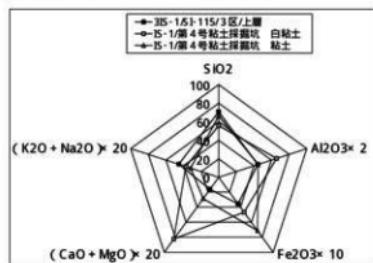


図3-2 元素組成比較：3IS-1/SI-115/3区/  
上層と粘土

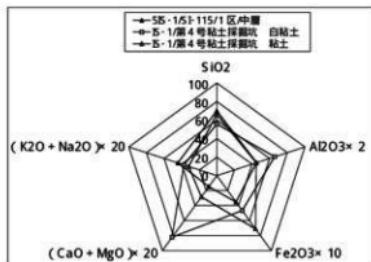


図3-3 元素組成比較：5IS-1/SI-115/1区/  
中層と粘土

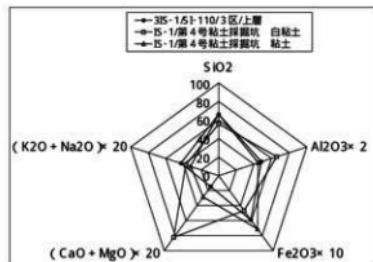


図3-4 元素組成比較：3IS-1/SI-110/3区/  
上層と粘土

図3-1から試料①の元素組成は第4号粘土採掘坑採取粘土2種と異なり、2種の粘土の混合とも考えられない。試料②、試料③及び試料④も図3-2、図3-3及び図3-4から、同様に異なる材質であると考えられる。

鉱物組成についても試料②、③が石英／長石／雲母系、試料①・④が石英／長石／粘土系と土器片の鉱物組成には差異があるが、両者との石英の含有割合が第4号粘土採掘坑の粘土2種と比較し高い割合であることが判明した。

以上のことから各土器片は、粘土採掘坑から掘り出された粘土だけで製作されたのではない推察できる。

## 6. まとめ

- 蛍光X線分析による各試料の主構成元素は通常土壤等に含有される10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。
- X線回折の結果から試料②③が石英／長石／雲母系、試料①④が石英／長石／粘土系の鉱物組成であり、第4号粘土採掘坑採取粘土よりも高い石英の含有量であった。
- 各土器片の原料は、第4号粘土採掘坑の粘土が原料と仮定しても、これらの材料だけで作られたものは考えらない。

# 宮後遺跡第127号住居跡覆土及び 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について

茨城県工業技術センター窯業指導所

## 1. 目的

茨城町宮後遺跡から出土した壁材と思われる焼土と焼土を埋めていたと考えられる土（埋め土）が同じまたは異なるものかの判定を行うために、元素組成及び鉱物組成分析を行った。また、壁材としたと思われる当遺跡の第4号粘土採掘坑から採取した粘土2種について同様の測定を行い、材質的な知見から当該粘土が第127号住居跡の壁材か否かの判定を行った。

## 2. 調査対象試料

茨城町大字近藤222-3 茨城町宮後遺跡：第127号住居跡及び第4号粘土採掘坑

試料① 焼 土 : IS-1 / SI-127

試料② 埋め土 : IS-1 / SI-127

試料③ 白粘土 : IS-1 / 第4号粘土採掘坑

試料④ 粘 土 : IS-1 / 第4号粘土採掘坑

## 3. 測定項目及び測定方法

### （1）元素組成

試料①, ②, ③, ④について行った。

試料を100°Cで乾燥させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉碎し、蛍光X線分析に供した。

蛍光X線分析はガラスピート法（四ほう酸リチウム：試料=10:1希釈）により前処理後、蛍光X線分析装置を用い、周期律表でNa以上の元素の測定を行った。

### （2）鉱物組成

元素組成と同様に試料①, ②, ③, ④について行った。

試料を風乾させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉碎し、分析に供した。鉱物組成は、X線回折（粉末法）により測定した。

## 4. 測定結果

### （1）元素組成分析結果

元素組成分析結果を表1に示す。各資料の主構成要素は表に示した12成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。

表 1 元素組成分析結果

試料名	Igloss	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	MnO	CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	total
試料① IS-1 / SI-127 焼土	8.05	47.86	26.42	9.04	1.19	0.16	0.65	1.38	1.04	0.59	0.19	96.57
試料② IS-1 / SI-127 埋め土	12.26	52.59	19.62	7.17	1.00	0.20	1.12	1.29	0.98	0.77	0.25	97.25
試料③ 第4号粘土探掘 坑白粘土	15.22	46.08	27.30	3.87	0.73	0.00	2.10	1.30	0.59	0.96	0.09	98.24
試料④ 第4号粘土探掘 坑粘土	9.59	58.32	19.77	6.29	1.31	0.10	0.71	0.55	0.88	0.53	0.00	98.05

## (2) 鉱物組成分析結果

鉱物組成分析結果を図1-1～図1-4及び表2に示す。

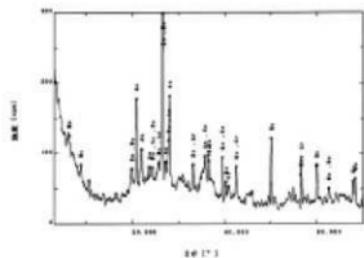


図1-1 X線回析測定結果：試料① 燃土

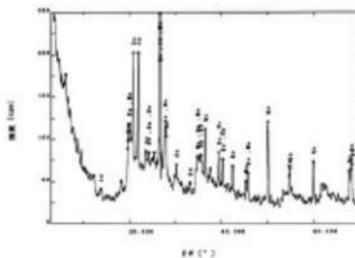


図1-2 X線回折測定結果：試料② 埋め土

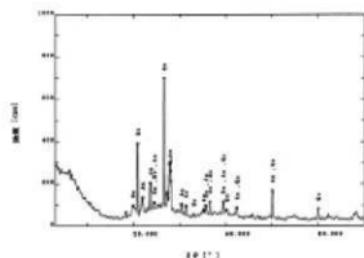


図1-3 X線回析測定結果：試料⑨ 自粘土

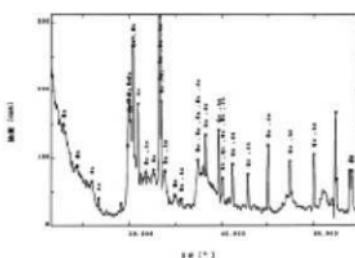


図 1-4 X 線回析測定結果：試料④ 黏土

凡例 Qu : 石英 ( $SiO_2$ ) An : アーナイト (長石類) Mu : マスコバイト (雲母類) Ha : ハウゼンイト (粘土類)  
Mo : モリブデン (粘土類) Al : アルミニウム (粘土類) He : ヘマタイト (酸化鉄)

表2 鉱物組成分析結果

	No	鉱 物 名	試料① SI-127 焼土	試料② SI-127 埋め土	試料③ 粘探坑白粘土	試料④ 粘探坑 粘土
石英	33-1161	Quartz	66 %	71 %	63 %	68 %
長石	09-0465	Anorthite, sodian, ordered	12 %	9 %		
石類	18-1202	Anorthite, sodian, intermediate			26 %	
	20-0528	Anorthite, sodian, ordered				7 %
雲母類	25-0649	Muscovite-2 m # 2, calcian	2 %	4 %		
	34-0175	Muscovite-2 m # 2				2 %
粘土類	09-0453	Halloysite-7 A		3 %		
	29-1487	Halloysite-7 A			8 %	7 %
顕微鏡	09-0451	Halloysite-10 A				1 %
	29-1498	Montmorillonite-15 A	11 %	10 %		
顕微鏡	38-0449	Allophane				8 %
その他	33-0664	Hematite, syn	1 %	3 %	2 %	
	03-0801	Grossular, hydroxylian	8 %			

各試料から石英、アノーサイト（長石）を同定した。試料①、②、④からマスコバイト（白雲母）、試料②、③、④からハロサイト、試料①、②からモンモリナイトを試料①、②、③からヘマタイト（酸化第二鉄）を同定した。試料①焼土からGrossular, hydroxylian ( $\text{CaAl}_2(\text{SiO}_4, \text{Co}_3, \text{OH})$ ) を、試料④からアプロフェンを同定した。これらの鉱物は他試料からは同定できなかった。なお、試料①、②から同定したモンモリナイトの存在を確定するにはさらに確認作業が必要である。

##### 5. 考察：元素組成及び鉱物組成分析結果に基づく出土品に関する考察

元素組成分析結果をIg.lossを除いた珪酸分 ( $\text{SiO}_2$ )、アルミニ分 ( $\text{Al}_2\text{O}_3$ ) アルカリ土類成分 ( $\text{CaO} + \text{MgO}$ )、アルカリ成分 ( $\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O}$ ) および鉄分 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) のグループにまとめ、焼土と埋め土を図2に、焼土と4号粘土探掘跡粘土2種を図3に示す。

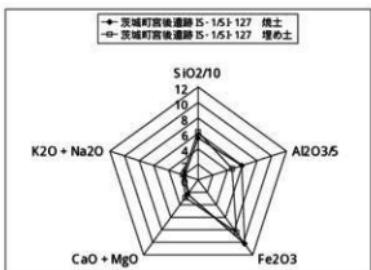


図2 宮後遺跡 IS-1/IS-127：焼土及び埋め土の元素組成

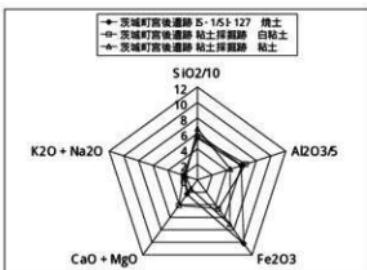


図3 宮後遺跡 IS-1/IS-127：焼土と粘土探掘跡の元素組成

図2から、試料①及び試料②の元素組成は、アルミナ分及び鉄分に差異が認められ、異なる材質であると考えられる。

図3から、試料①に対し試料③及び試料④は、鉄分、アルミナ分及びアルカリ土類成分に差異が認められ、異なる材質と思われる。

また、鉱物組成についてもX線回折の結果（図1-1～1-4及び表2）から、元素組成分析の結果と同様に、試料①、②、③及び④は異なる材質であると考えられる。

これらのことから、焼土は埋め土とは別のものであると考えられる。また、焼土の材料は、第4号粘土採掘坑で採取された材料だけで作られたものとは考えられず、今回の調査対象外の材料が用いられているか、調査対象の材料に加えて他の場所から採取した材料を使用しているとも考えられる。

## 6. まとめ

- ・ 融光X線分析による各試料の主構成元素は通常土壤等に含有される10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。
- ・ X線回折の結果から、各試料とも、通常土壤等に含有される石英、長石、雲母、ハロイサイト、モンモリロナイトなどを同定した。
- ・ 試料①焼土からは、他の試料にはないGrossular, hydroxylian ( $\text{CaAl}_2(\text{SiO}_4, \text{CO}_3, \text{OH})$ ) を同定した。
- ・ 元素組成及び鉱物組成から、試料①焼土と試料②埋め土は、異なる材質であると考えられる。同様に試料①焼土と試料③第4号粘土採掘坑白粘土及び試料④第4号粘土採掘坑粘土は、異なる材質と思われる。
- ・ 焼土の材料は、第4号粘土採掘坑で採取された材料だけで作られたものとは考えられず、今回の調査対象外の材料が用いられているか、または調査対象の材料に加えて他の場所から採取した材料を使用しているとも考えられる。

写 真 図 版



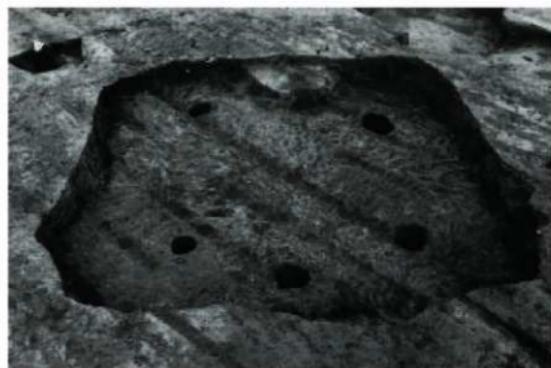
平成10年度調査区全景（北から）



平成11年度調査区全景（東から）



第 1 号 住 居 踪  
遺 物 出 土 状 況



第 3 号 住 居 踪  
完 整 状 況



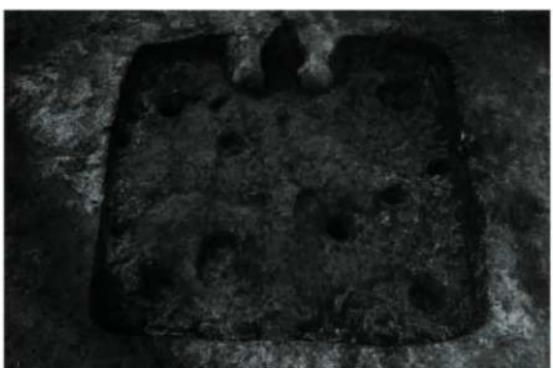
第 8 号 住 居 踪  
遺 物 出 土 状 況



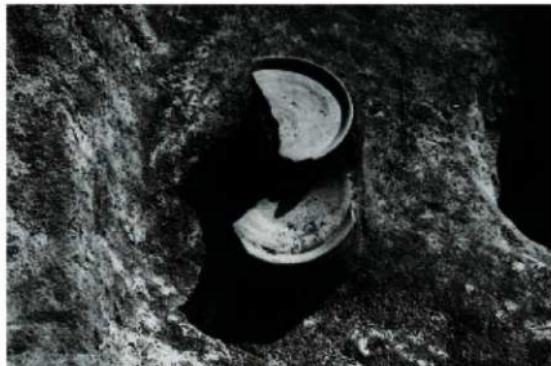
第 26 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 32 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 36 号 住居跡  
完 壓 状 況



第36号住居跡  
遺物出土状況



第56号住居跡  
完掘状況



第56号住居跡  
遺物出土状況



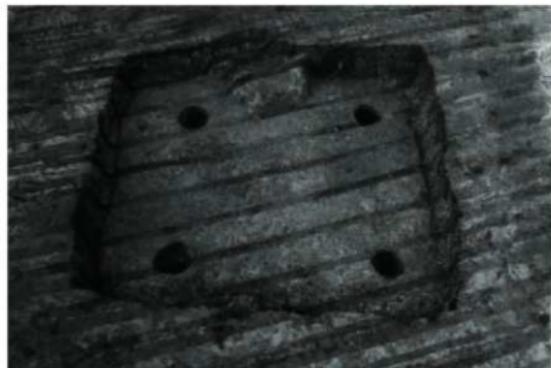
第 58 号 住居跡  
完掘状況



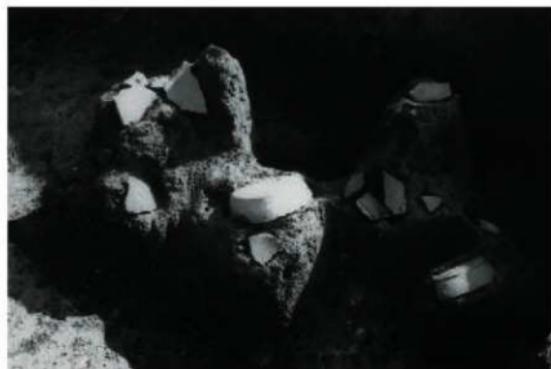
第 62 号 住居跡  
遺物出土状況



第 67 号 住居跡  
遺物出土状況



第 69 号 住居跡  
完 挖 状 況



第 72 号 住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第 75 号 住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第 85 号 住居跡  
遺物 出土 状況



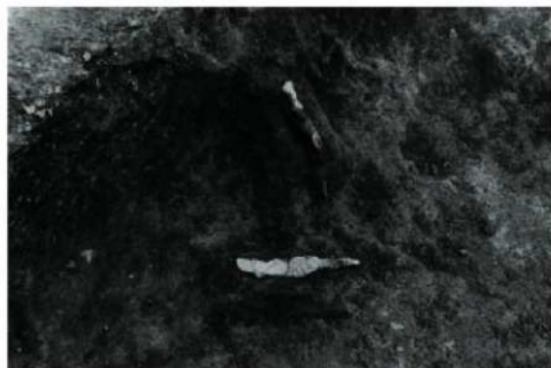
第 87 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 87 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 88 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 95 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 97 号 住居跡  
完 据 状 況



第 97 号 住居跡  
遺物出土状況



第 99 号 住居跡  
遺物出土状況



第 100 号 住居跡  
遺物出土状況



第 101 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 102 号 住居跡  
遺物 出土 状況



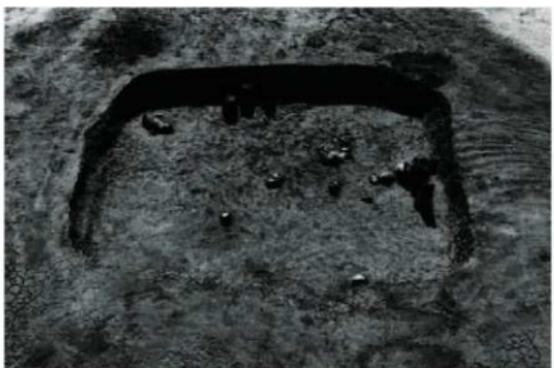
第 103 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第104号住居跡  
完掘状況



第110号住居跡  
完掘状況



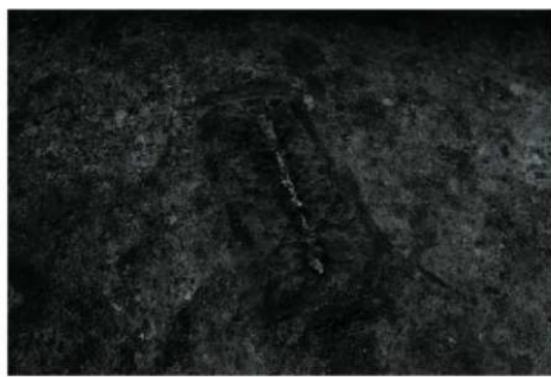
第110号住居跡  
遺物出土状況



第 111 号 住居跡  
完 挖 状 況



第 112 号 住居跡  
完 挖 状 況



第 117 号 住居跡  
遺 物 出 土 状 況



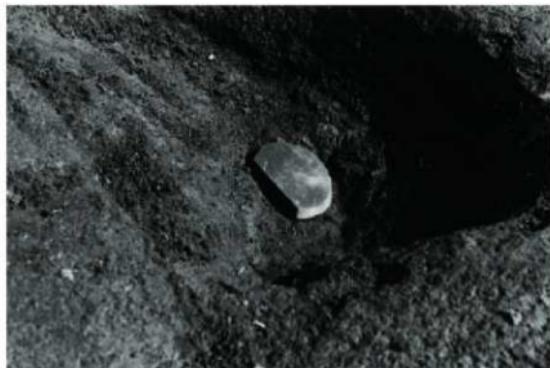
第118号住居跡  
遺物出土状況



第122号住居跡  
遺物出土状況



第123・124号住居跡  
遺物出土状況



第124号住居跡  
遺物出土状況



第126号住居跡  
完掘状況



第127・130・131号住居跡  
遺物出土状況



第129号住居跡  
完掘状況



第133号住居跡  
完掘状況



第133号住居跡  
遺物出土状況



第 133 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 133 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第 143 号 住居跡  
完 壊 状 況



第143号住居跡  
遺物出土状況



第144号住居跡  
遺物出土状況



第146号住居跡  
完掘状況



第148号住居跡  
完掘状況



第148号住居跡  
遺物出土状況



第148号住居跡  
遺物出土状況



第150号住居跡  
完掘状況



第150号住居跡  
遺物出土状況



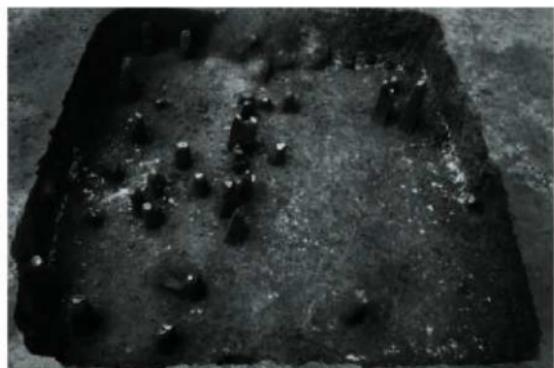
第150号住居跡  
遺物出土状況



第 150 号 住居跡  
遺物 出土 状況



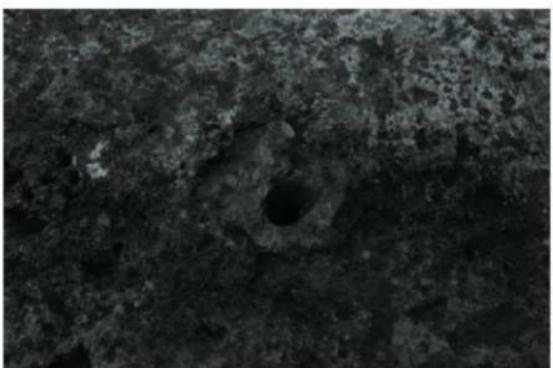
第 155 号 住居跡  
完 捨 状 況



第 155 号 住居跡  
遺物 出土 状況



第158号住居跡  
完掘状況



第158号住居跡  
炉完掘状況



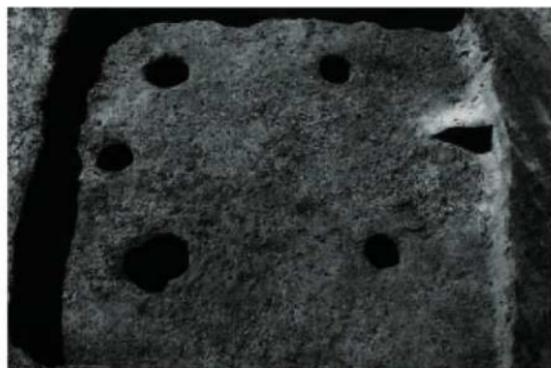
第161号住居跡  
完掘状況



第161号住居跡  
遺物出土状況



第171号住居跡  
完掘状況



第173号住居跡  
完掘状況



第173号住居跡  
遺物出土状況



第178·179号住居跡  
完掘状況



第179号住居跡  
遺物出土状況



第 183 号 住居跡  
完 挖 状 況



第 185 号 住居跡  
完 挖 状 況



第 187 号 住居跡  
完 挖 状 況



第187号住居跡  
完掘状況



第187号住居跡  
遺物出土状況



第188号住居跡  
完掘状況



第188号住居跡  
遺物出土状況



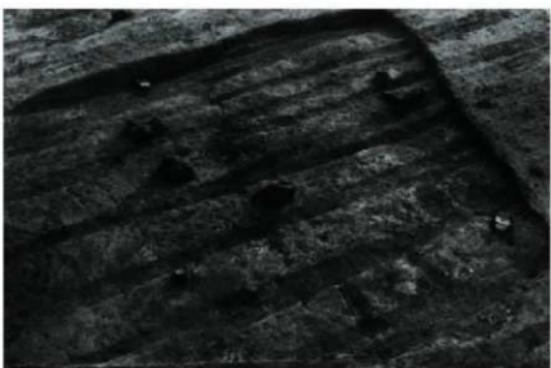
第189号住居跡  
完掘状況



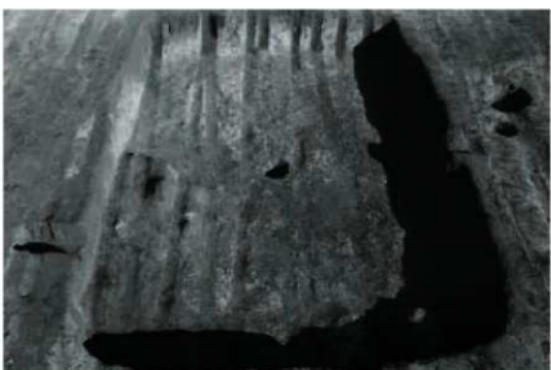
第189号住居跡  
遺物出土状況



第190号住居跡  
完掘状況



第190号住居跡  
遺物出土状況



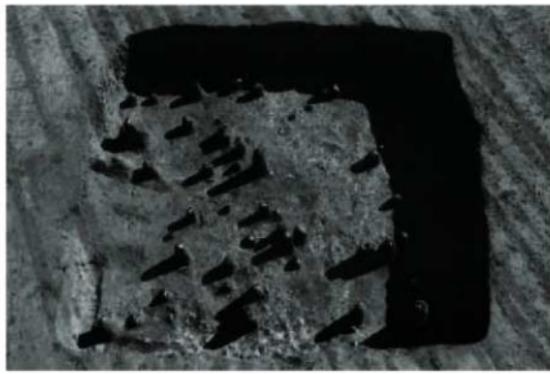
第192号住居跡  
完掘状況



第192号住居跡  
遺物出土状況



第197号住居跡  
完掘状況



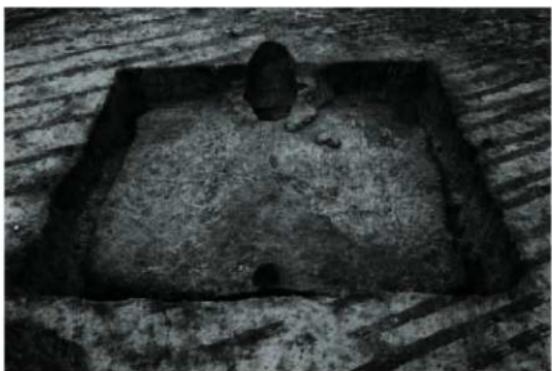
第197号住居跡  
遺物出土状況



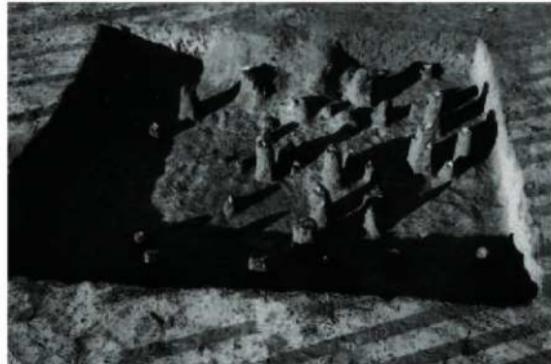
第197号住居跡  
遺物出土状況



第205号住居跡  
遺物出土状況



第207号住居跡  
完掘状況



第207号住居跡  
遺物出土状況



第213-231号住居跡  
完掘状況



第215号住居跡  
完掘状況



第 215 号住居跡  
遺物出土状況



第 220 号住居跡  
遺物出土状況



第 221 号住居跡  
完掘状況



第 223 号 住居跡  
完 挖 状 況



第 223 号 住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第 223 号 住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第 225 号住居跡  
完掘状況



第 225 号住居跡  
遺物出土状況



第 226 号住居跡  
遺物出土状況



第227・232号住居跡  
完 挖 状 況



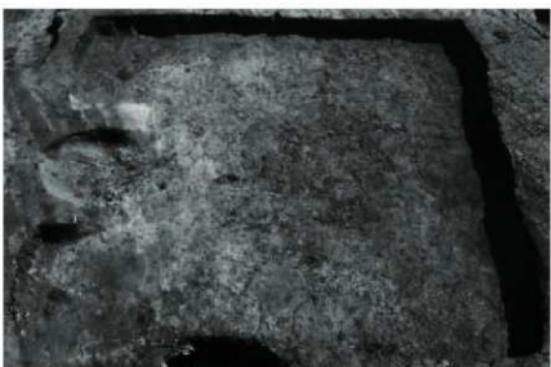
第227・232号住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第228号住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第 229 号住居跡  
完掘状況



第 230 号住居跡  
完掘状況



第 230 号住居跡  
遺物出土状況



第237号住居跡  
完掘状況



第2号掘立柱建物跡  
確認状況



第3号掘立柱建物跡  
確認状況



第4号掘立柱建物跡  
確 認 状 況



第6号掘立柱建物跡  
完 剥 状 況



第38号掘立柱建物跡  
完 剥 状 況



第7号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第12号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第36号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第18号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第41号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第19号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第20号掘立柱建物跡  
完掘状況



第31号掘立柱建物跡  
完掘状況



第29号掘立柱建物跡  
完掘状況



第33号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第25号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第49号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第53号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



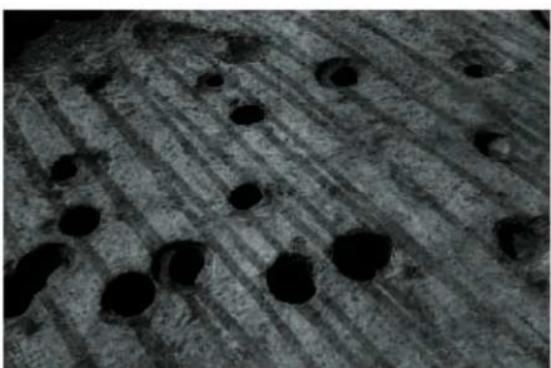
第54号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



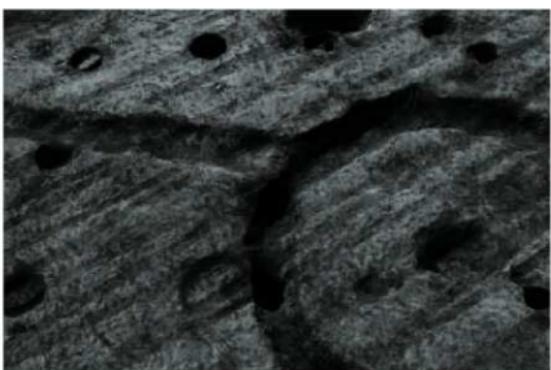
第54号掘立柱建物跡  
遺 物 出 土 状 況



第56号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第57号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第58号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第59号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第60号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第61号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第62号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第63号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



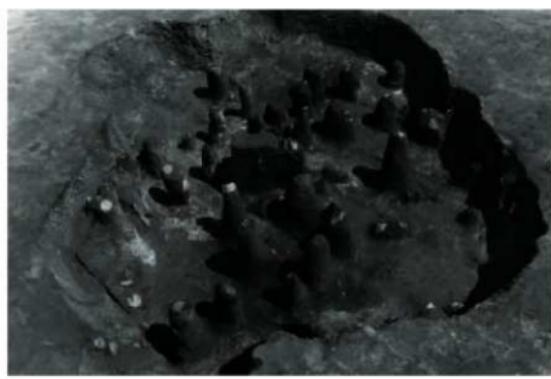
第64号掘立柱建物跡  
完 堀 状 況



第65号掘立柱建物跡  
完 挖 状 況



第 2 3 号 溝  
完 挖 状 況



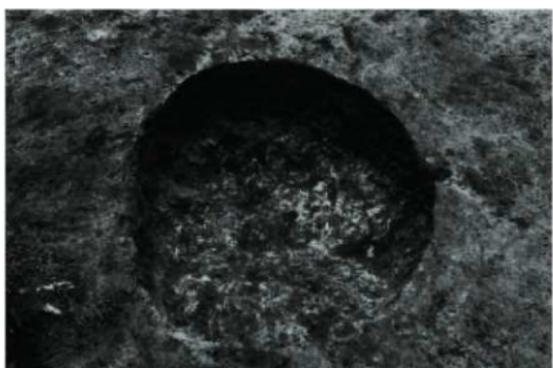
第 773 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況



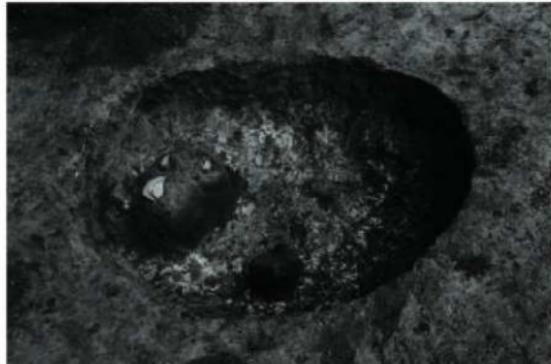
第 824 号土坑  
完掘状况



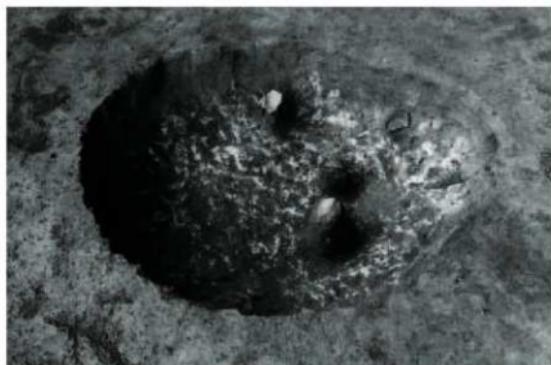
第 851 号土坑  
遗物出土状况



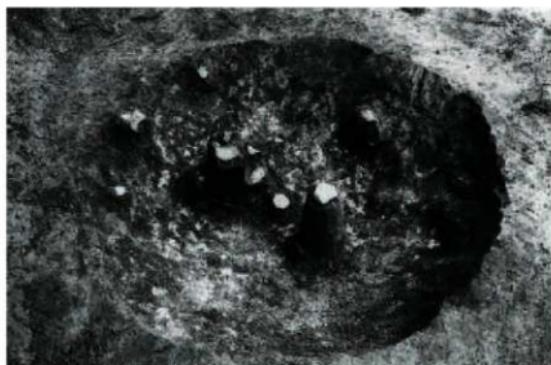
第 852 号土坑  
完掘状况



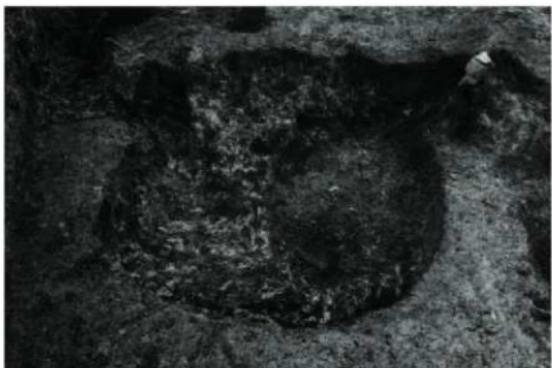
第 852 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況



第 853 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況



第 857 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況



第 893 号土坑  
完 垦 状 况



第 940 号土坑  
完 垦 状 况



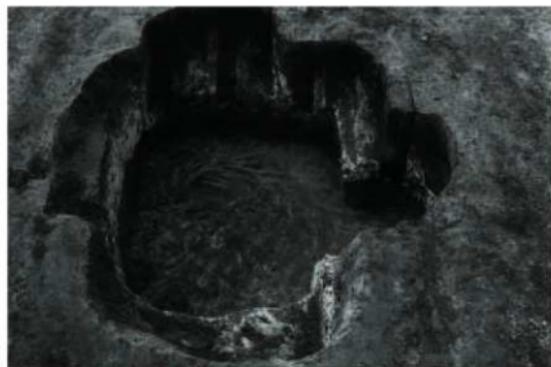
第 943 号土坑  
遗 物 出 土 状 况



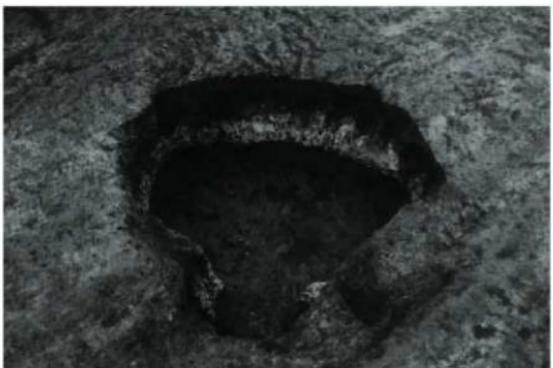
第1号ピット群  
完掘状況



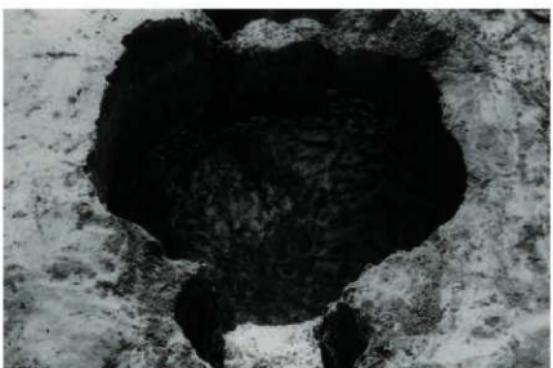
第1号地下式壙  
完掘状況



第2号地下式壙  
完掘状況



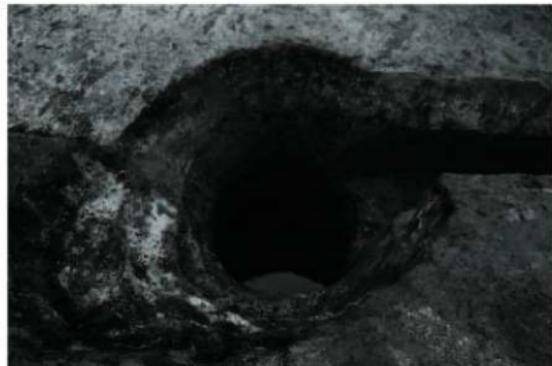
第4号地下式墙  
完掘状况



第9号地下式墙  
完掘状况



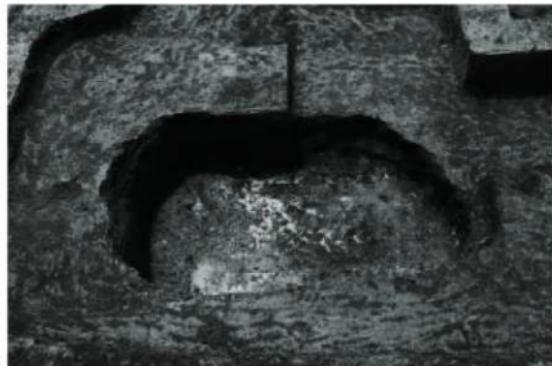
第18号地下式墙  
完掘状况



第4号井戸跡  
完掘状況



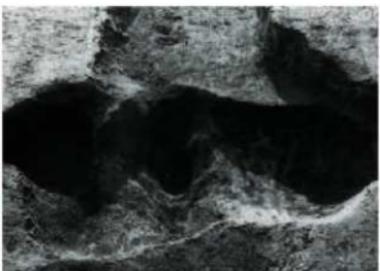
第9号井戸跡  
完掘状況



第2号土坑墓  
完掘状況



第1号道路状遺構完掘状況



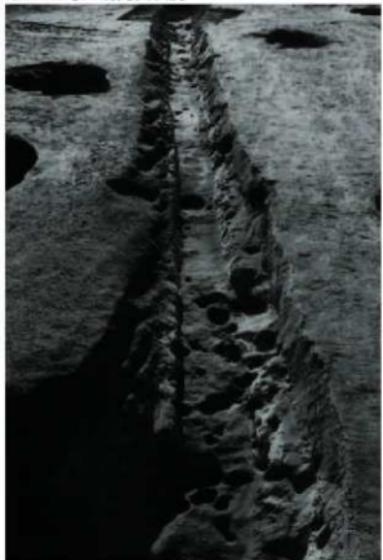
第5号火葬土坑完掘状況



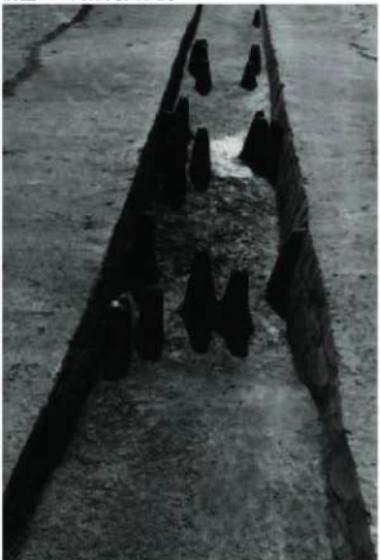
第1012号土坑完掘状況



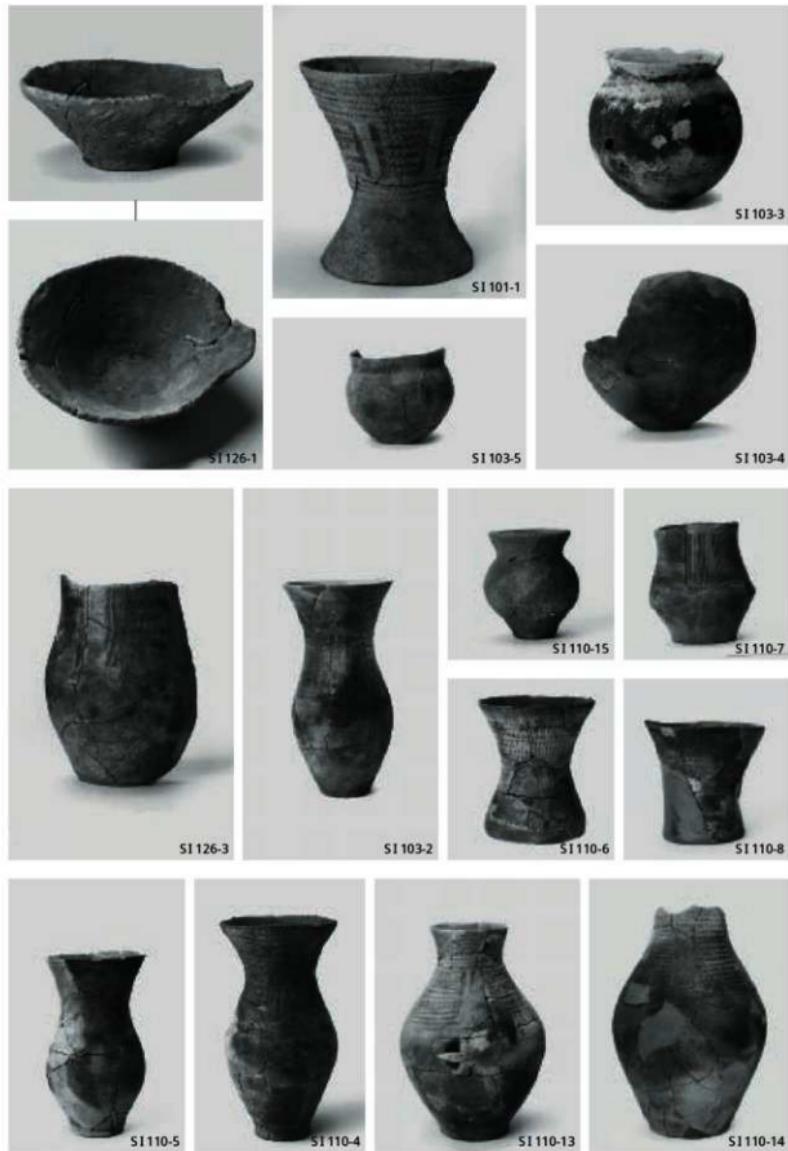
調査2区南部完掘状況



第1号堀完掘状況



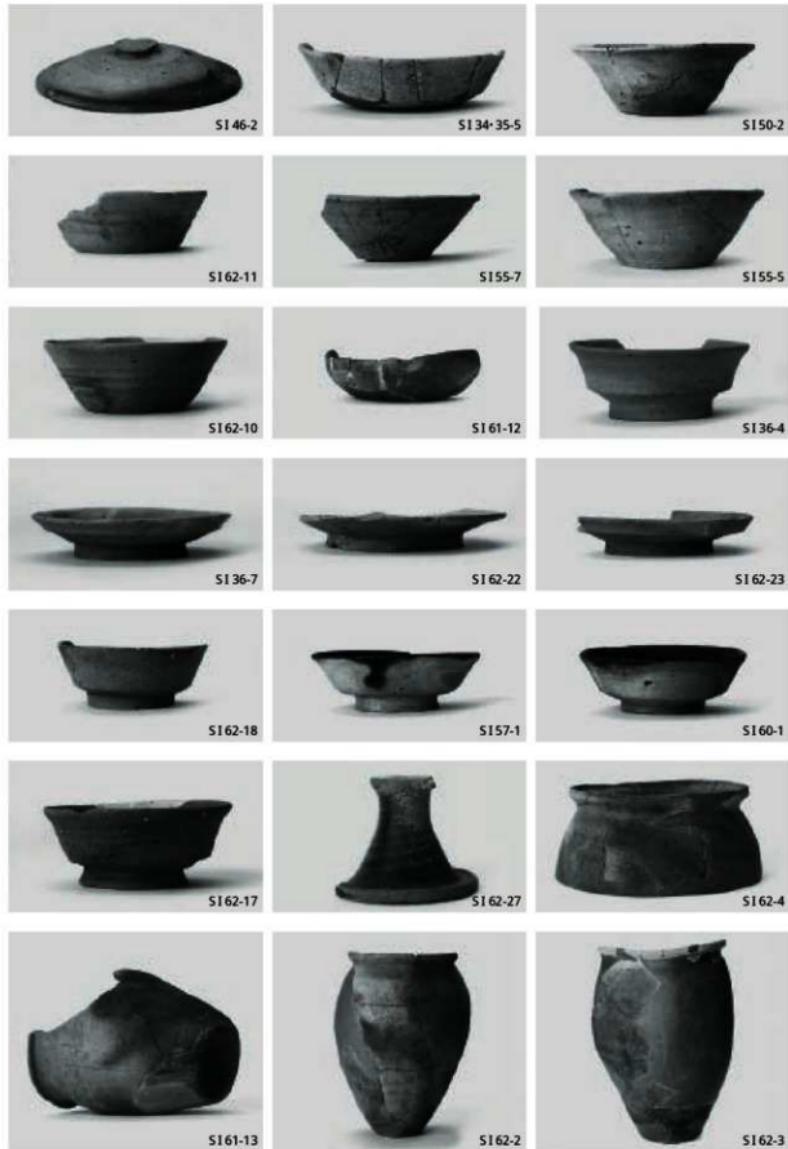
第2号遺物包含層遺物出土状況



第101·103·110·126号住居跡出土遺物



第1・3・17・25～27・31・37・102・110・121号住居跡出土遺物



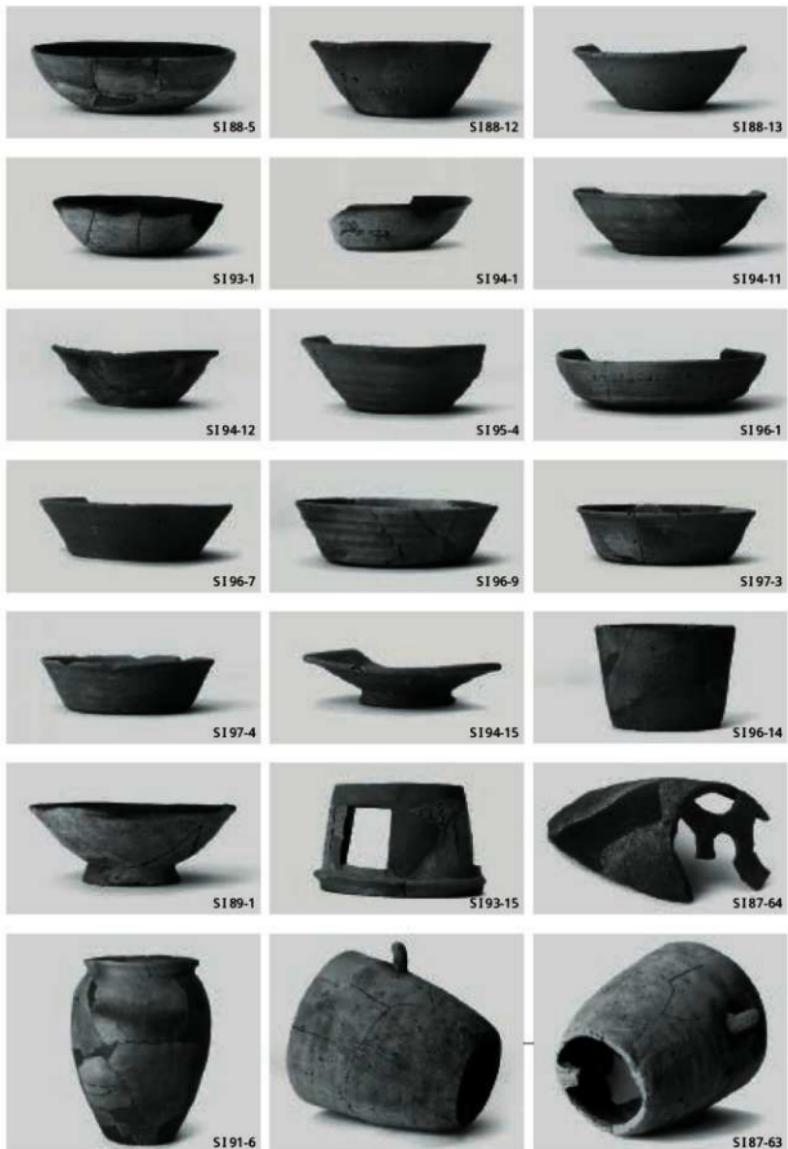
第34・35・36・46・50・55・57・60～62号住居跡出土遺物



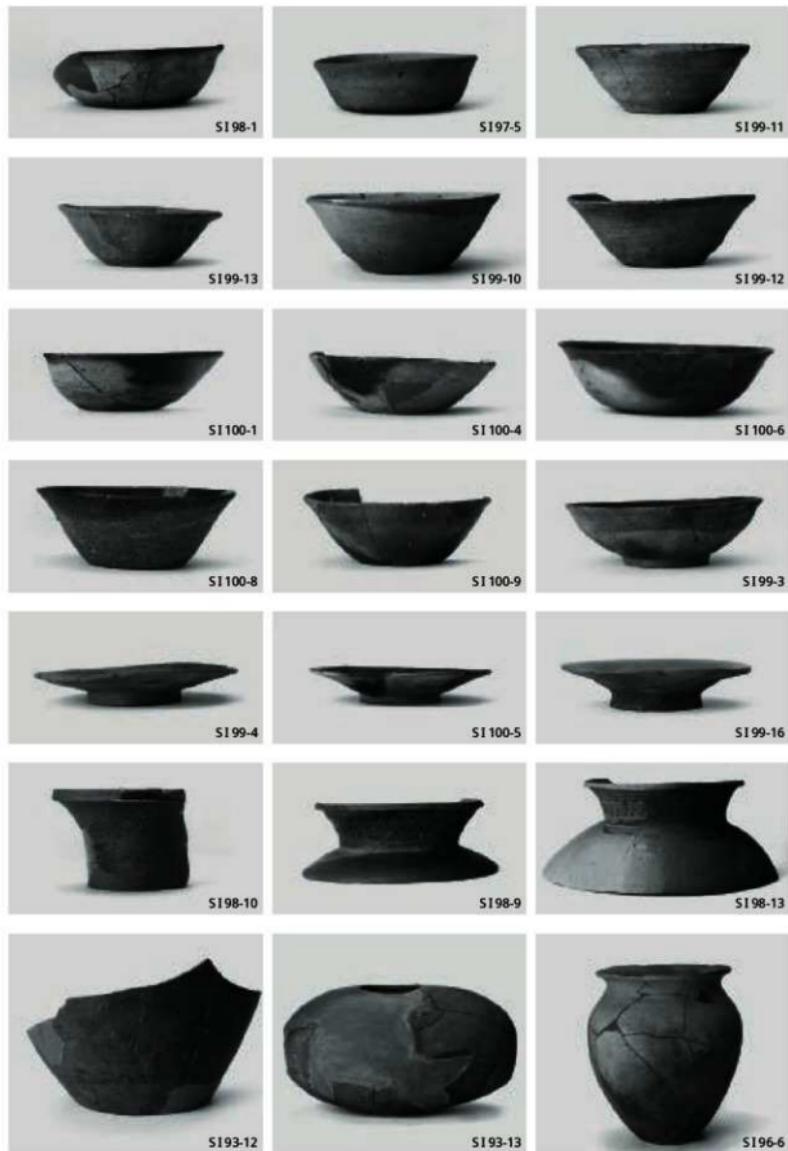
第64・66～69・71～75号住居跡出土遺物



第75·83·87号住居跡出土遺物



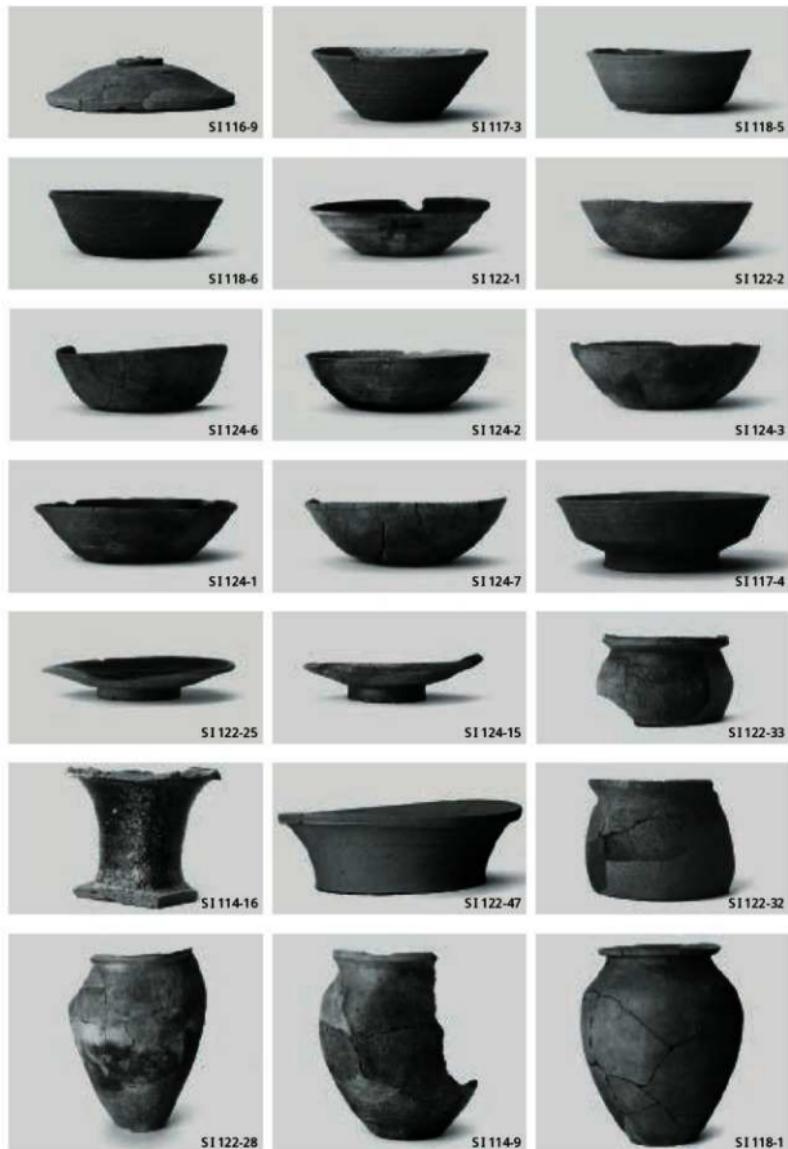
第87~89·91·93~97号住居跡出土遺物



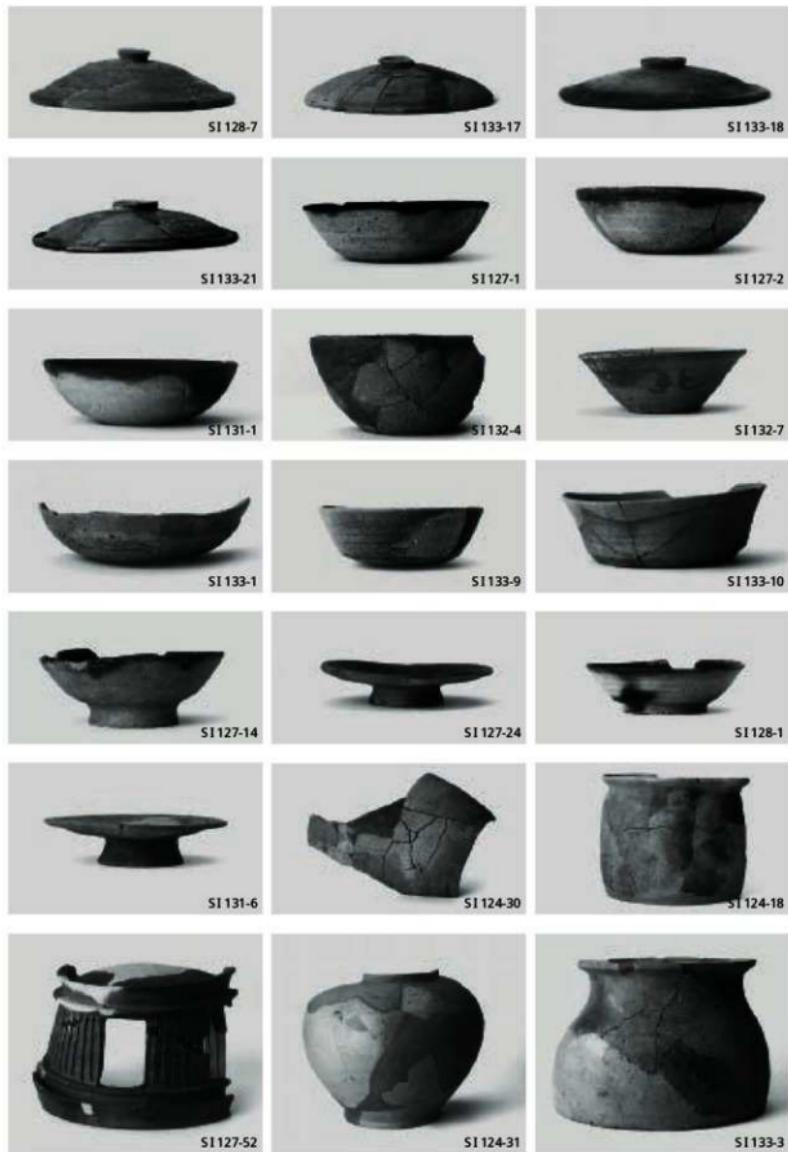
第93・96～100号住居跡出土遺物



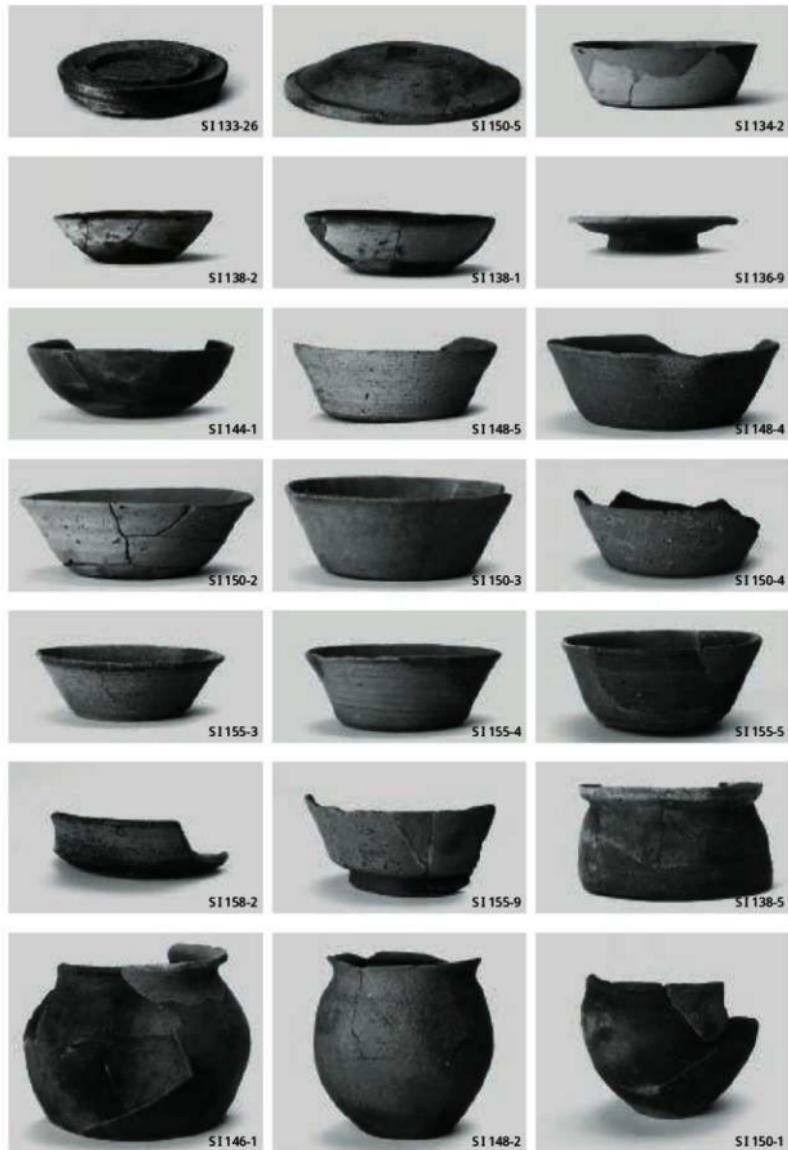
第99・100・105・111・112・114・115号住居跡出土遺物



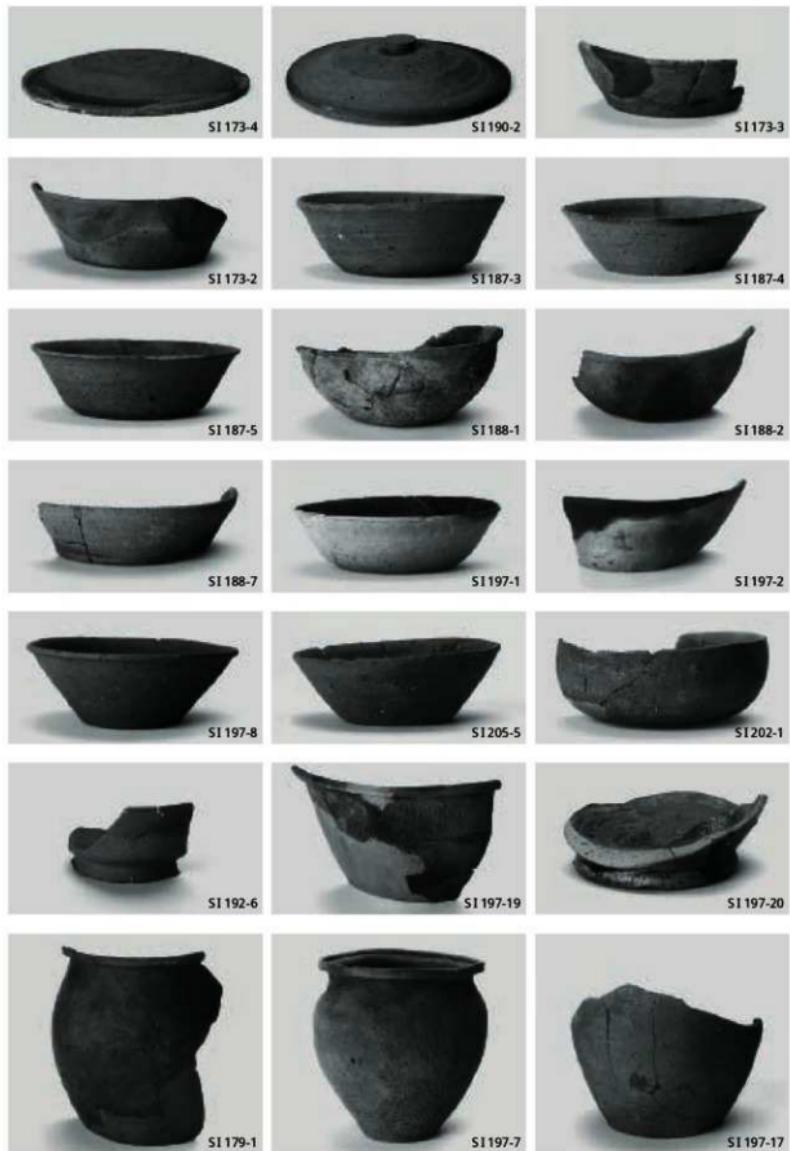
第114·116~118·122·124号住居跡出土遺物



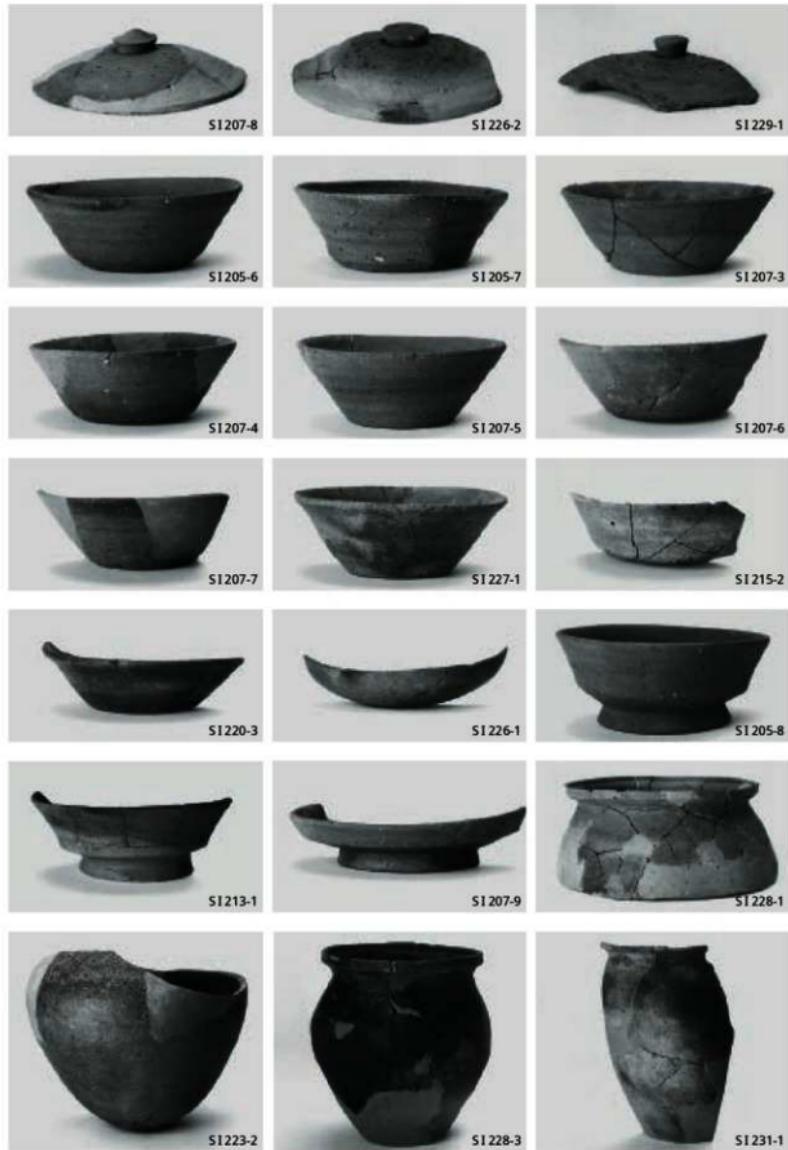
第124・127・128・131～133号住居跡出土遺物



第133・134・136・138・144・146・148・150・155・158号住居跡出土遺物



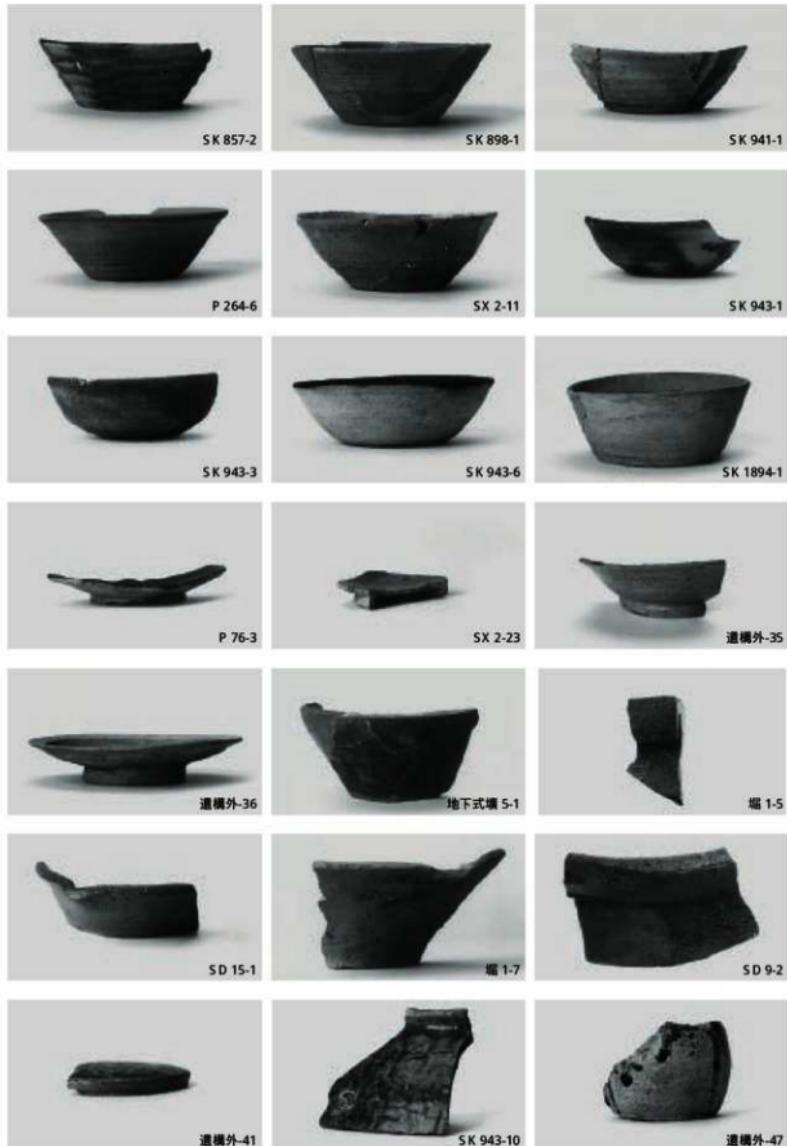
第173·179·187·188·190·192·197·202·205号住居跡出土遺物



第205·207·213·215·220·223·226·229·231号住居跡出土遺物



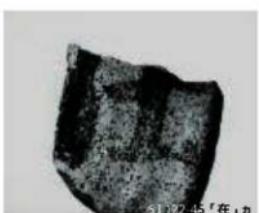
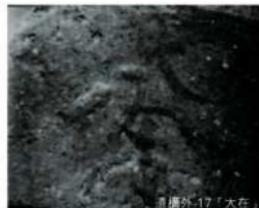
第230·228号住居跡，第54·56号掘立柱建物跡，第773·823·824·943号土坑，第3号圭穴状遺構出土遺物

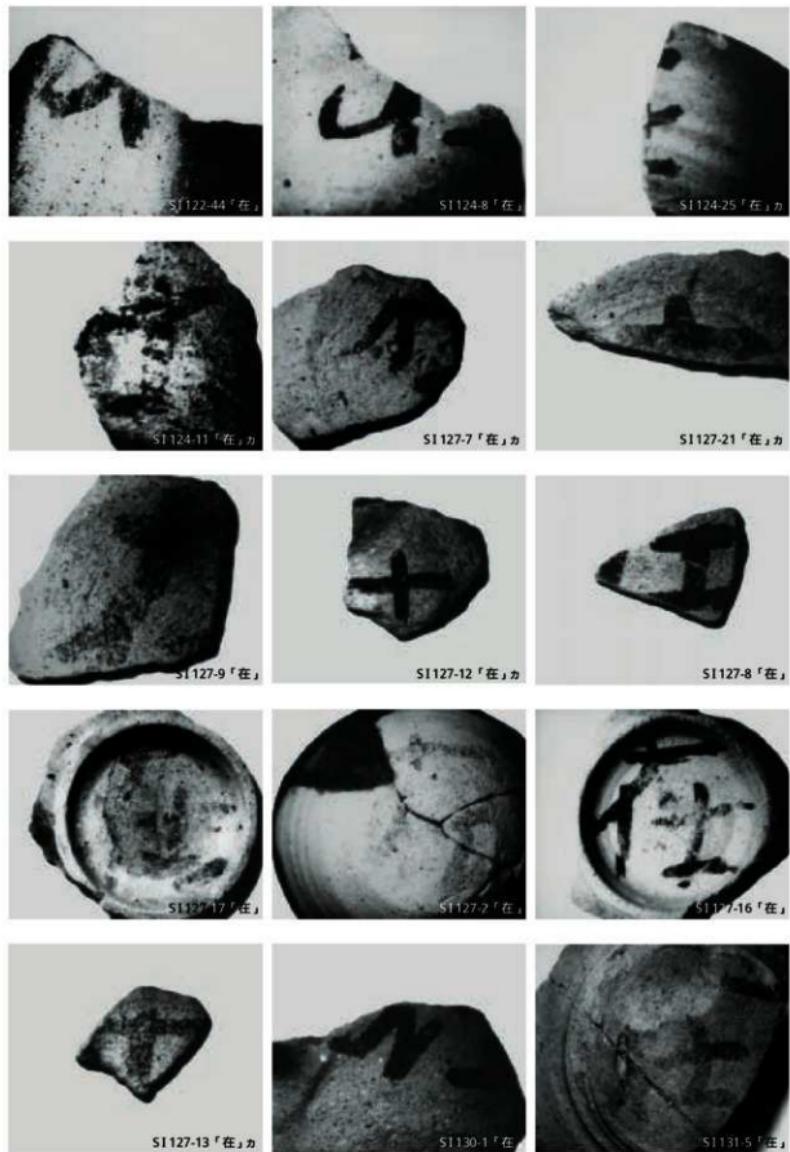


第857・898・941・943・1894号土坑，第1号ピット群，第2号遺物包含層，第5号地下式壙，  
第1号堀，第9・15号溝，道構外出土遺物



墨書土器 (1)





墨書土器 (3)



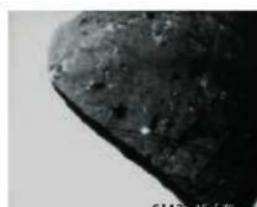
遺構外-8「口」



S1132-3「在」



S1132-16「在」



S1133-15「在」



S1136-3「在」



S1137-4「在」



SK 943-2「在」



SK 943-2「在」



S1138-23「在」



P 38-10「在」



P 264-6「在」



遺構外-15「口」



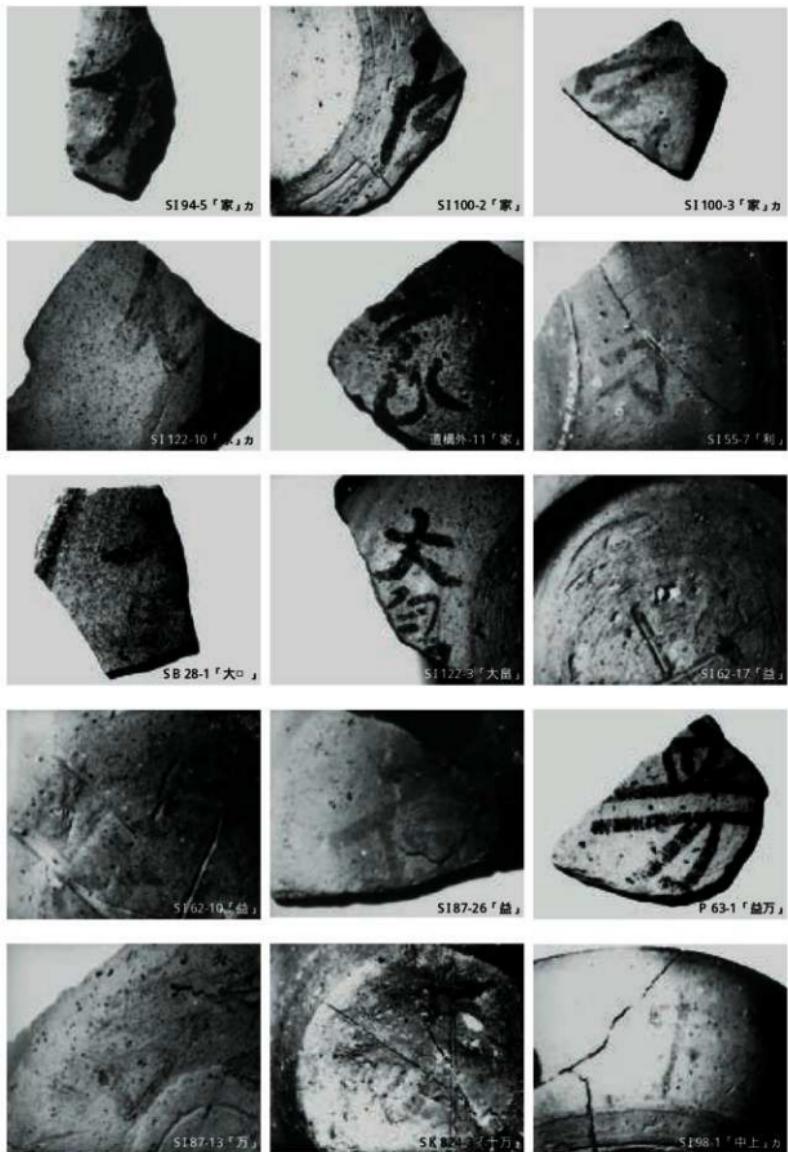
遺構外-7「在」



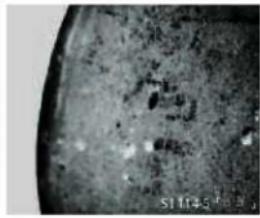
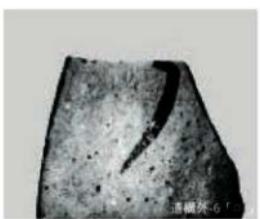
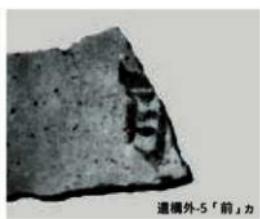
遺構外-12「在」

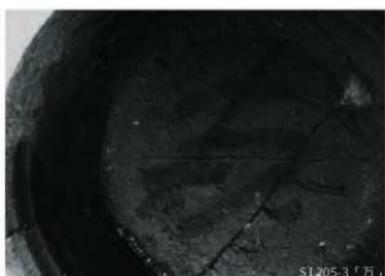
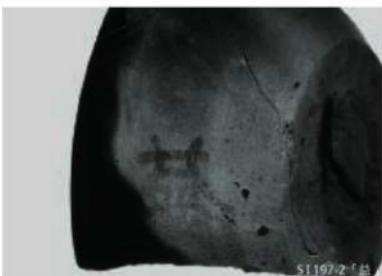
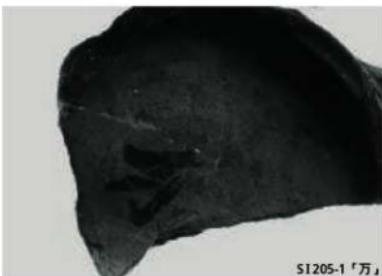
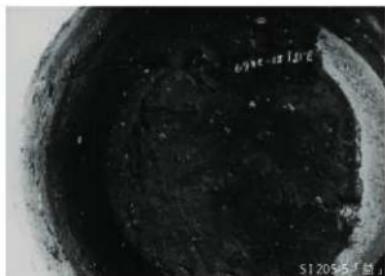


S1133-3「家」

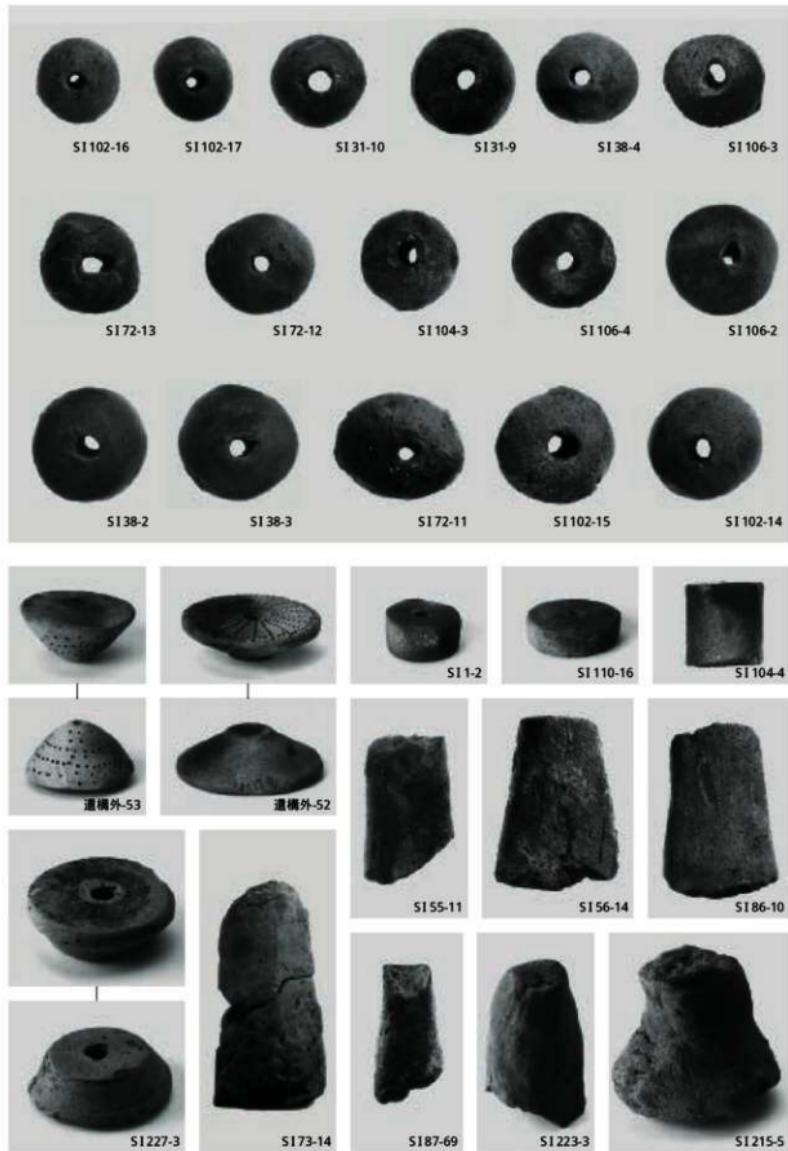


墨書土器 ( 5 )

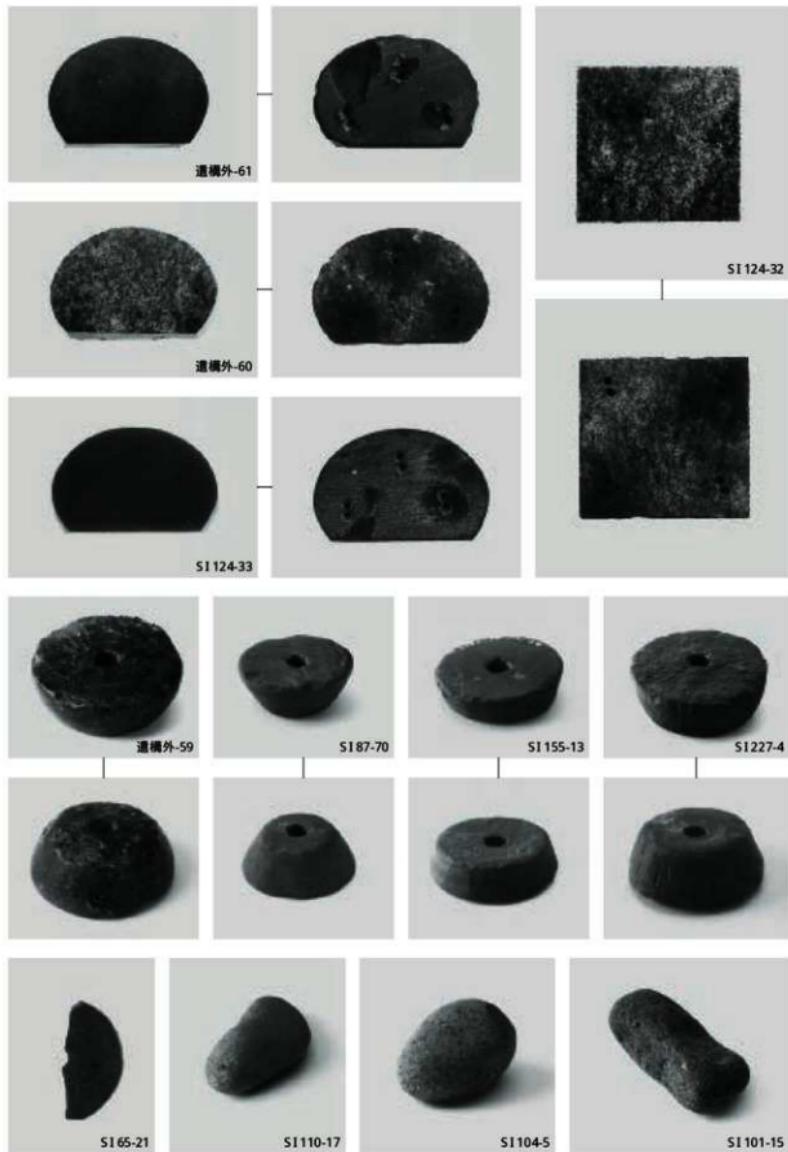




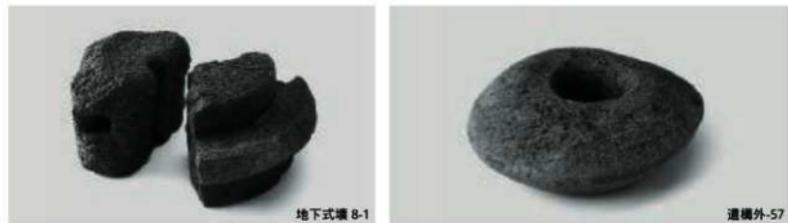
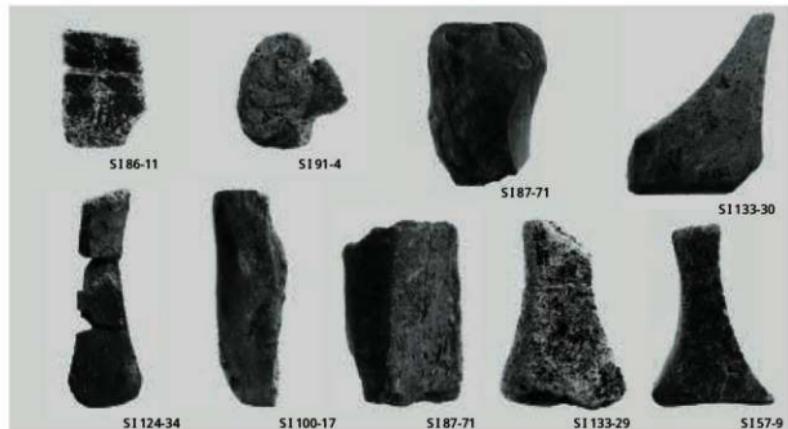
墨書土器（7）



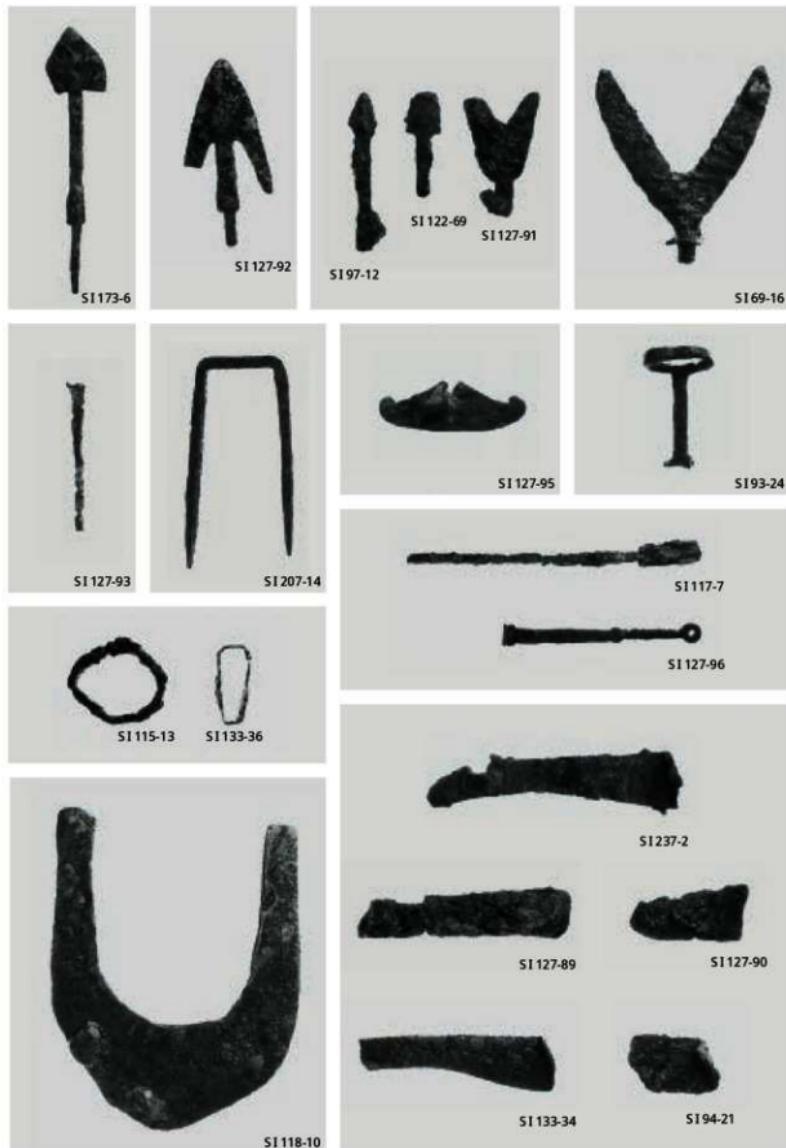
出土土製品（土玉・紡錘車・管状土錘・支脚）



出土石製品（丸瓶・巡方・紡錘車・敲石・炉石）



出土金属製品（铁斧），出土石器，石製品（砥石・石皿・石臼・環状石斧）



出土金属製品（鎗、鏈、鑷、鑷先、火打金、馬銜、鍵、鎖、不明）



出土金属製品（刀子・小刀・釘・鉸具・古錢・不明）

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

宮後遺跡3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業  
に伴う埋蔵文化財調査報告書N

下巻

平成17(2005)年3月22日印刷

平成17(2005)年3月25日発行

発行 財團法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 (株) 平電子印刷所  
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13  
TEL 0246-23-9051